

令和7年度こども家庭庁委託事業

大学・短期大学等における保育士養成に関する
調査研究業務一式
報告書

令和8年（2026年）3月

有限責任監査法人トーマツ

目次

第1章	事業の概要	1
1.	目的	1
2.	事業内容	2
(1)	指定保育士養成施設等におけるカリキュラム実態に関する調査研究	2
(2)	指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関する調査研究	2
(3)	保育所等における指定保育士養成施設等のカリキュラムへの意識に関する調査研究	2
(4)	有識者ヒアリング	3
第2章	指定保育士養成施設等におけるカリキュラム実態に関する調査研究	4
1.	アンケート調査	4
(1)	アンケート調査の目的	4
(2)	アンケート調査概要	4
(3)	アンケート調査結果	7
2.	インタビュー調査	53
(1)	インタビュー調査の目的	53
(2)	インタビュー調査概要	53
(3)	インタビュー調査結果	55
3.	考察	64
(1)	カリキュラム構成	64
(2)	実習プログラムの実態	67
(3)	ICTの活用	70
(4)	指導体制	71
第3章	指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関する調査研究	73
1.	アンケート調査	73
(1)	アンケート調査の目的	73
(2)	アンケート調査概要	73
(3)	アンケート調査結果	76
2.	インタビュー調査	99
(1)	インタビュー調査の目的	99
(2)	インタビュー調査概要	99
(3)	インタビュー調査結果	101
3.	考察	112
(1)	養成校での実習・授業等の満足度及び進路意欲	112

(2)	保育士として働くことに対する意識.....	115
第4章	保育所等における指定保育士養成施設等のカリキュラムへの意識に関する調査研究	116
1.	アンケート調査.....	116
(1)	アンケート調査の目的.....	116
(2)	アンケート調査概要.....	116
(3)	アンケート調査結果.....	118
2.	インタビュー調査.....	132
(1)	インタビュー調査の目的.....	132
(2)	インタビュー調査概要.....	132
(3)	インタビュー調査結果.....	134
3.	考察	143
(1)	養成校において身につけておいてほしい保育士としての知識・技能...	143
(2)	現場視点で必要と考えられるカリキュラム内容.....	144
(3)	養成校卒業者と保育士試験合格者の違い.....	146
第5章	総合考察	149
1.	現行カリキュラムの強み.....	149
(1)	最新の知識の獲得.....	149
(2)	実践の機会.....	149
2.	現行カリキュラムの課題.....	150
(1)	保育実習以外における課題.....	150
(2)	保育実習における課題.....	150
(3)	現行カリキュラム等への改善要望のまとめ.....	151
3.	保育士養成に関連したカリキュラム以外の課題.....	154
(1)	一般常識等、カリキュラム外での学び.....	154
4.	今後の課題	154
付録	資料編	156

第1章 事業の概要

1. 目的

近年、「保育の質の向上」が社会全体で重要視されており、指定保育士養成施設等（以下、「養成校」という。）は、将来の保育士を生み出す土壌であることから、その実現には保育士の専門性を育成する教育機関に関して、実態に沿った検討が必要不可欠である。

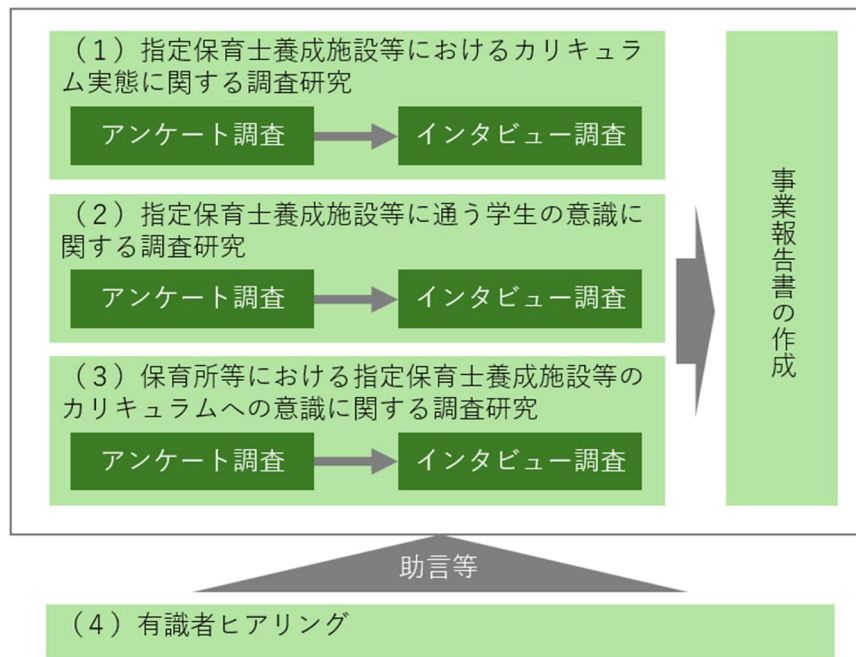
「保育の質の向上」とは、単にこどもの成長を支える基盤となるだけでなく、こども一人ひとりの持つ個性や可能性を最大限に引き出し、こどもたちの豊かな未来を保障する重要な取り組みでもあり、それを支える保育士は、幅広い知識、高い専門性、創造的な対応力が求められる。

これを踏まえ、今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の養成校の実態や養成校に通う学生、ならびに保育所等の意識を明らかにするための調査研究を行った。

2. 事業内容

本事業では、以下の（１）～（４）を実施した。

図表 1-1：事業の全体像



（１） 指定保育士養成施設等におけるカリキュラム実態に関する調査研究

養成校の実態を把握するためにアンケート調査、インタビュー調査を実施した。

詳細については、「第2章 指定保育士養成施設等におけるカリキュラム実態に関する調査研究」を参照。

（２） 指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関する調査研究

養成校に通う学生の意識を把握するためにアンケート調査、インタビュー調査を実施した。

詳細については、「第3章 指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関する調査研究」を参照。

（３） 保育所等における指定保育士養成施設等のカリキュラムへの意識に関する調査研究

保育所等における実態ならびに意識を把握するためにアンケート調査、インタビュー調

査を実施した。

詳細については、「第4章 保育所等における指定保育士養成施設等のカリキュラムへの意識に関する調査研究」を参照。

(4) 有識者ヒアリング

アンケート調査における調査項目の検討、インタビュー実施における対象の選定や調査項目の検討、調査結果の考察にあたって有識者ヒアリングを行った。

図表 1-2：有識者名簿

有識者名簿 (五十音順、 敬称略)	佐久間 路子	白梅学園大学 子ども学部 子ども心理学科 教授
	田澤 里喜	玉川大学 教育学部 教育学科 教授
	米川 泉子	武蔵野短期大学 幼児教育学科 准教授

ヒアリングの概要を以下に示す。

図表 1-3：ヒアリング概要

回	時期	方法	内容
1回目	2025年11月	オンライン会議	➤ 事業概要の説明 ➤ アンケート調査項目案の相談
2回目	2026年1月	メール	➤ アンケート調査結果の報告 ➤ インタビュー調査対象の相談 ➤ インタビュー調査項目案の相談
3回目	2026年3月	オンライン会議・メール	➤ インタビュー調査結果の報告 ➤ 事業報告書内容の相談

第2章 指定保育士養成施設等におけるカリキュラム 実態に関する調査研究

1. アンケート調査

(1) アンケート調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の養成校の実態を把握するためにアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査概要

i. 調査の対象

全国の養成校を対象（悉皆）とした。

なお、指定保育士養成施設の指定を受けた学科等の単位での回答を求めた。

ii. 調査の時期

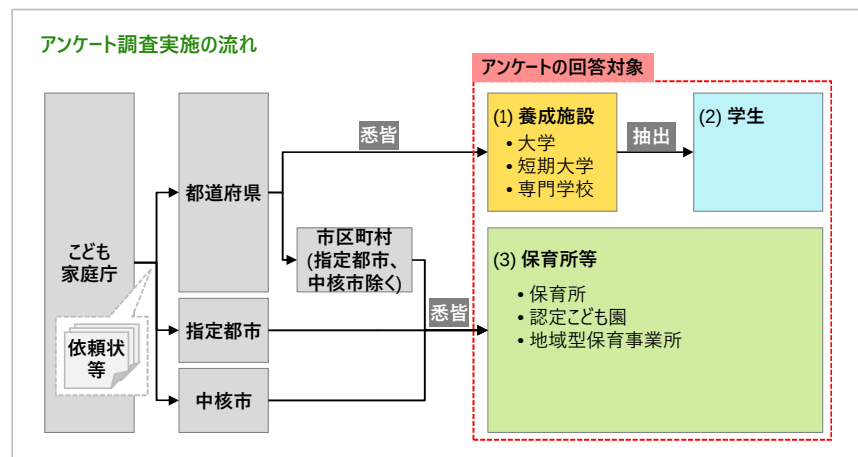
令和7年12月9日（火）～令和8年1月9日（金）

iii. 調査の方法

インターネットによるアンケート調査を実施した。

こども家庭庁担当課から地方自治体（都道府県・指定都市・中核市）に対して、電子メールにより調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、各都道府県には管内の養成校への案内の協力を求めた。

図表 2-1：アンケート調査実施の流れ



iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 2-2：アンケート調査項目（養成校）

（【凡例】 SA:単数回答、MA:複数回答、NU:数値回答、FA:自由回答）

大項目	質問項目
1. 基本情報	Q1-1(SA)施設種別 Q1-2(SA)大学院における保育士養成課程の有無 Q1-3(SA)修業年限 Q1-4(SA)所在地（都道府県） Q1-5(SA)経営主体 Q1-6(FA)学生数※ Q1-7(SA)開講形態 Q1-8(MA・SA)通信制で通う学生の保育士の専門性やカリキュラムの定着度の把握・確認方法
2. カリキュラム構成	Q2-1(MA・FA・NU)教授科目・単位数・時間数※ Q2-2(MA)直近3年以内のカリキュラム改定状況 Q2-3(FA)カリキュラム改定の主な内容・理由 Q2-4(MA)保育士養成課程の方針や特徴 Q2-5(MA)養成校間での養成課程上の連携有無 Q2-6(MA)保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許 Q2-7(FA)国が定める養成校の教科目の教授内容についての国への要望等とその理由
3. 実習プログラム	Q3-1(MA・NU)実習の実施状況※ Q3-2(MA)実習先の確保方法 Q3-3(MA)実習先との連携体制 Q3-4(SA)保育実習の指導体制 Q3-5(MA・SA)保育実習運営上の実習先との連携に関する課題 Q3-6(FA)保育実習運営上の実習先との連携に関する課題（具体的に・任意） Q3-7(FA)国が定める保育実習実施基準等についての国への要望等とその理由
4. 授業形式	Q4-1(MA)ICT活用状況 Q4-2(SA)最も多いオンライン授業の頻度
5. 指導体制	Q5-1(FA)保育士養成に従事する職員数※ Q5-2(MA)教員の専門性向上のための取組 Q5-3(MA・SA)指導方法の特徴や工夫している点 Q5-4(FA)指導方法の特徴や工夫している点（具体的に・任意） Q5-5(MA)指導体制の課題 Q5-6(FA)指導体制の課題（具体的に・任意）

大項目	質問項目
6. 学生の就職あっせん	Q6-1(SA)無料職業紹介事業の届出（職業安定法第三十三条の二）の有無 Q6-2(SA)就職に関する相談対応ができる体制の有無 Q6-3(SA)保育士として働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等の有無 Q6-4(MA)学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容 Q6-5(SA)学内で求人を直接紹介している場合の対象 Q6-6(SA)保育士資格取得者の就職状況※ Q6-7(FA)保育所及び幼保連携認定こども園に就職した学生の就職先の内訳 Q6-8(FA)就職活動に対するサポートの課題（任意）
7. 連絡先	Q7-1(SA)インタビュー調査協力可否 Q7-2(FA)養成校の情報

※がついている項目は「令和6年度指定保育士養成施設業務報告」に基づいて回答するよう求めた。

v. 回答状況

回答状況は以下のとおり。

図表 2-3：アンケート回答状況（養成校）

		回答数	割合(%)
全体		368	100.0
養成校種別	大学	167	45.4
	短期大学	128	34.8
	専門学校	69	18.8
	その他	4	1.1

(3) アンケート調査結果

カリキュラム内容、実習のあり方、指導体制、就職あっせんの状況について、アンケート結果を抜粋する形で概要を示す。

i. カリキュラム構成

Q2-1 教授科目・単位数・時間数 (MA・FA・NU) (Q2-1)

教養科目、告示による教科目(必修科目・選択必修科目)に含まれる教科目の平均単位数・時間数はそれぞれ以下の通りである。

図表 2-4：教科目の平均単位数・時間数 (MA・FA・NU)
(Q2-1・教養科目・告示による教科目)

教養科目・告示による教科目 全体		1 施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	外国語・体育以外の基礎科目	14.4	282.0	3.9	62.8	1.7	25.6	0.4	7.3
2	外国語(演習)	2.8	77.0	0.8	20.4	0.1	4.2	0.1	1.8
3	体育(講義)	1.2	22.7	0.3	4.2	0.1	0.9	0.0	0.2
4	体育(実技)	1.1	36.3	0.3	6.8	0.2	1.9	0.0	0.0
大学									
1	外国語・体育以外の基礎科目	19.2	312.4	4.0	52.6	1.7	26.4	0.4	7.3
2	外国語(演習)	3.8	98.5	1.3	31.9	0.2	4.4	0.1	1.8
3	体育(講義)	1.6	24.4	0.2	2.5	0.1	0.8	0.0	0.2
4	体育(実技)	1.3	39.6	0.2	4.6	0.3	1.9	0.0	0.0
短期大学									
1	外国語・体育以外の基礎科目	12.6	336.6	4.2	81.3	1.3	22.5	-	-
2	外国語(演習)	2.2	74.0	0.5	12.5	0.1	3.0	-	-
3	体育(講義)	0.8	25.0	0.5	6.5	0.1	3.0	-	-
4	体育(実技)	0.8	38.3	0.6	9.2	0.1	3.0	-	-
専門学校									
1	外国語・体育以外の基礎科目	6.9	120.2	3.5	55.4	0.0	0.0	-	-
2	外国語(演習)	1.6	33.3	0.4	8.6	0.0	0.0	-	-
3	体育(講義)	0.9	15.0	0.2	3.3	0.0	0.0	-	-
4	体育(実技)	0.8	26.3	0.2	7.0	0.0	0.0	-	-

※ 第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

図表 2-5：教科目の平均単位数・時間数（MA・NU）
（Q2-1・必修科目・告示別表第1による教科目・全体と大学）

必修科目・告示別表第1による教科目 全体		1 施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	保育原理（講義）	1.8	27.2	0.2	6.4	0.0	0.7	0.0	0.0
2	教育原理（講義）	1.7	28.7	0.3	5.1	0.0	0.5	0.0	0.0
3	子ども家庭福祉（講義）	1.3	22.5	0.6	9.5	0.2	2.8	0.0	0.7
4	社会福祉（講義）	1.6	26.5	0.4	5.6	0.2	2.6	0.0	0.7
5	子ども家庭支援論（講義）	0.3	3.4	1.2	20.9	1.0	15.2	0.3	4.0
6	社会的養護Ⅰ（講義）	1.1	19.1	0.8	12.8	0.2	3.0	0.0	0.2
7	保育者論（講義）	1.3	22.9	0.6	8.8	0.3	3.8	0.0	0.2
8	保育の心理学（講義）	1.6	27.2	0.4	5.6	0.1	1.6	0.0	0.0
9	子ども家庭支援の心理学（講義）	0.5	11.0	1.1	16.5	0.7	10.7	0.1	1.8
10	子どもの理解と援助（演習）	0.4	7.9	0.7	18.5	0.5	9.7	0.0	0.7
11	子どもの保健（講義）	1.0	19.5	0.9	12.3	0.3	4.4	0.0	0.2
12	子どもの食と栄養（演習）	0.3	11.3	1.2	26.1	1.0	15.4	0.3	1.8
13	保育の計画と評価（講義）	0.6	13.2	1.1	15.5	0.6	9.4	0.0	0.7
14	保育内容総論（演習）	0.7	19.3	0.5	9.9	0.3	5.0	0.1	1.7
15	保育内容演習①（演習）	0.5	11.1	0.8	20.0	0.4	4.8	0.0	0.2
16	保育内容演習②（演習）	0.5	10.6	0.7	18.2	0.5	7.0	0.0	0.0
17	保育内容演習③（演習）	0.4	11.2	0.7	18.5	0.5	6.6	0.0	0.2
18	保育内容演習④（演習）	0.5	15.2	0.6	12.7	0.5	6.3	0.0	0.0
19	保育内容演習⑤（演習）	0.5	11.7	0.8	19.6	0.6	8.3	0.0	0.2
20	保育内容の理解と方法①（演習）	1.0	28.0	0.8	11.7	0.3	5.7	0.0	0.0
21	保育内容の理解と方法②（演習）	0.8	23.2	0.6	11.0	0.3	4.8	0.0	0.4
22	保育内容の理解と方法③（演習）	0.8	33.6	0.8	13.4	0.3	7.2	0.0	0.5
23	乳児保育Ⅰ（講義）	1.1	20.2	0.8	11.8	0.2	3.3	0.0	0.0
24	乳児保育Ⅱ（演習）	0.2	6.4	0.6	18.8	0.5	10.2	0.1	1.3
25	子どもの健康と安全（演習）	0.2	5.6	0.7	19.5	0.6	9.5	0.1	2.2
26	障害児保育（演習）	0.4	12.8	1.1	23.2	0.9	16.8	0.1	1.4
27	社会的養護Ⅱ（演習）	0.1	6.6	0.7	17.0	0.6	12.9	0.1	1.0
28	子育て支援（演習）	0.1	1.1	0.6	18.7	0.7	16.7	0.3	4.6
29	保育実習Ⅰ（実習）	1.2	61.5	2.1	78.5	2.9	76.9	0.1	3.4
30	保育実習指導Ⅰ（演習）	0.8	23.5	0.9	23.4	0.9	22.5	0.0	0.6
31	保育実践演習（演習）	0.5	8.3	0.1	2.1	1.3	26.6	0.0	2.0
大学									
1	保育原理（講義）	1.7	26.7	0.3	3.8	0.0	0.5	0.0	0.0
2	教育原理（講義）	1.6	24.8	0.4	5.6	0.0	0.5	0.0	0.0
3	子ども家庭福祉（講義）	1.0	15.2	0.7	11.7	0.2	2.9	0.0	0.7
4	社会福祉（講義）	1.3	20.6	0.5	7.0	0.1	2.4	0.0	0.7
5	子ども家庭支援論（講義）	0.1	2.2	0.6	9.4	1.0	15.0	0.3	4.0
6	社会的養護Ⅰ（講義）	0.4	6.1	1.4	21.0	0.2	2.7	0.0	0.2
7	保育者論（講義）	1.2	18.1	0.5	8.3	0.3	3.8	0.0	0.2
8	保育の心理学（講義）	1.3	19.9	0.6	9.0	0.1	1.8	0.0	0.0
9	子ども家庭支援の心理学（講義）	0.3	4.7	0.8	12.9	0.8	11.3	0.1	1.8
10	子どもの理解と援助（演習）	0.2	4.1	0.7	13.8	0.5	9.9	0.0	0.7
11	子どもの保健（講義）	0.6	9.7	1.1	16.4	0.3	4.8	0.0	0.2
12	子どもの食と栄養（演習）	0.1	2.7	0.9	19.5	1.0	14.9	0.3	1.8
13	保育の計画と評価（講義）	0.2	3.6	1.1	17.1	0.6	9.4	0.0	0.7
14	保育内容総論（演習）	0.6	12.3	0.6	11.2	0.3	5.2	0.1	1.7
15	保育内容演習①（演習）	0.3	5.4	1.1	20.6	0.4	4.7	0.0	0.2
16	保育内容演習②（演習）	0.3	4.5	0.9	18.7	0.6	7.2	0.0	0.0
17	保育内容演習③（演習）	0.3	5.1	0.9	18.0	0.6	6.9	0.0	0.2
18	保育内容演習④（演習）	0.3	4.4	0.9	17.6	0.5	6.5	0.0	0.0
19	保育内容演習⑤（演習）	0.3	5.5	0.9	17.5	0.6	8.7	0.0	0.2
20	保育内容の理解と方法①（演習）	0.8	18.4	0.7	15.2	0.3	5.9	0.0	0.0
21	保育内容の理解と方法②（演習）	0.7	16.3	0.6	13.1	0.3	5.2	0.0	0.4
22	保育内容の理解と方法③（演習）	0.6	12.4	0.7	15.7	0.4	7.9	0.0	0.5
23	乳児保育Ⅰ（講義）	0.4	5.5	1.4	21.5	0.2	3.4	0.0	0.0
24	乳児保育Ⅱ（演習）	0.1	2.3	0.6	13.7	0.5	10.1	0.1	1.3
25	子どもの健康と安全（演習）	0.1	1.5	0.7	14.1	0.6	9.7	0.1	2.2
26	障害児保育（演習）	0.1	1.8	0.9	18.9	0.9	17.7	0.1	1.4
27	社会的養護Ⅱ（演習）	0.1	1.4	0.5	12.0	0.6	13.0	0.1	1.0
28	子育て支援（演習）	0.1	1.2	0.2	4.8	0.7	16.2	0.3	4.6
29	保育実習Ⅰ（実習）	0.0	2.0	1.6	64.0	3.1	78.5	0.1	3.4
30	保育実習指導Ⅰ（演習）	0.1	1.4	1.1	25.6	0.9	23.1	0.0	0.6
31	保育実践演習（演習）	0.7	16.2	0.3	4.6	1.3	26.8	0.0	2.0

※第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

図表 2-6：教科目の平均単位数・時間数（MA・NU）

（Q2-1・必修科目・告示別表第1による教科目・短期大学と専門学校）

必修科目・告示別表第1による教科目 短期大学		1施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	保育原理（講義）	1.9	28.1	0.1	11.5	0.0	0.0	-	-
2	教育原理（講義）	1.8	37.0	0.2	3.2	0.0	0.0	-	-
3	子ども家庭福祉（講義）	1.5	32.4	0.5	7.4	0.0	0.0	-	-
4	社会福祉（講義）	1.6	34.3	0.5	5.1	0.2	2.5	-	-
5	子ども家庭支援論（講義）	0.2	3.2	1.6	34.5	1.3	20.0	-	-
6	社会的養護Ⅰ（講義）	1.5	33.0	0.4	6.1	0.3	5.0	-	-
7	保育者論（講義）	1.3	29.3	0.7	10.2	0.2	2.5	-	-
8	保育の心理学（講義）	1.9	38.4	0.2	1.2	0.0	0.0	-	-
9	子ども家庭支援の心理学（講義）	0.6	18.2	1.4	21.1	0.2	2.5	-	-
10	子どもの理解と援助（演習）	0.5	10.8	0.6	26.2	0.3	10.0	-	-
11	子どもの保健（講義）	1.5	33.1	0.5	6.4	0.0	0.0	-	-
12	子どもの食と栄養（演習）	0.6	23.3	1.3	29.0	1.0	25.0	-	-
13	保育の計画と評価（講義）	1.0	25.3	1.1	13.7	0.3	5.0	-	-
14	保育内容総論（演習）	0.8	28.4	0.4	10.0	0.3	5.0	-	-
15	保育内容演習①（演習）	0.6	14.4	0.7	23.5	0.3	7.5	-	-
16	保育内容演習②（演習）	0.6	13.3	0.6	24.4	0.2	5.0	-	-
17	保育内容演習③（演習）	0.6	13.8	0.6	24.6	0.2	5.0	-	-
18	保育内容演習④（演習）	0.7	26.9	0.5	10.3	0.2	5.0	-	-
19	保育内容演習⑤（演習）	0.6	16.1	0.8	27.9	0.2	5.0	-	-
20	保育内容の理解と方法①（演習）	1.1	38.5	1.0	7.3	0.3	5.0	-	-
21	保育内容の理解と方法②（演習）	0.9	32.2	0.6	10.1	0.0	0.0	-	-
22	保育内容の理解と方法③（演習）	1.3	72.5	1.0	11.1	0.0	0.0	-	-
23	乳児保育Ⅰ（講義）	1.7	35.3	0.3	4.0	0.2	2.5	-	-
24	乳児保育Ⅱ（演習）	0.4	11.9	0.5	24.8	0.4	11.3	-	-
25	子どもの健康と安全（演習）	0.4	9.0	0.8	28.5	0.3	7.5	-	-
26	障害児保育（演習）	0.7	24.8	1.2	25.8	0.3	5.0	-	-
27	社会的養護Ⅱ（演習）	0.2	16.3	0.8	19.8	0.5	15.0	-	-
28	子育て支援（演習）	0.0	0.7	0.9	34.6	1.0	23.8	-	-
29	保育実習Ⅰ（実習）	2.2	127.7	2.7	95.8	1.7	74.8	-	-
30	保育実習指導Ⅰ（演習）	1.3	44.4	0.9	25.9	0.8	20.0	-	-
31	保育実践演習（演習）	0.3	2.2	0.0	0.0	1.2	26.3	-	-
専門学校									
1	保育原理（講義）	1.8	27.0	0.2	3.0	0.5	7.5	-	-
2	教育原理（講義）	1.5	22.6	0.5	7.8	0.0	0.0	-	-
3	子ども家庭福祉（講義）	1.7	22.2	0.6	7.7	0.5	7.5	-	-
4	社会福祉（講義）	2.0	27.0	0.2	3.0	0.5	7.5	-	-
5	子ども家庭支援論（講義）	0.6	6.1	1.6	23.9	0.5	7.5	-	-
6	社会的養護Ⅰ（講義）	1.6	23.9	0.3	6.1	0.5	7.5	-	-
7	保育者論（講義）	1.5	22.6	0.4	7.4	0.5	7.5	-	-
8	保育の心理学（講義）	1.5	23.9	0.4	6.1	0.0	0.0	-	-
9	子ども家庭支援の心理学（講義）	1.1	13.0	1.1	16.5	0.5	7.5	-	-
10	子どもの理解と援助（演習）	0.5	11.5	0.6	15.6	0.0	0.0	-	-
11	子どもの保健（講義）	1.1	17.8	0.9	13.5	0.0	0.0	-	-
12	子どもの食と栄養（演習）	0.4	9.1	1.6	37.8	0.5	7.5	-	-
13	保育の計画と評価（講義）	0.9	13.5	1.0	15.2	0.5	22.5	-	-
14	保育内容総論（演習）	0.8	19.1	0.3	7.4	0.0	0.0	-	-
15	保育内容演習①（演習）	0.8	19.6	0.4	12.1	0.0	0.0	-	-
16	保育内容演習②（演習）	0.8	19.9	0.3	6.3	0.3	3.8	-	-
17	保育内容演習③（演習）	0.7	21.3	0.3	7.8	0.0	0.0	-	-
18	保育内容演習④（演習）	0.8	19.7	0.2	5.2	0.0	0.0	-	-
19	保育内容演習⑤（演習）	0.8	18.6	0.3	9.3	0.3	3.8	-	-
20	保育内容の理解と方法①（演習）	1.3	32.6	0.4	10.9	0.0	0.0	-	-
21	保育内容の理解と方法②（演習）	1.0	24.6	0.3	6.7	0.0	0.0	-	-
22	保育内容の理解と方法③（演習）	0.6	14.1	0.5	12.8	0.0	0.0	-	-
23	乳児保育Ⅰ（講義）	1.8	27.0	0.2	3.5	0.0	0.0	-	-
24	乳児保育Ⅱ（演習）	0.2	6.1	0.8	19.9	0.5	11.3	-	-
25	子どもの健康と安全（演習）	0.3	9.1	0.7	16.2	0.5	7.5	-	-
26	障害児保育（演習）	0.7	16.5	1.3	29.8	0.5	15.0	-	-
27	社会的養護Ⅱ（演習）	0.1	1.5	0.9	23.2	0.0	0.0	-	-
28	子育て支援（演習）	0.1	1.7	0.9	22.3	0.8	15.0	-	-
29	保育実習Ⅰ（実習）	2.0	79.4	1.9	82.6	0.5	20.0	-	-
30	保育実習指導Ⅰ（演習）	1.5	38.2	0.6	14.5	0.3	7.5	-	-
31	保育実践演習（演習）	0.1	1.3	0.0	0.0	1.0	18.8	-	-

※第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

図表 2-7：教科目の平均単位数・時間数（MA・FA・NU）

（Q2-1・選択必修科目・告示別表第2による教科目）

選択必修科目・告示別表2による教科目 全体		1 施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	保育の本質・目的に関する科目	1.4	22.2	1.4	27.8	2.0	25.1	0.5	7.4
2	保育の対象の理解に関する科目	1.1	18.8	2.2	39.8	2.3	34.4	0.7	11.1
3	保育の内容・方法に関する科目	3.9	105.3	5.1	130.4	4.6	79.4	1.2	22.2
4	保育実習Ⅱ（実習）	0.0	0.6	1.1	57.5	2.0	40.7	1.9	33.0
5	保育実習Ⅲ（実習）	0.0	0.6	0.9	55.5	1.5	38.1	1.5	38.3
6	保育実習指導Ⅱ（演習）	0.0	0.6	0.5	18.2	0.9	14.2	0.8	11.4
7	保育実習指導Ⅲ（演習）	0.0	0.2	0.5	17.9	0.7	13.3	0.7	12.7
大学									
1	保育の本質・目的に関する科目	1.6	25.0	1.4	18.8	2.0	25.3	0.5	7.4
2	保育の対象の理解に関する科目	1.2	20.6	2.0	33.6	2.4	35.4	0.7	11.1
3	保育の内容・方法に関する科目	3.1	60.8	4.0	78.5	4.9	82.9	1.2	22.2
4	保育実習Ⅱ（実習）	0.0	0.0	0.2	6.2	2.0	38.5	1.9	33.0
5	保育実習Ⅲ（実習）	0.0	0.0	0.1	2.7	1.5	35.1	1.5	38.3
6	保育実習指導Ⅱ（演習）	0.0	0.0	0.1	2.3	0.9	13.5	0.8	11.4
7	保育実習指導Ⅲ（演習）	0.0	0.0	0.0	1.4	0.7	12.4	0.7	12.7
短期大学									
1	保育の本質・目的に関する科目	1.2	19.8	1.5	43.7	0.8	12.5	-	-
2	保育の対象の理解に関する科目	0.9	15.6	2.3	49.1	1.0	15.0	-	-
3	保育の内容・方法に関する科目	4.4	164.6	6.4	194.5	0.9	20.0	-	-
4	保育実習Ⅱ（実習）	0.0	0.6	1.8	111.0	1.5	67.3	-	-
5	保育実習Ⅲ（実習）	0.0	0.8	1.8	119.6	1.8	79.8	-	-
6	保育実習指導Ⅱ（演習）	0.0	0.7	0.9	34.7	0.7	20.0	-	-
7	保育実習指導Ⅲ（演習）	0.0	0.1	0.9	36.4	0.8	23.3	-	-
専門学校									
1	保育の本質・目的に関する科目	1.4	20.7	1.3	21.5	1.5	52.5	-	-
2	保育の対象の理解に関する科目	1.2	20.9	2.2	38.4	1.3	52.5	-	-
3	保育の内容・方法に関する科目	4.8	104.6	5.6	140.2	3.0	108.8	-	-
4	保育実習Ⅱ（実習）	0.1	0.9	1.9	78.3	1.3	53.3	-	-
5	保育実習Ⅲ（実習）	0.0	0.0	1.8	75.4	1.3	53.3	-	-
6	保育実習指導Ⅱ（演習）	0.1	1.4	1.0	25.7	0.7	25.0	-	-
7	保育実習指導Ⅲ（演習）	0.0	0.8	0.9	25.8	0.7	25.0	-	-

※ 第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

Q2-2 直近3年以内のカリキュラム改定状況（MA）（Q2-2）

基礎科目、必修科目、選択必修科目の各科目の直近3年以内のカリキュラム改定状況は以下の通りである。

図表 2-8：カリキュラム改定状況（基礎科目）（MA）（Q2-2×Q1-1 学校種）

基礎科目	調査数 (n=)	(%)						カリキュラム改定は 行っていない
		一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバスの 内容を大幅 に改定した	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	
全体	366	18.3	20.8	2.2	3.8	2.2	15.3	65.6
1 大学	167	20.4	23.4	3.0	3.0	2.4	18.6	62.9
2 短期大学	127	21.3	23.6	1.6	5.5	1.6	13.4	64.6
3 専門学校	68	8.8	10.3	1.5	2.9	2.9	11.8	72.1
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表 2-9：カリキュラム改定状況（基礎科目）（MA）
（Q2-2×Q2-6 取得可能な資格や免許）

基礎科目		調査数 (n=)	(%)						カリキュラム改定は 行っていない
			一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバスの 内容を大幅 に改定した	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	
全体		366	18.3	20.8	2.2	3.8	2.2	15.3	65.6
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	8.8	14.7	0.0	2.9	0.0	14.7	73.5
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	23.8	22.6	3.6	2.4	3.6	19.0	59.5
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	22.0	23.7	3.4	8.5	3.4	10.2	64.4
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	8.8	8.8	0.0	0.0	2.9	8.8	76.5
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	37.5	50.0
6	その他	147	18.4	23.1	2.0	3.4	1.4	15.6	66.0

図表 2-10：カリキュラム改定状況（必修科目）（MA）（Q2-2×Q1-1 学校種）

【必修科目】保育 の本質・目的に関 する科目	調査数 (n=)	(%)						カリキュ ラム改定は 行っていな い
		一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバス の内容を大幅 に改定した	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	
全体	366	0.0	0.0	0.5	0.3	0.8	6.3	92.1
1 大学	167	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	11.4	87.4
2 短期大学	127	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	97.6
3 専門学校	68	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	4.4	92.6
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【必修科目】保育の対象の理解に関する科目

全体	366	0.0	0.0	1.1	1.6	1.1	6.8	90.2
1 大学	167	0.0	0.0	1.8	3.0	0.6	8.4	87.4
2 短期大学	127	0.0	0.0	0.8	0.8	0.8	4.7	93.7
3 専門学校	68	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	91.2
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0

【必修科目】保育の内容・方法に関する科目

全体	366	0.0	0.0	3.0	5.5	3.8	13.7	78.4
1 大学	167	0.0	0.0	3.6	6.6	4.2	18.0	74.3
2 短期大学	127	0.0	0.0	3.1	4.7	3.1	12.6	79.5
3 専門学校	68	0.0	0.0	1.5	4.4	4.4	5.9	85.3
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【必修科目】保育実習

全体	366	0.0	0.0	0.8	1.1	0.3	3.6	94.8
1 大学	167	0.0	0.0	0.6	1.2	0.0	4.2	94.6
2 短期大学	127	0.0	0.0	0.8	1.6	0.0	3.9	94.5
3 専門学校	68	0.0	0.0	1.5	0.0	1.5	1.5	95.6
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【必修科目】総合演習

全体	366	0.0	0.0	0.3	0.3	1.4	1.9	96.2
1 大学	167	0.0	0.0	0.6	0.6	1.2	3.6	94.0
2 短期大学	127	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	98.4
3 専門学校	68	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	97.1
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表 2-11：カリキュラム改定状況（必修科目）（MA）
（Q2-2×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)						
			一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバス の内容を大 幅に改定し た	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	カリキュラ ム改定は 行ってい ない
【必修科目】保育の本質・目的に関する科目									
全体		366	0.0	0.0	0.5	0.3	0.8	6.3	92.1
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	85.3
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	13.1	85.7
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	98.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	5.9	88.2
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	87.5
6	その他	147	0.0	0.0	0.0	0.7	1.4	2.0	95.9

【必修科目】保育の対象の理解に関する科目									
全体		366	0.0	0.0	1.1	1.6	1.1	6.8	90.2
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	8.8	88.2
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	1.2	3.6	0.0	8.3	86.9
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	3.4	94.9
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	5.9	91.2
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	87.5
6	その他	147	0.0	0.0	0.7	2.0	2.0	6.8	90.5

【必修科目】保育の内容・方法に関する科目									
全体		366	0.0	0.0	3.0	5.5	3.8	13.7	78.4
1	保育士・保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	26.5	70.6
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	3.6	6.0	3.6	15.5	76.2
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	3.4	1.7	1.7	10.2	83.1
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	2.9	2.9	5.9	8.8	82.4
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	75.0
6	その他	147	0.0	0.0	3.4	8.2	4.1	12.2	78.9

【必修科目】保育実習									
全体		366	0.0	0.0	0.8	1.1	0.3	3.6	94.8
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	97.1
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	4.8	94.0
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	1.7	1.7	0.0	6.8	91.5
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	97.1
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	その他	147	0.0	0.0	0.7	0.7	0.7	2.7	95.2

【必修科目】総合演習									
全体		366	0.0	0.0	0.3	0.3	1.4	1.9	96.2
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	91.2
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	1.2	1.2	2.4	1.2	94.0
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	97.1
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	その他	147	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.0	96.6

図表 2-1 2：カリキュラム改定状況（選択必修科目）（MA）（Q2-2×Q1-1 学校種）

	調査数 (n=)	(%)						カリキュラム改定は 行っていない
		一部教科目 の新設を行 った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバス の内容を大幅 に改定した	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	
【選択必修科目】 保育の本質・目的 に関する科目								
全体	366	3.8	8.7	1.6	1.6	0.5	3.0	84.7
1 大学	167	7.2	12.0	1.8	1.8	0.0	3.6	80.8
2 短期大学	127	0.8	6.3	0.8	1.6	0.8	0.8	90.6
3 専門学校	68	1.5	5.9	2.9	1.5	1.5	5.9	82.4
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目

全体	366	3.6	7.7	1.1	1.4	0.8	3.8	85.8
1 大学	167	4.2	8.4	1.8	0.0	0.6	6.0	83.2
2 短期大学	127	1.6	7.1	0.8	3.1	0.8	1.6	89.0
3 専門学校	68	4.4	7.4	0.0	1.5	1.5	2.9	86.8
4 その他	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0

【選択必修科目】保育の内容・方法に関する科目

全体	366	12.3	13.4	1.6	3.0	1.9	10.7	73.5
1 大学	167	11.4	13.8	1.8	1.8	0.6	12.0	73.7
2 短期大学	127	15.7	15.0	2.4	5.5	1.6	10.2	70.9
3 専門学校	68	7.4	10.3	0.0	1.5	5.9	7.4	79.4
4 その他	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0

【選択必修科目】保育実習

全体	366	0.0	0.0	0.5	0.8	0.3	1.6	96.7
1 大学	167	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	1.8	97.0
2 短期大学	127	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	1.6	96.9
3 専門学校	68	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	1.5	95.6
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表 2-13：カリキュラム改定状況（選択必修科目）（MA）
（Q2-2×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)						
			一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバス の内容を大 幅に改定し た	左記以外の 観点でカリ キュラム改 定を行った	カリキュ ラム改定は 行っていな い
【選択必修科目】 保育の本質・目的に関する科目									
全体		366	3.8	8.7	1.6	1.6	0.5	3.0	84.7
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	11.8	14.7	0.0	2.9	0.0	5.9	76.5
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	7.1	11.9	2.4	2.4	0.0	2.4	81.0
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	1.7	6.8	0.0	0.0	0.0	1.7	91.5
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	0.0	2.9	2.9	5.9	88.2
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
6	その他	147	2.0	8.2	1.4	1.4	0.7	2.7	85.7

【選択必修科目】 保育の対象の理解に関する科目								
全体		366	3.6	7.7	1.1	1.4	0.8	85.8
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	2.9	14.7	0.0	0.0	0.0	79.4
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	3.6	6.0	3.6	0.0	1.2	83.3
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	5.1	0.0	3.4	0.0	89.8
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	2.9	5.9	0.0	0.0	2.9	85.3
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	その他	147	5.4	8.8	0.7	2.0	0.7	86.4

【選択必修科目】 保育の内容・方法に関する科目								
全体		366	12.3	13.4	1.6	3.0	1.9	73.5
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	17.6	14.7	0.0	2.9	0.0	64.7
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	10.7	14.3	2.4	1.2	1.2	78.6
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	13.6	13.6	3.4	3.4	1.7	76.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	5.9	2.9	0.0	0.0	5.9	82.4
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5	75.0
6	その他	147	12.9	14.3	1.4	4.8	1.4	69.4

【選択必修科目】 保育実習								
全体		366	0.0	0.0	0.5	0.8	0.3	96.7
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	97.1
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	96.4
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	59	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	96.6
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	34	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	94.1
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
6	その他	147	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	97.3

Q2-3 直近3年以内のカリキュラム改定の内容と理由（FA）（Q2-3）

基礎科目、必修科目、選択必修科目の各科目の直近3年以内のカリキュラム改定の内容と改定の理由は以下の通りである。

図表 2-14：直近3年以内のカリキュラム改定の主な内容（基礎科目）（FA）（Q2-3）

改定の主な内容	改定の主な理由
● 「ポルトガル語」「防災安全講座」「データサイエンス入門」の新設	● 基礎教養科目の充実を図り、地域の実情や社会のニーズに応じた人材を育成するため。
● 科目名変更「コンピュータ演習」→「情報リテラシー演習・DS概論」 ● 教科目名の変更	● 社会の変化に対応するため、教育内容を見直し、あわせて名称を変更した。 ● 当科はソーシャルワーク保育士の育成を目標に掲げており、社会福祉士養成施設カリキュラム改正に伴い、教科目名と教示内容の変更が必要だった為
● 新規科目「キャリア開発」を新設	● 就職を意識づけ、自身のキャリア開発という観点から修学意欲の全体的な底上げを目指すため
● 日本国憲法の科目を削除した	● 学生の負担を鑑み、保育士要件の科目を集中的に学べるようにした
● 変更前「日本語リテラシーⅡ」（2単位/半期開講） 変更後「保育のための文章表現」（2単位/半期開講）	● 学生の学修成果の獲得度合いなどを踏まえて、当該科目の教授内容や名称についての検討を行った結果、科目名称の変更が必要であると判断したため。
● 科目削除：日本語表現の技法 ● 科目追加：くらしのなかの宗教、データサイエンスのための数学、AIへのアプローチ、データサイエンスアプローチ、データサイエンスPBL、情報社会の理解、情報技術の理解 ● 名称変更：情報リテラシー基礎→情報リテラシー、情報リテラシー応用→データサイエンス入門（卒業必修に指定）	● 今後ますます重要性を増す「AI・データサイエンス分野」「身体と精神の健康への志向」に焦点を絞り、その強化を目的とした。

図表 2-15：直近3年以内のカリキュラム改定の主な内容（必修科目）（FA）（Q2-3）

改定の主な内容	改定の主な理由
（【必修科目】保育の本質・目的に関する科目）	
「保育原理1」および「保育原理2」を統合し、「保育原理」に科目名称を変更した。あわせて、「社会的養護1」を「社会的養護a」に科目名称を変更した。	厚生労働省が示す「保育士養成課程の教科目及び教授内容等について」に基づき、カリキュラムの適正化を図るとともに、段階的に設定していた科目構成（いわゆるグレード科目）の見直しを行い、履修科目数の整理による学生の学修負担の軽減を目的として実施した。また、全学的なクォーター制の一部導入に対応し、短期留学や保育現場でのインターンシップ等の学外活動に柔軟に対応できる履修体制を整備するため。
「保育者論」と「教職概論」を統合し、新たな「教職概論」とした。	多様な学生ニーズに応え、質の高い保育士を育成するため、幼児保育学科（2年課程）に、長期履修制度を活用した3年コースを新設する。既存の2年課程と3年コースを適切に運用するため、教育課程の一部を統廃合する必要があるため。
必修科目「子ども家庭福祉Ⅰ」と選択必修科目「子ども家庭福祉Ⅱ」を統合し、「子ども家庭福祉」を追加。	必修科目への内容統合により、教授内容の充実を図るため。
選択必修科目から、保育原理Ⅱ（演習）を移動した。	保育園の行事（運動会など）を利用した演習。認可保育園が併設される機会を生かし必修科目とした。
（【必修科目】保育の対象の理解に関する科目）	
「子どもの食と栄養A」[1単位]と「子どもの食と栄養B」[1単位]を「子どもの食と栄養」[2単位]に変更	多様化する社会に応じたより魅力的な保育士課程の再編を目指し、カリキュラムの一部を見直すことになった。
- 保育の心理学→廃止 - 教育心理学→新設	保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を2年間で取得するため、履修科目が多い上、科目を細分化させていたことなどにより時間割にゆとりがない状況であったが、主体的な学びの機会を確保するためにも、教育の質を担保しつつ可能な範囲での教育課程のスリム化を図った。
授業回数を15回から8回に変更し、それに伴い、科目の名称を変更する。	学生の主体的な学びを促し、十分な学習時間を確保するために学則変更を行う。これにより、保育現場でのインターンシップやボランティア活動などの参加機会を増やし、理論と実践の往還を目指す。学生の主体的な学びを促し、十分な学習時間を確保するために学則変更を行う。これにより、保育現場でのインターンシップやボランティア活動などの参加機会を増やし、理論と実践の往還を目指す。学生の主体的な学びを促し、十分な学習時間を確保するために学則変更を行う。これ

改定の主な内容	改定の主な理由
	により、理論と実践の往還を目指す。
（【必修科目】保育の内容・方法に関する科目）	
● 告示による教科目「保育内容の理解と方法」として開講していた5科目「子ども生活と遊び（からだ）／（人との関わり）／（自然との関わり）／（ことば）／（表現）」を廃止し、2科目に再編した。	● 5領域に対して科目を配置してきたが、科目の目標を再度見直し、学生の負担軽減をしながらも、よりこどもの生活および保育所等での指導力・実践力を高める科目とするため。
● 名称変更・3科目必修のうち、2科目選択必修へ変更	● 学生の主体的な学修選択を促し、保育現場で求められる実践的表現力の向上を図るため。
● 以下の5科目を廃止し、2科目に統合廃止（5科目）「健康の指導法」「人間関係の指導法」「環境の指導法」「言葉の指導法」（各1単位）「表現の指導法」（2単位） ● 新設（2科目）「保育内容の指導法Ⅰ」「保育内容の指導法Ⅱ」（各2単位） ● 単位数変更 「保育内容総論」（1単位）を（2単位）	● 5科目から2科目に統合することにより、各領域の関連性を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得することができるようになると考えている。各指導法で取り扱っていた理論的な内容は、保育内容総論で取り扱うこととしたため単位数を増加した。 ● また、必修科目を統合することで履修すべき科目数が減り、授業外での学習時間を確保しやすく、自主的な学習活動を促すことができると考えている。
（【必修科目】保育実習）	
● 「保育実習Ⅰ」（4単位）を「保育実習Ⅰ（保育所）」（2単位）と「保育実習Ⅰ（施設）」（2単位）に、「保育実習指導Ⅰ」（1単位）を「保育実習指導Ⅰ（保育所）」（1単位）と「保育実習指導Ⅰ（施設）」（1単位）に分けた。	● それぞれの実習指導を充実させるため保育実習Ⅰの保育所実習と施設実習の実施時期が異なり、学年・期をまたぐことになる。そのため、各期末に評価をつけることができなかった。
● 実習の時間数を1単位45時間から40時間に減らした	● 大学を取り巻く社会情勢、大学設置基準の改正等に鑑み社会で活躍するために必要な学士力を確実に身に付けることを念頭に、全学的に3つのポリシーを見直し、大幅なカリキュラム改正を行った。 ● こどもの成長は途切れることなく続き、育ちの連続性を見通す力を身につけこどもに寄り添い、伴走できる人材育成を目指し【幼・保・小】連携の理念のもと新たに小学校課程を設置し、教育課程を見直す中で、1単位あたりの授業時間数等の見直しを同時に行ったため。
● 以下の修業教科目について、学則上の科目配置を変更する。○保育実習ⅠA（保育所）事前事後指導○保育実習ⅠB（施設）事前事後指導	● これまで「子どもを取り巻く諸課題の解決に向け、よりよい地域・社会の創出に取り組もうとする態度と構え」（本学科DP）を身につけるために、現場における実践科目として資格・免許の取得に関する教科目のみならず、学生の能力、資質向上に資するよう科目の充実を図ってきた。 ● 今回、学内（養成校内）を中心に実施される当該修業教科目を「保育・教育の内容・

改定の主な内容	改定の主な理由
	方法・技術に関する科目」へと組み入れ、養成校外における実践を中心とする科目を「保育・教育の実践に関する科目」として位置づける。 ● このことにより養成校内における実践と養成校外における実践との違いを学生に明確に意識づけることで、現場に向かう意欲や真摯な態度を涵養することにつながり、より現場における実践を充実させることができると考えたため。
【必修科目】総合演習	
● 「保育実践演習」を「保育教職実践演習」へ変更した。	● 保育実習の振り返りとなる「保育実習」と幼稚園教諭の教職課程として開講していた「教職実践演習（幼稚園）」は、4年間の保育者養成の教育課程および実習を振り返るという点で新たに「保育教職実践演習」として再設定することで、内容の重複を避け、両資格取得を目指す学生の負担を軽減するため。
● 科目名の変更：「教職実践演習（幼・小）」を「保育・教職実践演習（幼・小）」に変更	● 保育に関わる科目であることを明確にするため
● 幼稚園教員養成課程における教育実践に関する科目である「教職実践演習」と統合する。	● 科目統合により必修科目が減少することは、生徒の負担軽減に繋がるため。

図表 2-16：直近3年以内のカリキュラム改定の主な内容（選択必修科目）（FA）
（Q2-3）

改定の主な内容	改定の主な理由
（【選択必修科目】保育の本質・目的に関する科目）	
「保育原理Ⅱ」「幼児教育学」を廃止し、「遊び学」「幼保小連携研究」を新設した。「子ども家庭福祉Ⅱ」の開講期を変更した。	幼児教育と小学校教育の架け橋的存在を目指し、連携・接続の在り方を学ぶ機会を重視するため。履修登録単位数の上限見直しのため。
「教育原理2」、「子どもと遊び」の科目廃止	新たな選択必修科目の追加に伴い、必修科目の学習内容との関係を踏まえつつ、選択必修科目全体の整理・精選を行ったため。それによって、従来課題となっていた幼稚園教諭と保育士資格の両方を履修する学生の必要修得単位数の多さを抑え、単位の実質化を図ることとした。
社会的養護Ⅲの廃止	前回の教育課程から5年が経過し、昨今の保育事情に精通した内容であるか、現状のトレンドを学校側がいち早く入手し、学生が意欲を持ち、学びたい授業内容が十分に担保されているか、という観点から確認を行った結果、現状の教育課程では充分ではないとの結論に至った。今回の変更により、2年課程とは言え、学生一人ひとりが主体的に興味を持った様々な保育領域に於いて、深掘して学ぶフィールドが確立される見込みである。
新規科目「児童福祉総合演習」を新設	本校の特色として、一般的な保育所勤務を目指す学生だけでなく養護施設等の児童施設勤務を希望する学生が多いため
（【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目）	
「子ども・保育者・保護者のメンタルヘルス」を新設した。	学生が多様な領域を学修できるように、選択の幅を広げるため。
「子どもと療育」を新設した。	多様な発達特性をもつ子どもへの理解を深め、インクルーシブ保育に対応できる保育者の育成を図るため。
「保育体験演習」を新設した。	入学後早期に保育現場での体験を取り入れ、理論と実践を往還しながら学ぶ機会を設けるため。
- 食生活基礎技術演習→食育論（子どもと食生活）と統合 - 保育カウンセリング→廃止	保育士資格と幼稚園教諭二種免許状を2年間で取得するため、履修科目が多い上、科目を細分化させていたことなどにより時間割にゆとりがない状況であったが、主体的な学びの機会を確保するためにも、教育の質を担保しつつ可能な範囲での教育課程のスリム化を図った。
（【選択必修科目】保育の内容・方法に関する科目）	
「特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援」[1単位]を新設	保育士課程の選択科目を増やすことで、学生の興味・関心に応え、多様な学びを提供するため

改定の主な内容	改定の主な理由
● 【新設】「障害者・障害児心理学」「学習・言語心理学」「こども学フィールドワークⅠ」「こども学フィールドワークⅡ」 ● 【廃止】「原語で読む絵本」「保育実技特講Ⅰ」「保育実技特講Ⅱ」「保育実技特講Ⅲ」【必修科目から選択必修科目へ変更科目】「からだを動かすあそび」「音楽Ⅱ」「絵による表現」「工作による表現」「重複障害・LD等のあるこどもの心理・生理・病理」	● 保育現場において、障害者・障害児の心理を理解して関わることや実践的な援助を身に付けるため、新設した。学生の保育士資格取得の負担軽減のため、科目の廃止や選択必修科目へ変更を行った。
● 2025 年度入学者から、既存の科目から「鍵盤楽器奏法 A」「鍵盤楽器奏法 B」を廃止し、「地域・遊び実践演習」「ICT 教育演習」「インクルーシブ保育」「SDG s 実践演習」を新設した。	● ①現代の保育ニーズに対応する学生の保育実践力を養うことと、②地域とのつながりを深め、地域の子育て支援につながる科目を増やすため。
● 造形表現Ⅰ：製作表現と保育製作Ⅰに改訂した ● 保育課程論：保育の計画と評価に改訂した ● 造形表現Ⅱ：保育制作Ⅱに名称変更 ● インターンシップを新設	● 製作表現と保育製作Ⅰ：造形表現Ⅰより更に濃い学びにするため、造形表現Ⅰの内容を保育製作Ⅰに引き継ぎ、造形表現Ⅰに無く必要な内容を製作表現として新設した。 ● 保育の計画と評価：学びの内容に沿った科目名に変更したため ● 保育制作Ⅱ：学びの内容に沿った科目名に変更したため ● インターンシップ：就職活動や就職に対する助走として、よりモチベーションアップするように新設した
（【選択必修科目】保育実習）	
● 選択必修科目「保育実習指導Ⅱ」演習 1 単位 → 「保育実習指導Ⅱ（保育所）」演習 1 単位 ● 選択必修科目「保育実習指導Ⅲ」演習 1 単位 → 「保育実習指導Ⅲ（施設）」演習 1 単位	● 保育実習指導Ⅰ（演習 2 単位）では、保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅰ（施設）の事前指導を行っていたが、実習指導と実習の関連が不明確であった。同様に、保育実習指導Ⅱおよび保育実習指導Ⅲについても、実習指導と実習科目名称上の関連が不明確であったため、実習指導の科目名について整理する必要があると判断した。実習指導の科目名称を実習先と整合させることにより、実習指導と実習の関連性が明確になるというメリットがあり、学生の混乱を避けることにもなることから妥当な変更と考える。
● 実習時間を変更	● 実習時間を施設職員の労働基準に準じたものにするため。実習施設の確保の困難さを軽減するため。
● 実習時間数の削減	● 学生の負担軽減を図るため

Q2-4 保育士養成課程の方針や特徴（MA）（Q2-4）

各施設の保育士養成課程の方針や特徴は以下の通りである。

図表 2-17：保育士養成課程の方針や特徴（MA）（Q2-4×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)					
			保育の理論 的基盤を重視	子ども理 解、環境構 成などの実 践面を重視	造形・音 楽・言語な ど実技技能 を重視	実践と理論 の往還型の 教育	保育現場で のボラン ティアやイ ンターン シップの活 用	その他
全体		368	65.8	79.6	73.1	73.6	48.4	7.3
1	大学	167	72.5	78.4	65.3	79.6	46.1	9.6
2	短期大学	128	69.5	79.7	79.7	73.4	48.4	5.5
3	専門学校	69	43.5	82.6	79.7	60.9	55.1	5.8
4	その他	4	50.0	75.0	75.0	50.0	25.0	0.0

図表 2-18：保育士養成課程の方針や特徴（MA）
（Q2-4×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)					
			保育の理論 的基盤を重 視	子ども理 解、環境構 成などの実 践面を重視	造形・音 楽・言語な ど実技技能 を重視	実践と理論 の往還型の 教育	保育現場で のボラン ティアやイ ンターン シップの活 用	その他
全体		368	65.8	79.6	73.1	73.6	48.4	7.3
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	82.4	82.4	76.5	94.1	61.8	2.9
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	75.0	83.3	63.1	75.0	51.2	8.3
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	71.7	83.3	81.7	80.0	56.7	1.7
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	37.1	85.7	85.7	62.9	42.9	2.9
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	75.0	87.5	75.0	62.5	75.0	0.0
6	その他	147	60.5	73.5	71.4	68.7	40.1	11.6

主な「その他」の回答
● ソーシャルワークの価値、知識、技術を基盤にした保育実践を重視
● 現場体験を身に付けさせる、現場体験を積極的に導入
● こどもの権利保障の徹底
● 社会人として必要となる教養・態度の重視
● 授業内で保育現場へ行く/現場の保育者が授業に参加
● 学校に併設した民間の認可保育園がある。
● 地域子育て支援活動を実施している。
● 保育現場以外でのボランティアや社会体験活動
● 保育所保育だけでなく、児童福祉の観点から福祉的素養の知識・技術を涵養

Q2-5 養成校間での養成課程上の連携の有無（MA）（Q2-5）

養成校間での養成課程上の連携状況は以下の通りである。

図表 2-19：養成校間での養成課程上の連携の有無（MA）（Q2-5×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)				
			他の養成校との単位互換制度の実施	他の養成校との連携による科目の開設	他の養成校との共同での養成課程の運営	その他	他の養成校との養成課程上の連携は行っていない
全体		368	8.4	1.9	1.1	3.8	86.7
1	大学	167	4.2	0.6	1.2	4.8	89.2
2	短期大学	128	8.6	0.8	0.0	4.7	85.9
3	専門学校	69	18.8	7.2	2.9	0.0	81.2
4	その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

図表 2-20：養成校間での養成課程上の連携の有無（MA）
（Q2-5×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)				
			他の養成校 との単位互 換制度の実 施	他の養成校 との連携に よる科目の 開設	他の養成校 との共同で の養成課程 の運営	その他	他の養成校 との養成課 程上の連携 は行ってい ない
全体		368	8.4	1.9	1.1	3.8	86.7
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	0.0	0.0	0.0	2.9	97.1
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	7.1	1.2	1.2	3.6	86.9
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	11.7	1.7	0.0	3.3	83.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	25.7	14.3	5.7	0.0	74.3
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
6	その他	147	4.8	0.0	0.7	5.4	89.1

主な「その他」の回答	
● 具体的に同大学内にある学科との連携	
● 同設置法人の運営する短期大学との連携、県内の他の養成校との連絡会議	
● 同設置法人の四年制大学との連携、県内の他の養成校との連絡会議	
● 「保育実習Ⅰ（施設）」については、県内7つの指定保育士養成校のうち6校で「指定保育士養成校連絡会」を組織し、40年以上にわたり運営している。（略）	

Q2-6 保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許（MA）（Q2-6）

取得が必須、もしくは、任意で取得可能な保育士資格以外の資格や免許は以下の通りである。

図表 2-21：保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許（MA）（Q2-6×Q1-1 学校種）

取得が必須の資格 や免許	調査数 (n=)	（％）							
		介護福祉士	社会福祉士	精神保健福 祉士	幼稚園教諭 免許状	小学校教諭 免許状	特別支援学 校教諭免許 状	その他	特になし
全体	368	0.5	0.8	0.8	17.1	2.4	0.5	1.6	80.4
1 大学	167	0.0	0.6	0.6	12.6	3.6	0.0	0.6	85.0
2 短期大学	128	0.8	0.8	0.8	12.5	0.8	0.8	1.6	85.2
3 専門学校	69	1.4	1.4	1.4	37.7	2.9	1.4	4.3	59.4
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
取得が任意の資格や免許									
全体	368	0.5	6.5	1.4	73.4	23.9	12.0	33.4	12.0
1 大学	167	0.0	12.0	1.8	80.2	46.7	24.0	31.1	3.0
2 短期大学	128	0.0	0.8	0.8	81.3	6.3	2.3	40.6	6.3
3 専門学校	69	2.9	4.3	1.4	44.9	2.9	1.4	26.1	42.0
4 その他	4	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	50.0

主な「その他」の回答	
（取得が必須の資格や免許）	
●	CertificateⅢ in Early Childhood Education and Care（オーストラリアのアシスタント保育士資格）
●	児童厚生二級指導員
●	社会福祉主事任用資格
（取得が任意の資格や免許）	
●	こども音楽療育士
●	レクリエーション・インストラクター
●	児童厚生二級指導員
●	中・高等学校教諭免許状
●	社会福祉主事任用資格
●	准学校心理士
●	司書教諭・司書
●	認定絵本士
●	幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級、2級
●	認定ベビーシッター

Q2-7 国が定める養成校の教科目の教授内容についての国への要望等とその理由 (FA) (Q2-7)

国が定める養成校の教科目の教授内容についての国への要望等とその理由の主な内容は以下の通りである。

図表 2-22：養成校の教科目の教授内容についての国への要望等とその理由 (FA)

主な自由記述一覧
● 「子どもの健康と安全」の内容を「子どもの食と栄養」「子どもの保健」「保育内容指導法・健康」の中に組み入れ、科目を削除する。 ● 「子ども家庭支援の心理学」の内容は、「子ども家庭支援論」「保育の心理学」に分けて統合できるのではないかと。現場の状況を考えれば、「障害児保育」Ⅱがほしい。 ● 「障害児保育」に関する内容のうち、特に発達障害児の特性と対応について学ぶ科目があると学生にとって有意義だと思う。 ● ○保育所等における虐待や性暴力の防止等を含む、こどもの権利擁護に係る内容の強化 ○養成課程の初期の段階で現場に触れる機会を組み込むとよいのではないかと。 ● 乳児保育ⅡはⅠに統合すべき（内容的な効率化を図る意味と、「乳児保育」全般について、他の科目との重複が多い） ● 子育て支援に関する内容科目が寡少（「保育原理」や「子ども家庭福祉」の内容を含め、取り扱いについて検討すべき） ● 1つの科目の中に盛り込まれる分野（内容）が多くなればなるほど、担当者1人の単独担当では難しく、オムニバスで担当を分担しなければならなくなるケースが生じる。近年、医療的ケア児や外国にルーツのあるこどもの受け入れが増えてきていることから、現代的な課題を踏まえた内容の追加が期待される。こども基本法の施行に合わせて、保育者が人権擁護の意識を高める内容も重要になってくると思われる。 ● ①地域子育て支援に関する科目の充実要望内容： 地域子育て支援に関する内容を必修科目として明確に位置づけてほしい。理由： 地域の親子と関わる機会が増えており、大学でも地域支援活動を通じた学びが重要になっているため。②障害児支援の内容の拡充要望内容： インクルーシブ保育に関する内容をより実践的に学べるよう、科目内容の充実に努めてほしい。理由： 障害のあるこどもや発達に特性のあるこども、医療的ケア児への支援が増えており、より深い理解と対応力が求められているため。 ● 子ども家庭福祉と子ども家庭支援論は統合できるのではと思う ● ソーシャルワークに関する科目の統合 ● 以前のカリキュラムのようにわかりやすい科目名にしてほしい。また、保育原理、保育者論、保育の計画と評価は、統合してもいいと思う。子ども家庭～が付く科目が多く、学生が混乱する。細分化したことで大切なことを繰り返し伝えることを目的としたのだと思うが、かえってわかりづらくなっている。また、家庭支援が大切ならソーシャルワークの視点を伝えられるような授業（以前の相談援助）の科目を再度設置してほしい。 ● 演習科目の人数制限をなくして欲しい ● 科目数や実習日数をもう少し減らしていただければ、学生に余裕が生まれ、学びやすい環境になると考えます。 ● 虐待や特別支援に関する科目の体系化 ● 認定こども園制度の拡充により、幼児期の教育・保育は制度上すでに一体化が進んでいる。一方で、保育士資格と幼稚園教諭免許の養成課程は依然として別建てで設計されており、大学における授業科目の重複や、学生・教員双方の負担増を招いている。 ● 被虐待児や外国にルーツがある児の保育について、明確な指針が欲しい。

ii. 実習プログラム

Q3-1 保育実習実施場所の施設種別と保育実習の単位数及び時間数（MA・NU）（Q3-1）

保育実習実施場所の施設種別と単位数及び時間数は以下の通りである。

図表 2-23：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅰ）（MA）（Q3-1×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)							
			保育所	幼保連携型 認定こども 園	小規模保育 事業	事業所内保 育事業	乳児院	母子生活支 援施設	障害児入所 施設	児童発達支 援センター
全体		368	98.9	76.9	9.5	3.5	67.9	36.1	62.0	62.5
1	大学	167	98.8	69.5	6.0	1.8	66.5	38.9	58.1	58.1
2	短期大学	128	98.4	81.3	8.6	4.7	68.0	32.8	63.3	61.7
3	専門学校	69	100.0	85.5	17.4	5.8	71.0	34.8	69.6	72.5
4	その他	4	100.0	100.0	50.0	0.0	75.0	50.0	50.0	100.0

		調査数 (n=)	(%)						
			障害児支援 施設	指定障害福 祉サービス 事業所	児童養護施 設	情緒障害児 短期治療施 設	児童自立支 援施設	児童相談所 一時保護施 設	独立行政法 人国立重度 知的障害者 総合施設の ぞみの園
全体		368	59.2	37.5	80.7	6.8	13.3	11.1	3.5
1	大学	167	58.7	29.9	79.0	6.6	12.6	12.0	3.0
2	短期大学	128	60.9	42.2	79.7	7.8	16.4	12.5	3.9
3	専門学校	69	56.5	49.3	85.5	4.3	8.7	7.2	4.3
4	その他	4	75.0	0.0	100.0	25.0	25.0	0.0	0.0

※調査票作成時に誤って古い情報を参照してしまったため、「情緒障害児短期治療施設」という選択肢を設けているが、現行制度では「児童心理治療施設」となっている。また、「障害児支援施設」は「障害者支援施設」の誤りである。ただし、いずれも調査票を基にした記載のままとしている。

図表 2-24：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅰ）（MA）
（Q3-1×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)							
			保育所	幼保連携型 認定こども 園	小規模保育 事業	事業所内保 育事業	乳児院	母子生活支 援施設	障害児入所 施設	児童発達支 援センター
全体		368	98.9	76.9	9.5	3.5	67.9	36.1	62.0	62.5
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	94.1	73.5	0.0	0.0	64.7	44.1	61.8	73.5
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	100.0	71.4	8.3	3.6	65.5	34.5	54.8	45.2
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	96.7	83.3	10.0	5.0	61.7	31.7	66.7	56.7
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	100.0	85.7	22.9	5.7	68.6	31.4	77.1	77.1
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	100.0	75.0	0.0	0.0	62.5	25.0	50.0	62.5
6	その他	147	100.0	76.2	9.5	3.4	72.8	38.8	61.2	68.7

		調査数 (n=)	(%)						
			障害児支援 施設	指定障害福 祉サービス 事業所	児童養護施 設	情緒障害児 短期治療施 設	児童自立支 援施設	児童相談所 一時保護施 設	独立行政法 人国立重度 知的障害者 総合施設の ぞみの園
全体		368	59.2	37.5	80.7	6.8	13.3	11.1	3.5
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	58.8	35.3	79.4	8.8	8.8	17.6	0.0
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	57.1	25.0	77.4	7.1	8.3	7.1	3.6
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	55.0	38.3	80.0	11.7	25.0	15.0	5.0
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	57.1	48.6	85.7	5.7	8.6	2.9	2.9
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	50.0	37.5	87.5	0.0	0.0	0.0	0.0
6	その他	147	63.3	42.2	81.6	4.8	14.3	12.9	4.1

図表 2-25：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅰ）（MA）
（Q3-1×Q3-2 実習先の確保方法）

		調査数 (n=)	(%)							
			保育所	幼保連 携型認 定こど も園	小規模 保育事 業	事業所 内保育 事業	乳児院	母子生 活支援 施設	障害児 入所施 設	児童発 達支援 セン ター
全体		368	98.9	76.9	9.5	3.5	67.9	36.1	62.0	62.5
1	養成校主導で実習先を決める	236	99.2	76.7	9.3	4.2	68.2	35.2	62.3	60.2
2	学生主導で実習先を決定する	18	100.0	83.3	11.1	0.0	55.6	38.9	61.1	72.2
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	98.2	76.1	10.1	2.8	69.7	37.6	61.5	66.1
4	その他のみ	5	100.0	80.0	0.0	0.0	60.0	40.0	60.0	60.0

		調査数 (n=)	(%)						
			障害児 支援施設	指定障 害福祉 サービ ス事業 所	児童養 護施設	情緒障 害児短 期治療 施設	児童自 立支援 施設	児童相 談所一 時保護 施設	独立行政 法人 国立重 度知的 障害者 総合施 設のぞ みの園
全体		368	59.2	37.5	80.7	6.8	13.3	11.1	3.5
1	養成校主導で実習先を決める	236	59.3	37.3	79.7	5.9	13.6	11.9	3.4
2	学生主導で実習先を決定する	18	61.1	44.4	77.8	5.6	5.6	0.0	0.0
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	59.6	36.7	84.4	9.2	14.7	10.1	4.6
4	その他のみ	5	40.0	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0

図表 2-26：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅱ）（MA）（Q3-1×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)				
			保育所	幼保連携型 認定こども 園	小規模保育 事業	事業所内保 育事業	保育実習Ⅱ は実施して いない
全体		368	97.8	75.8	14.4	3.5	1.1
1	大学	167	97.0	67.1	10.8	2.4	1.8
2	短期大学	128	98.4	80.5	10.9	5.5	0.8
3	専門学校	69	98.6	87.0	27.5	1.4	0.0
4	その他	4	100.0	100.0	50.0	25.0	0.0

図表 2-27：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅱ）（MA）
（Q3-1×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)				
			保育所	幼保連携型 認定こども 園	小規模保育 事業	事業所内保 育事業	保育実習Ⅱ は実施して いない
全体		368	97.8	75.8	14.4	3.5	1.1
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	94.1	67.6	2.9	0.0	5.9
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	98.8	69.0	13.1	4.8	0.0
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	98.3	78.3	11.7	6.7	0.0
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	100.0	88.6	34.3	0.0	0.0
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	87.5	75.0	37.5	0.0	0.0
6	その他	147	98.0	77.6	12.9	3.4	1.4

図表 2-28：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅱ）（MA）
（Q3-1×Q3-2 実習先の確保方法）

		調査数 (n=)	(%)				
			保育所	幼保連 携型認 定こど も園	小規模 保育事 業	事業所 内保育 事業	保育実 習Ⅱは 実施し ていな い
全体		368	97.8	75.8	14.4	3.5	1.1
1	養成校主導で実習先を決める	236	98.3	75.4	13.6	3.8	0.8
2	学生主導で実習先を決定する	18	88.9	72.2	16.7	0.0	11.1
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	98.2	77.1	15.6	3.7	0.0
4	その他のみ	5	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0

図表 2-29：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅲ）（MA）（Q3-1×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)			
			児童厚生施設	児童発達支援センター	その他	保育実習Ⅲは実施していない
全体		368	27.7	45.1	46.5	29.6
1	大学	167	26.9	48.5	56.3	23.4
2	短期大学	128	30.5	43.0	48.4	27.3
3	専門学校	69	24.6	40.6	20.3	47.8
4	その他	4	25.0	50.0	25.0	50.0

図表 2-30：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅲ）（MA）
（Q3-1×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)			
			児童厚生施設	児童発達支援センター	その他	保育実習Ⅲは実施していない
全体		368	27.7	45.1	46.5	29.6
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	17.6	44.1	52.9	23.5
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	31.0	51.2	46.4	26.2
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	23.3	40.0	45.0	33.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	17.1	31.4	25.7	54.3
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	25.0	62.5	37.5	12.5
6	その他	147	32.7	46.3	51.0	26.5

図表 2-31：保育実習実施場所の施設種別（保育実習Ⅲ）（MA）
（Q3-1×Q3-2 実習先の確保方法）

		調査数 (n=)	(%)			
			児童厚生施設	児童発達支援センター	その他	保育実習Ⅲは実施していない
全体		368	27.7	45.1	46.5	29.6
1	養成校主導で実習先を決める	236	26.3	41.9	39.4	33.9
2	学生主導で実習先を決定する	18	11.1	27.8	33.3	55.6
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	33.9	56.0	61.5	17.4
4	その他のみ	5	20.0	20.0	100.0	0.0

主な「その他」の回答	
●	指定障害福祉サービス事業所
●	児童館
●	児童相談所一時保護施設、児童養護施設、障害児支援施設、乳児院
●	母子生活支援施設、児童発達支援センター
●	放課後等デイサービス

図表 2-3 2 : 保育実習の単位数・時間数 (NU) (Q3-1)

単位数		回答数	平均値	最小値	最大値
1	保育実習Ⅰ	362	3.5	2.0	10.0
2	保育実習Ⅱ	358	2.0	1.0	4.0
3	保育実習Ⅲ	254	2.0	1.0	4.0

時間数		回答数	平均値	最小値	最大値
1	保育実習Ⅰ	362	145.7	10.0	360.0
2	保育実習Ⅱ	358	83.9	10.0	180.0
3	保育実習Ⅲ	254	84.1	10.0	180.0

図表 2-3 3 : 保育実習の単位数 (NU) (Q3-1×Q2-6 取得可能な資格や免許)

		施設種別（件）						
		全体	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	保育士資格のみ取得可能な専門学校	その他
保育実習Ⅰ								
全体		362	33	82	59	35	8	145
1	平均	3.5	3.7	3.4	3.5	3.4	4.5	3.5
2	最小値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
3	最大値	10.0	6.0	4.0	4.0	4.0	10.0	8.0
保育実習Ⅱ								
全体		358	31	82	59	35	8	143
1	平均	2.0	2.0	2.0	2.1	2.0	2.5	2.0
2	最小値	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.0
3	最大値	4.0	2.0	2.0	4.0	2.0	4.0	4.0
保育実習Ⅲ								
全体		254	25	60	39	16	7	107
1	平均	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.6	2.0
2	最小値	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	2.0	2.0
3	最大値	4.0	2.0	2.0	3.0	2.0	4.0	4.0

※学校によっては最低限の時間数のみを設定している場合もある。

図表 2-3 4 : 保育実習の時間数 (NU) (Q3-1×Q2-6 取得可能な資格や免許)

		施設種別 (件)						
		全体	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	保育士資格のみ取得可能な専門学校	その他
保育実習Ⅰ								
全体		362	33	82	59	35	8	145
1	平均	145.7	156.8	135.0	151.0	141.6	162.5	147.1
2	最小値	10.0	60.0	30.0	45.0	75.0	90.0	10.0
3	最大値	360.0	240.0	180.0	180.0	180.0	180.0	360.0
保育実習Ⅱ								
全体		358	31	82	59	35	8	143
1	平均	83.9	84.1	79.8	87.0	83.0	96.3	84.5
2	最小値	10.0	30.0	30.0	45.0	30.0	60.0	10.0
3	最大値	180.0	96.0	90.0	180.0	90.0	180.0	180.0
保育実習Ⅲ								
全体		254	25	60	39	16	7	107
1	平均	84.1	85.4	81.5	83.5	85.0	97.1	84.5
2	最小値	10.0	60.0	30.0	15.0	80.0	60.0	10.0
3	最大値	180.0	96.0	90.0	90.0	90.0	180.0	160.0

※学校によっては最低限の時間数のみを設定している場合もある。

Q3-2 実習先の確保方法 (MA) (Q3-2)

実習先の確保方法は以下の通りである。

図表 2-3 5 : 実習先の確保方法 (MA) (Q3-2×Q1-1 学校種)

		調査数 (n=)	(%)			
			学生の希望 を聞いたう えで、養成 校が実習先 の割り当て を実施	学生の希望 は聞かず に、養成校 が実習先 の割り当てを 実施	学生自身に よる選定・ 確保	その他
全体		368	79.1	16.8	34.5	2.7
1	大学	167	79.0	19.2	36.5	3.6
2	短期大学	128	76.6	18.0	40.6	2.3
3	専門学校	69	82.6	10.1	18.8	1.4
4	その他	4	100.0	0.0	25.0	0.0

※その他の回答内容を確認した際に、選択肢1「学生の希望を聞いたうえで、養成校が実習先の割り当てを実施」、選択肢2「学生の希望は聞かずに、養成校が実習先の割り当てを実施」のいずれもある旨の記述があった場合に、その他から選択肢1、2に回答を付け替える作業を行った。

図表 2-3 6 : 実習先の確保方法 (MA) (Q3-2×Q2-6 取得可能な資格や免許)

		調査数 (n=)	(%)			
			学生の希望 を聞いたう えで、養成 校が実習先 の割り当て を実施	学生の希望 は聞かず に、養成校 が実習先の 割り当てを 実施	学生自身に よる選定・ 確保	その他
全体		368	79.1	16.8	34.5	2.7
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	76.5	17.6	26.5	2.9
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	83.3	19.0	40.5	1.2
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	75.0	18.3	40.0	3.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	85.7	8.6	14.3	2.9
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	100.0	0.0	12.5	0.0
6	その他	147	76.2	17.7	36.7	3.4

主な「その他」の回答	
●	実習先の地域により異なる。
●	「学生の希望を聞いたうえで、養成校が実習先の割り当てを実施」に加えて、県内実習については、県の保育実習委員会において他の養成校との期間や実習園の重なりを避けるよう、実習先の調整を行い、委員会より一括して実習園に依頼を行う
●	学生に選定させるが、その後大学でも選定した園の内容を確認する
●	学生の希望を聞いたうえで、実習生自身による選定・確保を教員が承認
●	実習先は原則として学生の地元で選ぶように指導しています。このことをまず全体に伝え、それから学生たちが実習園の候補を出してくるので、教員と助手がそれに従い、踏むべき手続きを踏みつつ、実習先を決定します。
●	保育実習Ⅰは養成校が割り当て、保育実習Ⅱ・Ⅲは学生の希望を訊いて割り当てる

Q3-3 実習先との連携体制（MA）（Q3-3）

実習先と養成校間での連携体制は以下の通りである。

図表 2-37：実習先との連携体制（MA）（Q3-3×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)			
			定期会議の 開催	個別連絡の 実施	その他	実習先との 連携はして いない
全体		368	34.0	85.9	16.3	3.5
1	大学	167	29.9	82.6	16.8	3.6
2	短期大学	128	44.5	86.7	18.0	3.1
3	専門学校	69	26.1	92.8	13.0	2.9
4	その他	4	0.0	75.0	0.0	25.0

図表 2-38：実習先との連携体制（MA）（Q3-3×Q2-6 取得可能な資格や免許）

		調査数 (n=)	(%)			
			定期会議の 開催	個別連絡の 実施	その他	実習先との 連携はして いない
全体		368	34.0	85.9	16.3	3.5
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	35.3	79.4	23.5	5.9
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	21.4	88.1	15.5	1.2
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	46.7	86.7	21.7	3.3
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	25.7	88.6	17.1	2.9
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	62.5	100.0	12.5	0.0
6	その他	147	36.1	84.4	12.9	4.8

図表 2-39：実習先との連携体制（MA）（Q3-3×Q3-2 実習先の確保方法）

		調査数 (n=)	(%)			
			定期会 議の開 催	個別連 絡の実 施	その他	実習先 との連 携はし ていな い
全体		368	34.0	85.9	16.3	3.5
1	養成校主導で実習先を決める	236	35.6	87.3	16.1	1.3
2	学生主導で実習先を決定する	18	16.7	55.6	16.7	27.8
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	34.9	89.0	15.6	4.6
4	その他のみ	5	0.0	60.0	40.0	0.0

主な「その他」の回答	
●	「保育所実習の手引」の共有、県内養成校と実習園との「実習打ち合わせ会」における実習計画や実習内容の確認・情報交換、学び合いの講演会の実施（年に１回）
●	会議というほどではないが、年１回の懇談会を実施
●	学外授業
●	教員による実習先への訪問指導
●	県内の養成校とその年度に依頼する全ての園が合同で打合せ会を実施（４月）
●	実習報告会に参加していただく、実習懇談会を開催している、特別講義として出講いただいている
●	就職説明会や教育課程編成委員会等
●	巡回指導

Q3-4 保育実習の指導体制（SA）（Q3-4）

保育実習の指導体制は以下の通りである。

図表 2-40：保育実習の指導体制（SA）（Q3-4×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	（％）			
			専任の実習 指導教員を 配置してい る	他の業務を 兼任する教 員が実習指 導を担当し ている	専任の実習 指導教員と 他の業務を 兼任する教 員の両方が 実習指導を 担当してい る	その他
全体		368	 41.8	 42.4	 15.5	0.3
1	大学	167	 41.9	 41.3	 16.8	0.0
2	短期大学	128	 42.2	 45.3	 11.7	0.8
3	専門学校	69	 42.0	 39.1	 18.8	0.0
4	その他	4	 25.0	 50.0	 25.0	0.0

図表 2-4 1 : 保育実習の指導体制 (SA) (Q3-4×Q2-6 取得可能な資格や免許)

		調査数 (n=)	(%)				
			専任の実習 指導教員を 配置してい る	他の業務を 兼任する教 員が実習指 導を担当し ている	専任の実習 指導教員と 他の業務を 兼任する教 員の両方が 実習指導を 担当してい る	その他	
全体		368	41.8	42.4	15.5	0.3	
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	35.3	44.1	20.6	0.0	
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	40.5	45.2	14.3	0.0	
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	43.3	43.3	11.7	1.7	
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	40.0	42.9	17.1	0.0	
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	12.5	50.0	37.5	0.0	
6	その他	147	45.6	39.5	15.0	0.0	

図表 2-4 2 : 保育実習の指導体制 (SA) (Q3-4×Q3-2 実習先の確保方法)

		調査数 (n=)	(%)			
			専任の 実習指 導教員 を配置 してい る	他の業 務を兼 任する 教員が 実習指 導を担 当して いる	専任の 実習指 導教員 と他の 業務を 兼任す る教員 の両方 が実習 指導を 担当し ている	その他
全体		368	41.8	42.4	15.5	0.3
1	養成校主導で実習先を決める	236	40.7	43.6	15.3	0.4
2	学生主導で実習先を決定する	18	55.6	33.3	11.1	0.0
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	42.2	42.2	15.6	0.0
4	その他のみ	5	40.0	20.0	40.0	0.0

Q3-5 保育実習を運営する上での実習先との連携に関する課題（MA・SA）（Q3-5）

養成校が考える、保育実習を運営する上での実習先との連携に関する課題は以下の通りである。

**図表 2-4 3：保育実習を運営する上での実習先との連携に関する課題（MA・SA）
（Q3-5×Q1-1 学校種）**

		調査数 (n=)	(%)								
			実習先の確保が困難である（実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど）	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	実習指導にかかる負担が大きい	その他	特になし	
MA											
全体		368	38.6	25.5	61.1	41.3	47.8	52.4	3.8	9.8	
1	大学	167	35.3	26.3	56.3	37.1	42.5	52.1	6.6	12.0	
2	短期大学	128	37.5	25.0	64.8	43.0	50.0	50.8	1.6	8.6	
3	専門学校	69	46.4	23.2	68.1	47.8	55.1	56.5	0.0	5.8	
4	その他	4	75.0	50.0	25.0	50.0	75.0	50.0	25.0	25.0	
SA											
全体		368	11.7	6.5	21.2	12.0	8.2	30.2	0.5	9.8	
1	大学	167	10.2	9.0	19.8	8.4	7.2	32.3	1.2	12.0	
2	短期大学	128	8.6	6.3	22.7	18.0	10.2	25.8	0.0	8.6	
3	専門学校	69	18.8	1.4	23.2	10.1	7.2	33.3	0.0	5.8	
4	その他	4	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	

**図表 2-4 4：保育実習を運営する上での実習先との連携に関する課題（MA・SA）
（Q3-5×Q2-6 取得可能な資格や免許）**

		調査数 (n=)	(%)								
			実習先の確保が困難である(実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど)	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	実習指導にかかる負担が大きい	その他	特になし	
MA											
全体			368	38.6	25.5	61.1	41.3	47.8	52.4	3.8	9.8
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	41.2	20.6	55.9	41.2	41.2	58.8	5.9	0.0	
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	32.1	25.0	56.0	40.5	35.7	50.0	7.1	15.5	
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	35.0	28.3	66.7	45.0	51.7	56.7	0.0	8.3	
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	57.1	22.9	68.6	57.1	62.9	57.1	0.0	5.7	
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	37.5	37.5	50.0	37.5	37.5	62.5	0.0	12.5	
6	その他	147	38.8	25.9	61.9	36.7	51.7	49.0	4.1	10.2	
SA											
全体			368	11.7	6.5	21.2	12.0	8.2	30.2	0.5	9.8
1	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な大学	34	17.6	2.9	26.5	11.8	8.8	32.4	0.0	0.0	
2	保育士・幼稚園教諭免許状と小学校教諭免許状が取得可能な大学	84	8.3	13.1	21.4	4.8	6.0	28.6	2.4	15.5	
3	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な短期大学	60	6.7	6.7	28.3	10.0	10.0	30.0	0.0	8.3	
4	保育士・幼稚園教諭免許状のみ取得可能な専門学校	35	28.6	0.0	17.1	11.4	2.9	34.3	0.0	5.7	
5	保育士資格のみ取得可能な専門学校	8	12.5	0.0	25.0	12.5	0.0	37.5	0.0	12.5	
6	その他	147	10.2	5.4	17.7	17.0	10.2	29.3	0.0	10.2	

図表 2-45：保育実習を運営する上での実習先との連携に関する課題（MA・SA）
（Q3-5×Q3-2 実習先の確保方法）

		調査数 (n=)	(%)								
			実習先の確保が困難である（実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど）	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	実習指導にかかる負担が大きい	その他	特になし	
MA											
全体			368	38.6	25.5	61.1	41.3	47.8	52.4	3.8	9.8
1	養成校主導で実習先を決める	236	38.6	22.9	61.0	39.8	41.9	53.0	2.5	11.0	
2	学生主導で実習先を決定する	18	33.3	11.1	55.6	27.8	55.6	33.3	5.6	11.1	
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	38.5	33.0	64.2	45.0	59.6	55.0	6.4	7.3	
4	その他のみ	5	60.0	40.0	20.0	80.0	40.0	40.0	0.0	0.0	
SA											
全体			368	11.7	6.5	21.2	12.0	8.2	30.2	0.5	9.8
1	養成校主導で実習先を決める	236	13.1	5.5	21.6	12.3	6.4	30.1	0.0	11.0	
2	学生主導で実習先を決定する	18	11.1	0.0	22.2	5.6	27.8	22.2	0.0	11.1	
3	養成校主導・学生主導両方の決め方を有す	109	8.3	9.2	21.1	11.0	9.2	32.1	1.8	7.3	
4	その他のみ	5	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	

主な「その他」の回答	
①実習園ごとの保育体制や指導方針の違いにより、学生が得られる経験にばらつきが生じている。②学生の特性や配慮事項をどこまで共有すべきか、養成校と園で判断が分かれることがある。	
不適切保育が疑われた時の連携の仕方が難しい	

Q3-6 保育実習を運営する上で特に課題だと感じる点（FA）（Q3-6）

養成校が保育実習を運営する上で特に課題だと感じる点は以下の通りである。

図表 2-46：保育実習を運営する上で特に課題だと感じる点（FA）（Q3-6）

主な自由記述一覧
（実習先の確保が困難である）
● 実習先の提携を固定していないため、他校実習期間と重なる時期となると、なかなかお受け入れいただけない場合がある。 ● 実習先を確保する際、地域差が大きくある
（養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい）
● 後輩を育てるという意味で温かい目で迎えてくださる園が多い中、とても厳しく指導されることもある。命を預かる職であるため、その考えも大いにあるが、実習園により保育を目指す学生がいることは残念である。また、毎日の反省会は難しいと思うが、毎日少しずつアドバイスをいただくと、その期間の中で本人が修正、工夫し成長できると思われる。 ● 例えば、実習させたいと思う施設があったとしても、保育実習Ⅲを選択し、その施設での実習を希望する学生がいても、施設での就職を希望しないのであれば実習の受け入れはできないとする施設があること。人手不足なので仕方ないと思うが、協力をお願いしたいと切に思う。
（実習における指導者の指導方針や力量に差がある）
● 「（指導者）」を実習先の指導者として考えた場合）経験値だけで指導されると、養成校で学んだことと矛盾が生じることがある。養成校では柔軟に対応するよう指導しているが、未熟な学生においては混乱してしまい、思うような実習ができず自信をなくしてしまうことがある。その学生を実習後フォローすることにかかなりの労力を必要とする。 ● 実習先によって実習の評価基準も変わってしまい、評価の公平性を担保できない ● 実習先の指導者の力量により、学生の学びに格差が生じること ● 実習日誌の返却や学生へのフィードバックが少ない園も多く、学生が不安を感じる傾向がある。放任のような園もあれば、過度に厳しい園もあり、今後の学生の意欲に直結するため、実習先の選定にあたっては学生の個別面談を実施している。
（実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい）
● 実習園により評価基準が異なるため、客観的に見て公平な評価とは言い難い点 ● 養成校の依頼内容と実習園の方針に相違がある。その調整が難しい。
（実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある）
● ①実習における学生のICT環境が学生の経済的状況に依存するため整備が難しい。②個人情報扱ふ事が必須なため、実習園と養成校ともに共通理解が必要。 ● ICT化を推奨し保育学生・保育者の負担低減を目指しているが、賛同頂けない園もある。 ● 実習日誌をICT化した場合、扱えない保育者がいるため、紙媒体での提出となること
（実習指導にかかる負担が大きい）
● コミュニケーションが苦手な学生の指導や理解力不足の学生への指導 ● 園によって、日誌の指導、学生へ求めることに大きな差があり、平均的な指導を行った際、柔軟に対応できる力を学生が持っていないため、実習期間中、悩むことが多い。何を持って、実習指導を行った、しっかり学びをしたうえで実習に臨んでいると言えるか…悩むところである。また、実習生に好まれるため、また難しい実習生も多いことから、現場の先生方から指導されることがほとんどないため（日誌に訂正が全く入らない）、養成校としては、学生がどの程度考える力を得ているのか分かりづらい。また日誌もドキュメンテーションなどが現場で主流になってきていることに、どの程度あわせていくのか？悩むと

主な自由記述一覧
ころである。
● 学生の基礎学力に個人差があり、個別指導に時間を要する、家庭で身に着けるべき基本的なマナーについて養成校だけで指導していくことに難しさを感じている
● 個別対応を必要とする学生が近年増えてきているため
● 専任の実習指導担当がいないうちで、他の業務を行ないながら、実習配置や指導を行うことの難しさがある。

Q3-7 国が定める保育実習実施基準等についての国への要望等とその理由（FA）（Q3-7）

国が定める保育実習実施基準等についての国への要望等とその理由は以下の通りである。

図表 2-47：国が定める保育実習実施基準等についての国への要望等とその理由（FA）（Q3-7）

主な自由記述一覧
● 実習配当年次の制約などのない柔軟なカリキュラム構想を可能にすること
● 4年制大学において、2年次後期からの実習を認めてもよいのではないか。実習での学びを次の実習に活かすにはある程度の期間が必要のため。
● 実習の実施時期の緩和。4年制大学では3年次以降に実習を実施することになっているが、幼稚園と小学校の実習時期と重なるため。
● 受け入れ先施設の確保が困難であること、実習指導内容やカリキュラムの連続性との関連で、2年次に実施することが困難であることにより、短期大学・2年養成課程において実習期間を原則2年次のみとしていることについて見直してほしい。
● 実習期間について「おおむね10日間」と記載されていますが、これはもし9日間であったとしても80時間を満たしていれば問題ないと解釈していいのかどうか、今の表記だけでは判断するのが難しく感じます。
● 実習時間についておおむね10日と、基準が明確ではないため、問題ないように90時間の実習をお願いしている。その一方で、保育士の働き方（1日8時間半）に合わせると、10日間では85時間となり、90時間を確保できない。このように現状の制度と照らし合わせた場合、時間数に合わせることは難しくなっている。そのため、時間数にこだわらず、「10日間」という日数で実習したことが認められるようにしてほしい。
● 3年次から実習可能という基準について、2年次からでも実習できるように改善してほしい。保育現場を知りながら、学ぶことができるようにするため。
● 実習時間について、明確な基準を示してほしい。園側には労働基準局から休憩時間の確保について指導があるらしく、現状としておおむねの実習日数を示されるだけでは不十分である。
● 本校では近年、放課後等デイサービスへの就職希望者が増えております。保育実習Ⅰの対象施設に、放課後等デイサービス事業所も入れていただけると、学生の職業選択の幅が広がると考えております。
● 保育実習実施基準にICT活用の位置づけが明確に示されれば、養成施設においてもICT化を進めやすくなり、授業や実習指導を円滑に実施できると考える。
● 実習指導者研修の充実・必修化の検討要望：実習指導者向けの研修機会を国として拡充し、受講を促進してほしい。理由：指導者の力量や指導方針に差があり、学生の学びに影響が出るため。

iii. ICT の利活用

Q4-1 保育士養成課程における ICT の活用状況 (MA) (Q4-1)

保育士養成課程における ICT の活用状況は以下の通りである。

図表 2-48：保育士養成課程における ICT の活用状況 (MA) (Q4-1×Q1-1 学校種)

		調査数 (n=)	(%)							
			教材の配信 (クラウド 等を利用し た資料・教 材の配 布))	オンライン による課題 提出・添削	動画や録画 授業の提供 (オンデマ ンド型)	リアルタイムのオンライン授業 (双方向 型：質疑応 答やディス カッション などを含 む)	実習日誌の 作成 (PC 等を利用し た電子上の 日誌作成)	実習日誌の 共有 (養成 施設の教員 間、養成施 設と実習先 など)	その他	保育士養成 課程におい て I C T は 活用できて いない
全体		354	65.5	71.5	37.6	13.8	33.3	11.0	6.8	11.0
1	大学	159	71.1	81.8	41.5	15.1	40.9	10.7	7.5	6.3
2	短期大学	123	65.0	72.4	41.5	10.6	28.5	8.9	8.9	8.9
3	専門学校	68	52.9	47.1	22.1	17.6	23.5	16.2	1.5	25.0
4	その他	4	75.0	50.0	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0

主な「その他」の回答	
●	指導案の作成、情報収集、研究発表におけるプレゼンテーション
●	次年度から実習にクラウドシステムを導入
●	実習に関する連絡事項を ICT の活用により行っている
●	実習生の課題の振り返りにロイロノートを使用
●	保育 ICT ツールを活用した授業

Q4-2 保育士養成課程におけるオンライン授業の頻度（SA）（Q4-2）

保育士養成課程におけるオンライン授業の頻度は以下の通りである。

図表 2-49：保育士養成課程におけるオンライン授業の頻度（SA）
（Q4-2）

		%				
		基礎科目	保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	保育実習（実習を除く）
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	毎回実施している（毎授業、またはほぼ毎授業）	8.4	5.6	4.9	2.1	1.4
2	2回に1回程度実施している（全体の約半分程度）	2.1	1.4	1.4	0.7	0.0
3	時々実施している（3～5回に1回程度）	4.9	7.7	7.7	7.7	3.5
4	まれに実施している（5回に1回より少ない頻度）	48.3	41.3	37.1	42.0	21.0
5	その他	15.4	11.2	10.5	10.5	6.3
6	オンライン授業は実施していない	21.0	32.9	38.5	37.1	67.8

※対面形式とオンライン形式のハイブリッドでオンライン授業を実施している場合も含む。

主な「その他」の回答	
●	悪天候や感染症により登校できなかった場合
●	休講対応等やむを得ない場合
●	公共交通機関の停止等やむを得ない事情がある場合のみ実施
●	指導やサポートで活用
●	遠方のゲストスピーカーに講演をしていただく際にオンライン（年1回程度）

iv. 指導体制

Q5-1 保育士養成に従事する職員数（NU）（Q5-1）

保育士養成課程に従事する職員数は以下の通りである。

図表 2-50：保育士養成に従事する職員数（NU）（Q5-1）

		回答数			
		専任職員	うち、専任教員	うち、専任事務職員	講師（兼任職員を含む）
全体		368	368	368	368
1	0人	1	1	45	13
2	1～4人	4	15	140	11
3	5～9人	79	126	87	28
4	10～19人	133	185	52	107
5	20～29人	69	27	15	76
6	30～39人	36	6	6	47
7	40～49人	17	2	4	29
8	50人以上	29	6	19	57

Q5-2 教員の専門性向上のための取組（MA）（Q5-2）

教員の専門性向上のために取り組んでいることは以下の通りである。

図表 2-51：教員の専門性向上のための取組（MA）（Q5-2×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)					
			貴施設内で組織的に実施される定期的な教員研修	教員有志による自主的な研究会・勉強会の開催（テーマ別の勉強会等）	他機関との連携による交流・共同研究（他校や保育施設との合同研究会、外部講師を招いたセミナー等）	外部研修や学会等への参加促進・支援（例：参加推奨、費用補助、業務調整等）	その他	特に実施していない
全体		368	59.8	29.9	42.9	75.3	3.0	5.4
1	大学	167	50.3	28.1	46.1	71.9	3.6	7.2
2	短期大学	128	71.1	32.0	40.6	81.3	2.3	4.7
3	専門学校	69	60.9	29.0	40.6	75.4	2.9	1.4
4	その他	4	75.0	50.0	25.0	25.0	0.0	25.0

主な「その他」の回答	
● 紀要を発行	
● 教職課程と連携した FD（Faculty Development）の実施	
● 実習委員会を設け、幼保小すべての実習にかかわる成績評価の審議、個別面談の報告及び対応事例の共有などを行っている。	

Q5-3 指導方法に関して特徴的だと考える点や特に工夫している点（MA・SA）（Q5-3）

各養成校が指導方法に関して特徴的だと考えている点や、特に工夫している点は以下の通りである。

図表 2-5 2：指導方法に関して特徴的だと考える点や特に工夫している点（MA・SA）
（Q5-3×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)					
			複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	I C T等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	その他の特色ある指導方法や工夫	特に工夫できていることはない
MA								
全体		368	75.5	90.8	30.4	94.3	11.7	1.1
1	大学	167	80.2	88.0	32.3	95.2	12.0	0.6
2	短期大学	128	78.9	92.2	29.7	91.4	10.9	2.3
3	専門学校	69	58.0	95.7	27.5	97.1	13.0	0.0
4	その他	4	75.0	75.0	25.0	100.0	0.0	0.0
SA								
全体		368	15.2	32.3	2.2	43.2	6.0	1.1
1	大学	167	19.8	29.9	1.8	41.3	6.6	0.6
2	短期大学	128	14.1	35.9	1.6	40.6	5.5	2.3
3	専門学校	69	5.8	30.4	4.3	53.6	5.8	0.0
4	その他	4	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0	0.0

主な「その他の特色ある指導や工夫」の回答	
● ピアノ個人レッスン	
● メンター指導として、上級生から下級生に記録の記載方法や、実習に向かう注意点、メンタルの保ち方など、教員ではフォローしづらいところまで細やかにみるシステムがあります。女子大ならではの良さを発揮しています	
● もと公立の保育園長が教員となり、現場に則した指導をしている	
● 外部講師を招いての特別講義	
● 授業連携による上学年から下学年への助言・指導	
● 専任教員主導の実践体験（学生は幼児として参加）	
● 保育イベントの実施	

Q5-4 指導方法に関して特徴的だと考える点や特に工夫している点（具体的に）（FA）（Q5-4）

各養成校が指導方法に関して特徴的だと考えている点や、特に工夫している点の具体的な内容は以下の通りである。

図表 2-53：指導方法に関して特徴的だと考える点や特に工夫している点（Q5-4）

主な自由記述一覧
● クラス担任を中心とした個別的対応。実習や就職支援における全専任教員による指導担当制。
● グループワークを積極的に取り入れている
● 一人ひとりの学生の特性に応じた個別指導を行っている
● 学生に保育現場を知ってもらうために、授業の中で積極的に現場に出向き、見学や実践を行っています。
● 実習記録の ICT 化（クラウドを用いた記録）
● 実習現場で遭遇する場面に応じた対応方法について丁寧に指導している
● 実習指導においては、施設・幼稚園・保育所の学びに関わる複数教員で情報共有を行いながら指導を行うことで養護と教育の両面をバランスを図るべく、社会から求められる就学前教育・教育の専門的実践者を養成するよう取り組んでいる。また、学生の個別対応が必要な場合は、複数教員で学生の個性を把握しつつ、保育士に求められる役割の本質的理解に向けて継続的に指導を行っている。
● 現職者（卒業生、園長）によるゲストスピーカー。また、実習を終えた上級生が下級生にアドバイスできる仕組みを授業内に設けている。
● 実習担当が保育に関する授業を担当しているため、保育実習指導とそれぞれの授業がつながるようなスケジュールを立てている。例えば保育計画案については、保育の計画と評価にて保育計画の説明をうけ、それを受けて実習指導で実際に計画を立てる練習をするなど連動するようにしている。
● 実践的に学ぶ機会を多く設定している。具体的には、地域の保育・教育施設と連携し、こどもと直接関わる機会を設定している。また、設定保育などに関しても、多くの時数を実施し、より実践的に学ぶ機会を設定している。
● 同じキャンパスにある附属幼稚園や隣接する保育園に学生が出向いて行ったり、あるいは園児を招いて、授業で学んだ音楽や演劇、遊び等を披露したり、いっしょに遊んだりする。
● 複数の担当科目（オムニバスも含む）において、学生のグルーピングやワークショップ・模擬保育・園児を招待しての保育等、協同的な学びを多く取り入れている。
● 保育実習Ⅰ（保育所）の履修前に、全員を対象に1年次に3回附属保育園で保育体験を実施し保育の魅力を感じ、保育所への理解を深める機会を設けている。園行事や地域の児童福祉施設でのボランティアも奨励している。保育士養成科目以外でも、1年次に1年間隣接する附属幼稚園で週1回インターンシップを実施し、保育現場と近い環境を活かして理論と実践の往還を重視した指導を行っている。
● 本学キャンパス内にある附属幼稚園と連携し実際にこどもと触れあいながら学ぶ。
● ロールプレイング形式でより実践的な指導

Q5-5 指導体制に関する課題（MA・SA）（Q5-5）

各養成校が考える指導体制に関する課題は以下の通りである。

図表 2-54：指導体制に関する課題（MA・SA）（Q5-5×Q1-1 学校種）

	調査数 (n=)	(%)						
		専任教員・ 指導者の人 数が不足し ている	教員の専門 性や経験に 偏りがある	教員間の連 携・情報共 有が十分で ない	実習指導者 と講義担当 教員との連 携が不十分	教員の業務 負担が過重 で指導に十 分な時間が 割けない	新任教員や 非常勤講師 の指導力向 上支援が不 足している	指導体制の マニュアル 整備や運用 が不十分
MA								
全体	368	40.2	28.8	13.3	12.2	47.3	15.5	16.3
1 大学	167	46.1	28.1	10.2	13.8	46.7	9.6	12.0
2 短期大学	128	34.4	32.0	16.4	11.7	46.9	21.9	18.8
3 専門学校	69	37.7	23.2	14.5	10.1	47.8	17.4	23.2
4 その他	4	25.0	50.0	25.0	0.0	75.0	25.0	0.0

	調査数 (n=)	(%)					
		学生の多様 な学習スタ イル・背景 への対応が 難しい	現場実習先 との連携や 指導体制が 確立されて いない	I C T ・ オ ンライン指 導への対応 が遅れてい る	保育現場の 最新動向や 実践知が指 導に十分反 映されてい ない	その他	特にない
MA							
全体	368	60.6	10.6	34.8	12.0	1.6	10.3
1 大学	167	53.9	10.2	30.5	10.2	1.2	9.6
2 短期大学	128	66.4	10.9	32.0	15.6	2.3	12.5
3 専門学校	69	66.7	11.6	49.3	8.7	1.4	8.7
4 その他	4	50.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0

	調査数 (n=)	(%)						
		専任教員・ 指導者の人 数が不足し ている	教員の専門 性や経験に 偏りがある	教員間の連 携・情報共 有が十分で ない	実習指導者 と講義担当 教員との連 携が不十分	教員の業務 負担が過重 で指導に十 分な時間が 割けない	新任教員や 非常勤講師 の指導力向 上支援が不 足している	指導体制の マニュアル 整備や運用 が不十分
SA								
全体	368	14.4	6.3	1.6	1.4	17.7	1.1	2.7
1 大学	167	19.2	7.2	2.4	0.6	17.4	1.2	2.4
2 短期大学	128	6.3	6.3	1.6	3.1	21.1	0.8	2.3
3 専門学校	69	17.4	4.3	0.0	0.0	13.0	1.4	4.3
4 その他	4	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	調査数 (n=)	(%)					
		学生の多様 な学習スタ イル・背景 への対応が 難しい	現場実習先 との連携や 指導体制が 確立されて いない	I C T ・ オ ンライン指 導への対応 が遅れてい る	保育現場の 最新動向や 実践知が指 導に十分反 映されてい ない	その他	特にない
SA							
全体	368	32.1	0.5	9.2	1.9	0.8	10.3
1 大学	167	28.1	0.6	7.8	3.0	0.6	9.6
2 短期大学	128	36.7	0.0	7.0	1.6	0.8	12.5
3 専門学校	69	33.3	1.4	14.5	0.0	1.4	8.7
4 その他	4	25.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0

主な「その他」の回答
● 教員の業務負担が過重であるが、責任を持って取り組んでいる。教員一人当たりの担当授業コマ数が多すぎることに。
● 現代の多様な学生への効果的な教育方法の共有が十分でない
● 最新動向をふまえて、保育幼児教育の本質を伝える授業実践が難しくなっている
● 事務体制が不十分

Q5-6 指導体制に関する課題（具体的に）（FA）（Q5-6）

各養成校が指導体制に関して課題だと感じていることの具体的な内容は以下の通りである。

図表 2-55：指導体制に関して課題だと感じている点（具体的に）（Q5-6）

主な自由記述一覧
（専任教員・指導者の人数が不足している）
● 保育者養成に中心に関わる専任教員は3人で、保育士に求められる資質の全体をカバーするには足りない。加えて、学内業務や、幼児教育という講座単位で割り振られる業務を、その3人で割り振ることから、教育・研究業務への過度な負担が生じている状況。
● 専門教員の配置が以前よりは減少しているため、より充実した体制を築くことが望まれる。また実習先との連携においては、（途中省略）一部の養成校のように実習コーディネーター担当の教員が配置されれば理想的である。
● 保育士養成においては、講義・演習・実習指導に加え、学生一人ひとりへの個別支援や進路指導など、教員に求められる役割が多岐にわたる。その一方で、専任教員数には限りがあり、業務が集中しやすく、十分な指導時間の確保が課題となっている。特に、実習前後の指導や個別対応を継続的に行うためには、指導体制の充実が必要である。
（実習指導者と講義担当教員との連携が不十分）
● 限られた時間の中では実習に向けた準備などを学生に主体性に任せていては足りない現実がある。そのため授業内容から逸脱しない範囲で保育技術について授業の中で触れてほしいがかなわないことの方が多い。授業の独立性と実習指導との連携の具体化が課題である。
（教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない）
● 学生募集活動等の公務に係る業務負担が年々増加しており、その結果、教員が本来担うべき教育指導に十分な時間を確保することが難しくなっている点。
● 実習指導担当教員は実習専任ではなく、授業や委員会など、さまざまなことを担っているため、業務負担が過重で十分な時間が割けないと感じている。
● 多様な背景を持つ学生の増加。
（学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい）
● 合理的配慮が義務化されたことに伴い、学生・大学・実習園との連携や対応をどのように進めていくか、十分な話し合いや検討により体制の構築を進めていく必要がある。
● 卒業要件に保育士資格取得を課している。長所として、入学当初から卒業後の進路まで初志貫徹する学生にとっては有意義な学修の環境を提供できる。一方、入学後に進路変更が生じた場合、学生個人の中で折り合いをつけつつ、教員側も学生の進路決定に資する指導や支援をどう行うか、学生個別の状況に応じて丁寧にフォローする必要がある。
（ICT・オンライン指導への対応が遅れている）
● ICTをより効果的に取り入れるためのアプリの導入やオンライン体制の構築
● 実習室や事務職員がいないため、教員が全部負担している。事務処理の時間を減らし、実習指導授業を充実させたい。

v. 学生の就職あっせん

Q6-1 無料職業紹介事業の届出の有無（SA）（Q6-1）

各養成校の無料職業紹介事業の届出（職業安定法第三十三条の二）の状況は以下の通りである。

図表 2-56：無料職業紹介事業の届出有無（SA）（Q6-1×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)	
			はい	いいえ
全体		368	81.3	18.8
1	大学	167	83.8	16.2
2	短期大学	128	80.5	19.5
3	専門学校	69	76.8	23.2
4	その他	4	75.0	25.0

Q6-2 学生の就職に関する相談対応体制の有無（SA）（Q6-2）

学生の就職に関する相談対応体制の有無は以下の通りである。

図表 2-57：学生の就職に関する相談対応体制の有無（SA）（Q6-2×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)	
			はい	いいえ
全体		368	99.2	0.8
1	大学	167	99.4	0.6
2	短期大学	128	98.4	1.6
3	専門学校	69	100.0	0.0
4	その他	4	100.0	0.0

Q6-3 保育士として働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等の実施有無（SA）
（Q6-3）

卒業後、保育士として保育所や認定こども園等で働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等の実施状況は以下の通りである。

図表 2-58：保育士として働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等の実施有無（SA）（Q6-3×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)	
			はい	いいえ
全体		368	96.5	3.5
1	大学	167	96.4	3.6
2	短期大学	128	96.9	3.1
3	専門学校	69	97.1	2.9
4	その他	4	75.0	25.0

Q6-4 学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容（MA）（Q6-4）

学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容は以下の通りである。

図表 2-59：学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容（MA）
（Q6-4×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)				
			学内の進路 相談窓口 (キャリア センター 等)にて求 人を直接紹 介(就職 あっせん) している	実習指導に 関わる教員 等が学生に 求人を直接 紹介(就職 あっせん) している	学生に保育 士・保育所 支援セン ターを案内 している	公共職業安 定所(ハ ローワー ク)を案内 している	民間事業者 の運営する 求人ポータル サイトへの 登録を案内 している
全体		355	95.8	58.3	36.1	50.4	28.5
1	大学	161	96.9	58.4	32.9	55.9	34.2
2	短期大学	124	98.4	56.5	37.9	52.4	29.0
3	専門学校	67	91.0	64.2	38.8	32.8	13.4
4	その他	3	33.3	0.0	66.7	66.7	33.3

		調査数 (n=)	(%)			
			有料職業紹 介事業者に よる人材紹 介（エー ジェント） サービスの 利用を案内 している	行政・公的 機関等によ る就職セミ ナーや説明 会等を紹 介している	企業・園等 が主催する 個別説明 会・採用イ ベントを紹 介している	その他
全体		355	1.7	81.4	83.9	4.5
1	大学	161	1.2	85.1	84.5	3.1
2	短期大学	124	2.4	82.3	90.3	4.8
3	専門学校	67	1.5	70.1	70.1	7.5
4	その他	3	0.0	100.0	100.0	0.0

※「学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人を直接紹介（就職あっせん）している」、「実習指導に関わる教員等が学生に求人を直接紹介（就職あっせん）している」は、学生が閲覧可能な場所・ポータルサイト等に求人票を掲載することを含む。

主な「その他」の回答
● 園長や主任クラスになった卒業生からの求人依頼
● 掲示物による周知、ゼミ配属学生にゼミ指導教員が個別に案内するケースあり。
● 県社会福祉協議会が学内で説明会を開催
● 就職地区担当教員を配置して、具体的に情報提供をしたり相談に乗ったりしている。
● 進路担当教員が学生のマッチングを考慮しながら連携できている園を中心に見学等の機会を案内している
● 担任教員が中心となり、学生一人一人と話をしながら個別に対応し、必要に応じて保護者と情報共有している
● 同法人内の求人紹介
● 本学に各施設の求人担当者を招き、学生向けの説明会を開いている

Q6-5 学内の進路相談窓口での就職あっせんの対象（SA）（Q6-5）

「学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人を直接紹介（就職あっせん）している」と回答した学校において、求人を紹介する対象に卒業生を含むかどうかは以下の通りである。

図表 2-60：学内の進路相談窓口での就職あっせんの対象（SA）（Q6-5×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)					
			卒業後の学生は対象としていない	卒業後も対象としている（１年以内）	卒業後も対象としている（３年以内）	卒業後も対象としている（３年を超える期間）	卒業後も対象としている（期間を定めていない）	その他
全体		340	8.2	1.5	5.9	1.2	79.7	3.5
1	大学	156	8.3	1.3	9.6	2.6	73.7	4.5
2	短期大学	122	4.9	2.5	3.3	0.0	87.7	1.6
3	専門学校	61	14.8	0.0	0.0	0.0	80.3	4.9
4	その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

主な「その他」の回答	
●	学内窓口は卒業後３年まで、ハローワークの紹介は期間を定めていない
●	就職あっせんはしていないが、求人票閲覧の案内はしている。
●	卒業生から依頼があれば対象として行う
●	対象外とはしていないが、ほとんど実績がない

Q6-6 保育士資格取得者の就職状況（NU）（Q6-6）

保育士資格を取得した学生の就職状況は以下の通りである。

図表 2-6 1：保育士資格取得者の就職状況（NU）（Q6-6）

		人数合計		
		男子	女子	計
	全体	1253	16351	17604
1	保育所及び幼保連携型認定こども園	580	9829	10409
2	地域型保育事業	6	227	233
3	保育所及び幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設	113	743	856
4	児童福祉事業	69	618	687
5	障害者支援施設	57	248	305
6	老人福祉施設	11	46	57
7	幼稚園	75	1929	2004
8	その他	342	2711	3053

Q6-7 保育所及び幼保連携認定こども園に就職した学生の就職先の種類の内訳（NU）（Q6-7）

保育所及び幼保連携認定こども園に就職した学生の就職先の種類の内訳は以下の通りである。

図表 2-6 2：保育所及び幼保連携認定こども園に就職した学生の就職先の種類の内訳（NU）（Q6-7）（単位：割）

	学生個人の 関わりのある園	養成施設と 関わりのある園	新規開拓園	わからない
最小値	0.0	0.0	0.0	0.0
中央値	1.0	1.0	0.0	1.0
最大値	10.0	10.0	10.0	10.0
平均値	2.1	2.1	1.4	4.4
標準偏差	2.5	2.6	2.2	4.8

Q6-8 学生の就職活動に対するサポートに関する課題（FA）（Q6-8）

学生の就職活動に対するサポートに関して課題を感じている点は以下の通りである。

図表 2-63：学生の就職活動に対するサポートに関する課題（FA）（Q6-8）

主な自由記述一覧	
●	単願制かつ就職活動の最も活発な期間が短い（10月～12月）ため、学生の進路を考える時間が一般企業よりも短くなり、提供できるサポート内容に制限がある。
●	求人票が園や連盟のホームページ、大学の求人システム、ナビサイトなど多岐にわたるため、求人情報が探しにくい。就職課では、大学の求人票から求人を紹介するため、情報が限られてしまう。
●	①男性の学生が幼稚園を志望しても受け入れ態勢がないこと②保育園には借り上げ制度があって、幼稚園にはない格差
●	ボランティア実習に行かせたいが、授業を欠席することになり影響が出ること。時間割に余裕がないため、学習に影響が出る。
●	以前よりキャリアセンターへ相談に来る学生が減少。就職意欲の低い学生が少し増えている。
●	一般企業に比べ就職活動時期も遅いため、全体的に就職活動の開始がさらに遅くなる傾向がある。そのため、早期からのキャリア教育の意識づけの重要性を感じている。
●	園見学に行くまでのハードル（行動を起こす等）が高いと感じている点。実習を通じて保育業界への興味が薄くなる点。
●	学業と就職活動の両立が出来ない学生に対しての支援。斡旋会社を使用して就職活動する学生が増加している。
●	求人情報について、良く確かめずに安易に決めてしまう学生がいる点。保育士としての仕事に魅力は感じているが給与面（主に基本給）の低さで躊躇してしまう学生に対する支援。
●	公立受験者に対して、教員養成で取り組んでいるように自治体の所管部署が講座等の開講を検討していただけたらと思います。
●	公立保育園への志願が増加している。併願もしており、複数の合格を得ることは喜ばしいが、1つに決定すべきところで選択できず、カウンセリングや情報提供が必要であり、意思決定に伴う内定辞退までに時間がかかる。
●	合理的配慮が必要な学生の就職支援について
●	情報収集不足で安易に就職先を決めてしまう学生が増えている。これはアンマッチングによる早期離職者増を招くため、中学・高校から自己理解・仕事理解を深めるキャリア教育の重要性を強く感じる。

2. インタビュー調査

(1) インタビュー調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の養成校の実態を把握するためにインタビュー調査を実施した。

(2) インタビュー調査概要

i. 調査の対象

養成校3か所を対象とした。

対象の選定にあたっては、本事業で実施したアンケート調査における、インタビュー協力可否の回答状況、国への要望や各種課題に関する自由記述の内容、カリキュラム改定状況のほか、地域や学校種の偏りを考慮した。

図表 2-64：インタビュー調査対象

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">➤ A 大学➤ B 短期大学➤ C 専門学校 |
|--|

ii. 調査の時期

令和8年2月10日（火）～令和8年2月18日（水）

iii. 調査の方法

オンラインにて半構造化インタビューの形式で実施した。

iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 2-65：インタビュー調査項目（養成校）

大項目	調査項目
1. 国が定める指定保育士養成施設の教科目の教授内容（以下、「標準カリキュラム」という。）の運用実態	Q1 標準カリキュラムをベースとした授業提供内容の概要や特色（標準カリキュラムにない独自の工夫や内容を含む） Q2 直近3年程度におけるカリキュラムの改定状況及びその理由 Q3 標準カリキュラムの改善要望（運用時の課題等を含む）
2. 実習運営・教員体制	Q1 実習先の確保方法及び課題や工夫 Q2 実習指導の指導体制及び課題や工夫（教員が負担を感じている業務内容・学生対応の課題や工夫を含む） Q3 実習先の指導者の指導方針や力量の差に関する課題や工夫 Q4 教員の専門分野の、授業内容への反映有無・教員の授業内容への裁量の有無（反映有の場合、反映している分野） Q5 国が定める保育実習実施基準等への改善要望（運用時の課題等を含む）
3. 保育士養成課程における ICT 活用	Q1 保育士養成課程における ICT の活用状況及び活用における課題や工夫（具体的な活用方法、予算確保の方法、学生への負担に対する所感等を含む） Q2 実習日誌作成時に ICT を活用している場合、利用しているシステムや形式等 Q3 今後導入または拡大したい取組
4. その他	Q1 保育士養成課程における、他施設にも勧めたい取組 Q2 保育士養成に関する行政への要望 Q3（実施有の場合）有料職業紹介事業者のサービス利用案内の詳細

(3) インタビュー調査結果

1) A 大学

1. 標準カリ キュラム の運用実 態	(標準カリキュラムをベースとした授業提供内容の概要や特色) ➤ 標準カリキュラムは国のものに従って実施しているが、<u>実習・演習系では実際の現場での体験を補えない部分</u>があるため、本学の附属園や系列園での体験学習や、附属園と共同して<u>学生とこどもとのやり取りの場を設けている</u>。また、本学独自科目として、保育園・附属園・系列園の先生、園長先生、主任の先生などにお越しいただき、<u>保育園だけでなく施設の先生方からも現場の様子などを話していただいている</u>。 ➤ (現場の声や反応などについて) <u>今の学生たちの考え方や価値観には変化があるため、実習に行く前に学生が何を考え、何を学び、今の学生の状況を知ることは非常に良い</u>という声や、こどもたちにとっても刺激になるという声などをいただいている。 ➤ (学生の声や反応などについて) <u>実習は評価を受ける場で非常に緊張感があり</u>、本実習では2週間でやるべきことがきちんと決まっている一方、<u>短い期間の体験学習や週に1回こどもたちと一緒に遊ぶ時間は学生が気軽に自分の素を出せる場</u>になっているため、こどもが可愛いなという感覚や自分はここまで関われるのだという気づきを得られていると感じる。そうした体験では「こどもと関わるのが楽しい」「現場の先生たちがどのようなことをしているかがよくわかった」といった意見が出てくるため、<u>気軽に体験できる場は大事だ</u>と感じる。 ➤ 本学は四年制で、実習は二年生後半からのため、まる二年間は実習に行かない。その間に<u>体験を少しずつ入れていくと、これまで勉強してきたことがこうつながるのだ、先生が言っていたのはこういうことだったのだと気づく場面がある</u>。さらに、現場に行ってから授業を受けると、学んだことが腑に落ちたり、教科書ではこう書いてあったが実際はこうだった、言葉が一語で書かれている部分にも実は広がりや背景があるのだと気づいたりする。こうした<u>気づきは学生のレポートからも読み取れる</u>ため、最終的にはつながりの持たせ方だとは思うが、<u>学びと体験をつなげて進めていくことが非常に大事だ</u>と感じている。 (直近3年程度におけるカリキュラムの改定状況及びその理由) ➤ 本学では学科の再編を行ったが、カリキュラム自体を特に変更したわけではない。子育て支援や保護者支援が重視される社会状況を踏ま
--	---

	え、こうした場での学びは学生にとって非常に重要だと考えており、2023 年度に「<u>保育ソーシャルワーク学概論</u>」や「<u>子育て支援フィールドワーク</u>」を新設した。 ➤ （今後の変更予定について）会議では、先に述べた体験的な学びを一年生の時からより体系的に実施すべきではないかという意見が出ているものの、カリキュラムの具体的な検討段階には至っていない。 ➤ （多くの学生が履修する形に広げた場合の課題について）最大の課題は現場との連携・調整である。<u>保育現場は非常に多忙で、学生の受け入れは刺激となる良い面がある一方、週 1 回や隔週の継続的受け入れは負担になり得るため、受け入れ頻度や方法について事前の話し合いによる調整が必要だと考えている。</u> （標準カリキュラムの改善要望） ➤ カリキュラム改定により、過去に 2 単位だった科目が 1 単位になった科目もある。<u>現在の状況を鑑み、領域や単位配分を改めて再検討してはどうか。</u>一方で現場では保護者支援や子育て支援の重要性が高まり、対応に苦慮している状況があるため、そうした領域を改めて拡充していくべきだと思う。 ➤ <u>現時点で既存科目を減らす必要性はあまり感じていない。</u>ただし、幼稚園免許と保育士科目の間で内容の重複が多いと感じており、重複部分を整理して効率的に学べる環境づくりができるとよいと考えている。
2. 実 習 運 営・教員 体制	（実習先の確保方法及び課題や工夫） ➤ 保育所実習は保育園の数が多く、現状では大きな課題は感じていない。一方で<u>施設実習は施設数の減少に加え、他資格でも施設実習が必須化されており、いわば奪い合いの状況</u>も見られる。実習に関しては、他大学との連絡会議で実習時期のすり合わせを行っている。 （実習指導の指導体制及び課題や工夫） ➤ 学生の多様化が進み、特別な配慮が必要な学生やアレルギー等で個別対応を要する学生が増えており、今後は負担が増える可能性がある。本学は定員約 30 名の少人数体制で運営しており、規模が小さい分、対応負担は比較的抑えられている。 ➤ 大学から「実習で重視すること」や学生の現状については伝えているものの、<u>実習先によって内容・指導方法・勤務形態（休憩の有無等）</u>

	<u>に大きな差</u>がある。多様な園の実情を踏まえつつ、実習先との調整・期待のすり合わせを行う負担が大きく、連携の難しさを感じる。 ➤ （今の学びを現場に伝える際の工夫や、系列園とのやり取りで意識している点について）本学では<u>実習の連絡会を開き、学生が実習先に伺う前に本学での学びを理解していただくための説明の機会を設けている</u>。学生は必ず参加し、これまで進めてきた学びや授業の様子、授業で作った制作物、授業での学び、課外活動も含めて何を学んでいるかを自分たちで説明する機会としている。 （実習先の指導者の指導方針や力量の差に関する課題や工夫） ➤ 巡回指導で学生一人ひとりの実習状況や指導概要を確認し、その場で大学側から説明を行いサポートはしているほか、連絡会や個別で実習先とは必要に応じ連絡や相談をしている。 （国が定める保育実習実施基準等への改善要望） ➤ 実習内容や受け入れ体制は園ごとに差が大きく、実習計画を提示する園もあれば提示のない園もあるため、計画がない場合は学生が準備や実習への臨み方を把握しづらい。<u>共通のチェックリストのように抑えるべき項目を示す枠組みを提示いただきたい</u>。看護や社会福祉士の例も参考に具体的な実習基準を定めていくのがよいと感じている。 ➤ 評価を「挨拶がきちんとしている」といった曖昧な基準でつけている場合や、保育実習で0歳児との関わりがないケースもある。
3. 保育士養成課程におけるICT活用	（保育士養成課程におけるICTの活用状況及び活用における課題や工夫） ➤ <u>実習日誌は実習先の承認が得られればPCで作成（紙様式のWord版）、提出は印刷した紙で行うようにしている</u>。実習先から断られているケースはない。
4. その他	（保育士養成に関する行政への要望） ➤ 各種会議でも取り上げられているが、保育士向けの就学支援金が現行で2年間のみの支給のため、支援期間を4年間へ延長することを要望する（月上限5万円で48カ月を要望）。

2) B 短期大学

1. 標準カリ キュラム の運用実 態	➤ 学校側も今の学生に合った学びを提供できるよう様々なことを考えているが、演習科目などの実践的な内容の授業を行う場合は、少人数に しなくてはならず、<u>既定のカリキュラムを達成しようとする多くの 科目を設置することが現実的に難しい。</u> ➤ 現行の標準カリキュラムで、<u>必要な内容は網羅されている</u>と思うが、 <u>科目の構成の仕方がもう少しシンプルになるとより分かりやすい</u>と感 じる。具体的には、前回の改定で子育て支援の科目が増え、科目名や 科目ごとの違いが学生にとってわかりづらくなっている。「子ども家庭 支援論」、「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」、「子育て 支援」は過去の改定で分割された経緯があるが、以前の形の方が分か りやすかった。また、「保育の心理学」という表現も学生にはわかりづ らいように感じる。以前は「発達心理学」という授業で学んでいたと 思う。 ➤ また、「<u>子育て支援</u>」という名前がついていると、現場ですぐに活かせる 内容ではない場合もあり、「今の自分には関係ない」と思ってしまう 学生もいる。<u>理論と実践は両方大切ではあるが、理論の部分が学びに 結びつきづらい。</u> ➤ 講義形式の科目は1年生の前期に多いが、前期の試験の結果を受けて 保育士になることを諦めてしまう学生も一定数いる。また、単位が取 れず、実習に行くことができない場合もまれにある。原理系の科目は とても重要だが、もう少し実践的な部分がカリキュラム内にあると、 授業内で色々なことに取り組みやすい。 ➤ 現場の保育士や施設の職員をゲストとして招いて話をしてもらうと、 学生の食いつきがよい。教員の十数回の授業よりも、ゲストの方の1 回の授業の方が学生を惹きつけている実感がある。 ➤ 「<u>保育者論</u>」、「<u>保育の計画と評価</u>」は、「<u>保育原理</u>」に統合して通年科 目としてもいいと思う。 ➤ （新規テーマの科目追加について）<u>本来養成課程で行うことではない が、文章の書き方などは、本学だけではなく、近隣の短期大学や専門 学校の教員も多くの時間を割いている</u>とのことである。マナーの必要 性を感じない学生も増えている。また、メールを書く際に段落分けを しなかったり、敬体と常体が混ざっていたりする。本学では、文章表 現の授業を国語科の教員が行っており、お礼状・はがき・封書の書き 方を学んでいる。
--	---

2. 実 習 運 営・教員 体制	(実習先の確保方法及び課題や工夫) ➤ 全ての養成校が2月に一斉に保育実習Ⅰの1回目の実習に行くため、<u>養成校間で実習先の保育所を取り合っている状況</u>にある。 ➤ 2月は感染症の時期であることに加え、年長クラスは卒園が近く、実習ができないこともある。<u>11月頃であればこどもたちも安定した状態であるため、実習の時期がずれているとよい。</u> (実習指導の指導体制及び課題や工夫) ➤ メンタルが不安定な学生も増えている。<u>きめ細やかに対応するために個別で面談の場</u>を設けたりしている。<u>負担ではあるが、丁寧に対応しなければ実習先に迷惑</u>をかけてしまう。また、面談をするために学生を呼んだところ、保護者がついてくることが以前に比べて増えた。本学では、学生に合わせて2人以上の教員が組むようにしている。実習担当ではない教員にも協力をお願いしている。 (実習先の指導者の指導方針や力量の差に関する課題や工夫) ➤ <u>スタンダードがない点</u>は一つの課題である。<u>学生にどの水準を求めるか、どの程度できるようになってほしいか、できないことが分かればよい点はどこか、ということに関して明確な基準がないため、現場も指導しにくい</u>のではないかと考える。 (国が定める保育実習実施基準等への改善要望) ➤ 学生が実習に入った際に、保育士数が足りていない園が実際にある。何か問題が起きても学生は責任を取ることはできない。常にそばにいても必要はないが、このようなこと（保育室に保育士がいないこと）を平然と行ってしまう園には違和感がある。 ➤ 市の協議会で良くない評判を聞くこともある。社会福祉士のように厳密に指導者講習を作り、認定指導者がいる園のみが実習を受け入れられるようになれば選択肢が減るため厳しい基準は不要になるが、<u>実習の受け入れ先には一定の水準があってもよい</u>と考える。 ➤ 保育所の指導監査が入った際の監査内容は非公表であるが、<u>監査内容に不適切な箇所がある場合は実習を受けられないようにすれば</u>、自己申告にはなるものの、抑止力になると考える。実習生を人手だと思っている園もあり、長時間庭の掃除をさせられたりすることもある。人手が不足している点は一番（問題）かと思う。
-------------------------------------	---

3. 保育士養成課程におけるICT活用	(保育士養成課程におけるICTの活用状況及び活用における課題や工夫) ➤ 新型コロナウイルス禍にオンデマンド授業などを導入したため、実施は可能である。ただ、基本的に対面で授業を行っており、併用はしているが、オンラインに切り替えることはほとんどない。課題の提出はクラウド上で行っている。 ➤ <u>実習記録は、実習先の園が認めればPC等での作成を認めているが、最終的には紙で提出してもらう必要がある</u>ため、印刷の問題が生じる。また、USBなどの記録媒体に残した場合には、管理方法に課題がある。記録フォームを作成している業者もあり、説明を聞いたこともあるが、本学の学生には早いと感じ、導入はしていない。 ➤ 紙媒体で記録を提出してもらうのは、養成校と受け入れ施設両方の事情による。<u>公立の保育所では園にPCが1台しかない場合もあり、記録をPCで見ることがほぼ不可能</u>である。また、<u>インターネット回線につながっていない自治体もある</u>。学校も記録の形式を冊子で配布しており、冊子にあるフォーマットに沿う形で提出してもらったものを教員たちが確認しているため、最終的には紙で提出してもらう必要がある。
4. その他	(保育士養成課程における、他施設にも勧めたい取組) ➤ 当県では、児童福祉施設の協議会が3か月に1回あり、幼保分野に関しても年に2、3回養成校が集まって連絡協議会を開いている。そのため、情報共有はかなりできている。 ➤ <u>一昨年から児童養護施設が実習記録の様式を統一</u>した。記録に関する勉強会を開いて様式を共有しており、<u>今年度から乳児院も同様の様式を利用</u>している。それぞれの施設の担当者も共有しながら指導をすすめている。この取組は、<u>養成から就職に向けて定着させていくという一連の流れの中での取組</u>であり、良い取組だと考える。導入するかどうかは、実習担当者や学校の判断によるが、6割ほどの施設は同じ様式を用いているため、指導者にとっても共有しやすい。 ➤ 乳児院、母子生活支援施設など<u>実習Ⅲの実習先となる施設を対象に実習指導のレベルアップ講座を養成校の教員が行っている</u>。学生の実態を伝え、どのような学生が実習に行ったのかを共有している。また、<u>社会的養護の中での大切なことについて、学生にどのように伝えるのが良いかをお互いに考える取組を1年かけて行っている</u>。

3) C 専門学校

1. 標準カリ キュラム の運用実 態	(標準カリキュラムをベースとした授業提供内容の概要や特色) ➤ 国の標準カリキュラムを基盤として編成しつつ、専門学校として「<u>職業人として即戦力となる実践性</u>」を重視している。 ➤ 独自の教養科目を設け、学園理念に基づく心の教育を1年間通年で行っている。民間企業と共同開発した教材に基づき、<u>アクティブラーニング型(クイズ・ゲーム等)でレジリエンスや思考の整え方を体得させる構成</u>である。卒業生からも好評の声がある。 ➤ 選択必修科目では、現場で即応できる実技(手遊び・歌など)の最新トレンドを取り入れ、実演・アウトプット重視で教授している。現職園長等の現場人材が教鞭を執り、近隣園と共同し、<u>授業で学んだ内容をこどもへ実際にアウトプットする機会を設けている</u>。園に出向く形と園児・保護者を学校へ招く形を相互で実施している。 (直近3年程度におけるカリキュラムの改定状況及びその理由) ➤ 選択必修科目における座学偏重の科目について、<u>アウトプット(実技・演習・現場協働)を組み込む形へ段階的に見直し</u>している。ねらいは現場で求められる<u>実践力の強化</u>である。 ➤ 短大を併修している点を生かし、幼稚園免許側で網羅できる科目との整理を行った結果、一部基礎科目を実践科目へ移行している。 ➤ 新設2科目として、①<u>キャリアプランを自ら描く科目</u>、②<u>実習とは別枠で現場実践(ボランティア・イベント補助等)へ計画的に参加し、事前学習・現場活動・事後振り返りまで行う科目</u>を設置した。在学生からは「<u>早期に現場へ出られる安心感</u>」「<u>実践機会の魅力</u>」が評価され、<u>受入園からも早期マッチング・定着促進の観点で歓迎の声</u>を得ている。 ➤ <u>現場実践は任意だが、全員が実質参加する運用</u>であり、授業を休講にして全員が現場に向かう日を設け、年に複数回実施している。単発参加の機会と通年で継続的に関わる機会の双方を用意している。 (標準カリキュラムの改善要望) ➤ <u>現行枠組みを大切にしたい</u>との認識である。学園内でもテストを行い、学修到達の見える化に取り組んでいる。
2. 実 習 運 営・教員 体制	(実習先の確保方法及び課題や工夫) ➤ 保育所等の実習 ✧ 学生が希望園を自ら選定し、教員がオファーする方式で広く対応している(協会連盟所属園や既存ネットワークのみに絞らない)。このため重複時期の受入困難等の課題は相対的に生じにくい。

- 施設実習（障害・福祉系等）
 - ◇ 経営・人員逼迫により受入枠が年々縮小しており、柔軟な送り出しが難しい。学童保育・放課後等デイサービスなど現場需要が高い領域も実習単位の対象に広げるなど、施設実習として認められる実習先の拡大・多様化を要望する。

（実習指導の指導体制及び課題や工夫）

- 合理的配慮義務化を受け、実習決定前から学生情報（本人同意・必要な範囲）を園と共有し、事前調整を徹底している。年2～3回の園長と養成校の懇談会で評価観点や受入れ体制に関する共通理解を醸成している。
- 教員負担は「準備段階」で増加した一方、実習中・終了後のトラブルは減少し、全体として運営は合理化された。
- 実習日誌・指導案等の扱いは園の方針により差が大きい。ICT化を進める園がある一方、全てを手書きで作成すること・大量の枚数を求める園もあり、共通指導を適用しづらい。

（実習先の指導者の指導方針や力量の差に関する課題や工夫）

- 養成校と園現場の期待や価値観のズレをいかに調整するかが継続的課題である。園側は自らの資格取得時の経験を基準に現行の養成内容を想像しがちであり、養成校は現状の全てを現場へ十分に届け切れず、過去と現在のミスマッチが生じている。例えば、かつて必須とされたピアノ技能は、現在では多様な音楽手法が認められつつあり、この価値観の変化が実習において学生と指導担当双方の迷いを生む。
- 古い実習観に基づく過度な厳しさや、「保育士に向いていない」と断ずる指導が見られる事例があり、「共に育てる」観点が希薄な園もある。
- ボランティア等で接触頻度を高め、事前に相互理解を深めることでミスマッチを緩和しているが、評価（審査）が伴う実習はなおズレが生じやすい。日誌や指導案作成といった内容面、ICTの活用と紙運用といった運用面などの齟齬がズレを増幅させる。

（国が定める保育実習実施基準等への改善要望）

- 施設実習の受入先不足に対処するため、実習単位として認められる場の多様化を要望する。
- 実習関連科目・仕組み面の強化を要望する。全国保育士養成協議会の実習ガイドブックが掲げる「共に育てる」の理念が現場で進みにくい実情があり、養成校と園の現場の先生方が共に学び合える共通の枠組みを設けられるとよいと思う。
- ボランティア等で日常的な接触を増やすことは、養成校と園との関係構

	築に有効であるが、関係性の強い園に偏りがちで、<u>広範な相互関与は資格発行に直結する実習の場に集中する</u>傾向にある。ゆえに、まず<u>実習の設計・評価の枠組みから見直し、相互の歩み寄りを促進する仕組みづくりを進めることが重要</u>だと感じる。
3. 保育士養成課程におけるICT活用	(保育士養成課程における ICT の活用状況及び活用における課題や工夫) ➤ 教材配信、オンライン課題添削、オンデマンド・リアルタイムのオンライン授業等、教員間・実習先との連携で ICT を活用している。ICT を活用した実習日誌づくり等の授業も行っている。 ➤ 課題は、<u>実習先の方針・理解のばらつきであり、オンライン指導等を進めたいが進めにくいもどかしさがある。</u> (実習日誌作成時の ICT 活用) ➤ 従来は Excel/Word で運用していたが、昨年度より本格導入についての検討を開始し、現在試行中。ICT の導入に前向きな園と検証を行い、内容もさることながら園の理解が得られるようなものを選定予定である。 (今後導入または拡大したい取組) ➤ 実習評価・指導支援への AI 活用を展望している。指導者の観察メモや児童の様子の動画等から AI が支援案や指導のヒントを提示し、<u>指導者・学生双方の学びを補助する仕組みの開発・導入に関心</u>がある。
4. その他	(保育士養成課程における、他施設にも勧めたい取組) ➤ 保育士業界における人材不足の解決策として、<u>早期からの動機づけ・人材確保につなげるねらいで、小中学校の職場体験（保育園）に養成校も同席し、「保育士になる道筋（学び～資格取得）」までセットで伝えることが有効</u>であるとする。 (保育士養成に関する行政への要望) ➤ <u>小中の職場体験後に、進路指導で保育業界の選択が途切れないような情報提供・啓発が必要</u>である。

3. 考察

(1) カリキュラム構成

(カリキュラムの改定状況)

- 直近3年以内のカリキュラム改定状況については、養成校全体として、基礎科目では3割強、必修科目では科目全般として1割弱、選択必修科目では2割程度で改定が行われていることが分かった。
- 学問領域別では、必修、選択必修のいずれにおいても、保育の内容・方法に関する科目を改定した割合が相対的に大きく、保育実習や総合演習を改定した割合は小さかった。
- 養成校の種別では、短期大学・専門学校と比較して、大学にて改定を行った施設が多い様子がみられたが、大きな差はみられなかった。
- 改定の内容としては、全般的に社会の変化に対応するための科目の新設、教職課程の規則の変更に伴う改定、学生の負担を軽減することで学びの充実を図る/学習内容の重複をなくす/学生の主体的な学修選択を促すなどの理由による科目の統廃合や単位数変更、学生の理解促進のための名称変更、などが多くみられた。新設科目としては、基礎科目では、「データサイエンス」、「AI」などの情報リテラシーに関する科目や「キャリア開発」、選択必修科目では「インクルーシブ保育」や「メンタルヘルス」、「保護者支援」に関する科目などが挙げられた。また、保育現場でのインターンシップやボランティア活動などの参加機会を増やす取組みを強化している養成校も目立った。
- インタビューにおいても、実践力の強化のために座学偏重の科目について、アウトプット（実技・演習・現場協働）を組み込む形へ段階的に見直している、という声や、子育て支援や保護者支援が重視される社会状況を踏まえ、ソーシャルワークに関する科目を新設した、という声が聞かれた。さらに、緊張感のある実習に行く前や実習とは別のタイミングで、保育現場を体験できる機会を設けることは、学生と保育所等の双方にとって有益であるという声もあった。

(保育士養成課程の方針や特徴)

- 保育士養成課程の方針や特徴については、養成校全体として、「子ども理解、環境構成などの実践面を重視」が最も多く、次いで、「実践と理論の往還型の教育」、「造形・音楽・言語など実技技能を重視」が挙げられ、いずれも7割を超える回答割合であった。
- 養成校の種別では、大学において、「実践と理論の往還型の教育」が最も多く、また、「保育の理論的基盤を重視」という回答が専門学校よりも29ポイント高い一方、

「造形・音楽・言語など実技技能を重視」は他の学校種別よりも約 14 ポイント低かった。全体で最も多い回答であった「子ども理解、環境構成などの実践面を重視」は学校種別による大きな差がなかったことを踏まえると、大学では他の学校種別と比較して理論的基盤も踏まえた保育の実践に力を入れる傾向があると考えられる。

- また、専門学校においては、上記の通り「保育の理論的基盤を重視」の回答割合が相対的に低いほか、「実践と理論の往還型の教育」も大学と比較して約 19 ポイント低かった。一方で、上述のとおり、「造形・音楽・言語など実技技能を重視」の回答割合が相対的に高いほか、「子ども理解、環境構成などの実践面を重視」、「保育現場でのボランティアやインターンシップの活用」が相対的に高かった。そのため、専門学校では、他の学校種別と比較して、保育現場での経験や実技も含む実践面の強化に力を入れる傾向があると考えられる。
- 「保育現場でのボランティアやインターンシップの活用」は、上記の「カリキュラム改定状況」で新設科目としたという回答や、カリキュラムをスリム化して現場経験を積めるようにしたという回答が少なくなく、インタビューでもその有効性が挙げられていたものの、全体として 5 割弱の回答割合であった。

（養成校間での養成課程上の連携有無）

- 養成校間での養成課程上の連携については、「他の養成校との養成課程上の連携は行っていない」という回答の割合が全体として 8 割を超える結果であった。
- 養成校の種別では、専門学校では、他の養成校と連携をしている割合が、大学と比較して 8 ポイント高かった。専門学校の連携方法として主なものは、「他の養成校との単位互換制度の実施」（18.8%）、「他の養成校との連携による科目の開設」（7.2%）であり、学校単体で受けきれない学生のニーズに対して、他施設との連携をしながら対応している様子がうかがえた。また、「その他」の自由記述としては、「同大学内にある学科との連携」、「同設置法人の運営する短期大学との連携、県内の他の養成校との連絡会議」などが挙げられた。

（取得可能な資格や免許について）

- 取得可能な資格や免許については、幼稚園教諭免許状は、取得が必須の施設と任意の施設を合わせると全体で、9 割超の施設で取得可能であった。認定こども園の増加に伴い、保育士資格と幼稚園教諭免許状を取得している保育教諭の需要も高まっている。そのため、各施設では、保育士資格の他に、幼稚園教諭免許状の取得を可能にするような体制を整えていると考えられる。実際に、インタビューでも、保育教諭となるために、可能であれば幼稚園教諭免許状を取得することを勧めているとの話があった。
- 学校種ごとの特徴としては、大学では、「小学校教諭免許状」（46.7%）、「特別支援学

校教諭免許状」(24.0%)などの教員免許や、「社会福祉士」(12.0%)を他の学校種に比べて取得できるという特徴がある。保育士資格以外の多様な資格や免許が取得できるのは、大学は他の学校種に比べて修業年限が長いことが一つの要因だと考えられる。

- 取得が任意の資格や免許での「その他」の回答には「社会福祉主事任用資格」、「児童厚生二級指導員」、「認定絵本士」の回答がみられた。選択肢にある「社会福祉士」に関連する社会福祉系の資格や、こどもに関わる資格が取得できる傾向にあることがわかった。

(国への要望等)

- 国が定める養成校の教科目の教授内容に関する国への要望等については、統廃合、科目の新設に向けたアイデア、科目名称の変更等の様々な意見が挙げられた。

図表 2-66：養成校向けの調査で得られた標準カリキュラムの主な改善要望

カテゴリ	主なアイデア
科目の統廃合	● 「子どもの健康と安全」の内容を「子どもの食と栄養」「子どもの保健」「保育内容指導法・健康」の中に組み入れ、科目を削除 ● 「子ども家庭支援の心理学」の内容は、「子ども家庭支援論」「保育の心理学」に分けて統合 ● 「保育者論」、「保育の計画と評価」は、「保育原理」に統合して通年科目としてもいいと思う ● 子ども家庭福祉と子ども家庭支援論は統合できないか
科目の新設、充実に向けたアイデア	● <u>障害のあるこどもや発達障害児、医療的ケア児への支援</u>が増えており、より深い理解と対応力が求められているため、<u>インクルーシブ保育に関する内容</u>をより実践的に学べるよう科目内容の充実を図ってほしい ● <u>外国にルーツのあるこどもの受け入れ</u>が増えてきていることから、内容の追加が期待される ● <u>虐待や特別支援に関する科目の体系化</u> ● <u>保育所等における虐待や性暴力の防止等を含む、こどもの権利擁護に係る内容</u>の強化 ● 地域の親子と関わる機会が増えているため、<u>地域子育て支援に関する内容を必修科目として明確に位置づけてほしい</u>。 ● <u>家庭支援が大切ならソーシャルワークの視点を伝えられるような授業（以前の相談援助）の科目を再度設置</u>してほしい。 ● <u>保護者支援や子育て支援</u>の重要性が高まり、対応に苦慮している状況があるため、そうした領域を改めて拡充していくべき ● 養成課程の<u>初期の段階で現場に触れる機会</u>を組み込むとよい
科目名称の変更	● 子ども家庭～が付く科目が多く、学生が混乱する。
その他	● 1つの科目の中に盛り込まれる分野（内容）が多くなればなる

カテゴリ	主なアイデア
	ほど、担当者1人の単独担当では難しく、オムニバスで担当を分担しなければならないケースが生じる ● 演習科目の人数制限をなくして欲しい ● 科目数や実習日数をもう少し減らしていただければ、学生に余裕が生まれ、学びやすい環境になる ● 認定こども園制度の拡充により、幼児期の教育・保育は制度上すでに一体化が進んでいる。一方で、保育士資格と幼稚園教諭免許の養成課程は依然として別建てで設計されており、大学における授業科目の重複や、学生・教員双方の負担増を招いている

(2) 実習プログラムの実態

(実習場所)

- 実習場所の施設種別については、保育実習Ⅰでは「保育所」(98.9%)が最も多く、次いで、「児童養護施設」(80.7%)、「幼保連携型認定こども園」(76.9%)であった。保育実習Ⅱでは、「保育所」(97.8%)、「幼保連携型認定こども園」(75.8%)が全体として多く、保育実習Ⅲでは、「児童発達支援センター」(45.1%)、「その他」(46.5%)、「実施していない」(29.6%)が多かった。保育実習Ⅲの「その他」としては、「児童養護施設」、「乳児院」、「障害児入所施設」が多く挙げられた。
- 保育実習Ⅰにおいて、「幼保連携型認定こども園」は短期大学が81.3%、専門学校が85.5%であった一方で、大学は69.5%と他の学校種に比べて低い割合であった。保育実習Ⅱでも同様の傾向がみられ、短期大学が80.5%、専門学校が87.0%である中、大学は67.1%であった。
- 保育実習Ⅱにおいて、「小規模保育事業」は大学と短期大学が約11%である一方で、専門学校は27.5%選択している。保育実習Ⅰにおいても全体が9.5%である中、専門学校は17.4%であり、他の学校種よりも小規模保育事業を行う施設での実施割合が高い傾向にある。
- 専門学校は保育実習Ⅰ、Ⅱにおいて、全項目の割合の和が3つの学校種の中で最も多く、幅広い種類の施設で実習が行われていた。

(実習先との連携に関する課題)

- 実習先との連携について、複数選択、単数選択でともに回答割合が高かったものは、「実習における指導者の指導方針や力量に差がある」(複数選択：61.1%、単数選択：21.2%)、「実習指導にかかる負担が大きい」(複数選択：52.4%、単数選択：30.2%)であった。

- 「実習における指導者の指導方針や力量に差がある」を課題として挙げた施設の自由回答をみると、「実習先の指導者の力量により、学生の学びに格差が生じること」、「実習先によって実習の評価基準も変わってしまい、評価の公平性を担保できない」など、それぞれの学生が実習先で学ぶ内容や、受ける評価の基準が実習園によって異なることが明らかとなった。
- インタビューでも、「学生のできないところに対して厳しく指導する先生がいる一方で、特に指導や注意もしない先生がいる」、「学生にどの水準を求めるか、どの程度できるようになってほしいか、できないことが分かればよい点はどこか、ということに関して明確な基準がない」といった話があった。学生によって実習先が異なるという保育実習の特性上、学ぶ内容や評価の基準を統一することに課題があることがうかがえる。
- 実習ごとに学生が何を体験するべきかが示されると、学生にとってはモチベーションが上がり、保育所等にとっては押さえるポイントがわかりやすくなるのではないかとの意見もあるとおり、なるべく各園の特徴を生かしつつ、最低限同程度の学習ができるような基準が求められていると考えられる。
- 「実習指導にかかる負担が大きい」を課題として挙げた施設の自由回答をみると、「個別対応を必要とする学生が近年増えてきているため」と同様の回答があった。他にも同様の回答が挙げられており、学生たちが学力面、メンタル面などで課題や特性を有しており、個別対応の必要性が増していることが読み取れた。また、インタビューでは、学生との面談に保護者が同伴することも増え、保護者対応の面でも負担がかかっているとの声もあった。さらに、メンタル面や学力の面で手厚い支援が必要な学生が実習に行く施設には、実習先に事前に話に出向いたり、巡回を手厚く行っている状況があり、養成校の負担につながっていることが推察される。

（保育実習実施基準等についての要望）

- 国が定める保育実習実施基準等に関する国への要望等については、実習時間や実習日数の明確化、実習時期の変更、実習可能施設の拡大等の様々な意見が挙げられた。

図表 2-67：養成校向けの調査で得られた保育実習実施基準等の主な改善要望

カテゴリ	主なアイデア
実習配当年次の変更	● 実習配当年次の制約などのない柔軟なカリキュラム構想を可能にしてほしい。 ● 保育現場を知りながら、学ぶことができるようにするため、3年次から実習可能という基準を2年次からでも実習できるように改善してほしい。 ● 実習指導内容やカリキュラムの連続性との関連で、2年次に実施することが困難なため、短期大学・2年養成課程において実習期間を原則2年次のみとしていることを見直してほしい。

カテゴリ	主なアイデア
実習時期の変更	● 幼稚園と小学校の実習時期と重なる。 ● 施設実習は施設数の減少に加え、他資格でも施設実習が必須化されており、いわば奪い合いの状況となっている。
実習時間や実習日数の明確化	● 実習期間「おおむね 10 日間」について、9 日間であったとしても 80 時間を満たしていれば問題ないと解釈していいのかが今の表記だけでは判断が難しい ● 実習時間について、明確な基準を示してほしい。園側には労働基準局から休憩時間の確保について指導があるらしく、現状としておおむねの実習日数を示されるだけでは不十分。
実習可能施設の拡大	● 近年、放課後等デイサービスへの就職希望者が増えているため、保育実習Ⅰの対象施設に、放課後等デイサービス事業所が入ると、学生の職業選択の幅が広がる。ただし、施設の対象を拡大する場合は、施設種別の違いを踏まえた扱いや、「学生が実習として何を学ぶか」という目的と内容の十分な理解が重要となると考えられる。 ● 施設実習の受入先不足に対処するため、実習単位として認められる場の多様化（学童や放課後等デイサービス等）を要望する。
実習受け入れ先の要件	● 学生が実習に入った際に、保育士数が足りていない園が実際にある。監査内容に不適切な箇所がある場合は実習を受けられないようにするなどの一定の水準があってもよいと思う。
ICT 対応方針	● 保育実習実施基準に ICT 活用の位置づけが明確に示されれば、養成施設においても ICT 化を進めやすくなり、授業や実習指導を円滑に実施できる。
養成校と実習先の共通理解の促進	● 実習内容や受け入れ体制は園ごとに差が大きく、実習計画を提示する園もあれば提示のない園もあるため、計画がない場合は学生が準備や実習への臨み方を把握しづらい。共通のチェックリストのように押えるべき項目を示す枠組みを提示してほしい。 ● 全国保育士養成協議会の実習ガイドブックが掲げる「共に育てる」の理念が現場で進みにくい実情があり、養成校と園の現場の先生方が共に学び合える共通の枠組みを設けられるとよい。 ● 指導者の力量や指導方針に差があり、学生の学びに影響が出るため、実習指導者向けの研修機会を国として拡充し、受講を促進してほしい。
その他	● ボランティア等で日常的な接触を増やすことは、養成校と園との関係構築に有効であるが、関係性の強い園に偏りがちで、広範な相互関与は資格取得に直結する実習の場に集中する傾向にある。ゆえに、まず実習の設計・評価の枠組みから見直し、相互の歩み寄りを促進する仕組みづくりを進めることが重要だと感じる。

(3) ICT の利活用

(ICT の活用状況)

- 保育士養成課程における ICT の活用状況については、全体的割合が高かったものは、「オンラインによる課題提出・添削」(71.5%)、「教材の配信(クラウド等を利用した資料・教材の配布)」(65.5%)であった。
- 学校種別でみると、専門学校は上記2つの項目の回答割合は、「オンラインによる課題提出・添削」が47.1%、「教材の配信(クラウド等を利用した資料・教材の配布)」が52.9%と他の学校種に比べて低かった。実際に「保育士養成課程において ICT は活用できていない」という回答が25.0%あり、専門学校における ICT 化は他の学校種と比較した場合、進んでいないことがうかがえる。
- 大学では、「教材の配信」「オンラインによる課題提出・添削」「実習日誌の作成」が他の施設種別に比べて回答割合が高かった。
- 「実習日誌の作成」については、大学での ICT 利用が最も進んでいるものの、割合としては40%程度であった。アンケートやインタビューでは、「実習日誌を ICT 化した場合、扱えない保育者がいるため、紙媒体での提出となる」、「実習先の方針・理解のばらつきであり、オンライン指導等を進めたいが進めにくいもどかしさがある」、「公立の保育所では園に PC が1台しかない場合もあり、記録を PC で見ることがほぼ不可能である。また、インターネット回線につながっていない自治体もある」、「学生に PC を買わせておらず、PC の保有状況は学生によって異なる」などの課題が挙げられている。一方、「実習日誌は実習先の承認が得られれば PC で作成(紙様式の Word 版)、提出は印刷した紙で行うようにしている(承認は WEB)。実習先から断られているケースはない」という声もあり、ICT 化に前向きな園も少なくない可能性もあり、国が ICT 活用に関する方向性を示すことも有効であると考えられる。

(オンライン授業の頻度)

- Q4-2 では、オンライン授業の頻度について質問した。いずれの教科目においても、「まれに実施している」「オンライン授業は実施していない」の割合が高く、ほとんどの科目で2つの合計は70%以上である(基礎科目は69%)。特に、「保育実習(実習を除く)」と「総合演習」は「オンライン授業は実施していない」の割合が高く、両科目とも約70%であった。
- 「その他」の回答としては、基本的には対面で実施するものの、悪天候、交通機関の乱れ、感染症の罹患の際や、休講対応、学生のサポートなどのためにオンライン授業を行っているとの回答がみられた。

(AI の利活用)

- インタビューでは、「学生も生成 AI を活用しており、生成 AI の利用によって良い記録が作成できるのであれば活用してもよいと考えている。全体の動向をみて導入したい」、「実習評価・指導支援への AI 活用を展望している。指導者の観察メモや児童の様子動画等から AI が支援案や関わりのヒントを提示し、指導者・学生双方の学びを補助する仕組みの開発・導入に関心がある」といった声が聞かれた。今後、保育士養成課程でも AI の利活用やそれに向けた検討が進むことが想定される。その際、個人情報の漏洩リスクへの対応や、指導案や振り返りにどこまで AI を活用してよいのか、今後の課題として生じる可能性が考えられる。

(4) 指導体制

(指導方法の特徴や工夫している点)

- 各養成校が指導方法に関して特徴的だと考えている点などについては、「実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導」(複数選択：94.3%、単数選択：43.2%) が最も多く、次いで「学生の状況等に応じた個別指導」(複数選択：90.8%、単数選択：32.3%) であった。
- 専門学校は、「実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導」の単数選択の割合が 53.6%で、全体よりも 10 ポイント以上高い割合であった。一方で、「複数教員によるチーム指導」(複数選択：75.5%、単数選択：15.2%) では、5.8%にとどまっており、全体と約 10 ポイントの差がみられた。
- 「実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導」を特徴や工夫している点として挙げた施設の回答には、「本学キャンパス内にある附属幼稚園と連携し実際に子どもと触れあいながら学ぶ。」など、養成校の附属の保育所等での実践を行っているとの回答が複数みられた。また、附属園以外にも、地域の保育所等などと連携しているとの回答があり、複数の養成校が、実習以外の場で子どもと関わることができる場を設け、理論と実践の往還的な学習環境を整えていることがわかった。

(指導方法に関する課題)

- 指導方法に関する課題については、「学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい」(複数選択：60.6%) が最も多く、次いで、「教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない」(同 47.3%)、「専任教員・指導者の人数が不足している」(同 40.2%)、「ICT・オンライン指導への対応が遅れている」(同 34.8%) が続いた。「学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい」と回答している施設からは、「合理的配慮が義務化されたことに伴い、学生・大学・実習園との連携や対応をど

のように進めていくか、十分な話し合いや検討により体制の構築を進めていく必要がある。」など、合理的配慮の義務化を背景に、施設が対応を進めていく過程で課題を感じていることが明らかになった。さらに、「教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない」という回答においても、業務負担が過重になる要因としては「多様な背景を持つ学生の増加」という趣旨の回答が複数挙げられた。人手不足の状況下で、学生への柔軟な対応が求められることで、養成校の負担が重くなっている様子が明らかとなった。

- 「専任教員・指導者の人数が不足している」を選択した学校種は、大学が最も多く、単数選択では、19.2%の回答があった。これは、大学は、複数の免許や資格を取得できるようにするところが多く、保育に関わる専任の教員や指導者が不足していることも要因の一つとして考えられる。

第3章 指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関する調査研究

1. アンケート調査

(1) アンケート調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の養成校に通う学生の意識を把握するためにアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査概要

i. 調査の対象

養成校に通う学生を対象とした。

ii. 調査の時期

令和7年12月8日（月）～令和8年1月9日（金）

iii. 調査の方法

インターネットによるアンケート調査を実施した。

こども家庭庁担当課から地方自治体（都道府県・指定都市・中核市）に対して、電子メールにより調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、各都道府県には管内の養成校への案内の協力を求めた。

各養成校には、指定保育士養成施設の指定を受けた学科等の単位にて各学年から10人を選定し、学生への案内の協力を求めた。各学年の学生数が10人に満たない場合は、全員に協力を依頼した。

選定方法については、養成校の任意であるが、以下の例を示した。

図表 3-1：調査対象選定時の例

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">➤ 保育士資格の取得を希望している学生のうち、学籍番号順（昇順）で10人を選ぶ➤ 保育実習指導などの保育士資格取得に必要な授業を履修している学生のうち、氏名の五十音順で10人を選ぶ など |
|--|

iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 3-2：アンケート調査項目（養成校に通う学生）

（【凡例】 SA:単数回答、MA:複数回答、NU:数値回答、FA:自由回答）

大項目	質問項目
1. 基本情報	Q1-1(SA)在籍している学校の種別 Q1-2(FA)学校名・学部・学科・コース（任意） Q1-3(SA)在籍している学校の所在地（都道府県） Q1-4(NU)年齢 Q1-5(SA)性別 Q1-6(SA)学年 Q1-7(SA)入学形態 Q1-8(SA)履修形態 Q1-9(MA)取得している、もしくは取得予定の保育関連の資格や免許
2. 保育士養成課程への希望・課題	Q2-1(SA)学校に通う中で最も期待していること Q2-2(MA)今後導入・拡充してほしいプログラムやサポート
3. 保育士への志望動機・資格取得意欲	Q3-1(MA・SA)保育士を志望した理由 Q3-2(SA)保育士資格取得への意欲 Q3-3(FA)資格取得意欲に影響したきっかけや経験（任意） Q3-4(MA)将来希望する進路 Q3-5(FA)保育・教育現場以外の進路を検討している場合、その理由（任意）
4. 実習・授業満足度と進路意欲	Q4-1(SA)保育実習・授業・行事などの満足度 Q4-2(FA)保育実習・授業・行事などで特に満足した点・良かった点（任意） Q4-3(FA)保育実習・授業・行事などで改善してほしい点や課題と感じている点（任意） Q4-4(SA)保育実習や授業による保育士への進路意欲の変化 Q4-5(FA)保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソードや体験等（任意）
5. 職業への不安・課題認識	Q5-1(MA・SA)保育士として働くことに対して感じている不安や課題 Q5-2(FA)保育士として働くことに対して感じている不安や課題（具体的に・任意） Q5-3(MA)Q5-1 で選択した項目の不安や課題を軽減するために必要だと思う支援 Q5-4(FA)Q5-1 で選択した項目の不安や課題を軽減するために必要だと思う支援（具体的に・任意）
6. 回答者について	Q6-1(SA)インタビュー調査協力可否 Q6-2(FA)回答者の連絡先

v. 回答状況

回答状況は以下のとおり。

図表 3-3：アンケート回答状況（養成校に通う学生）

		回答数	割合(%)
全体		4,747	100.0
養成校種別	大学	2,115	44.6
	短期大学	1,664	35.1
	専門学校	924	19.5
	その他	44	0.9

(3) アンケート調査結果

養成校に通う学生の意識について、アンケート結果を抜粋する形で概要を示す。

i. 養成校での実習・授業満足度及び進路意欲

Q2-1 保育士養成課程に通う中で最も期待していること (SA) (Q2-1)

学生が保育士養成課程に通う中で最も期待していることは以下の通りである。

図表 3-4：保育士養成課程に通う中で、最も期待していること (SA)
(Q2-1×Q1-6 学年)

		調査数 (n=)	(%)										
			保育現場に行く機会が多いこと	こどもを取り巻く社会や家族の変化などを広く学べること	こどもの発達や心理を理解すること	保育を实践するための技術（音楽・造形・絵本など）を身につけること	こども・保護者・同僚と関わるコミュニケーション力を高めること	友人・仲間と共に活動や学びを楽しむこと	教員等から適切なサポートを受けられること	授業やイベント、講話などを通じて保育現場の声を知れる機会があること	就職や進路についてのサポートが受けられること	その他	特になし
	全体	4747	18.9	6.2	24.2	23.0	6.5	10.7	3.4	1.8	2.8	0.6	1.9
1	1年生	1643	21.1	5.2	22.9	22.5	7.0	10.7	3.5	1.8	3.0	0.4	2.0
2	2年生	1922	17.3	6.2	23.6	24.6	6.9	11.0	3.1	1.9	2.6	0.6	2.2
3	3年生	649	16.9	8.8	25.1	22.2	6.3	9.6	4.5	1.8	2.8	0.9	1.1
4	4年生	507	20.9	5.9	28.4	20.5	4.1	10.8	3.0	1.8	2.6	0.6	1.4
5	専攻科等	24	12.5	12.5	29.2	16.7	0.0	25.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0
6	その他	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 3-5：保育士養成課程に通う中で、最も期待していること（SA）
（Q2-1×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)											
			保育現場 に行く機 会が多い こと	こどもを 取り巻く 社会や家 族の変化 などを広 く学べる こと	こどもの 発達や心 理を理解 すること	保育を実 践するた めの技術 (音楽・ 造形・絵 本など) を身につ けること	こども・ 保護者・ 同僚と関 わるコ ミュニ ケーショ ン力を高 めること	友人・仲 間と共に 活動や学 びを楽し むこと	教員等か ら適切な サポート を受けら れること	授業やイ ベント、 講話など を通じて 保育現場 の声を知 る機会が あること	就職や進 路につい てのサ ポートが 受けられ ること	その他	特になし	
全体			4747	18.9	6.2	24.2	23.0	6.5	10.7	3.4	1.8	2.8	0.6	1.9
1	保育士資格のみ取得予定	508	16.1	6.5	26.0	19.7	8.3	11.2	2.6	1.8	3.3	0.4	4.1	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	19.3	6.1	23.9	23.5	6.3	10.7	3.5	1.8	2.7	0.6	1.6	

※Q1-9 において疑義のある回答は無効としているため、各項目の和が全体と一致しない
(以下 Q1-9 を用いたクロス集計でも同様)

主な「その他」の回答	
●	1 年の後期から 2 年後期にかけて 4 回の実習を行うため実習に向けて十分な準備期間がある。
●	国際的な保育士
●	資格が取れること
●	専門的な知識を得ること
●	部活動との両立
●	保育を実践するための技術を身につけること(絵本や造形という活動を進めるための技術だけでなく、こどもとの関わり方や環境構成の仕方、指導案の書き方など)
●	保育者としての信念やあるべき考え方を身につけること

Q2-2 今後導入・拡充してほしいプログラムやサポート（MA）（Q2-2）

学生が今後導入・拡充を望んでいるプログラムやサポートは以下の通りである。

図表 3-6：今後導入・拡充を望んでいるプログラムやサポート（MA）
（Q2-2×Q1-6 学年）

			調査数 (n=)	(%)									
				保育現場 見学の機会	ジェン ダーと 保育に ついて 学ぶ機会	こどもの 権利・人 権につ いて学 ぶ機会	多文化 保育に ついて 学ぶ機会	卒業論文の 作成に関 するサポ ート	メンタル ヘルス支 援	I C T 教育	キャリア ガイダ ンス	その他	特にな し
全体			4747	52.0	23.0	18.9	27.4	15.3	19.4	18.9	8.6	1.5	8.4
1	1年生		1643	53.4	23.7	18.1	24.5	14.9	19.6	13.3	7.4	1.1	9.7
2	2年生		1922	49.1	21.4	19.0	27.4	13.2	19.0	22.0	7.9	1.6	9.3
3	3年生		649	56.5	23.6	18.2	30.2	19.4	19.3	18.6	13.6	1.1	5.2
4	4年生		507	52.7	25.6	21.1	33.3	19.3	19.7	25.2	8.9	2.8	5.5
5	専攻科等		24	54.2	20.8	29.2	25.0	12.5	37.5	20.8	4.2	4.2	0.0
6	その他		2	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 3-7：今後導入・拡充を望んでいるプログラムやサポート（MA）
（Q2-2×Q1-9 取得予定の資格）

			調査数 (n=)	(%)									
				保育現場 見学の機会	ジェン ダーと 保育に ついて 学ぶ機会	こどもの 権利・人 権につ いて学 ぶ機会	多文化保 育につ いて学 ぶ機会	卒業論文の 作成に関 するサポ ート	メンタル ヘルス支 援	I C T教 育	キャリア ガイダ ンス	その他	特になし
全体			4747	52.0	23.0	18.9	27.4	15.3	19.4	18.9	8.6	1.5	8.4
1	保育士資格のみ取得予定		508	47.0	20.7	19.1	24.4	7.5	20.5	18.5	8.3	2.0	11.8
2	保育士資格とその他の資格を取得予定		4229	52.6	23.2	18.8	27.7	16.2	19.2	18.9	8.6	1.4	8.0

主な「その他」の回答	
●	現場で使える連絡帳の書き方等について学ぶ機会
●	公務員対策
●	実習だけではなく保育現場に関われる機会を1年次から作って欲しい
●	実習中の心身サポート
●	特別支援教育、児童相談所など、そっちの方に役立つ内容
●	病児保育
●	保育に関する実践技術
●	保護者対応について学ぶ機会
●	幼保小連携について実践している人から話を聞きたい
●	保育に関する国際的な学びを深める機会

Q4-1 保育実習や授業の満足度（SA）（Q4-1）

保育実習や授業の満足度は以下の通りである。

図表 3-8：保育実習や授業の満足度（SA）（Q4-1×Q1-6 学年）

		調査数 (n=)	(%)				
			まったく満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	やや満足している	とても満足している
保育実習							
全体		4747	1.8	2.4	19.8	37.3	38.8
1	1年生	1643	1.9	1.6	29.3	31.6	35.5
2	2年生	1922	1.9	2.4	17.9	38.4	39.3
3	3年生	649	1.1	3.2	9.9	42.2	43.6
4	4年生	507	1.8	3.7	9.3	44.6	40.6
5	専攻科等	24	0.0	4.2	8.3	45.8	41.7
6	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

※実習を経験していない学生の回答も含む。

授業（保育実習以外）

全体		4747	1.2	3.3	14.8	50.8	29.9
1	1年生	1643	1.6	3.0	16.1	47.5	31.8
2	2年生	1922	1.1	3.2	15.8	50.2	29.8
3	3年生	649	0.8	4.2	11.7	57.0	26.3
4	4年生	507	1.0	3.7	11.0	55.0	29.2
5	専攻科等	24	0.0	0.0	8.3	66.7	25.0
6	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム

全体		4747	1.4	4.2	23.3	42.4	28.6
1	1年生	1643	1.6	3.3	22.8	40.3	32.0
2	2年生	1922	1.5	4.6	22.0	42.6	29.3
3	3年生	649	1.1	4.9	27.1	45.1	21.7
4	4年生	507	1.4	4.7	25.4	44.8	23.7
5	専攻科等	24	0.0	4.2	16.7	45.8	33.3
6	その他	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

図表 3-9：保育実習や授業の満足度（SA）（Q4-1×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)				
			まったく満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	やや満足している	とても満足している
保育実習							
全体		4747	1.8	2.4	19.8	37.3	38.8
1	保育士資格のみ取得予定	508	4.1	3.9	27.8	30.5	33.7
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	1.5	2.2	18.8	38.1	39.3

※実習を経験していない学生の回答も含む。

授業（保育実習以外）

全体		4747	1.2	3.3	14.8	50.8	29.9
1	保育士資格のみ取得予定	508	2.8	4.3	21.7	39.4	31.9
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	1.0	3.2	14.0	52.1	29.7

行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム

全体		4747	1.4	4.2	23.3	42.4	28.6
1	保育士資格のみ取得予定	508	3.0	5.9	27.6	34.6	28.9
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	1.3	4.0	22.8	43.3	28.6

Q4-2 保育実習や授業で特に満足した点・良かった点（FA）（Q4-2）

保育実習や授業で学生が特に満足した点や良かったと感じる点は以下の通りである。

図表 3-10：保育実習や授業で特に満足した点・良かった点（保育実習）（Q4-2）

主な自由記述一覧	
●	【保育実習Ⅰ】初めてこどもと長時間関わる中で、年齢や一人ひとりの発達の違いを実感できた点が特に良かったです。こどもの思いや行動をよく観察し、声かけや援助の仕方を考えることで、保育者としての基本的な姿勢を学ぶことができました。また、保育者同士の連携や報告・相談の大切さを現場で体験的に理解できたことに満足しています。
●	【保育実習Ⅰ】保育実習では、どのようなことを観察し、どう活かせるのか、具体的に指導が貰える。日誌の書き方や、礼儀などを細かく指示が貰えます。その点がすごく実習に活かしやすいと思います。
●	【保育所実習Ⅰ】保育園に所属する0-5歳児と2日間ずつ見ることができたため、年齢による自立の差や発達段階による発達の違いを見ることができた点。【施設実習】保育園やこども園以外で働く保育士の職務を体験でき、新たな学びを多く得られた点。【保育所実習Ⅱ】ひとつのクラスに集中して入ったことで1日毎の姿の違いを見ることができたり、受容的な関わりを続けたことによる信頼関係の構築ができたり、と実習Ⅰとは違った姿を見られた点。また、責任実習の機会を多くいただけたことで、より現場で働く保育士の役割や大変なこと、やりがい等を実践的に学ぶことができた点。

主な自由記述一覧
● 一日の終わりに実習担当の先生が振り返りの時間を設けてくださっていたので、保育中に出来なかった質問ができたこと。設定保育をさせてもらう事で保育を自分が行う時について想定できることが広がった。
● 事前指導・事後指導があったため安心して取り組むことができました。
● 実際に保育の現場で働く保育者の方々から直接お話を伺えたこと。自分のこどもとの関わりに対して、保育者の方々から助言をいただき、自分の強みを知ることができたこと。実際にこどもたちと関わる経験から、こどもの実態、保育者として必要な立ち回りを知ることができた。大学の講義では知ることができなかったことや、分からなかったことを、実際の保育現場に出たことでとても多く学ぶことができたこと。部分実習や責任実習では実践力を身につけられた。また、保育実習が、保育の難しさや自分自身の課題を実感するいい機会となった。様々な保育者やこどもたちを観察することができたため、自分の保育観を持つことができた。良い保育とは何か、良い保育者とはどんな人か、実習を通してとても多く学ぶことができた。
● 実習Ⅰ・・・何も知らない状態だった私でしたが、保育園、幼稚園がどのような場所なのか、こどもの発達段階などを優しくこと細かに教えていただいたこと。そのため、先生方の動きを真似したりしながら、初めてなりに積極的に行動することができた。 ● 実習Ⅱ・・・大学での学びや、実習Ⅰでの経験を通して、より保育者としての目線を意識できたこと。先生方が私の言動を褒めてくださることに加え、更に成長するための助言をいただいたことで、毎日目標をもって自分を向上させようとできたこと。実習日誌がパソコンでの実施になったため、イラストの構成を自由に変えられたり、見やすくなったり、時間短縮にも繋がった。

図表 3-11：保育実習や授業で特に満足した点・良かった点（授業（保育実習以外））
(Q4-2)

主な自由記述一覧
● 連絡帳を書いている授業...保護者とのコミュニケーションや連絡帳のやり取りは実習で学ぶ機会がほとんどないため不安だったが、事例を指定して練習で書いてみる授業があり、やり方が分かったのは良かった。
● 絵本の読み聞かせ...読み聞かせに元々苦手意識があったが必修の授業があったことで実習先でも安心してできた。
● グループを作った模擬保育全般...他の学生と意見交換をしながら保育観が育った。自分と違う視点に刺激を受けたり、それぞれ得意なことを生かした活動を設定したりするのが楽しかった。また、1人で模擬保育を考えると、苦手な分野は不安になるがグループだと安心できる。全体的に、個別で考えたあと他者と意見交換できる授業は満足感が高い
● ボランティアの授業...保育教育関係に限定されるが、自分でボランティア先を選んでボランティアができる授業。実践力が上がる。
● 5領域で分かれていて、ひとつずつ分かりやすく授業しているので、より理解が深まって良いと思います。また、座学だけではなく、こどもの目線に立って授業を受けたり、五感を使った授業もあって楽しいです。
● インクルーシブ保育を受講し、インクルーシブ保育について理解が深められた
● インターンシップがあり、現場をより習慣的に経験できる
● おむつ交換や調乳やミルクのあげ方、横抱き縦抱きの仕方など現場に出た時に必要になる専門的な保育技術。
● ピアノなどで先生方が一対一で教えてくださる環境に満足した。
● 外部の講師の方を呼んでくれる授業も多く、今の保育の現場について詳しく教えてくれる時間が多かったことに満足している。また、附属の幼稚園のイベントの企画を学生が行ったり、学生が準備したものをこども達が見に来てくれたりなど、授業と幼稚園の生活が結びつきながらカリキュラムが組まれているため、こども達と多くの経験をできたことに満足している。
● 基礎実習に向けて保育内容総論の授業で日誌の書き方について練習できたのはとても心強かったです。
● 教科書の内容だけでなく、現場の実情や実践と絡めながらの学びが良かった。また、ディスカッションをする機会も多く、自分の中で意見をもったり、考えを広げ、まとめるのに非常に役に立った。
● 具体的な支援の方法などを細く学んでいくわけではなく、支援の方法などの根本的な考え方についてじっくり考えることができるため、自分なりに考え続けて自分なりに実践に繋げていくことができると考えている。
● 実習で保育所に行く前に、ボランティアとして、週一回、約半年間保育所、幼稚園等に行かせていただいたことで、実習に行った時、こどもたちへの関わり方などの不安が軽減した。また、ボランティアの経験から自分の課題を知った上で、その課題をどう解決するかを考えた上で実習に取り組めた。手話やジェンダーに関する事柄など保育士養成のための授業以外にも保育に繋がる授業があったこと。

図表 3-12：保育実習や授業で特に満足した点・良かった点
(行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム) (Q4-2)

主な自由記述一覧	
●	ボランティア活動が多く自分の興味のあるもの、やってみたいことにチャレンジできる。また、様々な分野を学ぶことで、将来の就職に関する選択肢の幅を広げることができるため。
●	1年生の時からインターンシップに行けることで経験が他の学校よりも多くなる
●	3年次に行ったミュージカルは、附属幼稚園のこどもたちにミュージカルを披露するものであり、幼稚園生にも伝わるように考え仲間と作り上げた経験は貴重なものだった。
●	IT系が発達しているため、パソコンを使う授業が多いことは将来に繋がると感じています。
●	イベントを起こして、こどもと保護者と関わることができて、実習や授業では学べない保育、保育以外の分野を学ぶことができる。
●	イベント企画や合宿、現職の保育者さんとの座談会などが豊富にあったこと。
●	認定絵本士やおもちゃのインストラクターなど、将来のためになるカリキュラムがあるから。
●	認定絵本士やピアヘルパー上級救護救命士を取得できる点。
●	認定絵本士やベビーシッターなどの今後役立つ資格の取得も実現できたことが良かった。

Q4-3 保育実習や授業で改善してほしい点・課題と感じている点（FA）（Q4-3）

保育実習や授業で学生が改善してほしい点や課題と感じている点は以下の通りである。

図表 3-13：保育実習や授業で改善してほしい点・課題と感じている点（保育実習）（Q4-3）

主な自由記述一覧	
● 実習にかかる健康診断書、検便、給食費等の免除や補助金があればありがたいと思った。 ● 実習日誌や指導案を書くのにどうしても時間がかかり、毎日睡眠時間が 4 時間ほどだった。実習先の午睡中、清掃や片付け等雑務で終わる日があったので、休憩を 1 時間きちんと取れたり、実習日誌を書く時間を確保して声掛けしてもらえると嬉しい。 ● 実習を機に学校に来られなくなったり、保育園での保育士として働くことを断念する生徒が増えている。厳しさのある指導も必要だとは思いますが、職員が実習生と話をする時間を意識的に持ったり、園全体で実習生を歓迎しているという雰囲気がないと、特にこれからの若い世代は厳しいのではないかと感じた。	
● 園の特色や障害について全く知らない状況で実習先を決めなければならなかったため、少し不満が残った。保育園はどのようなところなのか、障害者支援施設ではどのようなことをするのかなど学んだ上での実習先選択ができたならより満足する実習ができたのではないかと感じた。	
● 何をしたらいいかわからなくて聞こうとした時、忙しいかな？聞いても大丈夫かな？と先生方の姿を見て遠慮してしまう部分があったから、「分からないところはすぐ聞いてね」など、実習始まる時に一言言っていたいただけると質問しやすい。	
● 帰宅後に日誌を書くことの負担が大きく、睡眠時間が削られてしまい、実習期間が長いと体調も崩しやすくなってしまう。	
● 記録が書く量が多くそれにより寝不足になってしまい次の日の実習が大変	
● 記録の負担が多く、睡眠時間を確保することが難しい点。	
● 現場に人的余裕がないように見えた。そのため、職員同士の人間関係が学生が見ても悪く感じた。働いている人たちが余裕を持ってこどもを見られるような環境で、学生を受け入れられる余裕のある職場になり、学生の不安要素が少なくなればもっと働きたいと思える現場になるのではないかと考える。	
● 個人情報に関することが多いため難しいとは思いますが、保護者との関わり方を学べると良いと思う	
● 附属こども園があるので、実習以外の時に行事だったり見学に行きたい。	

図表 3-14：保育実習や授業で改善してほしい点・課題と感じている点
(授業(保育実習以外))(Q4-3)

主な自由記述一覧
● ピアノが苦手な人にとってピアノに関連する授業数が少ないように感じた。レベル別のピアノの授業はあったのは良いが、一年から四年まで継続してできるようなピアノの授業が欲しい。
● 海外(スウェーデンやドイツなど)の現地での学びがあると、より多角的に学ぶことができると思う。
● 座学で、教員からの一方通行な授業が多い。学生が実際に考えるような実践的な授業を期待している。また、ICTを活用した保育に関しての授業がほばないことを改善して欲しい。ICTを正しく活用していけばより良い保育に繋がると考えるが、そういった内容の授業や実践的な話がなかった。実際現場に出たときに活かせるようにして欲しい。
● 座学に実践的なものも混ぜてくれると、より頭に定着するのではないかなと思う。
● 指導案を書く練習や、模擬保育の授業後に学生同士で意見交換したり先生からフィードバックをいただいたり出来たら良いと思う。
● 資格取得のための授業数が多く、教養科目において、自分が受けたい授業と被り、受けられないことがほとんどである。どの授業も必要だと感じるが、資格取得とは関係ない授業でも興味のある授業は受けられるぐらいの余裕が欲しい。
● 実技関係の演習(沐浴・おむつ交換・ミルクのあげ方・手遊び・ピアノ)などは対赤ちゃん人形やクラスメイト、教員としか実践する機会が無く、実際に対こどもとの実践経験がないまま保育実習に行くこと。
● 手遊びや絵本の読み聞かせ、ピアノなどの専門的な技術を教えてくださる先生が他のコースの先生だったため、それらの授業がもっと手厚かったらよかったと感じる。
● 日誌や指導案の書き方をもう少し詳しく、どのように書いたら良い評価が貰えるか教えてほしい。(実際に書く練習を増やして欲しい)

図表 3-15：保育実習や授業で改善してほしい点・課題と感じている点(行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム)(Q4-3)

主な自由記述一覧
● 実習で時間がないので行事をつめつめにしないで欲しい
● 行事はあまりなかった。課外研修している学校が羨ましかった。
● なくていい。減らしていい。そのために時間を取るのがもったいない、行事を無くしてコマを減らしてほしい。
● ボランティアとか保育に関することがもっと増えてもいいと思う
● 意味があるのかわからなくなるときがある。
● 目的を明確にすることで、より主体的に参加できると思いました。
● 学園祭の時期が幼稚園実習直後で準備の負担が一部の人に偏り、疲れがずっと取れなかった。代休が欲しい。
● 学校行事においても、これまでに学んできた保育の技能や技術、知識を活かしたのがあると、卒業後にも活かすことができ、そして思い出ともなるものになったのではないのかなと思います。そのじだいにあわせた、保育で取り入れられている感覚や考え方を学生である今のうちに、こどもたち側として経験をしていくことで、現場に出た時に次は先生という立場からサポートできたり、学生の時に体験したこども目線をもって活動していくことができるのではないのかなと思いました。
● 研究会の学生はよりこどもたちと会の中で関われるが研究会に入っていない学生はほとんど関わる機会がなく見るだけになってしまうので会に来る必要がないのでもっと学生全体でこどもたちと関われるよう学年での出し物などの機会も作って欲しかった
● 保育園や幼稚園で実際に行われる行事を中心に行事があるといいと思いました。

Q4-4 保育実習や授業を通した保育士への進路意欲の変化（SA）（Q4-4）

保育実習や授業を通した保育士への進路意欲の変化は以下の通りである。

図表 3-16：保育実習や授業を通した保育士への進路意欲の変化（SA）
（Q4-4×Q1-6 学年）

		調査数 (n=)	(%)				
			非常に 高まった	やや高 まった	変わら ない	やや低 下した	非常に 低下し た
全体		4747	37.2	36.8	15.6	8.7	1.7
1	1年生	1643	36.9	38.9	18.1	5.3	0.7
2	2年生	1922	37.8	36.0	15.2	9.1	1.9
3	3年生	649	35.7	33.9	12.9	14.9	2.5
4	4年生	507	37.3	36.7	12.2	10.8	3.0
5	専攻科等	24	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0
6	その他	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0

※実習を経験していない学生の回答も含む。

図表 3-17：保育実習や授業を通した保育士への進路意欲の変化（SA）
（Q4-4×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)				
			非常に高 まった	やや高 まった	変わらな い	やや低下 した	非常に低下 した
全体		4747	37.2	36.8	15.6	8.7	1.7
1	保育士資格のみ取得予定	508	35.8	32.1	18.9	9.3	3.9
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	37.3	37.3	15.3	8.7	1.4

※実習を経験していない学生の回答も含む。

図表 3-18：保育実習や授業を通した保育士への進路意欲の変化（SA）
（Q4-4×Q1-1 学校種）

		調査数 (n=)	(%)				
			非常に高 まった	やや高まっ た	変わらない	やや低下し た	非常に低下 した
全体		4747	37.2	36.8	15.6	8.7	1.7
1	大学	2115	31.8	37.3	17.6	11.3	1.9
2	短期大学	1664	42.2	35.9	13.5	6.6	1.7
3	専門学校	924	39.9	37.6	14.7	6.8	1.0
4	その他	44	45.5	27.3	18.2	4.5	4.5

※実習を経験していない学生の回答も含む。

Q4-5 保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソードや体験等（FA）（Q4-5）

保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソードや体験は以下の通りである。

図表 3-19：保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソード・体験（Q4-5）

主な自由記述一覧
（ポジティブなエピソード等）
● 保育実習Ⅱがとても楽しかったのと同時に現場の保育者の方の保育実践力やこどもと真剣に向き合う姿をみて、実際に自分も保育者となりこれからもっと保育実践力を高め成長したいと思ったから。（短大2年）
● 〈教育実習Ⅰ〉実習中にこどもがくれた手紙や実習最終日に泣きながら「ありがとう」と言ってくれたときや、こどもができなかったことができるようになった時にその成長に関わることができた際に意欲が高まった。（短大1年）
● こどもからのありがとうとだいすきという言葉（専門2年）
● 【授業】虐待、離婚、ステップファミリー、貧困…様々な困難の中にあるこどもの存在を知り、少しでも楽しい気持ちで保育園に通えるように、そんな存在でありたいと思った。こどもの出す SOS をキャッチし、居場所があると感じさせることによりこどもの心が開かれる。これが人を変えるということ。教科書に書いてあったこの言葉が、こどもにとっての「変人」になるということがひとつの目標となった。（専門2年）
● 初めは自分から関わることに戸惑っていたこどもが、毎日の声かけや関わりを重ねるうちに心を開き、自分のそばに来てくれるようになった経験があった。その姿を見たとき、保育者の関わり一つでこどもの安心感や意欲が大きく変わることを実感し、保育の仕事のやりがいを強く感じた。（短大2年）
● 実習では思い通りにいかない場面も多くあったが、授業で学んだ「こども理解」や「見守る援助」を意識して関わることで、こどもが自分で挑戦する姿を見ることができた。大変さと同時に成長を間近で感じられる点に保育の魅力を感じ、保育士として働きたいという意欲が高まった。（大学3年）
● ベテラン先生がいて、その先生はこどものことを一番に考える先生でした。こどもが楽しくなるにはどのような声かけがいいのか正解はないと教えてください、こどもと一緒に成長できる職業だと改めて実感でき絶対に保育士になって楽しい保育が行えるようにしたいと思いました。（大学4年）
● 最初の実習では自分には向いていないと感じたが、実習を重ねるごとに実習先の先生から褒められたり、いい先生になるねと言われて意欲が高まった（大学4年）
● 児童養護施設へ実習に行った際に施設のイメージが変わり、そちらに進路を変更したい思いが出た。（大学3年）
● 実習でこういふときどうすればいいんだろう？と困った時に授業内容を思い出したり、実習後の授業では何かヒントを得ることが出来ないかという視点で聞くようになり、意欲がすごく高まった。（短大2年）
● 保育園でのバイトが刺激をもらう。（短大1年）
（ネガティブなエピソード等）
● ピアノが苦手で、保育士になってからもピアノをするとするとピアノの練習だけで時間を使ってしまい、他のことに手が追いつかなくなるといったこと。実際に保育を経験することで大変さを痛感し、そのことと給料が見合っていないことを考えてしまった。（大学

主な自由記述一覧	
2 年)	
●	たしかに先生方が楽しそうに過ごしている様子も見られる反面辛そうともみえる、休みがないお金も少ない。デメリットがでかいと現場を行って感じた。授業では楽しいから下がることはない（専門 2 年）
●	まず、保育士になるはずの人が保育園児みたいにわがままや融通が聞かない。好き嫌いを全面に出す。現場でこどもの相手に、それを、やるの？とこんな感じで意識が低い人がいると保育士以前に職場の人間関係が本当に本当に不安。園児の保育と大人の職場の人間の保育まで出来ない（専門 1 年）
●	まだ自分で保育を行ったことがないので、自分にできるのだろうかという不安な気持ちで保育士への進路意欲がやや低下している。（大学 2 年）
●	よく分からい指摘があった袖をまくりすぎだとか、あぐらはダメだとか、距離感が近いとか何がダメなんですか？距離感ってなんですか？（大学 3 年）
●	最初の実習においては、自分の余裕が作れないまま終わってしまいやりがいを感じれなかった。（大学 3 年）
●	学びとは違った、実習先での現場保育士の資質に幻滅することが 1 番ショックで意欲を損なわれます。（専門 1 年）
●	私の担当したクラスの主任保育士から、前年度の実習生と私を比較する発言があり、「〇〇ちゃんはこうだったのに、実習生は～」と言われることがありました（前年度実習生は〇〇ちゃん、私は「実習生」と呼ばれていました）。また、初めての研究保育後には「失敗したのはあなたのせい」「このようでは保育士になれない」と言われ、強い精神的負担を感じました。準備期間中も「自分で考えたら？」と言われ、確認時に問題ないと言われた制作物を 24 人分用意した後に作り直しを指示されました。1 か月間厳しい言葉が続き、とてもつらかったです。至らない点は反省していますが、もう少し寄り添った具体的で丁寧な指導をしていただきたかったのが本音です。（大学 2 年）
●	実際に現場の先生方の苦労を見ると、思っていたよりも現場は余裕がないと知り、自分には難しいかもと感じた。（大学 2 年）
●	実習がしんどい。日誌を書いたり、指導案を書くことが（大学 1 年）

ii. 保育士として働くことに対する意識

Q3-1 保育士を志望した理由 (MA・SA) (Q3-1)

学生が保育士を志望した理由は以下の通りである。

図表 3-20 : 保育士を志望した理由 (MA・SA) (Q3-1×Q1-6 学年)

		調査数 (n=)	(%)										
			こども が好き だから	職場体 験を通 して適 性がある と感じたり、興 味をもった から	人や社 会の役 に立ち たいと思 ったか ら	資格を 持って いると 就職な どに有 利だと思 ったか ら	家族や 友人な ど、身 近な人 の影響 を受け たから	学校の 先生な ど、周 囲の人 に勧め られた から	将来、 安定し た仕事 に就き たいと思 ったか ら	自分自 身が成 長でき ると思 ったか ら	こども の時の からの夢	その他	特にな し
(MA)													
	全体	4747	90.6	35.8	39.5	42.3	36.6	19.7	22.6	30.8	51.5	2.7	2.3
1	1年生	1643	90.4	28.7	41.2	41.8	36.1	20.9	24.0	33.7	48.9	2.1	2.7
2	2年生	1922	89.6	38.2	38.2	42.0	37.6	20.3	22.7	30.8	51.1	2.9	2.2
3	3年生	649	92.9	39.0	39.0	45.8	36.8	16.6	21.1	24.7	56.1	3.1	1.2
4	4年生	507	91.3	44.2	39.8	39.8	33.5	16.0	18.5	28.2	55.4	2.8	2.4
5	専攻科等	24	91.7	54.2	41.7	58.3	54.2	37.5	33.3	50.0	58.3	4.2	0.0
6	その他	2	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0
(SA)													
	全体	4747	48.2	5.1	6.9	7.0	7.0	1.3	1.9	2.5	16.2	1.5	2.3
1	1年生	1643	50.1	3.8	7.0	6.7	6.5	1.2	2.6	2.4	15.6	1.4	2.7
2	2年生	1922	46.9	5.9	7.1	7.3	7.3	1.5	2.0	2.6	15.4	1.8	2.2
3	3年生	649	49.8	4.9	7.1	7.7	6.9	1.1	0.9	2.2	16.8	1.4	1.2
4	4年生	507	45.4	6.7	5.5	6.3	7.3	1.2	1.0	3.2	19.9	1.2	2.4
5	専攻科等	24	33.3	8.3	4.2	4.2	16.7	0.0	4.2	4.2	25.0	0.0	0.0
6	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0

図表 3-21 : 保育士を志望した理由 (MA・SA) (Q3-1×Q1-9 取得予定の資格)

		調査数 (n=)	(%)											
			こどもが 好きだか ら	職場体験 を通して 適性があ ると感じ たり、興 味をもっ たから	人や社会 の役に立 ちたいと 思ったか ら	資格を 持っている と就職 などに有 利だと思 ったから	家族や友 人など、 身近な人 の影響を 受けたか ら	学校の先 生など、 周囲の人 に勧めら れたから	将来、安 定した仕 事に就き たいと思 ったから	自分自身 が成長で きると 思ったか ら	こどもの 時からの 夢	その他	特になし	
MA														
全体			4747	90.6	35.8	39.5	42.3	36.6	19.7	22.6	30.8	51.5	2.7	2.3
1	保育士資格のみ取得予定	508	85.0	30.3	39.2	44.7	34.4	18.1	23.8	34.4	37.6	2.2	6.3	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	91.2	36.4	39.5	42.0	36.9	19.8	22.4	30.3	53.2	2.7	1.8	
SA														
全体			4747	48.2	5.1	6.9	7.0	7.0	1.3	1.9	2.5	16.2	1.5	2.3
1	保育士資格のみ取得予定	508	47.2	4.1	8.3	8.7	7.7	0.6	2.4	3.1	9.6	2.0	6.3	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	48.3	5.2	6.7	6.9	7.0	1.4	1.9	2.5	17.0	1.5	1.8	

Q3-2 保育士資格取得への意欲（SA）（Q3-2）

学生の保育士資格取得への意欲は以下の通りである。

図表 3-2 2：保育士資格取得への意欲（SA）（Q3-2×Q1-6 学年）

		調査数 (n=)	(%)				
			まったく 意欲が ない	あまり 意欲が ない	どちら ともい えない	意欲が ある	とても 意欲が ある
全体		4747	0.9	1.7	6.1	37.5	53.7
1	1年生	1643	1.3	1.9	5.8	36.8	54.3
2	2年生	1922	0.6	1.6	7.3	38.7	51.8
3	3年生	649	0.8	2.2	5.5	37.3	54.2
4	4年生	507	0.8	1.4	3.7	35.1	59.0
5	専攻科等	24	0.0	4.2	0.0	45.8	50.0
6	その他	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0

図表 3-2 3：保育士資格取得への意欲（SA）（Q3-2×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)				
			まったく 意欲がな い	あまり意 欲がない	どちらと もいえな い	意欲があ る	とても意 欲がある
全体		4747	0.9	1.7	6.1	37.5	53.7
1	保育士資格のみ取得予定	508	1.0	3.3	12.8	36.2	46.7
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	0.9	1.6	5.3	37.6	54.6

Q3-3 保育士資格取得への意欲に影響を与えたきっかけや経験（FA）（Q3-3）

保育士資格取得への意欲に影響を与えたきっかけや経験について、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

図表 3-24：保育士資格取得への意欲に影響を与えたきっかけや経験（Q3-3）

主な自由記述一覧
（とても意欲がある、意欲があるの回答者）
● 年長の頃の担任の先生に憧れたから。 ● 中学校で、地元の保育園に読み聞かせに行ったとき、こどもと関わる仕事に就きたいと実感したから。 ● 免許を取ることで、保育士の資格で様々な職種に着くことができると調べてわかったから。 ● 発達障がいのあるこどもたちへの興味から、幼児理解に努めたいと思ったこと ● 高校の先生に、その素敵な笑顔をこどもたちに分け与えて行ってほしいと言っていたこと ● 児童養護施設の実習をきっかけに、1人でも多くのこどもたちが、自分らしくのびのびと過ごしていけるように支えていきたいと思ったため ● 実習でお世話になった先生への憧れ ● インターンシップの経験 ● 実習さえ乗り切れば大丈夫って言ってもらったから ● 実習に行き色んなこどもと関わる中で自分のしたいやってみたい保育があったから
（どちらともいえない、あまり意欲がない、まったく意欲がないの回答者）
● やりがいを非常に強く感じる仕事ではあるが、保育士の待遇の悪さや仕事内容の大変さ、自身が苦手なピアノの存在などから意欲が少し弱くなってしまった。 ● 社会人として会社勤めを経験した後に 3 年間のコースに入学しましたが、授業のカリキュラムが詰め込まれ過ぎていて熟しきれません。具体的にはグループワーク等のコミュニケーション活動や発表、工作やピアノ等の実技、指導計画の課題など幅広い分野の学習が重なり自宅での準備が散漫になっている状態です。学生の段階でこのような体制を強いられるのであれば、現場であらゆる業務を抱えて持ち帰り、過重労働となるのは当然と感じます。実際、実習でも働き方改革の影響による時間の圧迫感を如実に感じ、早朝から休憩なく夕方まで分単位の活動に追われ、早めの帰宅を促されるので園で落ち着いて指導計画や工作類の準備をする時間はほぼ無く、持ち帰って翌朝まで作業に追われるという状態でした。弁当持参の園で朝の支度は 3 時半から始めなければ間に合いませんでした。 ● 実習を通して保育への適性の無さを実感したから ● 実習時に書類の多さを感じたから

Q3-4 将来希望する進路 (MA) (Q3-4)

学生が将来希望する進路は以下の通りである。

図表 3-25 : 将来希望する進路 (MA) (Q3-4×Q1-6 学年)

		調査数 (n=)	(%)						
			保育士 (保育 所等)	幼稚園 教諭	保育教 諭 (認 定こども園 等)	児童福祉施設 職員 (保育 所等以 外：児 童養護 施設、 発達支 援セン ター 等)	保育・ 教育分 野以外 の職種	進学	未定
全体		4747	70.4	47.0	44.6	21.8	11.0	2.0	7.2
1	1年生	1643	74.9	53.4	48.6	24.4	8.7	1.9	9.1
2	2年生	1922	69.2	42.7	43.2	20.9	11.0	2.6	6.7
3	3年生	649	69.3	49.8	44.4	23.4	14.8	1.4	7.9
4	4年生	507	61.9	39.1	36.9	14.2	14.2	1.0	2.6
5	専攻科等	24	75.0	45.8	54.2	37.5	8.3	4.2	0.0
6	その他	2	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 3-26 : 将来希望する進路 (MA) (Q3-4×Q1-9 取得予定の資格)

		調査数 (n=)	(%)						
			保育士 (保育所 等)	幼稚園教 諭	保育教諭 (認定こ ども園 等)	児童福祉 施設職員 (保育所 等以外： 児童養護 施設、発 達支援セ ンター 等)	保育・教 育分野以 外の職種	進学	未定
全体		4747	70.4	47.0	44.6	21.8	11.0	2.0	7.2
1	保育士資格のみ取得予定	508	69.5	15.9	16.9	25.8	13.4	2.0	11.4
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	70.5	50.7	47.9	21.3	10.7	2.0	6.7

Q3-5 保育・教育分野以外の職種を希望する理由（FA）（Q3-5）

保育・教育分野以外の職種を希望する理由について、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

図表 3-27：保育・教育分野以外の職種を希望する理由(Q3-5)

主な自由記述一覧
(ポジティブな理由)
● まだ保育士以外の夢を諦めていないから。やりたいことが保育士以外にもあるから。
● 介護福祉士の資格も取ろうと思ったから
● 施設実習で児童養護施設に行った時、短い期間でもこどもの成長を感じる事が出来たことと、様々な背景を持つ子どもたちを支援したいと思った。
● 障害児の「やってみたい」「なぜ」などの興味関心にかかわり、自立への支援をしたいと思ったから
● 違う形でも子どもたちに関わる仕事をしたい
● 保育・教育分野以外の現場にも、保育・教育についての知識をもった人の存在が重要であると考えから。
● 研究を深め、教育現場を運営する側に回りたいと考えているから。
● 保育だけでなく、福祉の分野に興味があるから。
● 今現在テーマパークでのアルバイトと幼稚園でのアルバイトを両立しており、テーマパークへの就職でも学んだ技術・力が使えると感じたから。
● 「こどもが好き」と「保育士になりたい」をそのまま繋げることに抵抗があり悩んでいたところ、虐待などのニュースを目にしてこどもの支援をしたいと考えようになった。
(ネガティブな理由)
● SNS などで見える若手保育士の人間関係における苦労やうつ病、双極性うつ障害などの発症を見ると保育者になるのが怖くなるからです。不安で仕方ないです。また、給料も低いいため、今後の人生この資格を職業にして私は、家庭を持つことができるのかこどもを満足に育てることができるのか、授業を受けていく中で貧困について学んでいるため不安です。
● お金の面で安定している職業とはいえないので、安定した職につきたいと思ったから。
● ボランティアや実習を通して10以上の保育園を見る中で、保育園の長時間保育、長時間勤務、仕事内容、人間関係、不適切保育の蔓延等、諸々において自分には保育園勤めが向いていないと感じたから。
● 給料と働く量が割に合わない指導案が大変人間関係が良くないところが多数
● 自分は理論をもとに行動することを得意とするが、実際の保育の現場では感覚をもとに行動することも度々あったこと、実習の際に、自分はこどもとの関わりを愛おしく、楽しいものだと思っていたのに対し、指導教員に「こどもと関わっていて楽しそうじゃない」と何度も言われ、適性がないように感じられたから。実習先で、たまたまなのかもしれないし、自分が過剰に捉えてしまっているだけなのかもしれないが、指導教員が不適切に思われる保育(こどもが遊戯会練習を何度行っても、セリフや動きを覚えてこないからといって腕を引っ張る、こどもたちに遊戯会の意義を「親に見せるため」と言わせる等)も行っており、保育の理想と現実に嫌気が差したから。

Q5-1 保育士として働くことに対する不安や課題 (MA・SA) (Q5-1)

学生が保育士として働くことに対して感じている不安や課題は以下の通りである。

図表 3-28：保育士として働くことに対して感じている不安や課題 (MA・SA)
(Q5-1×Q1-6 学年)

		調査数 (n=)	(%)										
			保育の 計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるかなど）	給与や待遇 （自分が生活していくために十分な収入が得られるかなど）	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくい など）	職場での人間関係 （同僚や上司との関係 など）	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応 など）	仕事の責任の重さ （こどもの命を預かる責任が大きい など）	社会的評価 （保育士の社会的評価が低いと感じる など）	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるかなど）	その他	保育士として働くことは希望していない	特になし
(MA)													
全体		4747	80.6	63.1	60.6	73.4	74.1	67.4	29.9	36.7	0.8	3.1	2.4
1	1年生	1643	80.3	61.9	58.9	68.5	71.8	63.9	26.6	33.7	0.7	1.7	3.8
2	2年生	1922	80.9	62.1	59.4	74.8	73.9	68.6	31.4	39.3	0.8	2.6	2.0
3	3年生	649	81.5	75.3	70.3	78.9	77.3	70.4	34.1	38.5	1.2	4.3	0.8
4	4年生	507	79.1	55.0	59.2	76.7	78.5	70.4	29.4	34.3	0.8	7.9	1.6
5	専攻科等	24	91.7	54.2	45.8	83.3	66.7	62.5	33.3	45.8	0.0	0.0	0.0
6	その他	2	100.0	50.0	0.0	100.0	50.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
(SA)													
全体		4747	27.4	19.0	6.2	17.9	10.8	10.5	0.7	1.6	0.4	3.1	2.4
1	1年生	1643	32.3	18.4	6.9	14.2	8.8	11.0	0.6	2.1	0.2	1.7	3.8
2	2年生	1922	26.0	18.9	4.7	20.2	12.5	10.5	0.5	1.6	0.5	2.6	2.0
3	3年生	649	21.9	26.8	9.6	18.6	7.4	8.6	0.2	1.4	0.5	4.3	0.8
4	4年生	507	23.5	11.8	5.3	20.7	15.2	11.0	1.6	1.0	0.4	7.9	1.6
5	専攻科等	24	41.7	8.3	8.3	20.8	8.3	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0
6	その他	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 3-29：保育士として働くことに対して感じている不安や課題（MA・SA）
（Q5-1×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)											
			保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるかなど）	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるかなど）	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	職場での人間関係（同僚や上司との関係など）	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応など）	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きいなど）	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じるなど）	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるかなど）	その他	保育士として働くことは希望していない	特になし	
MA														
全体			4747	80.6	63.1	60.6	73.4	74.1	67.4	29.9	36.7	0.8	3.1	2.4
1	保育士資格のみ取得予定	508	73.0	54.7	49.0	61.4	62.8	58.7	28.3	35.6	1.6	4.5	7.3	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	81.5	64.0	62.0	74.9	75.4	68.4	30.0	36.8	0.7	2.9	1.8	
SA														
全体			4747	27.4	19.0	6.2	17.9	10.8	10.5	0.7	1.6	0.4	3.1	2.4
1	保育士資格のみ取得予定	508	27.2	16.7	6.5	17.5	9.4	8.7	0.4	1.2	0.6	4.5	7.3	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4229	27.5	19.3	6.2	18.0	10.9	10.6	0.7	1.7	0.4	2.9	1.8	

Q5-2 保育士として働くことに対する不安や課題（具体的に）（FA）（Q5-2）

保育士として働くことに対する不安や課題について、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

図表 3-30：保育士として働くことに対する不安や課題（具体的に）（Q5-2）

主な自由記述一覧
● 1人が見る負担が多い。個を尊重したくてもできないことがある。目が届かないこともある。
● アルバイトで保育園にいた時に休憩時間がとれていない先生方を身近で見っていたから。
● いくら気をつけていても人間なので見落とししたりなどで事故が起こってしまうことはあると思うので、その確率を低くするために自分ができることはなにかをしっかりと考えていくこと。また起こってしまったあとの対応や今後の防止対策などを見直すことができるのか。
● お給料が低い
● 過労働が問題視されている現代、保育士はこれに最も当てはまる職業だろう。仕事も大切にしたいが、休むことも大切にしたい。まさにワークライフバランスだ。制作の材料を作るために残業してなおかつ持ち帰り仕事をしている現状をみると休めるだろうかと不安になる。
● 休みが取りにくい残業がかなり多い
● 指導案でこどもたちに関心を持ってもらえるような内容をつくることができるのか不安。

Q5-3 保育士として働くことに対する不安や課題を軽減するために必要だと思う支援
(MA・SA) (Q5-3)

学生が保育士として働くことに対して感じている不安や課題を解消するために必要だと思っている支援は以下の通りである。

図表 3-31：保育士として働くことに対する不安や課題を解消するために必要だと思う支援 (MA・SA) (Q5-3×Q1-6 学年)

		調査数 (n=)	(%)							
			職場体験の機会が増えること(実際の保育現場を体験できる)	メンタルヘルスのサポート(心の悩みやストレスについて相談できる)	進路や就職についての相談(将来の進路や就職活動について相談できる)	必要な情報の提供(保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる)	現場で働く人の話を聞く機会(実際に働いている保育士などの体験談を聞ける)	その他	わからない	特になし
(MA)										
全体		4486	49.2	47.5	40.8	57.0	69.1	2.2	3.4	2.2
1	1年生	1552	53.7	45.6	41.8	57.4	67.7	1.5	3.4	1.4
2	2年生	1833	48.4	50.4	41.8	55.3	68.6	2.0	3.3	2.8
3	3年生	616	43.0	44.8	41.4	64.4	70.6	2.9	3.6	3.1
4	4年生	459	45.8	46.4	32.9	52.7	73.2	4.8	3.5	1.3
5	専攻科等	24	50.0	54.2	41.7	58.3	79.2	0.0	0.0	0.0
6	その他	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
(SA)										
全体		4486	18.2	17.7	8.0	19.7	28.9	1.9	3.4	2.2
1	1年生	1552	21.1	17.3	9.3	20.5	25.9	1.2	3.4	1.4
2	2年生	1833	17.0	19.5	7.5	17.6	30.4	1.9	3.3	2.8
3	3年生	616	14.3	14.8	7.3	26.5	28.1	2.4	3.6	3.1
4	4年生	459	18.5	16.6	5.7	16.8	33.8	3.9	3.5	1.3
5	専攻科等	24	12.5	8.3	16.7	20.8	41.7	0.0	0.0	0.0
6	その他	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

図表 3-3 2：保育士として働くことに対する不安や課題を解消するために
必要だと思う支援（MA・SA）（Q5-3×Q1-9 取得予定の資格）

		調査数 (n=)	(%)								
			職場体験 の機会が 増えるこ と（実際 の保育現 場を体験 できる）	メンタル ヘルスの サポート （心の悩 みやスト レスにつ いて相談 できる）	進路や就 職につい ての相談 （将来の 進路や就 職活動に ついて相 談できる）	必要な情 報の提供 （保育の 仕事や給 与・働き 方につい ての情報 が得られ る）	現場で働 く人の話 を聞く機 会（実際 に働いて いる保育 士などの 体験談を 聞ける）	その他	わからな い	特になし	
MA											
全体			4486	49.2	47.5	40.8	57.0	69.1	2.2	3.4	2.2
1	保育士資格のみ取得予定	448	48.9	49.6	35.9	50.2	60.0	2.7	5.4	2.5	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4028	49.3	47.3	41.4	57.8	70.1	2.2	3.1	2.1	
SA											
全体			4486	18.2	17.7	8.0	19.7	28.9	1.9	3.4	2.2
1	保育士資格のみ取得予定	448	19.6	19.4	8.3	17.4	24.8	2.7	5.4	2.5	
2	保育士資格とその他の資格を取得予定	4028	18.0	17.5	7.9	20.0	29.4	1.8	3.1	2.1	

Q5-4 保育士として働くことに対する不安や課題を解消するために必要だと思う支援（具体的に）（FA）（Q5-4）

保育士として働くことに対する不安や課題を解消するために必要だと思う支援に関して、自由記述で得られた主な回答は以下のとおりである。

図表 3-33：保育士として働くことに対する不安や課題を解消するために必要だと思う支援（具体的に）（Q5-4）

主な自由記述一覧
（職場体験の機会が増えること（実際の保育現場を体験できる））
● 実習で保護者と関わる機会も作れたらいいと思う。 ● 実習を 10 日間 2 回だけではなく、もう少し増やしてほしい。小学校実習のように、1 ヶ月にするなど。 ● 経験することで自信を持てるようになる
（メンタルヘルスのサポート（心の悩みやストレスについて相談できる））
● 1 人で抱え込んでしまう人が多いから定期で相談する機会を与えて欲しい ● カウンセラーなどの気軽に相談できる人員の配置 ● ストレスとの向き合い方を知りたい。
（進路や就職についての相談（将来の進路や就職活動について相談できる））
● アドバイザー等の意見を聞いて改めて進路を考える事ができる機会を作ったほうがいい。 ● 一年次から少しずつ教えて欲しかった。いきなり壮大な量の情報が入っても分からない。 ● 日頃から授業で就職について具体的な話を聞くことができればいいと思います。
（必要な情報の提供（保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる））
● この園は、こども達が元気でもとても楽しい職場です！とかではなく、この園実は離職率が高いです。とかモラハラ気質の上司がいます。とか実際に働いている職員に関する情報や、園長からの無言の圧があり休みが取りにくい。などその人間関係による弊害や困っていることを、得られるシステムを作してほしいです。プラスだけでなく、マイナスの部分も知ることができる仕組みがあったら嬉しい。 ● 何年働き続けたらどのくらい昇給するのか ● 保育現場で働くにあたっての各都道府県の平均年収を示すこと。また、一般的な生活費を示すこと。それらを基準として、保育所を選択できるようにしたい。
（現場で働く人の話を聞く機会（実際に働いている保育士などの体験談を聞ける））
● job フェアでいくつかの園が集まって保育者になりたい学生に園の紹介をしてくださるけれど、園の上の方の立場のひと、代表の人が来ることが多いのでそうではなく、上の代表の人+新卒一年目二年目のひともきてほしい。 ● OB の話などを聞ける機会があると、実習に行く前など不安が和らぐと思う。 ● 現場で働いている人だからこそ、知っていることがあると思う。実習先だけではなく、他にも実際に働いている方からお話を聞くことができることで、比べることができ、不安を減らせるのではないかと考える。
（その他）
● 「休みが足りにくい、働く時間が長過ぎる。」という問題がそもそも発生しないような環境になれば不安はなくなる ● 人間関係が悪化する原因は、性格が合う合わないという理由もあると思うが、労働に対してのストレスが大きいことも関係していると思う。責任の重さや人手不足、低賃金など。 ● 保育士の業務は多岐にわたるため、手が回らないという現場を実習で感じました。そのため、役割をより細分化させて、手が回らない状況を回避できるようにするのが良いと思いました。また、保育士資格は国家資格でもあるため、国家資格ではない保育系の資格を増やし、より就職でも何が就職先から求められているのかを分かりやすくして欲しいと思います。

2. インタビュー調査

(1) インタビュー調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、養成校に通う学生の意識を把握するためにインタビュー調査を実施した。

(2) インタビュー調査概要

i. 調査の対象

養成校3か所を選定し、その施設に通う学生2～4人を対象とした。

対象の養成校は、本事業で実施したアンケート調査において、インタビュー協力可と回答した学生が多い施設を大学・短期大学・専門学校ごとに1つずつ選定した。

学生の選定にあたっては、本事業で実施したアンケート調査における、インタビュー協力可否の回答状況、進路意欲の変化や就業への不安等に関する自由記述の内容を考慮し、各学年から1名ずつに協力を依頼した。なお、短期大学、専門学校については、期間内に協力者が得られなかったため、養成校にて協力者を調整いただいた。

図表 3-34：インタビュー調査対象

D 大学	E 短期大学	F 専門学校
➤ Aさん（1年生） ➤ Bさん（2年生） ➤ Cさん（3年生） ➤ Dさん（4年生）	➤ Eさん（1年生） ➤ Fさん（2年生）	➤ Gさん（1年生） ➤ Hさん（2年生）

ii. 調査の時期

令和8年3月2日（月）～令和8年3月4日（水）

iii. 調査の方法

オンラインにて実施した。具体的には、同じ学校に通う学生のうち各学年から1人が参加するグループインタビューの形式で行った。

iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 3-35：インタビュー調査項目（養成校に通う学生）

大項目	調査項目
1. 保育への関心・志望動機	Q1 保育士を目指した理由やきっかけ
2. 学びの満足度と課題認識	Q1 カリキュラムや授業内容（保育実習を含む）に対する所感 （満足している点、改善してほしいと感じている点） Q2 学年が上がるごとに、学びや保育実習への取り組み方に変化があったか （変化があった場合はその内容及び理由） Q3 保育実習や授業を通じた、保育士への進路意欲の変化及びその理由 Q4 学校や実習先における ICT の活用に対する所感 （満足している点、改善してほしいと感じている点、困難を感じている点）
3. 保育士として働くことへの不安・期待	Q1 どのような保育士になりたいか Q2 どのような保育方針の園に勤めたいか Q3 就職活動や保育現場に対して不安に思うこと及び不安解消のために必要だと思うこと Q4 保育士として長く働き続けるために必要だと思うこと
4. 今後の成長や制度への要望	Q1 保育士としてのキャリア形成の意向 （研修等を通じた専門性向上、キャリアアップを望む/キャリアアップは特に望まない） Q2 卒業後、出身養成校にしてほしいサポート Q3 就職後、園・法人等にしてほしいサポート Q4 行政等にしてほしいサポート（金銭面以外）

(3) インタビュー調査結果

1) D大学

1. 保育への関心・志望動機	(保育士を目指した理由やきっかけ) ➤ (1年生) 中学の家庭科の授業で学校の近くの保育所に行き、保育士という仕事を知って、目指すようになった。 ➤ (2年生) 中学の総合の授業で職業について調べたことがきっかけ。こどもが好きで、保育士が気になり、目指すようになった。 ➤ (3年生) 絵やピアノ、音楽が好きなため、中学で進路を考えた際に、保育士がやりたいことだと思い、目指し始めた。 ➤ (4年生) 母が保育士である影響で、小さい頃から教職について学びたいと感じていた。高校生の時にこどもの発達や遊びのつながりなどに興味をもち、保育士を目指した。
2. 学びの満足度と課題認識	(カリキュラムや授業内容(保育実習を含む)に対する所感) ➤ (1年生) 発達心理学で年齢別の発達を学んだ。幼稚園でこどもと触れ合う中で、実際に発達や関わり方が異なることを感じる事ができてよかった。(改善点について) 改善してほしいことは今のところない。 ➤ (2年生) 必修授業で、1年次は11月から約2か月、2年次は6～12月まで、ボランティアとして保育園や幼稚園に行く機会があったため、保育実習でも、こども達とすぐに関わることができた点はよかった(以下本科目を「保育体験演習」という)。(改善点について) 保育所等ではPCで連絡帳を書いたり、HP掲載をしているため、PCを用いた授業を増やしてほしい。また、保育体験演習の期間はもっと長くてもよいと考える。1年生の夏までは、大学生活に慣れるのに大変かと思うが、夏休みが明けたらすぐに始めてもよいのではないか。 ➤ (3年生) 保育体験演習や、授業内で体を動かして学ぶことが多いなど、実践的な学びが多いことには満足している。(改善点について) PCの活用機会を増やすことと、文章の基本的な書き方なども学べるとありがたい。文章を書く機会が少なく、実習簿を書く際にあまり練習せずに書くことになる。 ➤ (4年生) 保育体験演習で、現場でしか得られないこども達の姿などを学べる点に満足している。また、4年生では、ディスカッションの授業が多くなるため、他の人の考えや保育観を知り、自分の保育に活かすことができることにも満足している。(改善点について) 実習簿などでの保育分野特有の言葉遣いなどを知ることができるような授業が必要であると感じている。 (実習日誌の負担感) ➤ (1年生) 保育実習にはまだ行っていない。保育体験演習ではエピソード記録を書く必要があり、大変であった。学年が上がると日誌の記載量が増えるため、不安である。 ➤ (2年生) D大学では保育実習の様式が2種類(一般的な様式とエピソードを記載する様式)があるが、前者の様式は、一度全員で書く体験をしたが、後者の様式にはそのような機会がなかったため、どのように書けばよいかわからなかった。 ➤ (3年生) その日の実習の目標や、こども達の活動の内容などに関しては、他の指導書の内容をそのまま転記することが多い。学校側から先輩

がどのように書いたかななどの詳しい指導があった方が、やりやすかったと思う。負担感はそれほどない。

- (4年生) 負担とを感じる部分は多いが、書くうちに1日の流れや、こどもたちの姿を振り返ることができる。その際に、こどもの行動の背景を考えることができ、自分の保育力が上がっていると感じる。

(実習期間について)

- (1年生) 保育体験演習は、週に1回であり、5日ある。毎回こどもたちと関わることができて楽しいため、個人的には今以上に保育体験演習をしたいと考える。
- (2年生) 自身が行った園は先生方が優しく、保育実習の10日間はあっという間だったが、友人は辛いと言っていたため、実習先の園によっても状況が異なると思う。また、学びの面では、1日ずつ行うことが変わり、1日ごとにこども達の成長を見ることもできた。もっと成長を見たいという気持ちと、他のこどもとももっと長く関わりたいという気持ちがあった。
- (3年生) 体力的には実習期間は適切だと感じるが、こどもたちが慣れて、こども達の変化が次第にわかるようになってきたタイミングでお別れになってしまうため、もう少し期間が長いと嬉しい。
- (4年生) 実習Ⅰの目標は、保育の現場や1日の流れを知ることであるため、現状の期間で十分だと感じる。保育実習Ⅱや幼稚園実習では、部分実習や責任実習があり、指導案を書いたり、予定を組んで動いたりするため、10日は短いと感じる。

(学年が上がるごとに、学びや保育実習への取り組み方に変化があったか)

- (1年生) 高校生までと異なり、大学では自分が学びたい分野を学んでいるため、知識が身につけやすく、取り組みやすい。
- (2年生) 1年生の頃は座学が多く、大変だと感じていた。2年生になって実習簿や指導案の書き方、模擬保育など実習に向けた練習が増え、実習に行く際の目標を考えることができた。模擬保育などの実践的な活動は保育実習にも活かすことができた。
- (3年生) 1年生の頃は、具体的な実習のイメージが持てておらず、こどもについての学びも曖昧なところがあった。2年生で実践が始まったり、実習が進んだりする中で、実際にこどもたちを見たからこそ、複数の学びのつながりが分かったり、自分が学びたいことが明確になった。実習時も自分の目標をもつようになり、益々意欲的になった。
- (4年生) 1年生の頃から座学等を通してこどもについての学びを深めた上で、保育体験演習や実習などに行ったことで、大学の講義での学びと現場での相違点や類似点に気づくことができた。学年が上がるごとに、こどもを見た時の感じ方や捉え方に変化があり、学びを深めることができた。現場に行くのは1年の11月からである。特に早く現場に出たいとは思わなかったが1、2か月間では、期間として短いと感じる。

(保育実習や授業を通じた、保育士への進路意欲の変化及びその理由)

- (1年生) 保育体験演習でこどもと触れ合う中で、より保育士になりたいという気持ちが強くなった。
- (2年生) 授業を通して、保育士になりたいという気持ちが強くなった。1年の時は、保育体験演習で実際に保育士を見て「こんな先生になりたい」と思っていた。2年になり、就職活動を視野に入れて給料を調

	べると、給料が低い所が多いと思い、このまま保育士になって大丈夫が不安であった。しかし、保育実習で先生がこどもたちと関わっている姿や、実際にこどもと関わる中で、自分はこどもが好きであり、保育士は楽しい仕事だと感じた。忙しい上に、命がかかっている大変であるが、それでも保育士になりたいと思うようになった。 ➤ (3年生) 保育士にもなりたいが、保育実習で現場を見た際に、遊具やおもちゃづくりにも興味をもつようになった。こどもを一度に6、7人見ている中で、どうしても見るできないことがある。そのような時に、椅子がしっかり置かれることでこども達がすぐに動かないようになっており、このような工夫がされていることをすごいと感じた。このような経験から物的環境にも目がいくようになったと思う。 ➤ (4年生) こどもの発達や成長を知りたかったため、教育学部に入學した。講義や実習を通じてこども達の姿を見て、自分ならどのようなねらいをもった活動をしたいか、どのような保育がしたいかなど、自分がどうしたいかについて重きをおくようになった。 (学校や実習先における ICT の活用に対する所感) ➤ (1年生) 手書きよりも PC の方が短時間で作業ができると考える。しかし、自身はあまり得意ではないため、もう少し ICT の勉強ができるようになることがたい。ICT は、レポートを書く際に活用している。 ➤ (2年生) レポート作成以外で PC を使うことはあまりなく、指導案は手書きで作成しているため、PC で指導案を作成する練習をしたい。実習で3つの園に行ったが、そのうち2つの園は PC を使っており、就職後に PC スキルが必要であると感じる。PC でおたよりや指導案を書く授業があると、今後に役立つのではないかと感じる。 ➤ (3年生) 実習先では、手書きで実習簿を作成しており、自身の字が汚いということで、何回も書き直すと言われたことがある。字が読みにくいのであれば、PC での実習簿の作成を認めるなど、柔軟な対応をしてほしい。学校の授業でも、実習簿の PC での書き方を教えてほしい。実習簿に関しては、学校は、手書きも PC での作成も認めているが、実習先の園に手書きで書いてほしいと言われた。 ➤ (4年生) 様々な園で ICT の導入が進んでいると感じる。ICT は、おたよりや報告に関する業務の効率化や、記録のために活用されることが多い。一方で、保育士も高齢化しており、ICT を使いにくい人も多いと感じる。また、ICT は実際の保育でも活用できると考えている。例えば、日直がタブレットに入った好きな音楽を選んで、音楽に合わせてダンスをするなどである。ICT を活用することで、これまでの保育と比べて、こどもの育ちなどに変化などがあるのではないかと感じている。
3. 保育士として働くことへの不安・期待	(どのような保育士になりたいか) ➤ (1年生) 先生とこども同士が信頼関係をもつことができ、安心できるような存在になりたい。 ➤ (2年生) こどもが元気に過ごせるよう、一緒に遊んだり、活動したりできる保育士になりたい。 ➤ (3年生) こどもが元気に遊べるような環境を作ることができる保育士になりたい。 ➤ (4年生) こどもの小さな気づきや、成長等を共に感じられる保育士になりたい。

(どのような保育方針の園に勤めたいか)

- (1年生) 安心安全に生活でき、こどもの個性を大切にする園に勤めたい。
- (2年生) 設定保育と自由保育の両方がある園に勤めたい。こどもが好きなことをできることも、設定保育で保育者がねらいをもちながら進めることも重要だと考えている。
- (3年生) こどもたちが安心安全に過ごせることが大切ではあるが、それ以上に、こども達がどのような経験を得られるかということに重きをおいている園に勤めたい。
- (4年生) 個の育ちを大切にしながら、集団での学びも大切にしている園がよい。具体的には、こども達一人ひとりの学びや気づきを、皆の学びにつなげられる環境が整っている園がよい。また、担任が担当のこどもを育てるのではなく、園全体でこども達を育てていくことができるような環境が整っている園に勤めたい。

(就職活動や保育現場に対して不安に思うこと及び不安解消のために必要だと思うこと)

- (1年生) 就職活動についてはまだわからない。いつの時期から始めればよいか、園の選び方などを知りたい。保育現場に対して不安に思うことは特にない。
- (2年生) 就職活動で保育園の就職フェアなどにも行っているが、先輩方がどのように就職活動をしていたのかについて早めに知りたい。また、(ニュース等の)記事を読んで、就職後、「思っていたことと違う」と思う人が多いと感じる。リスクを軽減するために、1年目の保育士と話す機会があれば、不安が和らぐと思う。
- (3年生) D大学では、3年生の終わり頃にキャリアセンターの職員から学生に対して就職活動に関する説明があるが、就職活動が本格化する前に説明があるとありがたい。キャリアセンターに個別に相談に行けば、園を調べるタイミングなどを教えてくれるが、学生への説明タイミングを早めて、キャリアセンターをより有効に活用できるようになるとありがたい。なお、キャリアに関する授業はない。また、保育現場に対しての不安は特にない。1年の頃から複数の園を見ていることに加え、園の先生からも安心できるような声かけをしてもらっている。
- (4年生) 日々変化する保育ニーズに対応していくことに不安がある。研修など知識をアップデートする機会がほしい。また、園によっては1年目から担任になることがあり、不安を感じる。不安を軽減するためには、自分がやりたい保育をしっかりと考えることと、絵本や手遊びなど保育活動のアイデアを増やすことで、不安が和らぐと思う。

(保育士として長く働き続けるために必要だと思うこと)

- (1年生) リフレッシュできる時間があることに加えて、保育士同士がコミュニケーションをとれることが大事だと思う。
- (2年生) リフレッシュできる時間があることで、再び頑張ろうと思えると思う。
- (3年生) 園の方針と自分がやりたい保育がマッチしているかどうかを最も大切だと考える。

	➤ (4年生) 自分がやりたい保育がその園に合っているかどうかが大切である。趣味などでリフレッシュできる機会や、先輩などの相談できる相手がいることも大切だと考える。
4. 今後の成長や制度への要望	(保育士としてのキャリア形成の意向) ➤ (1年生) 研修を通してどのような保育士になりたいかがわかってくるため、研修は大切であるとする。 ➤ (2年生) 1年目から担任を任されても、研修があれば不安が和らぐと考える。研修等を通して先輩方の保育の仕方を知ることが大切である。 ➤ (3年生) キャリアアップというよりも、専門性を向上させたい。まずは、自分が好きな部分からコツコツと伸ばしていくことで、「このような先生なのだ」と覚えてもらうことができると思う。 ➤ (4年生) キャリアアップよりも、専門性の向上を望んでいる。園以外にも研修機会があれば、積極的に参加したい。 (卒業後、出身養成校にしてほしいサポート) ➤ (1年生) 研修を出身大学にできるとよいと思う。 ➤ (2年生) 卒業後1年目はわからないことや不安なことがあると思うため、一緒に卒業した学生との交流機会がほしい。 ➤ (3年生) D大学は色々な園に保育士を輩出しており、様々な保育園の情報もある。就職後の不安を軽減できるよう、可能な範囲で園の情報をもらえるとありがたい。 ➤ (4年生) 変化する保育に関する知識を学べる研修をしてほしい。知らない方の研修を受講するよりも、知っている先生から学びを得ることで、よりわかりやすく学べるのではないかと考える。 (就職後、園・法人等にしてほしいサポート) ➤ (1年生) わからないことをすぐに相談できる環境があるとよい。 ➤ (2年生) 個人面談などの相談機会を設けてほしい。保育でわからないこと以外にも、メンタル面でも話を聞いていただけると、保育に対しても、仕事に対しても、より良い環境で働けるのではないかと考える。 ➤ (3年生) 新しい学びが得られるよう外部の方の相談支援がほしい。 ➤ (4年生) わからないことや保育方法などを相談できる機会がほしい。保育に入りながら相談をすると、時間がなく、相談できないこともあると思う。相談できる時間の枠が確保されているとよいと思う。 (行政等にしてほしいサポート(金銭面以外)) ➤ (1年生) 園だけではなく、地域とのつながりがあるとよい。 ➤ (2年生) 保育園以外で子ども達が交流できる場を増やしてほしい。子ども達にとって、経験が大切であると感じている。パン屋に買い物に行くなど、ちょっとした経験ができる環境づくりをしてほしい。 ➤ (3年生) 園と地域のつながりを強化するためのサポートがほしい。園から地域の人をお願いをすることはあるが、例えば農家の方が子ども達に体験機会を作ってあげたいと思っても、ハードルがあると思う。 ➤ (4年生) 本当に相談してほしい人を行政につなぐことができるツールが少ないと感じている。相談のハードルが低く、何気なく相談できる環境づくりが必要だと思う。また、保幼小の連携について、引っ越し等があっても必要な支援が途切れないよう、連携がより強化されるとよいと思う。

2) E 短期大学

1. 保育への関心・志望動機	(保育士を目指した理由やきっかけ) ➤ (1年生) 小さい頃から年下の子の世話が好きであった。高校3年時に幼児向け学習塾のアルバイトを経験し、こどもと関わることの楽しさを再認識し保育士を志望するに至った。 ➤ (2年生) 幼少期に憧れた年長時の担任の存在がきっかけである。こどもが好きでその先生のようにになりたいとの思いから保育士を志望した。
2. 学びの満足度と課題認識	(カリキュラムや授業内容(保育実習を含む)に対する所感) ➤ (1年生) 学校と連携することも園での実習は、園と学校の距離が近く、実習後に学校で日誌を教員と一緒に作成・提出でき、すぐに相談できる環境が整っていたため、ありがたかった。また、保育所実習は学校と連携している施設ではなかったため、連絡等も自分たちで行ったが、勉強になった。(改善点について)今のところ改善してほしい点はない。 ➤ (2年生) どの教員にも相談しやすい体制が整っている。またグループワーク等で、学生同士が意見交換でき学びが深まる場もあり、満足している。(改善点について)未満児クラスで必要となるおむつ替えや授乳など、教科書では学ぶが実技としての演習機会が少ないため、授業内での実践的な技能演習がより充実するとありがたい。 (保育実習開始までの各保育現場訪問の機会の有無) ➤ (1年生) 子育て支援士や児童発達支援士の授業で、各施設へボランティア訪問を行った。 ➤ (2年生) 所属している保育サークルで、各施設へボランティア訪問を行った。現在の機会の回数やタイミングで「ちょうどよい」と感じている。 (学年が上がるごとに、学びや保育実習への取り組み方に変化があったか) ➤ (1年生) 実習を経てこどもとの関わりの難しさを実感し、座学への意識が高まり、より知識を定着させようと強く感じるようになった。 ➤ (2年生) 1年生の時の実習では学びが浅く、うまくいかない場面も多く、教員に積極的に質問をするなどして対応していた。2年時の実習では1年時の学びを活かし、主体的に動けるようになり成長を実感した。 (保育実習や授業を通じた、保育士への進路意欲の変化及びその理由) ➤ (1年生) 実習でこどもと関わる楽しさを実感し、保育園でのアルバイトを開始するなど、保育士への進路意欲が強まった。また、現場の保育士の先生たちは、遊び以外にも多くのことを考えながらこどもに関わっていることを、先生たちに質問する中で学ぶこともできた。 ➤ (2年生) 当初は小規模園志望であったが、就活や保育実習を通じ、発達障害を含む多様なこどもと関われる、認定こども園に魅力を感じ志望先を変更した。なお、保育所実習は1年時と2年時で同じ施設に行き、幼稚園実習については1年時と2年時で異なる施設に行った。1年時の実習では「こどもが好きだけでは務まらない」と痛感し不安を覚えた

	が、2年時の実習でこどもからの愛情表現や現場の先生の励ましを得て自信と意欲が向上した。 (実習期間や日誌に対する所感) ➤ (1年生) 現在の期間が妥当であると感じる。 ➤ (2年生) 実習日誌は負担感があるが、振り返りに資するため重要であると感じる。ただ、時系列の記述は時間を取られるものの、毎回同じような内容になりがちである。エピソードを記載する形式であれば、日々異なるこども達のアクションに対して感じたことを記載できるため、そのような形式が増えるとよいと感じる。 (学校や実習先における ICT の活用に対する所感) ➤ (1年生) 学内での ICT 関連の授業はほぼなく、実習日誌も手書きであった。一方、実習先では保護者連絡等は ICT を活用して行われており、就職後を見据えると、学校でも ICT の活用方法を学びたいと感じる。 ➤ (2年生) パソコンが苦手な日誌は手書きであったが、園ではパソコンでの書類作成が多いと思う。現場で用いる様式や文書作成の基礎を授業で学べると、社会に出た際に有用であると考えている。
3. 保育士として働くことへの不安・期待	(どのような保育士になりたいか) ➤ (1年生) こどもの喧嘩や気持ちのぶつかり合いを成長の機会と捉え、こどもの成長につながる関わりを考え、実践できる保育士になりたい。 ➤ (2年生) 自身の明るさを活かしつつ、一人ひとりに合った関わりで、こどもが過ごしやすい空間をつくる保育士を目指したい。 (どのような保育方針の園に勤めたいか) ➤ (1年生) 実習経験を通じ、比較的自由的な雰囲気のある園に惹かれている。 ➤ (2年生) 自由保育と、やるべき時はやるという「メリハリ」がある園がよいと感じている。自由保育中心の実習先で、こどもたちの集団での活動に課題を感じ、このような考えに至った。 (就職活動や保育現場に対して不安に思うこと及び不安解消のために必要だと思うこと) ➤ (1年生) 実習だけでは園の実態や働き方が掴みにくく、就職先選定への不安が大きい。自分に務まるかの不安もある。不安を軽減するためには、保育園就職フェア等で複数園を比較したり、現場職員の声を直接聞く機会があるとよいと思う。 ➤ (2年生) 未満児クラスの具体的ケア(授乳、おむつ交換、安全管理)に対する実践面の不安がある。また、就職先はピアノにも力を入れているが、自身は未経験のため技能面の不安もある。就職活動に関する不安については、1年時は学校教員への相談、学校に勧められた就職フェアへの参加等により、不安を軽減した。

	（保育士として長く働き続けるために必要だと思うこと） ➤ （1年生）園の環境整備が重要であるとする。有給休暇の取りやすさ、保護者対応を担任一人で抱えるのではなく、周囲で支える体制などが必要だと思う。 ➤ （2年生）人間関係の良さが最も重要であり、就職前の見学や対話を通じて雰囲気把握してきた。
4. 今後の成長や制度への要望	（保育士としてのキャリア形成の意向） ➤ （1年生）児童発達支援士資格の取得を予定しているため、施設実習等で支援の必要なこどもへの関わりを学びたい。キャリアアップ自体は特に望まず、自分のペースで経験を積みたい。 ➤ （2年生）キャリアアップは特に志向せず、自分のペースで学びたいことを深めていきたい。 （卒業後、出身養成校にしてほしいサポート） ➤ （1年生）卒業後に教員に継続的に相談できる体制があると心強い。 ➤ （2年生）就職後の不安や園では聞きづらいことを、いつでも養成校の教員に相談できる体制があるとありがたい。 （就職後、園・法人等にしてほしいサポート） ➤ （1年生）職員ごとの得意分野（ピアノ、読み聞かせ、運動等）を活かせる役割分担と環境づくりがあるとよいと思う。 ➤ （2年生）新人が「知っていて当然」という前提ではなく、まず理解度を確認しながら丁寧に説明してもらえらる姿勢を望む。 （行政等にしてほしいサポート（金銭面以外）） ➤ （1年生）園により有給休暇の取得のしやすさに差があるため、有給休暇の取得率等、働き方に関する情報の「見える化」がされるとありがたい。 ➤ （2年生）養成校での学習に使う PC について補助があれば良いと思う。

3) F 専門学校

1. 保育への関心・志望動機	(保育士を目指した理由やきっかけ) ➤ (1年生) 小さい頃から放課後等デイサービスに通っていた。中学の頃に先生達の活動を見て、保育士の仕事を知り、先生に勧められたことがきっかけで、保育士になりたいと思った。 ➤ (2年生) 親戚のこどもが年下のみで、元々お世話好きの性格であった。また、幼稚園の時の担任の先生が当時の自分にはかっこよく見え、「この先生のようにになりたい」と思ったことがきっかけである。
2. 学びの満足度と課題認識	(カリキュラムや授業内容(保育実習を含む)に対する所感) ➤ (1年生) 5領域やこどもの発達について、バランスよく学ぶことができている。製作が苦手だが、授業で取り組む機会も多く、苦手を克服することができている。カリキュラムの課題は感じていない。 ➤ (2年生) 特に改善してほしいところはない。カリキュラムや先生の生徒への関わり方を含め満足している。また、実習前には、授業とは別に不安を解消するための講座があった。個人的には製作などに苦手意識をもって入学したが、今では人にほめられるほど上達した。 (実習日誌の負担感) ➤ (1年生) 日誌は手書きだと時間がかかる。ICTで作成できたとしても印刷の必要がある点も負担に思う。また、1日観察して、記憶して日誌を書くことがあまり得意ではなく、この点も難しさを感じる。 ➤ (2年生) 実習日誌を書くこと自体に苦手意識や改善してほしいことはない。ある園はICTの利用を許可していても、別の園は許可していないこともある。ICTを利用するよう言われても、PCを持っていない人はスマートフォンを用いており、記入する道具に差がある。PCは高価なものですぐには買うことができるわけではないため、ICTを利用するのであれば、タブレットやPCの貸し出しがあればICTを効率的に活用できる。 (実習期間について) ➤ (1年生) 実習期間は10日間であり、適切な長さだと感じている。 ➤ (2年生) 実習期間は現状のままでよいと考えている。 (学年が上がるごとに、学びや保育実習への取り組み方に変化があったか) ➤ (1年生) 前期は座学が中心で、後期には実践的な取組も増えた。授業で日誌について学ぶ中で、実習に向けた意識も高まっていった。 ➤ (2年生) 卒業が近づくにつれて授業内容が本格的になった。先生方から学ぶ以外にも、実習先での経験を他の学生と話す中でも学びになっている。実習に対しても最初は、「緊張した」、「うまくいった」と話していたが、経験を積むことで、話す内容の濃さが変わったと感じる。また、本実習とは別に、全学生が受講する科目として4日ほどのボランティア実習がある。ボランティア実習時は、園への日誌の提出はない。ボランティア実習が夏、本実習が2月にあるが、ボランティア実習は、本実習前に座学で学んだことを確認する機会になった。教科書に書いてあることを踏まえて実際にこどもに会ってみると、教科書とは別の部分もあるのだと気づくこともあった。ボランティア実習で場数を踏んでいるため、実習に対する緊張感も軽減できる。さらに、保育現場での経験を

	踏まえて友人と話したり、先生の話を知ると、新たな気づきを得られやすいと感じる。 (保育実習や授業を通じた、保育士への進路意欲の変化及びその理由) ➤ (1年生) 保育士への進路意欲は以前と変わらずにある。ただし、授業や保育実習を通じて、いつかは自分一人でこども達の制作や遊びの環境を構成することになる、という点に不安を感じた。 ➤ (2年生) 園や施設に行く際は毎回緊張する上に、前回の改善ができるか不安もあるが、実習に行くたびに経験値は高まる上にモチベーションも上がる。一方で、保育士が忙しく働いていたり、行事の際に少しピリピリした雰囲気を感じる部分もあるため、意欲が下がるところまではいかないが、不安も増すようになった。不安を軽減するために、友人に言える範囲であったことを話し、自分だけが辛い、不安だと思っているわけではないことを確かめたりしている。 (学校や実習先における ICT の活用に対する所感) ➤ (1年生) 今回の実習では ICT の活用はなかったが、実習前の講座や体験で ICT を活用した日誌の書き方を学んだ。もっと ICT に関する授業があるとよい。また、前期はオンデマンド授業がなかったが、冬休みに入って初めて利用した。自身は特にやりづらさを感じなかったが、アンケートに回答できない人もいたため、不安や不便さを感じることもある。 ➤ (2年生) スマートフォンや PC で書く方が今の学生は慣れており、修正する際も効率がよい。その分、実習中の休憩時間や、別の準備に充てる時間が増えることができる。学校での PC の授業が 1 年次のみであり、継続して授業があった方が不安はなくなると考える。また、基本は対面授業であるが、長期休みの間はオンデマンド授業がある。時間割が決まっている方が個人的には嬉しいが、自分のペースで学べることはよいと思う。不具合が起きた際に問合せの手間や、意図せず必要な対応が漏れていないかなど不安に感じることもある。
3. 保育士として働くことへの不安・期待	(どのような保育士になりたいか) ➤ (1年生) 自身が男性ということもあり、言動に注意を払い、こどもや保護者に安心、信頼してもらえる保育士になることが大切だと思う。 ➤ (2年生) 憧れだった先生がいるため、その先生のようにになりたい。その先生はユーモアのある先生で、楽しい時間が多くあった印象である。優しく接したり、こどもたちのペースを大切にしたりする必要もあるが、それと同じように、だめなものはだめ、とけじめをつけて接することができる人になりたい。 (どのような保育方針の園に勤めたいか) ➤ (1年生) 最近のこども達は外で遊んだり、自然と関わったりすることが少ないと思うため、自然を楽しんだり、自然と関わったりすることを方針にしている園に勤めたい。 ➤ (2年生) 音楽や運動など様々な部分に力を入れている園もあるが、こども自身が保育園を選べるわけではない。そのため、こども達がやりたいことに寄り添う園を選びたい。 (就職活動や保育現場に対して不安に思うこと及び不安解消のために必要だ

	と思うこと) ➤ (1年生) 就職活動が始まると先生から聞いており、現場でやっていけるか不安がある。今回の実習での反省を活かして次の実習を頑張ることで不安は解消されるのではないかと考えている。 ➤ (2年生) 経験者や先輩などから話を聞くことができる際には、不安に思っていることを正直に伝えることが大切である。就職活動や保育現場に関しても、やってみないと何が不安かわからない部分もある。また、不安を軽減するために、可能な限り行きたい園に実習に行ったり、保育園でアルバイトをするなど、他の人よりも場数を踏んで、良いことも悪いことも知りたいと思っていた。 (保育士として長く働き続けるために必要だと思うこと) ➤ (1年生) 人間関係が大事だと思う。ただ保育をして終わりではなく、失敗を踏まえた反省や改善ができる環境が大切だと思う。 ➤ (2年生) 資格を取って終わりではなく、学び続ける意欲が必要だと思う。働く中で新しい職員が入って来るが、そのような職員は新しい情報を学んで現場にくるため、自分が学んだことを当然視せず、新しい情報を柔軟に吸収したい。また、アドバイスをいただいた際には、まずは受け止めて試すことが大事だと思う。また、忍耐力も必要だと思う。
4. 今後の成長や制度への要望	(保育士としてのキャリア形成の意向) ➤ (1年生) 保育士として働く予定だが、いずれは放課後等デイサービスで働いてみたい。また、保育士コースに在籍しているため、幼稚園教諭免許状を取得することはできないが、いずれ免許を取得したい。 ➤ (2年生) キャリアアップの制度がある園を就職先として選んだ。会社に制度があれば、やってみようと思う人もいると思う。 (卒業後、出身養成校にしてほしいサポート) ➤ (1年生) 卒業後きちんと働けるか不安を感じる人もいると思うため、不安なことや、転職する際の園の選び方などが相談できるとよい。 ➤ (2年生) 就職後、別の園への就職を希望する場合、第三者の意見が重要になることがあるため、そのような相談ができると、就職した園以外の居場所があると感じることができる。 (就職後、園・法人等にしてほしいサポート) ➤ (1年生) 就職して生活に苦しむことがないような、金銭的なサポートがあると嬉しい。 ➤ (2年生) 内定している園は全国に園がある。帰省のための費用が出たり、別の都道府県の施設への異動を希望する際にサポートしてくれたりすると聞き、就職を決めた。帰省して、充電して、また頑張ることも良い働きをするためには大切である。 (行政等にしてほしいサポート(金銭面以外)) ➤ (1年生、2年生) 特にない。

3. 考察

(1) 養成校での実習・授業等の満足度及び進路意欲

(実習・授業等の満足度)

- 保育実習や授業の満足度については、「満足している（「やや満足している」「とても満足している」の合計）」と回答した割合は、「保育実習」では約 76%、「授業（保育実習以外）」では約 80%、「行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム」の満足度では、約 71%であった。なお、保育実習に関しては、保育実習を経験していない学生の回答も含んでおり、実際に1年生においては、「どちらともいえない」が 29.3%であったことを踏まえると、いずれの内容についても多くの学生が満足しているという結果であった。
- インタビューにおいても、養成校での学びに満足する声が多く聞かれた。特に、授業の中で、保育実習以外のタイミングでボランティアとして保育現場に行く経験は、「教科書に書いてあることを踏まえて実際にこどもに会ってみると、教科書とは別の部分もあるのだと気づくこともあった」、「ボランティア実習で場数を踏んでいるため、実習に対しての緊張感も軽減できる」など、学びにおいて有効であるとする声を多く聞くことができた。

(実習・授業等で改善してほしい点)

- 改善してほしい点や課題については、「保育実習」では、「記録の負担が多く、睡眠時間を確保することが難しい点」という趣旨の回答が多く見られた。また、中には睡眠不足が続いたことにより、「体調を崩した」、「翌日の実習に影響があった」などの記載もあった。実習記録作成は学生に大きな負担となっており、場合によっては実習自体に支障があることがうかがえる。
- 「授業（保育実習以外）」では、実践を増やしてほしいとの意見が多く挙がった。「座学で、教員からの一方通行な授業が多い。学生が実際に考えるような実践的な授業を期待している」、「日誌や指導案の書き方をもう少し詳しく、どのように書いたら良い評価が貰えるか教えてほしい。（実際に書く練習を増やして欲しい）」など、実践的な内容の更なる充実が求められていることがうかがえる。
- 「行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム」については、「ボランティアとか保育に関することがもっと増えてもいいと思う」、「学校行事においても、これまでに学んできた保育の技能や技術、知識を活かしたものがあると、卒業後にも活かすことができ、そして思い出ともなるものになったのではないのか」、「保育園や幼稚園で実際に行われる行事を中心に行事があるといい」など、カリキュラム以外であっても、保育との関連性があるとより満足度が高まった可能性が示唆された。また、「実習で時間がないので行事をつめつめにしないで欲

しい」、「なくていい。減らしていい。そのために時間を取るのがもったいない、行事を無くしてコマを減らしてほしい」というように、カリキュラムに余裕がなく、学生が負担に感じる場合もある様子がうかがえた。

- インタビューでは、ICT を活用した授業を増やしてほしい、という声が多く聞かれた。保育現場でも ICT を活用しているところも少なくなく、就職後を見据え、学生時代から ICT に慣れておく必要性を感じている様子がみられた。

(今後導入・拡充してほしいプログラムやサポート)

- 今後導入・拡充してほしいプログラムやサポートについては、「保育現場見学の機会」(52.0%) が最も多く、次いで、「多文化保育について学ぶ機会」(27.4%)、「ジェンダーと保育について学ぶ機会」(23.0%) であった。
- 「実習だけではなく保育現場に関われる機会を1年次から作って欲しい」という声もあるように、多くの学生が実習の機会の他にも保育現場の見学を希望していることがわかる。また、「多文化保育について学ぶ機会」、「ジェンダーと保育について学ぶ機会」、「こどもの権利・人権について学ぶ機会」などについても2割程度の回答割合があり、学生たちが昨今の社会の関心事項に敏感であることがうかがえる。
- そのほか、「メンタルヘルス支援」、「ICT 教育」についても2割弱の回答があった。

(保育実習や授業等を通じた保育士への進路意欲の変化)

- 保育実習や授業を通じて保育士への進路意欲の変化については、いずれの学年においても、「高まった(「非常に高まった」「やや高まった」の合計)」という回答が概ね70%であり、学年による大きな変化はなく、保育士への高い進路意欲があることが明らかとなった。一方で、学年があがるにつれて「変わらない」という回答が減少し、「低下した(「やや低下した」「非常に低下した」の合計)」という回答が若干増加する様子がうかがえた。
- 保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソード・体験として、こどもたちや現場の保育士との関わりの中で意欲が高まった、という声が非常に多く挙げられた。一方で、進路意欲に影響するようなネガティブな体験に対しても可能な限り必要な対策を講じ、保育士を目指した学生が夢をあきらめることのないよう支えていくことが重要である。

図表 3-36：保育士への進路意欲の変化に影響したエピソード

カテゴリ	進路意欲の変化に影響したエピソード
(ポジティブ体験)	
こどもとの関わり	● こどもからのありがとうとだいすきという言葉（専門2年） ● 実習では思い通りにいかない場面も多くあったが、授業で学んだ「こども理解」や「見守る援助」を意識して関わることで、こどもが自分で挑戦する姿を見ることができた。大変さと同時に成長を間近で感じられる点に保育の魅力を感じ、保育士として働きたいという意欲が高まった。（大学3年） ● 初めは自分から関わることに戸惑っていたこどもが、毎日の声かけや関わりを重ねるうちに心を開き、自分のそばに来てくれるようになった経験があった。その姿を見たとき、保育者の関わり一つでこどもの安心感や意欲が大きく変わることを実感し、保育の仕事のやりがい強く感じた。（短大2年）
保育士との関わり	● （保育実習Ⅱ）がとても楽しかったのと同時に現場の保育者の方の保育実践力やこどもと真剣に向き合う姿をみて、実際に自分も保育者となりこれからもっと保育実践力を高め成長したいと思ったから。（短大2年） ● ベテラン先生がいて、その先生はこどものことを一番に考える先生でした。こどもが楽しくなるにはどのような声かけがいいのか正解はないと教えてください、こどもの一緒に成長できる職業だと改めて実感でき絶対に保育士になって楽しい保育が行えるようにしたいと思いました。（大学4年） ● 最初の実習では自分には向いていないと感じたが、実習を重ねるごとに実習先の先生から褒められたり、いい先生になるねと言われて意欲が高まった（大学4年）
その他	● 実習でこういときどうすればいいんだろう？と困った時に授業内容を思い出したり、実習後の授業では何かヒントを得ることが出来ないかという視点で聞くようになり、意欲がすごく高まった。（短大2年） ● 保育園でのバイトが刺激をもらう。（短大1年）
(ネガティブ体験)	
保育士の待遇と責任のアンバランス	● 実際に保育を経験することで大変さを痛感し、そのことと給料が見合っていないことを考えてしまった ● 実際に現場の先生方の苦労を見ると、思っていたよりも現場は余裕がないと知り、自分には難しいかもと感じた。 ● たしかに先生方が楽しそうに過ごしている様子も見られる反面辛そうともみえる、休みがないお金も少ない。デメリットがでかいと現場に行き行って感じた
現場での不適切な保育等、又は実習生への対応	● 学びとは違った、実習先での現場保育士の資質に幻滅することが1番ショックで意欲を損なわれます ● 初めての研究保育後には「失敗したのはあなたのせい」「このようでは保育士になれない」と言われ、強い精神的負担を感じました。
能力への不安	● まだ自分で保育を行ったことがないので、自分にできるのだろうかという不安な気持ちで保育士への進路意欲がやや低下している
その他	● 実習がしんどい。日誌を書いたり、指導案を書くことが

(2) 保育士として働くことに対する意識

(保育士資格取得への意欲及び希望進路)

- 保育士資格取得への意欲については、いずれの学年においても、「意欲がある（「意欲がある」「とても意欲がある」の合計）」が9割を超える結果であった。一方で、将来希望する進路として、「保育・教育分野以外の職種」、「未定」を合わせると、全体で約18%であった。
- 保育・教育分野以外の職種につくことを希望している理由としては、興味をもっている別の分野での仕事や、保育士に限らずこどもに関わる仕事や、教員免許や社会福祉士など他の資格を生かした仕事につきたいなどのポジティブな理由のほか、保育士に向いていないのではないかという不安や、賃金が低いことを理由に他の職種につくことを希望しているとの回答もあった。

(保育士として働くことに対する不安や課題)

- 保育士として働くことに対する不安や課題については、複数回答で60%以上の回答があったものは、「保育の計画立案や実践」(80.6%)、「保護者への対応」(74.1%)、「職場での人間関係」(73.4%)、「仕事の責任の重さ」(67.4%)、「給与や待遇」(63.1%)、「労働環境」(60.6%)であった。
- 不安や課題を軽減するために必要だと思う支援については、「現場で働く人の話を聞く機会」が複数選択でも単数選択でも最多であった（複数選択：69.1%、単数選択：28.9%）。「話を聞くことで、不安が解消される、イメージが湧く」などの意見もあり、学生が感じる不安や課題を解消するために、現場の職員の話を書くことは非常に有効であり、更なる相談機会の充実が求められることが示唆された。
- 「給与や待遇」については、複数選択でも単数選択でも4年生の回答が最も少なかった（複数選択全体：63.1%、4年生：55.0%、単数選択全体：19.0%、4年生：11.8%）。4年生は就職活動を通して、他の職種も含めて給与や待遇を具体的に知ることができる。給与や待遇についての正確な情報を知ることが、保育士の給与や待遇への不安や課題に感じる度合いを減少させることとなることがうかがえる。インタビューでも、「先輩方がどのように就職活動をしていたのかについて早めに知りたい」、「3年生の終わり頃にキャリアセンターの職員から学生に対して就職活動に関する説明があるが、就職活動が本格化する前に説明があるとありがたい」という声もあり、社会的なイメージの影響などもあって学生が不安をいだきやすい可能性を考慮し、早い時期から情報提供を行うことが重要であると考えられる。

第4章 保育所等における指定保育士養成施設等の カリキュラムへの意識に関する調査研究

1. アンケート調査

(1) アンケート調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の保育所等の意識を把握するためにアンケート調査を実施した。

(2) アンケート調査概要

i. 調査の対象

全国の保育所等（悉皆）を対象とした。

ii. 調査の時期

令和7年12月8日（月）～令和8年1月9日（金）

iii. 調査の方法

インターネットによるアンケート調査を実施した。

こども家庭庁担当課から地方自治体（都道府県・指定都市・中核市）の児童福祉主管部局に対して、電子メールにより調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付した。各都道府県には市区町村への依頼状の送付を依頼し、各指定都市・中核市・市区町村には、管内の保育所等への案内の協力を求めた。

iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 4-1：アンケート調査項目（保育所等）

（【凡例】 SA:単数回答、MA:複数回答、NU:数値回答、FA:自由回答）

大項目	質問項目
1. 基本情報	Q1-1(SA)施設種別 Q1-2(SA)設置主体 Q1-3(NU)保育士数（実人数） Q1-4(NU)年齢別児童定員数・在籍数
2. 保育現場で求められる保育士としての知識・技能	Q2-1(MA)保育現場において、新任保育士に特に求められる知識や技能 Q2-2(MA) 新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるもの
3. 資格取得経路による相違点	Q3-1(NU) 所属する保育士のうち、保育士資格取得経路別の人数 Q3-2(SA)養成校卒業者と保育士試験合格者の間に保育実践力の違いを感じるものの有無 Q3-3(MA・SA)養成校卒業者の優れている点 Q3-4(FA)養成校卒業者の優れている点（具体的に・任意） Q3-5(MA・SA) 養成校卒業者の課題 Q3-6(FA) 養成校卒業者の課題（具体的に・任意）
4. 保育士養成課程の課題・改善点	Q4-1(MA・SA)保育実習の受け入れにあたって感じる保育士養成課程の課題 Q4-2(FA) 保育実習の受け入れにあたって感じる保育士養成課程の課題（具体的に・任意） Q4-3(FA)保育士養成課程の課題に対する効果的な改善方法（任意）
5. 回答者について	Q5-1(SA)インタビュー調査協力可否 Q5-2(FA)施設の情報

v. 回答状況

回答状況は以下のとおり。

図表 4-2：アンケート回答状況（保育所等）

		回答数	割合(%)
全体		9,311	100.0
施設種別	認可保育施設（認可保育所）	4,556	48.9
	小規模保育事業	1,215	13.0
	家庭的保育事業	108	1.2
	居宅訪問型保育事業	3	0.0
	事業所内保育事業	190	2.0
	認定こども園（幼保連携型）	2,257	24.2
	認定こども園（保育所型）	499	5.4
	認定こども園（幼稚園型）	369	4.0
	認定こども園（地方裁量型）	16	0.2
	その他	98	1.1

(3) アンケート調査結果

保育所等の実態ならびに意識等について、アンケート結果を抜粋する形で概要を示す。

なお、集計にあたって、「認可保育施設（認可保育所）」を「認可保育所」、「小規模保育事業」「家庭的保育事業」「居宅訪問型保育事業」「事業所内保育事業」を「地域型保育事業」、「認定こども園（幼保連携型）」「認定こども園（保育所型）」「認定こども園（幼稚園型）」「認定こども園（地方裁量型）」を「認定こども園」に分類している。

i. 養成校において身につけておいてほしい保育士としての知識・技能

Q2-1 保育現場において、新任保育士に特に求められる知識や技能（MA）（Q2-1）

保育所等が考える、保育現場において新任保育士に特に求められる知識や技能は以下の通りである。

図表 4-3：新任保育士に特に求められる知識・技能（MA）（Q2-1×Q1-1 施設種別）

		調査数 (n=)	(%)					
			こどもの気持ち や興味関心に応 じて、遊びの環 境を構成し、対 話的に関わる力	保育を安全かつ 楽しく展開する ための技能（運 動遊び、読み聞 かせ、ピアノ演 奏など）	行事や活動の企 画・運営を行う 力	保育内容や指導 計画（指導案） を適切に立案す る力	こどもの健康管 理や安全確保へ の対応力	障害のあるこど もや多様な背景 を持つ子どもへ の理解と対応力
全体		9311	90.6	64.6	20.3	38.4	76.0	41.8
1	認可保育所	4556	90.6	63.5	19.3	38.0	76.3	42.0
2	地域型保育事業	1516	89.2	58.4	23.2	35.2	76.8	37.7
3	認定こども園	3141	91.2	69.2	20.6	40.4	75.3	43.5
4	その他	98	91.8	68.4	14.3	41.8	71.4	39.8

		調査数 (n=)	(%)					
			保育に関する法令・制度・倫理に関する最新知識	チームで協力し、多職種と連携できる力	緊急時や災害時の適切な対応力	保護者への対応力	その他	特になし
全体		9311	26.6	76.2	40.7	51.4	7.9	0.4
1	認可保育所	4556	27.3	76.4	39.6	51.6	9.0	0.4
2	地域型保育事業	1516	31.7	76.5	45.3	49.2	6.5	0.8
3	認定こども園	3141	23.0	75.7	40.1	52.3	7.2	0.3
4	その他	98	32.7	81.6	43.9	52.0	6.1	0.0

主な「その他」の回答	
● コミュニケーション能力	
● ストレスや失敗から折れずに立て直すセルフマネジメント力、主体的かつ前向きに仕事に取り組む力	
● 学ぼうとする気持ちや挑戦する気持ち	
● 社会人としてのマナー	
● 素直な性格や前向きな姿勢	
● 豊かな感動体験と人間性	

Q2-2 新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるもの（MA）（Q2-2）

保育所等が考える、新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるものは以下の通りである。

図表 4-4：新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるもの（MA）
（Q2-2×Q1-1 施設種別）

		調査数 (n=)	(%)					
			こどもの気持ち や興味関心に応 じて、遊びの環 境を構成し、対 話的に関わる力	保育を安全かつ 楽しく展開する ための技能（運 動遊び、読み聞 かせ、ピアノ演 奏など）	行事や活動の企 画・運営を行う 力	保育内容や指導 計画（指導案） を適切に立案す る力	こどもの健康管 理や安全確保へ の対応力	障害のあるこ どもや多様な背 景を持つこども への理解と対応力
全体		9311	44.5	35.3	37.9	40.1	37.0	43.1
1	認可保育所	4556	46.3	34.6	39.2	39.0	39.9	45.4
2	地域型保育事業	1516	39.2	30.7	35.2	36.2	34.9	36.2
3	認定こども園	3141	44.5	38.6	37.6	43.9	34.2	43.1
4	その他	98	44.9	29.6	34.7	31.6	28.6	41.8

		調査数 (n=)	(%)					
			保育に関する法 令・制度・倫理 に関する最新知 識	チームで協力 し、多職種と連 携できる力	緊急時や災害時 の適切な対応力	保護者への対応 力	その他	特になし
全体		9311	27.7	41.8	38.7	58.0	7.8	6.0
1	認可保育所	4556	28.8	43.5	40.8	59.1	8.3	4.8
2	地域型保育事業	1516	24.8	38.4	37.6	54.0	8.0	10.7
3	認定こども園	3141	27.6	41.1	36.2	58.8	7.0	5.3
4	その他	98	24.5	42.9	35.7	48.0	12.2	11.2

主な「その他」の回答	
●	コミュニケーション能力
●	一般常識
●	社会人としてのマナー
●	文章作成能力
●	全てにおいて充分ではないが、新任保育士に完璧は求めない。明るく素直に前向きに頑張ろうとする姿勢が大切
●	全体的に対応力が弱いと感じる。また、精神的に弱い方も増えたように思う。

ii. 現場視点で必要と考えられるカリキュラム内容

Q4-1 保育士養成課程について課題だと感じること (MA・SA) (Q4-1)

養成校における保育士養成課程について課題だと感じることは以下の通りである。

図表 4-5：保育士養成課程についての課題 (MA・SA) (Q4-1×Q1-1 施設種別)

		調査数 (n=)	(%)						
			保育実習（時間・内容）	保育士養成カリキュラムの構成	指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内容）	指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内容）	指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）		
(MA)									
全体		9311	15.9	8.8	9.6	25.4	25.5		
1	認可保育所	4556	17.1	8.8	10.1	27.4	27.9		
2	地域型保育事業	1516	9.5	6.4	4.9	12.5	12.3		
3	認定こども園	3141	17.5	10.1	11.5	29.0	28.6		
4	その他	98	10.2	6.1	5.1	14.3	15.3		

		調査数 (n=)	(%)						
			実習指導にかかる 保育所等の負担 が大きい	保育士養成課程 に関する情報共 有不足（指定保 育士養成施設と の連携が不十分 など）	その他	特にない	保育実習の受け 入れをしていな いため、わから ない		
(MA)									
全体		9311	21.7	17.8	6.7	28.5	14.8		
1	認可保育所	4556	22.3	19.7	7.6	31.4	7.0		
2	地域型保育事業	1516	11.0	9.9	3.0	14.2	58.5		
3	認定こども園	3141	26.0	18.8	7.3	31.5	3.7		
4	その他	98	16.3	15.3	2.0	16.3	53.1		

		調査数 (n=)	(%)				
			保育実習（時間・内容）	保育士養成カリキュラムの構成	指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内容）	指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内容）	指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）
(SA)							
全体		9311	5.8	1.7	1.7	11.4	12.7
1	認可保育所	4556	6.4	1.7	1.8	12.9	13.8
2	地域型保育事業	1516	3.6	0.9	0.5	5.6	5.9
3	認定こども園	3141	6.2	2.1	2.0	12.3	14.5
4	その他	98	4.1	0.0	2.0	4.1	6.1

		調査数 (n=)	(%)					
			実習指導にかかる 保育所等の負担 が大きい	保育士養成課程 に関する情報共 有不足（指定保 育士養成施設と の連携が不十分 など）	その他	特になし	保育実習の受け 入れをしていな いため、わから ない	
(SA)								
全体		9311	11.4	6.8	5.3	28.5	14.8	
1	認可保育所	4556	11.2	7.8	5.9	31.4	7.0	
2	地域型保育事業	1516	6.1	2.3	2.4	14.2	58.5	
3	認定こども園	3141	14.2	7.5	6.0	31.5	3.7	
4	その他	98	9.2	3.1	2.0	16.3	53.1	

Q4-2 保育士養成課程についての課題について、課題だと感じる理由（FA）（Q4-2）

保育士養成課程の課題だと感じることにについて、その理由は以下の通りである。

**図表 4-6：養成校における保育士養成課程について
課題だと感じている理由（Q4-2）**

主な自由記述一覧
（保育実習（時間・内容））
● 実際に保育施設で勤務するにあたり経験してほしい内容を盛り込むには実習時間が不足しているように思う。 ● 施設からの評価表を基に評価をつける時に、評価基準の内容の求めているレベルが高く、短期間の実習中には達成できない内容の物もあり評価に困る。 ● 受け入れ側の施設も保育をしながらの実習になるので短い期間にして様々な施設に実習に行くなどしてはどうか。 ● 養成校によって必要実習時間や、提出書類など違うことが多く、学校の違う複数の実習生が実習に来る時は実習日程の設定をどうするか、提出書類に間違いはないか等、いつも以上に気を付けている。
（保育士養成カリキュラムの構成）
● 座学を十分に学んでからの実習は良いと思うが、見学などでもよいので早いうちから保育施設に触れておくとうい。 ● いわゆる一斉保育や行事主導型保育が前提となった授業や実習記録簿となっていると感じるため。 ● 実習ノートを簡素化し、こども達が探求心から成長が伸びる。カリキュラムが必要、保育士を目指す方が学生時代にそのような経験が少ないのでイメージができない。 ● 保育士養成カリキュラムの構成 アナログな実習記録
（養成校の授業内容（理論的な内容））
● 現場では歴史などの情報は使用しない。座学にける時間が多すぎる ● 指導計画のねらい・内容の理解が不十分特に内容を言語化出来ない学生が多い ● 保育の計画記録について、なぜ計画や記録をするのかの理論が分かっていない。理論が分からないから、計画の立て方や記録の仕方につまずいている。 ● 実践的なテクニックの指導ばかりで、理論や理念、哲学が実践にどのように関わるかという根源的な教育が不足している。
（養成校の授業内容（実践的な内容））
● 専門的な知識は実際現場を通して実感してもらうのですが、その前にやはり社会的なスキルはどの分野でも必要なので危機管理や報道相等社会的な単位があってもいいのではないかと感じます。 ● こども主体の保育を学んでくるわりに、指導実習は一斉型になってしまい、園の保育内容との齟齬が生じ、指導が難しい。実習ノートも、先進的な取り組みがあるが、学生自体がよくわかっておらず、結局従来型から抜け出せない。 ● ピアノや絵本の読み聞かせ等、本人が苦手とする課題を、努力して克服しようとする前から『苦手です』『ここまでしかできません』と、現状で満足している姿が増えてきている。 ● こどもの人権と発達過程を意識した実践のありかたについてのまなびが不十分かと思われます
（養成校の指導体制（学生への指導・支援不足など））
● 「とにかく実習を終えさせる・卒業させればよい」という雰囲気を感じられる。実習生から「ピアノが苦手ならやらなくてよいと学校で言われている」「資格は欲しいが就職する気がない」などの発言もある。全体的に学生への指導がなされていないと感じます。

主な自由記述一覧	
●	挨拶、返事、自分から質問するなど実習において基本的なマナーが身につけていない生徒が多い。そのため保育内容に関する指導以前に人としての常識をまず身につけさせてほしい。
●	学生が指導案の書き方等、理解しないままに実習に来ることが多い。
●	保育実習時の取り組み方について、学生の不安や心配に寄り添いすぎて、内容を薄くしたり、簡単にしてしまっているように感じる。
(実習指導にかかる保育所等の負担が大きい)	
●	園自体も保育士の数に余裕がない中で、実習ノートを添削する時間を確保するのも大変。そんな中受け入れをしても就職先となると実習を受入れてくれた園以外へ就職する学生も多くいる。
●	行事等で現場の繁忙期と重なった場合、実習日誌のきめ細やかな読み込みや助言指導及び記載に要する時間の捻出と労力。
●	実習記録の内容や指導が実習園に委ねられているので、どの程度の指導が必要かの判断が難しい。複数施設に実習に行く場合、それぞれの施設で対応が異なるので、実習生が混乱しているように感じることもある。
●	保育士になりたい人が少ないので、就職したいと思えるようにして受け入れてほしいと言われ、職員でとても気をつけて受け入れている。
(保育士養成課程に関する情報共有不足（養成校との連携が不十分など）)	
●	そもそも養成校での学習状態もわからないまま現場が受け入れざるを得ない状況もある。その学生の学習状況に合わせた実習での経験にしにくい。
●	どこを育てたいか、育ててほしいかが全く共有出来てないと思う。
●	もう少し事前の打ち合わせができたほうが実習生個人に合った指導ができると思う。また、学校によって評価内容が違うため、どこまでの実習内容を提供したらいいか、詳細を話し合える場があると、もっと有意義な実習になると思う。
●	今の現場の状況をきちんと把握していない。働く親の現状、心情、その親を受け入れている会社の現状、社会の仕組みそのもの、親と子を支えていかなければならない保育園保育士の役割をとらえるために建前だけではだめだ。
(その他)	
●	現場はタブレットや写真の活用での日誌が増えており、実習実践の日誌は手書きで、差が大きいように感じる。
●	こどもが主体的に日々を過ごし、保育士等はそのこどもの姿から保育の手立て（計画）を立てていくものであるが、大人が立てた計画にこどもを従わせる、また、それが出来る保育者を良しとする傾向はいまだに強いと感じる。また、ICTが活用されるべき時代に、いまだに手書きの強要をする養成校もあるなど、無駄に時間を浪費するばかりで保育の質が高まらない体制を変える様子がないと感じる。
●	その日の実習後に、時系列でひたすらその日の出来事を思い出して記録し、実習生自身で「こどもの目線」「保育者の目線」「実習生自身の目線」という3つの視点から、記録の中の何が重要な出来事であったかをピックアップして考察する。分量も多く、いまだきの保育の道に進学して来る学生の資質能力を大きく超える記述内容が求められている。実習日誌を書くために夜中まで時間がかかる実習生が多いのは、当然である。
●	以前に比べて実習は「経験」程度で、日誌や実習過程についてもしっかり指導をするというよりも、学生の状態に合わせて様子をみてで良いと言われることが多い。場合によっては責任実習しなくてもと言われたことがあり、今後保育士を取得し現場に出ていく学生がこの状態で就職してくることに不安があった。

Q4-3 保育士養成課程の課題の効果的な改善方法（FA）（Q4-3）

保育所等が感じている養成校における保育士養成課程についての課題を改善するために効果的だと考える方法は、以下の通りである。

図表 4-7：養成校における保育士養成課程についての
課題を改善するための効果的な方法（Q4-3）

主な自由記述一覧
（保育実習（時間・内容））
● 1日の時間をもう少し短く、7時間＋休憩45分とかにするのはどうか。それでも十分に、保育・協議・日誌・指導案できると思う。 ● 3週間から1か月でしっかり現場実習をする。 ● 4年制大学の場合、実習期間を20日から60日程度に引き上げる。その上で、1種資格、2種資格と分けるようにする。 ● 日誌をもう少し簡略化してあげて欲しい。具体的な学習ポイントを決めさらに自分なりの気づきを得やすいように目標を立てるような実習前の指導を行ってほしい。
（保育士養成カリキュラムの構成）
● 学びたいことを定めて、それを提示したうえで実習に来てもらえると良いです。 ● 優秀な教員のいる養成校など、いわゆる「優秀な」養成校は勝手にガバナンスが働いて質の向上ができていますが、地方にある「普通の」養成校ではこのような状況はうまれない。また、学生数の減少により入試機能も働いていないため、地方の養成校の質は年々低下の一途をたどっている印象。オンデマンド授業を導入するなど養成校の教員不足問題に抜本的な改革を加えないとなにも変わらないと思う。 ● ICTの活用 ● 振返りの場を共有する ● 障害児保育や多文化保育、インクルーシブ保育を扱う科目の充実 ● 「保育士養成カリキュラム」について、行政・養成校・受入れ園側で意見交換をし、検討すること。
（養成校の授業内容（理論的な内容））
● もっと実践に沿った理論の学習。詰め込みではなく、実践して、こどもの姿から理論を落とし込んでいく方法がいいのでは？ ● 幼稚園教諭はこれまでどおり2年間の期間だとしたら、保育士は0歳以上が対象となるため未満児の分と福祉的な役割の分、3年間で4年間の学習期間となり、実習と学びの振り返り、再度実習、さらに実習だとより実践的な学びができると思います。 ● 豊富な体験を積み重ねつつ、様々な保育のあり方、実践論を沢山学んで、自分はどう感じるか、自分だったらどう関わるか等、議論して豊かな感性を磨いてほしい。 ● 実習日誌の記入の仕方にももう少し時間をかけるべき。保育士になっても記録は重要。
（養成校の授業内容（実践的な内容））
● 学生と保育現場の距離がもう少し近くてもいいかと思う。しかしながら、学生の負担、学校の負担、現場の負担を考えると、妙案が浮かばない。過去に、インターンシップとして、決められた日数を園で過ごすことに単位が付く制度で学生を受けたことがある。 ● 地域の人と関わるボランティア活動や、こどものいる環境への定期的な訪問や保育ボランティア活動の経験などを取り入れてほしい。 ● こどもとの関わり、保護者対応など事例検討などを取り入れてもらう。 ● 授業の中で実習以外にも授業として園へ出向き活動を見る機会や園に協力してもらい先生方と教材研究を一緒にする機会など養成施設と連携できる園のつながりが持てると思います。

主な自由記述一覧
(養成校の指導体制（学生への指導・支援不足など））
● 1人ひとりの学生に対して対話的な支援を行うことが大切だと思います。そのような時間がとれるカリキュラムが必要なのではないでしょうか。 ● ある養成校では、いきなり実習するのではなく、ボランティア等を積極的に行うように指導していて、現場に慣れる（保育士の仕事を知る・保育士やこどもとの対話を重視する）ことを大切にしている。採用後にもそれは役立ち、即戦力となっている。 ● 実習ノートの記入方法の理解が、実習生によって異なる場合がよくある。実習ノートの記入の仕方は、事前に実習先と話し合う時間を設けることが必要。 ● 必要最低限のマナーは伝えてほしい。
(実習指導にかかる保育所等の負担が大きい)
● ●●大学がそうだったが、データによる実習記録や指導を行うことで、学生さんにとっても、園の職員にとっても負担が減ったと思う。 ● 記録簿や指導案の書き方等も詳しく書けるように授業等に取り入れたり、実習にあたっての立ち振る舞いなども指導して頂けると、保育への指導の時間が取れるようになると思います。 ● ノートの書き方や書類など、全養成校で統一してほしい。 ● 実習時期の検討。運動会前や発表会前など忙しい時に実習があると、指導者はかなりの負担である。
(保育士養成課程に関する情報共有不足（養成校との連携が不十分など））
● カリキュラムが大変なのはわかるが、学校側が人手不足で一人ひとりに力をかけられないのなら、もう少し事前に学生と保育現場が交流する時間をかけて実習を行った方が、丁寧なのでは？と感じる。 ● 学生とだけでなく、養成施設側と園で実習内容・スケジュールの打ち合わせを行えたら、学生に学んでもらいたいもののイメージがより共有できるのではないかな。 ● 個人情報もあるかと思いますが、心の病気等で留年しているや、他の園の実習で落ち込むことがあったなど、教えて頂けると配慮がしやすいです。保育士を諦めないで欲しいので、少しでもお力になりたいです。 ● 全園での実施はまず不可能であるが、養成施設と地域の認可保育園をある程度振り分けて、常に実習できる体制を整えられると、学生も現場に近い状態で学ぶことができ、就職の1つとして考えやすいと思う。大体が、所定の保育園が学生を独占している状況が見えるため、そうすると保育の幅も狭まり、学生が「保育園とはこういうものだ」という固定観念が根付いてしまう原因にもなる。また、保育士に実際なった後が問題で、古い人ほど最新の情報にアップデートできない人が多く、キャリアアップ研修等は養成施設で行えるようにすると、より身近に感じられると思う。
(その他)
● 実習記録の簡素化。こども家庭庁が主体となって、簡素化されたフォーマットを打ち出しても良いと思う。「このくらいでいいんだよ」という可視化と、こども家庭庁がそう言っているのだからと、責任の矛先になってほしい。 ● 一般常識は学校でというよりご家庭で身に付けるものが多いかと思いますが、学校指導の改善は難しい課題かと思いますが、最近の学生には実習への心構えなどをより重点的に伝えてもよいのかと思います。 ● 保育日誌を書く技術やこどもを見る力は大切だと思うが、それは見学実習や日頃の授業等で代用できないか。せっかくの現場での機会では、そこに重きを置くよりも、実践の機会を増やすほうが良いのでは。それに対して意欲を高められるような取り組みを行う。 ● 実習記録の ICT 化を進めこどもの育ちをフォーカスしたドキュメンテーションの実践など、現場に即した日誌へ移行していけたらよいと思う。

iii. 養成校卒業者と保育士試験合格者の違い

Q3-1 養成校卒業者と保育士試験合格者の数と幼稚園教諭免許保持者の数（NU）（Q3-1）

図表 4-8：養成校卒業者と保育士試験合格者の数（NU）（Q3-1）

		%	
		指定保育士養成施設卒業者	保育士試験合格者
調査数(n=)		8075	8096
全体		100.0	100.0
1	0人	2.5	67.2
2	1～4人	5.6	25.8
3	5～9人	20.3	2.9
4	10～19人	38.3	2.4
5	20～29人	24.1	1.2
6	30～39人	6.7	0.3
7	40～49人	1.8	0.1
8	50人以上	0.7	0.0

※ 無効回答は除く

図表 4-9：養成校出身者のうち幼稚園教諭免許状保有者の割合と保育士試験合格者のうち幼稚園教諭免許状保有者の割合（NU）（Q3-1）

		指定保育士養成施設卒業者のうち、幼稚園教諭免許状保持者の割合	
		回答数	%
全体		7728	100.0
1	0%	231	3.0
2	0%超-20%以下	125	1.6
3	20%超-40%以下	201	2.6
4	40%超-60%以下	290	3.8
5	60%超-80%以下	675	8.7
6	80%超-100%未満	2328	30.1
7	100%	3878	50.2

		保育士試験合格者のうち、幼稚園教諭免許状保持者の割合	
		回答数	%
全体		5037	100.0
1	0%	2457	48.8
2	0%超-20%以下	68	1.4
3	20%超-40%以下	238	4.7
4	40%超-60%以下	427	8.5
5	60%超-80%以下	207	4.1
6	80%超-100%未満	154	3.1
7	100%	1486	29.5

※ 無効回答は除く

Q3-2 養成校卒業者と保育士試験合格者間で保育実践力の違いを感じる場合の度合い（SA）
（Q3-2）

図表 4-10：養成校卒業者と保育士試験合格者間で保育実践力の違いを感じる場合の
度合い（SA）（Q3-2×Q1-1 施設種別）

		調査数 (n=)	(%)					
			大きな違いを感じる	やや違いを感じる	ほとんど違いを感じない	特に違いは感じない	わからない	
全体		4970	8.7	30.2	26.5	28.2	6.4	
1	認可保育所	2444	9.3	32.0	26.2	27.1	5.4	
2	地域型保育事業	779	12.1	32.6	26.6	22.2	6.5	
3	認定こども園	1700	6.5	26.5	26.9	32.4	7.6	
4	その他	47	2.1	29.8	23.4	36.2	8.5	

Q3-3 養成校卒業者の優れていると感じる点（MA・SA）（Q3-3）

保育所等が養成校卒業者の優れていると感じている点は以下の通りである。

図表 4-1 1：養成校卒業者の優れていると感じる点（MA・SA）
（Q3-3×Q1-1 施設種別）

(MA)	調査数 (n=)	(%)					
		保育に関する幅広い知識	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	こどもの個性や発達に応じた関わり方	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	職員同士の協調性	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力
全体	4970	42.0	31.7	33.2	39.9	14.5	16.2
1 認可保育所	2444	42.5	32.5	35.1	40.9	14.4	16.9
2 地域型保育事業	779	42.7	32.6	35.7	42.2	16.4	18.7
3 認定こども園	1700	40.7	30.2	29.1	37.5	13.9	14.1
4 その他	47	46.8	29.8	38.3	40.4	14.9	19.1

(MA)	調査数 (n=)	(%)				
		状況に応じた柔軟な対応力	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力	保護者への対応力	その他	指定保育士養成施設卒業者の方がより優れていると思う点は特にはない
全体	4970	18.8	31.2	12.3	5.3	36.5
1 認可保育所	2444	19.8	31.3	12.3	6.1	35.2
2 地域型保育事業	779	24.3	34.9	15.5	4.7	35.9
3 認定こども園	1700	14.9	29.3	10.6	4.4	38.8
4 その他	47	14.9	34.0	12.8	8.5	34.0

(SA)	調査数 (n=)	(%)					
		保育に関する幅広い知識	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	こどもの個性や発達に応じた関わり方	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	職員同士の協調性	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力
全体	4970	21.0	8.1	6.3	10.9	2.5	2.3
1 認可保育所	2444	21.6	8.3	6.5	10.4	2.3	2.5
2 地域型保育事業	779	20.7	7.8	5.8	12.1	2.1	2.8
3 認定こども園	1700	20.2	8.0	6.1	11.2	3.2	1.6
4 その他	47	25.5	6.4	6.4	8.5	0.0	2.1

(SA)	調査数 (n=)	(%)				
		状況に応じた柔軟な対応力	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力	保護者への対応力	その他	指定保育士養成施設卒業者の方がより優れていると思う点は特にはない
全体	4970	3.5	4.1	0.4	4.4	36.5
1 認可保育所	2444	3.6	4.0	0.5	5.2	35.2
2 地域型保育事業	779	5.8	2.8	0.6	3.6	35.9
3 認定こども園	1700	2.2	4.9	0.3	3.6	38.8
4 その他	47	6.4	2.1	0.0	8.5	34.0

Q3-4 養成校卒業者の優れていると感じる点（具体的に）（FA）（Q3-4）

保育所等が養成校卒業者の優れていると感じている点の具体的内容は以下の通りである。

図表 4-1 2：養成校卒業者の優れていると感じている点（具体的に）（FA）（Q3-4）

主な自由記述一覧
（保育に関する幅広い知識） ● 指定保育養成施設卒業者は、保育の現場で必要となる基礎力がとても安定していると感じる。養成施設では、発達や保育理論、健康、安全、家庭支援など保育士として欠かせない幅広い知識を学び、加えて実習を通して実践力をしっかりと身につけている。そのため、こどもの姿を捉える視点や、保育士としての立ち振る舞いが自然と備わっている方が多い印象。また、実習での経験から、保育環境の整え方や保護者への対応など、現場で直結する力が身についており、就職後もスムーズに保育に入ることができる。試験合格で保育士資格を取得された方も大きな努力をされているが、養成施設で学びを積み重ねてきた経験は、保育士としての土台をより確かなものにしていると感じる。こうした理由から、指定保育養成施設卒業者には、専門性と実践性の両面で優れた力があると評価している。
（こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方） ● こどもの気持ちをよく観察し、受け止める姿勢があり、こどもの動きをみながら待つてこどもの力を引き出す力が優れていると思います。
（こどもの個性や発達に応じた関わり方） ● こどものありのままの姿を受けとめ、そのこどもに合った関わりや援助をしている。また、こどもの主体性を重視した関わりが適切に行われている。今の育ちに寄り添いその先にある姿を見据えながら援助しているところ。
（こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力） ● 特に卒業して8年未満の職員に、その要素を感じるが、こどもたちの豊かな遊びや個々の興味や発達に合った環境の見直し、提案が豊かになっていると感じる。クルクルまわるものに興味を示しているこどもに、ボールが壁を落ちていく手作り玩具を作る、視界に入るものに気が散ってしまい落ち着いて遊び込めないこどもに、視界を遮るような環境構成を作るなど。
（職員同士の協調性） ● 養成施設での学びは座学だけではなく、実技、実習、演習、グループワークも多い。その中で、色々な経験を積み重ね同じ道を目指す者同士で学び合うことができることは強みと感じる。また、こどものへの関わりの難しさ、発達の悩み、実習での苦労、指導案、日誌作成の大変さなど言葉にしづらいことを共有、共感していることも現場に出て一人で抱え込まず周りに相談していける力になっていると感じる。保育者として育つ課程で、仲間との学び合いを深く経験しているかどうかは、現場に出てからの協調性に大きく影響すると思うのでその面は優れていると感じる。
（自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力） ● 自身の失敗や学習不足について、職員間で共有しようとする点が多くみられると感じます。たくさんのディスカッションやディベートの経験があるように感じます。

主な自由記述一覧
(状況に応じた柔軟な対応力) ● 試験で取得している人は、保育施設での実践的な実習経験がないため、補助職員としての経験や育児経験がある場合を除くと、実践的に対応がマイナスからのスタートになる。資格は取得しているだけの人間が完成している状況。自分では「苦痛」「大変だった」という記憶しか残っていなかった養成施設での実習の大切さを感じている。なぜ今こどもたちはお茶を飲むのか。なぜ保育者はこの動きをしているのか、養成施設卒業者は行動で会話が成り立つが、試験取得の人には行動で会話ができる必要最低限のものが備わっていない。
(あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力) ● 保育実習を経験していることで、遊びの展開などがスムーズにできている。ドキュメンテーションの書き方もあまり説明せずに理解できている。

Q3-5 養成校卒業者の課題があると感じる点 (MA・SA) (Q3-5)

保育所等が養成校卒業者の課題があると感じている点は以下の通りである。

図表 4-13：養成校卒業者の課題があると感じている点 (MA・SA)
(Q3-5×Q1-1 施設種別)

(MA)		調査数 (n=)	(%)					
			保育に関する幅広い知識	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	こどもの個性や発達に応じた関わり方	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	職員同士の協調性	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力
	全体	4970	10.8	14.4	15.6	16.1	22.1	26.0
1	認可保育所	2444	10.4	14.7	16.5	16.9	22.6	26.9
2	地域型保育事業	779	12.5	16.0	15.0	13.6	23.6	23.4
3	認定こども園	1700	10.9	13.5	14.8	16.2	20.8	26.2
4	その他	47	6.4	6.4	8.5	10.6	17.0	12.8

(MA)		調査数 (n=)	(%)				
			状況に応じた柔軟な対応力	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力	保護者への対応力	その他	指定保育士養成施設卒業者の方がより課題があると思う点は特にはない
	全体	4970	28.7	18.2	29.5	5.7	43.4
1	認可保育所	2444	29.3	18.7	30.4	5.8	42.6
2	地域型保育事業	779	28.4	18.2	27.6	5.8	43.5
3	認定こども園	1700	28.5	17.5	29.5	5.6	44.3
4	その他	47	14.9	17.0	12.8	4.3	53.2

(SA)		調査数 (n=)	(%)					
			保育に関する幅広い知識	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	こどもの個性や発達に応じた関わり方	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	職員同士の協調性	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力
	全体	4970	2.8	3.6	2.9	2.8	6.0	10.9
1	認可保育所	2444	2.5	3.7	3.1	2.6	5.9	11.3
2	地域型保育事業	779	4.1	4.6	3.2	2.4	6.4	8.7
3	認定こども園	1700	2.7	3.2	2.5	3.3	5.7	11.5
4	その他	47	2.1	0.0	2.1	4.3	8.5	10.6

(SA)		調査数 (n=)	(%)				
			状況に応じた柔軟な対応力	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力	保護者への対応力	その他	指定保育士養成施設卒業者の方がより課題があると思う点は特にはない
	全体	4970	10.0	3.1	9.3	5.1	43.4
1	認可保育所	2444	10.6	3.4	9.1	5.2	42.6
2	地域型保育事業	779	9.8	2.6	9.9	4.7	43.5
3	認定こども園	1700	9.5	3.2	9.2	5.0	44.3
4	その他	47	8.5	0.0	6.4	4.3	53.2

Q3-6 養成校卒業者に課題があると感じる点（具体的に）（FA）（Q3-6）

保育所等が養成校卒業者に課題があると感じる点の具体的内容は以下の通りである。

図表 4-1 4：養成校卒業者の課題があると感じている点（具体的に）（FA）（Q3-6）

主な自由記述一覧
（保育に関する幅広い知識） ● 知識はあてにならない。または知識と実際の場面とのつながりの実感は薄い。
（こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方） ● 保育の本質を学んでこなかった人は、良かれと思って、こどもを保育士の思い通りにしようとする傾向にあります。
（こどもの個性や発達に応じた関わり方） ● 個々のこどもに合わせた柔軟な考えや対応
（こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力） ● こどもの発達や関心を踏まえて環境構成を考える学びを実習などでしていないので、現場に出てピンとこない
（職員同士の協調性） ● コミュニケーション能力が低下しているように感じる。
（自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力） ● なぜかとても自信があり、自身の保育に関する課題を見出すことができない。また、先輩や上司からの助言に対して「否定された」と感じてしまうため、育成が難しい。
（状況に応じた柔軟な対応力） ● 経験から身につくものと感じているため、現場で学んでいただきたい。
（あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力） ● 遊びの中でこども達がどんなことを学んでいるのか、どんなことに気づいているのか、見る目が養われていない。また、説明ができない。経験と共に出来るようになるものだとしても、養成校で読み取る力、見てつなげて説明できる力を養ってきてほしい。
（保護者への対応力） ● 保護者への対応が苦手な職員が多く見受けられる。コミュニケーションの取り方話し方等でトラブルになるケースがある。
（その他） ● 学校卒業者の中にはただ学校を卒業し、資格を持っているというような方もいる中で保育士試験を自ら受け合格している方は自分で勉強をし、試験を受けているので学びに対して貪欲であるような気がする。

2. インタビュー調査

(1) インタビュー調査の目的

今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、保育所等の意識等を把握するためにインタビュー調査を実施した。

(2) インタビュー調査概要

i. 調査の対象

保育所等3か所を対象とした。

対象の選定にあたっては、本事業で実施したアンケート調査における、インタビュー協力可否の回答状況、保育士数、養成校卒業者と保育士試験合格者の両方の雇用があるか否か、養成校卒業者と保育士試験合格者の相違や保育士養成課程に対する課題等に関する自由記述の内容のほか、地域や施設種別の偏りを考慮した。

図表 4-15：インタビュー調査対象

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">➤ A 園（認定こども園（幼保連携型））➤ B 園（認可保育施設（認可保育所））➤ C 園（認定こども園（保育所型）） |
|---|

ii. 調査の時期

令和8年2月6日（金）～令和8年2月16日（月）

iii. 調査の方法

オンラインにて半構造化インタビューの形式で実施した。

iv. 調査項目

調査項目を以下に示す。

図表 4-16：インタビュー調査項目（保育所等）

大項目	調査項目
1. 現場で求められる知識・技能と養成課程の差異	Q1 養成校を卒業した新人保育士の知識・技能のうち、現場で特に生かされていると感じるもの Q2 養成校を卒業した新人保育士の知識・技能のうち、不足を感じるもの （新人保育士に求める保育技術の質等に関する傾向の変化・保護者対応についての所感・実習における保護者対応の機会の有無を含む） Q3 卒業した養成校の種別（四年制大学、短大、専門学校）による違い Q4 保育現場から見て、保育士養成課程について課題があると感じること及びその理由 （更なる学びの充実が求められる内容・一般常識等カリキュラム外の技能の指導に対する所感を含む）
2. 養成校卒業者と保育士試験合格者の違い	Q1 養成校卒業者と保育士試験合格者の保育実践力の違い （優れている点及び課題を感じる点）
3. その他	Q1 現場に出た後に、改めて養成校や大学院等に入学することを通して学びを深める必要性を感じるか、及びその理由 （必要性を感じる年代を含む） Q2 保育士養成に関する養成校への要望 Q3 保育実習における ICT の活用状況及び活用に対する所感・課題や工夫 Q4 保育士養成に関する行政への要望

(3) インタビュー調査結果

1) A 園（認定こども園（幼保連携型））

1. 現場で求められる知識・技能と養成課程の差異	（養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、現場で特に生かされていると感じるもの） ➤ <u>保育運営に必要な力のうち、実習で体験した事項については、概ね力を発揮できている</u>と感じる。ただし、学生自身が身に付けたスキルをいかに活用できるかは、個々の能力に大きく左右されていると感じている。 （養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、不足を感じるもの） ➤ <u>発達障害</u>に関連する知識・スキルや<u>保護者対応</u>などは、<u>実習で経験が積みにくい領域</u>のため、現場で即時に活用できていない面がある。 ➤ 当園は法人運営で約 650 名の職員が在籍しているが、新入職員の多くが該当児への対応経験がないため、<u>対応方法に迷い、メンタル面で負担を感じる</u>ケースが多い。名称や特性の知識のみが先行し、<u>具体像が伴わない座学では現場への落とし込みが難しい</u>。 ➤ 保護者支援についても、<u>実習で配慮が必要な保護者支援の場に立ち会機会が少なく、イメージが湧きにくい</u>。 ➤ 保育の良い場面や魅力・やりがいを伝える養成校はどこにでもあると思うが、大変さや命を預かる責任の重さを踏まえた上での保育の魅力を伝えられる養成校は限られている。<u>現場に入ると、想像以上に多様な支援を必要とする家庭やこどもが存在し、そのギャップに戸惑う</u>学生も少なくない。 ➤ 形式的な学びに偏った学生への指導に悩むことがある。<u>こどもの姿から保育士が各自のアイデアで活動を作り出す力は、授業の中でもっと育成されるべき</u>であり、こども主体の保育が主流化している昨今、特に求められていると感じる。 ➤ 保育実習 II では、<u>保護者支援や地域連携の学習がねらいに含まれ</u>、学生の関心・主体性も評価に影響する。実習の運営は、前半は学生からの働きかけを待ち、後半に必要ながあればこちらから説明している。ねらいを意識して実習に取り組む学生はほとんどおらず、<u>学生の気づきや受入先の意識により学習機会にばらつきが生じている</u>。実習日誌や課題に具体的な問い・確認事項を組み込み、事前オリエンテーションで学習項目や経験依頼事項を明確化するなど、仕組化ができるとよい。 ➤ ピアノが保育の全てではないため、ピアノを過度に重視して保育職への意欲を損なうような指導・評価は避けるべきだと考える。
---------------------------------	--

	(卒業した養成校の種別（四年制大学、短大、専門学校）による違い） ➤ 四年制大学卒の職員は、<u>発生した出来事をわかりやすく、相手に伝える表現で伝える力や、文章作成能力が相対的に高い</u>と感じる。ただし、いずれも最終的には個人の能力によるところが大きい。 ➤ <u>こどもへの接し方については、特段の差は感じられない。</u> (保育現場から見て、保育士養成課程について課題があると感じること及びその理由) ➤ 養成校のスタンスは学校により大きく異なる。短大からは、就職率向上を意識した「実習先で学生が保育を楽しく感じられるようフォローしてほしい」という依頼が比較的多い。一方、四年制大学からは、4月1日から現場に立ったときの、命を預かる責任を重視し、保育の専門性や命を預かる重さを厳格に伝えてほしいという学校もあり、必要であればCやDの評価をつけても構わないという姿勢がみられる。<u>学校間のスタンスの差が小さくなることが望ましい。学校運営の現状として、学生に対して過度に保護的な対応を取らざるを得ないのではないかと</u>感じている。学校に対して、支援や補助も必要ではないかと考える。 ➤ 実習だけでは、座学で学んだ内容を現場のリアルなイメージとして深めるのは難しいため、<u>学ぶ内容の大半を現場で体験的に学べる制度を整える事が望ましい。</u>言葉の暗記ではなく、体感として理解を獲得できる学びを入職前に確保したい。<u>実際の現場で困った感覚を持った状態で、大学の学びに向かうことで、理解がより深まると考える。</u> ➤ <u>こどもの権利に関する学びをカリキュラムに取り入れる必要性を感じている。</u>現状の社会的な流れでは、意図せぬ行為がこどもの権利のはく奪に該当する可能性が高く、知識と理解が求められる。 ➤ 文章構成力は入職前に学んでできると助かる。書き言葉と話し言葉の混同が非常に多く、現場での指摘や改善は本人の自信喪失につながるほど大きな負担になる場合もある。
2. 養成校卒業者と保育士試験合格者の違い	(養成校卒業者と保育士試験合格者の保育実践力の違い) ➤ <u>養成校の強みは、同じ目標をもつ学生同士が交流し、切磋琢磨できる環境があること。</u>そこで責任の重さや保育に向き合う姿勢・意識が磨かれる。一方、保育士試験合格者は独学での資格取得が多く、就職後に保育園やこども園で教えてもらえるという感覚を持つ人が比較的多い。

3. その他	(現場に出た後に、改めて養成校や大学院等に入学することを通して学びを深める必要性を感じるか) ➤ 保育士には多岐にわたる高度な専門性が求められ、<u>多くの保育者は、可能であれば改めて学び直したいと考えている。課題は、学びの機会の有無よりも、現場が研修に人を送り出せるだけの人員的・時間的な余裕を確保できるかどうか</u>にある。国による制度的・財政的なサポートがもっとあると望ましい。 (保育士養成に関する養成校への要望) ➤ 学生にとっての心地よさを優先するだけでなく、それが現場に出たとき本当に本人のためになるかを吟味したうえで関わってほしい。 ➤ <u>インターンシップをやってほしい</u>。他の専門職は実習期間が長く、厳しさに直面しながら働くイメージを形成している。それと比べると、保育の実習期間は短く、働くイメージをつかみにくいと感じている。子育て支援員の資格は比較的すぐに取得できるため、まず取得して現場で働きながら経験を積んでいくといいのではないかな。 ➤ 実習日誌の添削は、実習担当者にとって最も大きな負担になっている。<u>添削業務を縮小して対話の時間に充てられるなら、実習の充実度は大きく高まる</u>と思う。実際にやってみてわからなかった点、こどもとの関わり方、保護者対応など、現場で生きる力について学生とじっくり話し合う時間の確保が重要だと思う。 ➤ PC スキルが不足していると現場に出たときに困る場面がある。最低限の PC スキルを身につけてから就職してほしい。 (保育士養成に関する行政への要望) ➤ <u>自治体ごとの制度・財政面の差が大きい</u>ため、合同説明会等へ参加しても、学生への魅力の発信は、有給休暇の取得や職員配置などの労働条件に偏りがちである。本来であれば、<u>学生が自分の保育観に合った就職先を選ぶことが理想だが、園側が条件面でしか PR しづらい状況が生まれているのではないかな。</u> (実習生の受け入れについて) ➤ 複数の養成校から同時期に受け入れ可能人数の問い合わせがあり、調整のうえ回答しているが、<u>最終的な実習生の受け入れ数が回答数を下回ることもある。</u>
--------	---

2) B 園（認可保育施設（認可保育所））

1. 現場で求められる知識・技能と養成課程の差異	（養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、現場で特に生かされていると感じるもの） ➤ <u>保育の中で求められていることは変わってきている。</u>今まではピアノや絵などの技術的なものが求められる傾向が強かったが、<u>今はこどもの主体性や人権など、個を大切にすることの重要性が増している。</u> ➤ 養成校出身の保育士はそのような点を前もって理解して保育に臨むことができる。今後求められる保育の価値観や考えへの適応力があり、目には見えにくいこども達の育ちを見る視点は優れており、自身（園長）が学ぶことも多い。 （養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、不足を感じるもの） ➤ <u>自信をもって保育に臨むことができていると感じる。</u>現場の研修や実習において、<u>記録作成など座学の部分に時間が取られている印象</u>があり、自分がこども達としたいことをもっと積極的に伝えて良いと考える。 ➤ <u>保育に関する法令、社会情勢や保育園をとりまく環境で起きていることなどを含めた倫理観、最新の知識が不足しているように感じる。</u>保育の現場ではタイムリーに情報が入ってくるが、大学の授業だけでは最新の情報を得ることができない。 ➤ 最近、誤嚥の事故で億単位の賠償が課される判例が出たが、保育士は大きな責任を負う仕事である。責任が重すぎて保育士になる意欲を削いでしまう可能性があるため、このような事例をどこまで伝えるかは養成校も難しいかと考える。しかし、我々の仕事の根幹にあるものは人の<u>命を預かる仕事である</u>ということを踏まえれば、<u>最近起きたことや、留意点を知っておいた方がよい。</u> ➤ （実習時の保護者対応について）保護者対応をする中にはセンシティブな内容もあるため、保護者対応に関する相談があれば受ける場合もあるが、実際に対応することはない。 （卒業した養成校の種別（四年制大学、短大、専門学校）による違い） ➤ 当法人は、10 園を運営しているため多様な養成校と関わりがあるが、<u>力を入れる部分は養成校ごとに異なり、種別による違いは感じない。</u> （保育現場から見て、保育士養成課程について課題があると感じること及びその理由） ➤ <u>一般常識の部分に課題</u>を感じる。こどものことを勉強することは勿論
---------------------------------	---

	大切であるが、保護者対応の際などに一般常識や言葉遣いの面で問題があると園の信頼を失うことにつながりかねないため、学ぶ機会があると良い。赴任した4月1日、2日からこどものけがや病気などの理由により保護者の方に電話することもあるため、電話対応など社会人としての基礎について学んでおくが良いと考えている。 ➤ <u>文字を書く機会が減っており、文章が成り立っていないと感じることもある</u>。自園ではほとんど ICT 化しているが、新人の先生に教える際に文章面での指導をすることがある。社会的な環境変化に伴うものでもあり、養成校でも同様の課題があるのではないかな。 ➤ 保育士になりたいという思いを削ぐような教育はしていただきたくない。ただし、<u>向き・不向きを判断することも学校の大切な役割である</u>と思われる。 ➤ <u>カリキュラムを今後追加するとしたら、性教育・保育者による虐待に関して現場に入る前に学ぶことができるとよい</u>。我々も気をつけている上に、<u>保護者からの要望もある。プライバシーや人権と合わせて性教育をどのように行っていくかを考えることが重要</u>である。
2. 養成校 卒業者と保 育士試験合 格者の違い	(養成校卒業者と保育士試験合格者の保育実践力の違い) ➤ <u>養成校出身者は</u>学校の先生から色々な教えを受ける上に、同じ志をもつ人に囲まれて数年を過ごすため、他の施設の情報など様々な情報が広く入ってくる。そのため、<u>変化に対応しやすい</u>と感じる。一方で、保育士試験合格者は自学や現在いる施設の価値観を通して自分の考えが固まっていくことが多いと感じる。
3. その他	(現場に出た後に、改めて養成校や大学院等に入学することを通して学びを深める必要性を感じるか) ➤ <u>代替保育士の課題などはあるが、必要性は大いに感じる</u>。 ➤ 保育は社会情勢とともに変化していく。感度が高い方は、教材を読んだり研修に出たりして自身の価値観を変えることができる。しかし、10年ほど仕事を経験すると「自分の考えが正しい」という価値観が固まってしまい、変えることは困難になる。<u>数時間や全日の研修を受講しても、全てを身につけてすぐに新しい価値観をもつことは難しい</u>。 ➤ 不適切保育は個人も含めた施設の問題でもあるが、悪い意味で保育が変わらない所が多くあるのは、学び直す機会や外に触れる機会が非常に少なく、基本的にはその施設の理事長や副理事長の考えのみに基づいて保育をしているためである。国全体としての保育の考え方を養成校や大学院で学ぶことは重要であり、難しいことではあるが、<u>10年に</u>

1回1年間必ず通うくらいの必要性がある。

(保育士養成に関する養成校への要望)

- 学生達は子どもと触れ合うこと、保育に携わることを楽しみにしているため、保育の喜びや楽しさを知ってもらう機会になることが一番である。その反面、覚悟がなければ命を落とすことに繋がりがねないため、保育士になることが怖くならない程度に責任の重い仕事であることを伝えてほしい。

(保育実習における ICT の活用状況及び活用に対する所感・課題や工夫)

- 保育実習ではもっと ICT を活用するとよい。実習生にとって最も大変な部分は日誌を書くことであり、手書きで作成することがほとんどである。勤務を終えて家に帰ってから3～4時間日誌を記入して、次の日の実習に行くようなところも多い。書類の記入や1日のできごと、かわり方やこどもの様子を書くことは大切だが、ICT を利用することによって端的に作成することができると思う。実習で大切なのは子ども達と接する8時間であり、日誌作成で疲れてしまったり、体調が悪くなってしまったりしたら本末転倒でないかと考えている。
- 目で見える情報の方が書かれた情報よりも情報が入ってきやすいため、我々の保育現場では写真や動画を用いて伝え合うことが多く、同じ方針の養成校も増えていると聞いている。個人情報漏洩の問題はあるが、保育現場が ICT を利用して写真と文章で毎日の様子を伝えたりしている中で、実習日誌のみ膨大な量を手書きで作成するのではなく、写真や ICT を使った今の保育現場に合った形での実習の取り組み方があるとよい。個人情報の漏洩以外には、デバイスの使い方に関する課題もあるが、ICT を活用して記録を作れば、エピソード記録のように一日の流れよりも、一つの大きなエピソードや自分の心が動かされたことを重視して実習にあたるため、実習の意義が高まる。学校に帰ってからもエピソードを話すことができる。一日の流れだけであれば座学でも学ぶことができる。ICT を使うことで子ども達の心の部分を見ながら嬉しかったことや自分の心が動いたことの振り返りができる。

(保育士養成に関する行政への要望)

- 保育士を目指す学生が急激に減っている。こどもを産み、育てていかなければ国が衰退してしまうという危機感を持っており、こどもに携わることやこどもという存在自体の素敵さや尊さをアピールしてほしい。

2) C 園（認定こども園（保育所型））

1. 現場で求められる知識・技能と養成課程の差異	（養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、現場で特に生かされていると感じるもの） ➤ <u>保育の遂行に必要な技能は十分に習得しており、現場に入ってすぐに活用できている。</u> （養成校を卒業した若手の保育士の知識・技能のうち、不足を感じるもの） ➤ <u>コミュニケーション能力の不足を感じる。</u>対人能力の低下は<u>近年の傾向だ</u>と感じる。 ➤ <u>意欲は非常に高いと感じる。</u>一方で、<u>助言をしても自身の意思を貫こうとする人も少なくない。</u>ベテランには、考えを頭ごなしに否定せず、まずやらせるように伝えている。ベテラン層にもプライドや自身の考えを伝えたい、理解してほしいという強い思いがあり、双方のすり合わせは容易ではない。 ➤ 例として、発表会で新任の保育士が特定の企画を強く希望する場合、ベテランが負担が大きいと伝えても、新任は必ずやり遂げたいという強い意思を示すことがある。その際は、一度挑戦させてみるしかない。若手が上位者に従うのではなく、上位者が若手を支え、理解を示す場面は、以前に比べて増えている。 （卒業した養成校の種別（四年制大学、短大、専門学校）による違い） ➤ <u>四年制大学卒業者は、書類作成能力が高く、先を見通した業務遂行が可能である。指示の理解が的確で、習得も早い。</u>ただし、<u>経験を積むことで養成校の種別の差は縮まっていく。</u> （保育現場から見て、保育士養成課程について課題があると感じること及びその理由） ➤ 授業に<u>コミュニケーション力を実践的に伸ばす内容を組み込む</u>ことも有効と考える。 ➤ 保護者対応、こどもとの対話、職員間のコミュニケーションが不可欠な業務であることから、<u>メンタル面の強化が課題</u>であると考ええる。 ➤ <u>保護者対応は実務経験の積み重ねによって身につく側面が大きく、一年目からの完璧な対応は求めないのが妥当</u>と考える。 ➤ 近年の報道の動向も踏まえ、<u>プライベートゾーン等に関する基礎知識については養成校で学び、適切に指導できるような知識を備えておくことが大事</u>だと思う。
---------------------------------	---

	➤ <u>コミュニケーション能力は、養成校において学生が自発的に自身の考えや意見を述べる機会を拡充することで、向上が期待できる</u>と考える。 ➤ 実習よりも<u>ボランティアのほう</u>がハードルが低く、常に評価されているという意識も薄れるため、<u>仕事の楽しさを実感しやすい</u>と考える。 ➤ まずは「この仕事が好きかもしれない」「自分に向いているかもしれない」という実感を得る出発点が重要である。<u>初めから実習の負荷で保育士に不向きだと感じさせないよう、ハードルを下げてボランティアで保育現場に参加してみるの</u>はどうか。 ➤ <u>当市内の一部の園では、学生アルバイトを受け入れており、学生にとっては保育園・幼稚園・認定こども園等での働き方を具体的に理解できる有意義な体験</u>となっていると思う。園にとっても、若い学生との関わりはこどもたちの喜びにつながり、<u>学校で学んだ知識や技能を現場で活かしてもらうことで保育に良い影響が期待できる</u>と思う。 ➤ 保育実習の受け入れ先として、<u>若手の保育士のみが在籍する園では、まだ指導的役割を担える段階にはなく、</u>本人たちも学びの途上であるため、学生への指導のハードルが高い。精神的負担の面でも課題が大きい。
2. 養成校 卒業者と保 育士試験合 格者の違い	(養成校卒業者と保育士試験合格者の保育実践力の違い) ➤ 保育士試験合格者は、一定の社会人経験を有することから、指示や助言を素直に受け入れられない場面がある。一方、養成校を卒業して入職した人材は、<u>受容性が高く、素直である傾向がみられる。</u>
3. その他	(現場に出た後に、改めて養成校や大学院等に入学することを通して学びを深める必要性を感じるか) ➤ 学びに終わりはない。現場に出た後も学校や研修等で知識・技能を継続的に高めていくことが望ましい。時代の変化に伴い価値観や保育の在り方も変化するため、<u>スキルアップや知識のアップグレードのためにも学習は不可欠</u>である。 ➤ 多くの保育現場は疲弊し、職員配置が基準ぎりぎりのため<u>研修への派遣が困難な状況</u>にある。人員を増やし配置に余裕を持たせ、交代での休暇取得や、研修参加ができる環境整備が重要である。 ➤ 保育士のなり手が不足している。養成校への志願者数の減少、定員割れが進み、保育士の仕事に魅力を感じないという人が増えている。保育士の仕事は、日本の将来を担うこどもたちを育てるという社会の根幹であり、そこが空洞化しかねないことは重大な問題である。<u>日本の</u>

	<u>将来を見据え、幼児教育を重視し継続的に力を入れることが、20～50年後の国の基盤を左右する。</u> ➤ <u>50代以上の職員は、時代の変化に合わせて価値観を積極的にアップデートする必要がある。</u> (保育士養成に関する養成校への要望) ➤ <u>保育現場は幼いこどもの命を預かる場であることを、学校でしっかりと教えてもらいたい。</u>命を守るためには、自然災害を想定した危機対応の知識を身につける必要がある。 (保育実習における ICT の活用状況及び活用に対する所感・課題や工夫) ➤ <u>今後は ICT の活用を進めることで、業務負担の軽減が図れる</u>と考える。 ➤ <u>保育実習ではまだほとんど手書き</u>で対応している。 ➤ ICT の導入状況は園ごとの差があり、<u>国として統一的な方針・仕組みを整備することで、全国的に保育士の業務負担の軽減につながる</u>と思う。 (保育士養成に関する行政への要望) ➤ <u>給与面の一層の充実を要望</u>する。専門職としての責務・技能に見合う水準への改善が望ましく、それにより職業の魅力が高まり、なり手の増加につながると思う。
--	--

3. 考察

(1) 養成校において身につけておいてほしい保育士としての知識・技能

(新任保育士に特に求められる知識や技能)

- 新任保育士に特に求められる知識や技能について尋ねたところ、90.6%の施設が「こどもの気持ちや興味関心に応じて、遊びの環境を構成し、対話的に関わる力」と回答し、2番目に多い選択肢と約15ポイントの差があった。
- 近年の保育では、こどもを主体とした保育が求められており、こどもが自身のきもちや関心に基づいて主体的に行動がとれるような環境を構成する力が保育士に求められていることが示唆されている。
- また、「チームで協力し、多職種と連携できる力」(76.2%)、「こどもの健康管理や安全確保への対応力」(76.0%)も多く回答があった。
- 「チームで協力し、多職種と連携できる力」に関連することとして、保育所保育指針の解説において「一人一人の子どもに細やかに対応し心身の健やかな発達を支援促していく上で、職員全体の連携や協働は欠かせない」(p. 59)とあり、適切な保育の実践のために他の職員と連携することの重要性が示されている。アンケートの結果から、現場においても、職員同士の連携が重視されていることがうかがえる。
- 「こどもの健康管理や安全確保への対応力」については、保育所保育指針解説において、「子どもの健康や安全の確保、発達の保障等の観点から、各保育所が行うべき保育の内容等に関する全国共通の枠組みが必要となる。」(p. 1)ことから、指針において基本的事項を定めるとあり、保育の根幹にはこどもの健康と安全を保障することがあることがわかる。アンケート調査での自由記述欄やインタビュー調査においても、「保育士の仕事は命を預かる仕事」との意見が見られ、現場も健康管理や安全確保に細心の注意を払っており、新人の保育士にもこの力を求めている。

(新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるもの)

- 新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるものとしては、「保護者への対応力」(58.0%)が最も多く挙げられた。一方で、求められる知識や技能として「保護者への対応力」を挙げた割合は51.4%であり、他の項目よりも顕著に多い傾向はみられなかった。
- 保護者対応については、「養成校では、経験できないことになるため就職してから困る職員が多い」という声がある一方で、「就職してから、身につけていくと思う」という声も少なくなく、他の項目に比べて保育士に求める力として挙げた割合が少なかったと考えられる。
- そのほか、「その他」の自由回答として「一般常識、社会人としてのマナー」が挙げられた。新人とはいえ、就職後すぐに保護者対応をする可能性があることから最低限のマ

ナーを身に付けておいてほしい、という声は少なくなかった。

(2) 現場視点で必要と考えられるカリキュラム内容

(保育士養成課程についての課題及び改善案)

- 保育実習の学生を受け入れる際に感じる養成校における保育士養成課程についての課題としては、「指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）」（複数選択：25.5%）、「指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内容）」（同 25.4%）、「実習指導にかかる保育所等の負担が大きい」（同 21.7%）が高い割合で挙げられた。また、それぞれの課題の詳細や改善するための様々なアイデアが挙げられた。現場の声も聞きながら改善に向けた取り組みを進めることが重要であると考えられる。

図表 4-17：保育所等向けの調査で得られた
保育士養成課程についての課題及び改善案の概要

カテゴリ	課題を改善する方法案
指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）（複数回答の回答割合 25.5%）	● 1人ひとりの学生に対して対話的な支援を行う時間がとれるカリキュラムとする。 ● 実習前にボランティア等を積極的に行い、現場に慣れる（保育士の仕事を知る・保育士やこどもとの対話を重視する）こと。採用後も即戦力となる。 ● 実習日誌の記入の仕方などは、事前に実習先と話し合う時間を設ける。 ● 必要最低限のマナーは伝える。
指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内容）（同 25.4%）	● 現場との意見交換、情報共有が大切。決められた日数を園で過ごすことで単位を取得できるインターンシップなどを活用し、学生と保育現場の距離を近づける。 ● 地域の人と関わるボランティア活動や、こどものいる環境への定期的な訪問や保育ボランティア活動の経験などを取り入れる。 ● こどもとの関わり、保護者対応など事例検討などを充実させる。 ● 園に協力してもらい先生方と教材研究を一緒にする機会など養成校と連携できる園のつながりを作る
実習指導にかかる保育所等の負担が大きい（同 21.7%）	● データによる実習記録や指導を行うことで学生、園の職員の双方の負担を軽減する。 ● 記録簿や指導案の書き方等も詳しく書けるように授業等に取り入れたり、実習にあたっての立ち振る舞いなども指導し、保育への指導の時間を充実させる。 ● ノートの書き方や書類など、全養成校で統一する。 ● 園の行事との重複を避けられるよう実習時期を柔軟にする。
保育士養成課程に関する情報共有不足（同 17.8%）	● （学校側が人手不足で対応が難しい場合）実習前に学生と交流する時間を確保してから実習に臨めるようにする。 ● 学生だけでなく、養成校側と園で実習内容・スケジュールの

カテゴリ	課題を改善する方法案
	打ち合わせを行い、保育実習の目的等を共有する。 ● 個人情報には配慮の上で、精神面での不調等の情報を共有し、必要に応じて実習先で配慮できる環境を作る。 ● 養成校と地域の保育所をある程度振り分けて、常に実習できる体制を整備する。 ● キャリアアップ研修等を養成校で行い、身近に感じられる関係づくりを行う。
保育実習（時間・内容） （同 15.9%）	● 1日の時間をもう少し短く、7時間＋休憩 45分などにして負担を軽減する。 ● 3週間から1か月など、現場実習の期間を延ばす。 ● 4年制大学の場合、実習期間を20日から60日程度に引き上げ、1種資格、2種資格に分ける。 ● 日誌を簡略化し、具体的な学習ポイントを決め、さらに自分なりの気づきを得やすい目標を立てるよう、実習前指導を行う。 ● 一度は3週間連続の実習を行う。 ● 一回の実習期間を短くし、回数を増やす。
指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内容） （同 9.6%）	● 実践に沿った理論の学習（詰め込みではなく、実践して、こどもの姿から理論を落とし込んでいく）とする。 ● 豊富な体験を積み重ねつつ、議論して豊かな感性を磨く。
保育士養成カリキュラムの構成（同 8.8%）	● 学びたいことを定めて、それを実習先に提示したうえで実習に臨む。 ● オンデマンド授業を導入するなど養成校の教員不足問題に対して抜本的な改革を加える（オンデマンド授業の活用による教員軽減のほか、他の養成校の良い実践をオンデマンド教材として学ぶことで学びの質の向上にもつなげることができる）。 ● ICTの活用 ● 障害児保育や多文化保育、インクルーシブ保育、こどもの権利、性教育、保育者による虐待を扱う科目の充実 ● 「保育士養成カリキュラム」について、行政・養成校・受入れ園側で意見交換をし、検討する。
その他（同 6.7%）	● 実習記録を簡素化する（こども家庭庁が主体となって、簡素化されたフォーマットを打ち出し、最低限求められる水準を示す）。 ● 実習記録のICT化を進めこどもの育ちにフォーカスしたドキュメンテーションの実践など、現場に即した日誌へ移行する。 ● 保育日誌を書く技術やこどもを見る力は見学実習や日頃の授業等で扱い、現場では実践の機会を増やす。

(3) 養成校卒業者と保育士試験合格者の違い

(保育実践力の違いについて)

- 養成校卒業者と保育士試験合格者の間に保育実践力の違いを感じるかを尋ねたところ、「感じる(「大きな違いを感じる」「やや違いを感じる」の合計)」と回答した割合は 38.9%、「違いを感じない(「ほとんど違いを感じない」「特に違いは感じない」の合計)」は 54.7%であり、施設種別による回答傾向に大きな違いは見られなかった。現場においては、保育実践力の面において資格取得経路の違いによる差をあまり感じていない施設が相対的に多いことがうかがえる。

(養成校卒業者が優れていると感じる点：保育に関する幅広い知識)

- 養成校卒業者の優れているとしては、「より優れていると思う点は特にない」という回答を除き、「保育に関する幅広い知識」が複数選択でも、単一選択でも最も割合が高かった(複数選択：42.0%、単一選択：21.0%)。
- 特に優れている点を具体的に問うた自由記述において、知識に関して述べられていた回答として、「2年以上かけて、専門的な知識を身に付けている。」と同様の趣旨の回答が複数あった。養成校で学んだ保育やこどもに関する知識は、現場でも評価されていることがわかる。
- その他にも、「手あそびやわらべ歌あそび、ゲームなどをよく知っている」という回答もあり、保育理論に関する知識のみならず、実践において必要な知識を養成校で学んでいることが評価されている様子がうかがえる。
- 「最新の保育を学んでいる」という趣旨の回答も複数あった。また、「カリキュラムが新しくなっていて、保育の考え方や捉え方など保育に関する最新の教育を受けているので、新卒の職員の現場でのこどもに対する接し方や教養は経験を積んでいる職員も見たり聞いたりすることで新たな学びや気づきとなり勉強になる」という意見もあった。養成校では、最新の研究や、指針に基づいた授業がなされており、養成校の授業を通して最新の知識や保育観を習得しているといえる。そして、養成校出身者の学びが現場に既にいる職員にも良い影響を与えていることが示唆された。
- 以上のように、養成校卒業者は、保育やこどもに関する理論的な基盤、実践において必要な知識、最新の知識を有していると考えられ、この点が4割以上の施設に評価されている。これに加えて、保育士試験合格者との違いとして保育実習の経験を有していることを挙げている自由記述回答もあり、保育実習を通して現場を理解していること、保育の経験があることが評価されていた。

(養成校卒業者が優れていると感じる点：その他)

- 「こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力」(39.9%)、「こども

の個性や発達に応じた関わり方」(33.2%)、「こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方」(31.7%)も回答割合が高かった。いずれの力も保育所保育指針で求められている力である上に、こどもの発達に関する理解が求められる力である。上記のように養成校卒業者は、多角的な知識をもち、実習による経験もあることから、これらの力において優れていると考えられる。

- 一方で、自由記述欄には「人によって異なる」という趣旨の記載や、人によって異なることを前提とした回答があった他、「指定保育士養成施設卒業者の方が優れていると思う点は特にない」との回答も36.5%あった。
- インタビューでは、養成校で学ぶことの良さとして、同じ資格を目指す人との関わりを作ることができるということが複数の施設で挙げられていた。在学中は学生同士で実習や授業の振り返りをする中で、責任の重さや、保育に向き合う姿勢や意識が磨かれていき、就職した初日から保育者としてみられているという意識をもっているとの話があった。また、卒業後も交流が続くことで、他の施設の様子を知ることができ、幅広い情報を得ることができているとの意見もあった。
- 養成校において、保育分野に関心のある学生の中で学ぶことで、知識や保育士としての心構えが構築される上に、卒業後も就職した施設以外の状況を知りやすく、多角的に保育をみることに繋がっていると考えられる。

(養成校卒業者の課題だと感じる点)

- 養成校卒業者の課題がある点としては、「保護者への対応力」(複数選択：29.5%、単数選択：9.3%)「状況に応じた柔軟な対応力」(複数選択：28.7%、単数選択：10.0%)「自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力」(複数選択：26.0%、単数選択：10.9%)「職員同士の協調性」(複数選択：22.1%、単数選択：6.0%)の回答割合が多かった。
- 上記4つの選択肢のうち、「状況に応じた柔軟な対応力」以外は、いずれも保育の対象となるこどもではなく、保護者や同僚といった大人と関わる際に主に必要となる力である。インタビューにおいて、保育士試験合格者は他の職を経験している場合がほとんどであり、言葉遣いや電話対応の面で優れているとの意見があった。養成校のインタビューでは、実習先に迷惑をかけないよう、実習指導においてマナーなどを教えているとの話もあったが、社会人経験をもっていない養成校卒業者にとって、働く上で必要な常識を習得し、実践することが難しいことがうかがえる。
- これらの力にはコミュニケーションが求められるが、特に課題に感じている点を具体的に聞いた自由記述では、コミュニケーション力が不足しているとの意見が多くあった。
- 保育実習における保護者対応については、保護者対応にはセンシティブな内容もある

ため、実習中に保護者対応を行うことはほとんどない施設がある一方で、保護者支援や地域との交流について学ぶことが実習のねらいに定められている場合は、学生が保護者対応に関心をもつようにしている施設もあることがインタビューで明らかになった。ただし、後者の施設のインタビューでは「実習中に配慮が必要な保護者の支援の場に立ち会うことが少なく、イメージが湧きにくい」とも述べられており、実習において保護者対応に関わる機会を有していたとしても、実際に現場で必要な技能を身につけるだけの経験をすることは質的にも量的にも難しいことがうかがえる。

第5章 総合考察

1. 現行カリキュラムの強み

(1) 最新の知識の獲得

- 各養成校では、告示に則った授業が行われている。告示は保育所保育指針や最新の知見等に基づいて定められており、養成校には、それらの教授が期待されている。
- 保育所等を対象としたアンケートやインタビューにおいて、「カリキュラムが新しくなっていて、保育の考え方や捉え方など保育に関する最新の教育を受けているので、新卒の職員の現場でのこどもに対する接し方や教養は経験を積んでいる職員も見たり聞いたりすることで新たな学びや気づきとなり勉強になる」といった声が聞かれるなど、養成校出身の学生が、最新の動向に基づいた知識を学習している点が保育現場でも評価されている様子がうかがえた。
- 各種アンケートにおいて「多文化保育」、「ジェンダーと保育について」「障害のあるこどもや発達に特性のある子ども、医療的ケア児」、「虐待や性暴力の防止等を含む、こどもの権利擁護に係る内容」などを学ぶ機会が求められていることが明らかになっており、引き続き最新の社会情勢等に基づいた知識を学生に伝えていくことが求められている。

(2) 実践の機会

- 養成校のアンケートで保育士養成課程の方針や特徴を尋ねたところ、養成校全体として、「子ども理解、環境構成などの実践面を重視」が最も多く、次いで、「実践と理論の往還型の教育」、「造形・音楽・言語など実技技能を重視」が挙げられた。また、指導方法の特徴や工夫をしている点についても、「実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導」という回答が養成校全体で9割を超えており、いずれの学校種においても、保育現場で求められる実践的な学びを重視していることがうかがえる。その中でも、大学では、理論的基盤も踏まえた保育の実践に力を入れる傾向があり、専門学校では、保育現場での経験や実技も含む実践面の強化に特に力を入れる傾向があるなど、学校種による傾向の違いがある様子がみられた。
- 保育所等からは、「実習での経験から、保育環境の整え方など、(途中省略)現場で直結する力が身についており、就職後もスムーズに保育に入ることができる」、「責任の重さや保育に向き合う姿勢・意識が磨かれる」、「こどもの気持ちをよく観察し、受け止める姿勢があり、こどもの動きをみながら待ってこどもの力を引き出す力が優れている」といった声が聞かれるなど、養成校での実践的な学びが保育現場でも評価されていることがわかる。

- 一方で、保育所インタビューでは「形式的な学びに偏った学生への指導に悩むことがある。こどもの姿から保育士が各自のアイデアで活動を作り出す力は、授業の中でもっと育成されるべき」という声も聞かれ、養成校ごとの取組状況や学生の状況によっても差がある可能性が示唆された。

2. 現行カリキュラムの課題

(1) 保育実習以外における課題

i. 保育現場での学びの機会のさらなる充実

- 養成校、学生、保育所等のいずれにおいても、保育実習とは別にインターンシップやボランティアなどで現場経験を増やすことに対して前向きな声が挙げられていた。これにより、実践を踏まえた上での学びとなり、学習効果がさらに上がることが期待される。また、学生アンケートでは、現場で働く保育士の話を聞きたいなどの意見が多くみられたが、現場に行く機会を増やすことは、保育士と接する機会が増えることにもなり、保育士になることへの意欲の向上など学習以外の面でも効果があると考えられる。
- 保育所からも、学生や養成校等との接触頻度が高まることで、相互理解につながり、保育実習をより有益なものにするのみならず、採用後にスムーズに現場で活躍しやすいなどの声もあった。
- ただし、現状ではこうした取組の実施割合は養成校の半数弱にとどまっていた。現場との交流機会が増えることで、調整等の事務作業も増えることから、マンパワーが少ない養成校においては対応が難しい可能性がある。そのためには、カリキュラムのスリム化、養成校間での更なる連携の強化、オンデマンド授業の積極的な活用、ICT 活用等により、より深い学びのために求められているものに集中的に時間を割けるような体制にしていくことが重要であると考えられる。

(2) 保育実習における課題

i. 実習期間

- 実習生を受け入れることは保育所の負担につながるが、保育所からは実習期間の延長を望む声が少なくなかった。一方で養成校からは実習期間の延長を望む声はあまりなく、背景として、カリキュラム上の余裕がないことや教員不足等による対応の難しさがあることが考えられる。ただし、他の専門職よりも実習期間が短い、という指摘もあることから、より長い実習期間を設けられるようなカリキュラム編成を検討することも考えられる。

ii. 実習施設毎で生じる差異

- 養成校へのアンケート調査やインタビュー調査では、実習先の指導者の力量や方針によって学びの内容や、評価が一定でないことが課題として挙げられていた。
- 保育所のアンケートにおいて、「実習内容が保育所まかせになっている」との意見がみられ、養成校側からも「共通のチェックリストのように抑えるべき項目を示す枠組みを（国に）提示いただきたい」といった声が聞かれた。

iii. 実習日誌の負担

- 学生インタビューでは、「（日誌を）書くうちに1日の流れや、こどもたちの姿を振り返ることができる。その際に、こどもの行動の背景を考えることができ、自分の保育力が上がっていると感じる」という声も聞かれた一方、アンケートでは、実習日誌の作成に時間がかかり、睡眠時間が削られ、実習に支障が出ているといった、実習日誌を負担に感じる旨の意見が少なくなかった
- また、保育所のアンケートやインタビューにおいても、実習生にとって日誌作成の負担が大きいことが課題として挙げられており、記録の量が多いことで、保育所側も添削や確認に時間がかかるとの課題も明らかとなった。
- ICT化や記録に記載する事項を絞ることで、学生にとっては、実習に集中できる環境が整うこととなる。また、保育所にとっても業務の負担が減り、より実習生との振り返り等に時間を活用できるようになると考えられる。
- 現場はタブレットや写真の活用での日誌が増えているという声もある。写真等の活用は日誌の作成や添削の負担軽減につなげることも可能になると考えられる。現場に即した形で実習日誌の多様な在り方を検討することが望まれる。

（3） 現行カリキュラム等への改善要望のまとめ

- 本事業では、養成校、学生、保育所等から、保育実習を含む、保育士養成課程の標準カリキュラムに対する改善に向けた様々なアイデアを聞くことができた。図表 2-66、図表 4-17 を改めて示す形で、改善要望等の概要を示す。なお、学生からも様々なアイデアが出されたが、概ね下図表に含まれているものと考えられる。

図表 5-1：養成校向けの調査で得られた標準カリキュラムの主な改善要望（再掲）

カテゴリ	主なアイデア
科目の統廃合	● 「子どもの健康と安全」の内容を「子どもの食と栄養」「子どもの保健」「保育内容指導法・健康」の中に組み入れ、科目を削除 ● 「子ども家庭支援の心理学」の内容は、「子ども家庭支援論」「保育の心理学」に分けて統合 ● 「保育者論」「保育の計画と評価」は、「保育原理」に統合して通年科目としてもいいと思う

	● 子ども家庭福祉と子ども家庭支援論は統合できないか
科目の新設、充実に向けたアイデア	● <u>障害のあるこどもや発達障害児、医療的ケア児への支援</u>が増えており、より深い理解と対応力が求められているため、<u>インクルーシブ保育に関する内容</u>をより実践的に学べるよう科目内容の充実を図ってほしい ● <u>外国にルーツのあるこどもの受け入れ</u>が増えてきていることから、内容の追加が期待される ● <u>虐待や特別支援に関する科目の体系化</u> ● 保育所等における<u>虐待や性暴力の防止等を含む、こどもの権利擁護に係る内容</u>の強化 ● 地域の親子と関わる機会が増えているため、<u>地域子育て支援に関する内容を必修科目として明確に位置づけてほしい</u>。 ● 家庭支援が大切なら<u>ソーシャルワークの視点を伝えられるような授業（以前の相談援助）の科目を再度設置</u>してほしい。 ● <u>保護者支援や子育て支援</u>の重要性が高まり、対応に苦慮している状況があるため、そうした領域を改めて拡充していくべき ● 養成課程の<u>初期の段階で現場に触れる機会</u>を組み込むとよい
科目名称の変更	● 子ども家庭～が付く科目が多く、学生が混乱する。
その他	● 1つの科目の中に盛り込まれる分野（内容）が多くなればなるほど、担当者1人の単独担当では難しく、オムニバスで担当を分担しなければならなくなるケースが生じる ● 演習科目の人数制限をなくして欲しい ● 科目数や実習日数をもう少し減らしていただければ、学生に余裕が生まれ、学びやすい環境になる ● 認定こども園制度の拡充により、幼児期の教育・保育は制度上すでに一体化が進んでいる。一方で、保育士資格と幼稚園教諭免許の養成課程は依然として別建てで設計されており、大学における授業科目の重複や、学生・教員双方の負担増を招いている

図表 5-2：保育所等向けの調査で得られた
保育士養成課程についての課題及び改善案の概要（再掲）

カテゴリ	課題を改善する方法案
指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）（複数回答の回答割合25.5%）	● 1人ひとりの学生に対して対話的な支援を行う時間がとれるカリキュラムとする。 ● 実習前にボランティア等を積極的に行い、現場に慣れる（保育士の仕事を知る・保育士やこどもとの対話を重視する）こと。採用後も即戦力となる。 ● 実習日誌の記入の仕方などは、事前に実習先と話し合う時間を設ける。 ● 必要最低限のマナーは伝える。
指定保育士養成施設の授業内容（実	● 現場との意見交換、情報共有が大切。決められた日数を園で過ごすことで単位を取得できるインターンシップなどを活

カテゴリ	課題を改善する方法案
実践的な内容) (同 25.4%)	用し、学生と保育現場の距離を近づける。 ● 地域の人と関わるボランティア活動や、こどものいる環境への定期的な訪問や保育ボランティア活動の経験などを取り入れる。 ● こどもとの関わり、保護者対応など事例検討などを充実させる。 ● 園に協力してもらい先生方と教材研究を一緒にする機会など養成校と連携できる園のつながりを作る
実習指導にかかる 保育所等の負担が 大きい (同 21.7%)	● データによる実習記録や指導を行うことで学生、園の職員の双方の負担を軽減する。 ● 記録簿や指導案の書き方等も詳しく書けるように授業等に取り入れたり、実習にあたっての立ち振る舞いなども指導し、保育への指導の時間を充実させる。 ● ノートの書き方や書類など、全養成校で統一する。 ● 園の行事との重複を避けられるよう実習時期を柔軟にする。
保育士養成課程に 関する情報共有不 足 (同 17.8%)	● (学校側が人手不足で対応が難しい場合) 実習前に学生と交流する時間を確保してから実習に臨めるようにする。 ● 学生だけでなく、養成校側と園で実習内容・スケジュールの打ち合わせを行い、保育実習の目的等を共有する。 ● 個人情報には配慮の上で、精神面での不調等の情報を共有し、必要に応じて実習先で配慮できる環境を作る。 ● 養成校と地域の保育所をある程度振り分けて、常に実習できる体制を整備する。 ● キャリアアップ研修等を養成校で行い、身近に感じられる関係づくりを行う。
保育実習(時間・内 容) (同 15.9%)	● 1日の時間をもう少し短く、7時間+休憩 45分などにして負担を軽減する。 ● 3週間から1か月など、現場実習の期間を延ばす。 ● 4年制大学の場合、実習期間を20日から60日程度に引き上げ、1種資格、2種資格に分ける。 ● 日誌を簡略化し、具体的な学習ポイントを決め、さらに自分なりの気づきを得やすい目標を立てるよう、実習前指導を行う。 ● 一度は3週間連続の実習を行う。 ● 一回の実習期間を短くし、回数を増やす。
指定保育士養成施 設の授業内容(理 論的な内容) (同 9.6%)	● 実践に沿った理論の学習(詰め込みではなく、実践して、こどもの姿から理論を落とし込んでいく)とする。 ● 豊富な体験を積み重ねつつ、議論して豊かな感性を磨く。
保育士養成カリキ ュラムの構成(同 8.8%)	● 学びたいことを定めて、それを実習先に提示したうえで実習に臨む。 ● オンデマンド授業を導入するなど養成校の教員不足問題に対して抜本的な改革を加える(オンデマンド授業の活用による教員軽減のほか、他の養成校の良い実践をオンデマンド教材として学ぶことで学びの質の向上にもつなげること

カテゴリ	課題を改善する方法案
	ができる)。 ● ICT の活用 ● 障害児保育や多文化保育、インクルーシブ保育、こどもの権利、性教育、保育者による虐待を扱う科目の充実 ● 「保育士養成カリキュラム」について、行政・養成校・受入れ園側で意見交換をし、検討する。
その他（同 6.7%）	● 実習記録を簡素化する（こども家庭庁が主体となって、簡素化されたフォーマットを打ち出し、最低限求められる水準を示す）。 ● 実習記録の ICT 化を進めこどもの育ちにフォーカスしたドキュメンテーションの実践など、現場に即した日誌へ移行する。 ● 保育日誌を書く技術やこどもを見る力は見学実習や日頃の授業等で扱い、現場では実践の機会を増やす。

3. 保育士養成に関連したカリキュラム以外の課題

（１） 一般常識等、カリキュラム外での学び

- 保育所等のアンケートにおいて、実習で受け入れる学生の挨拶や礼儀、一般常識などに疑問を感じるとの回答が少なくなかった。最低限のマナーを身に付けておくことは、保育現場で保育士や保護者とコミュニケーションをとるうえでも重要となる。一方、養成校のインタビューでは、実習前に学生たちにマナーなどを基礎的な部分から教える必要があり、負担となっているとの意見があった。
- どこまで養成校で対応すべきかは線引きが難しいが、保育実習で保護者と関わる機会もあることに加え、保育実習では保育の実践に関する学びを深める時間とすべきであることから、最低限のマナーは養成校にて指導することが求められると考えられる。ただし、全ての部分を養成校が担うことは困難であるため、上記２（１）i）にて記載の通り、養成校と保育所等の接触頻度を高めて現代の学生の状況に関する理解を深め、養成校と保育所等の双方で学生を育てる意識をもつことが重要であるといえる。

4. 今後の課題

（よりよく実態を把握するために）

- 本事業では、養成校、学生、保育所等を対象に調査を行った。現行の標準カリキュラムの課題等をよりよく把握するためには、入職後数年経った保育士を対象とした調査を行うことも有効であると考えられる。これにより、養成校での学びのうち、どのようなことが保育現場で役に立ち、どのような面で更なる充実が求められるかを把握するこ

とにつながると考えられる。

（AI の利活用）

- 養成校のカリキュラム改定状況の中で、AI 関連科目の新設が行われている旨の回答も見られたが、各種調査全体としては AI に言及した回答は少なかった。AI の利用ルールは各養成校で異なるため、各実習園とも丁寧な連携を行う必要があると考えられる。また、今後、各養成校での AI の利活用が進んだ際に、個人情報の漏洩リスクへの対応や、指導案や振り返りにどこまで AI を活用してよいのかなど、様々な課題が出てくる可能性がある。AI を活用したよりよい保育環境を実現するために、保育士養成課程においても AI の効果的な活用方法や考え得るリスクへの対応方法を模索していく必要があるといえる。

（リカレント教育の推進）

- 保育所インタビューでは、保育士として現場に出た後の学び直しの機会を望む声が多く聞かれた。一方で、学び直しの時間を確保するためには、保育現場に余裕がないことが課題として挙げられている。リカレント教育を行う職員の数に応じて行政から保育所等に補助金を出すなど、公的な支援が入ることは職員の学び直しにつながる可能性があると考えられる。また、短期大学などで学生の募集を停止するところも増えてきている。学生インタビューでは、出身校での学び直しを希望する声も聞かれたが、学び直しの場が少なくなってしまうことも課題となる可能性がある。

（保育士を志望する学生を増やすために）

- 保育所インタビューにて、養成校のスタンスは学校により大きく異なるという指摘があった。「短大からは、就職率向上を意識した『実習先で学生が保育を楽しく感じられるようフォローしてほしい』という依頼が比較的多い」とのことで、保育士を志望する学生が少なくなると、養成校としては多くの学生に来てもらえるよう就職率や学生満足度に意識がいきやすくなることが考えられる。学生自身が課題と向き合えるような指導をする上で、過度に保護的な対応を取らざるを得ない状況は必ずしも望ましいとは言えない。こうした対応をしなくて済むよう、養成校に対する財政的支援や、こどもという存在自体の素敵さや尊さをアピールするなどして、保育士を志望する学生を増やすための行政のバックアップが求められるといえる。

付録 資料編

資料編への掲載内容

- 各種アンケート調査票
- 各種アンケート集計結果

■ アンケート（指定保育士養成施設） 見本

指定保育士養成施設等におけるカリキュラム実施に関するアンケート
ご協力のお願い

こども家庭庁委託事業
「大学・短期大学等における保育士養成に関する調査研究業務一式」事務局
(有限責任監査法人トーマツ)

- ・ 有限責任監査法人トーマツでは、こども家庭庁委託事業として「大学・短期大学等における保育士養成に関する調査研究業務一式」を行っております。
- ・ この事業は、**今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の指定保育士養成施設等の実態や指定保育士養成施設等に通う学生、ならびに保育所等の意識を明らかにすることを目的としたもの**です。
- ・ この度、この事業の一環で、**現在の指定保育士養成施設等の実態、カリキュラム内容や指導体制、実習の在り方等を把握するため、全国の指定保育士養成施設等を対象としたアンケート**をさせていただくこととなりました。
- ・ 調査結果につきましては、集計・分析のうえ、個別の施設が特定されない形で編集し、こども家庭庁ウェブサイト等で公表させていただきます。また、調査結果は本事業および政策の検討、ならびに本事業に関連するこども家庭庁の事業や子ども・子育て支援等推進調査研究事業の目的以外には使用せず、取扱いには十分注意いたします。
- ・ ご多忙の折り大変恐れ入りますが、本事業の趣旨を踏まえてご協力いただきますようお願いいたします。

(※)報告書は令和7年度末を目途に、こども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和7年12月26日（金）まで**
回答はこちらから <https://rsch.jp/8299f6b0b9ca31a1/login.php>
(アンケートへの回答は上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【ご回答にあたってのお願い】

- ☒ このアンケートへの協力に同意してくださる場合のみ、ご回答ください。
- ☒ 回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
 - ・ このアンケートは、一時保存ができません。**回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されません**ので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。
- ☒ アンケート入力時、**入力内容確認のために画面を戻ろうとすると、それまでの回答がクリアされます**。
また、アンケートの最後の「送信」ボタンをクリックすると、入力内容の確認画面は表示されずにご提出となります。
そのため、**こども家庭庁からの依頼時に送付されたExcelファイル等にご入力した上でのご入力をお勧めします**。
 - ・ このアンケートは、**指定保育士養成施設を対象**とするものです。一つの学校で複数の学科が指定されている場合も、**指定を受けた学科等の単位でご回答ください**。
 - ・ **質問項目には「令和6年度指定保育士養成施設業務報告」の報告内容をご回答いただく項目もございますので、お手元に回答をご用意ください**。
 - ・ 回答に際し、ご担当部署が複数（学科の担当教員と事務部門など）に分かれている場合は、回答を集約していただいた上でのご回答をお願いします。

【アンケートに関するお問合せ先】

有限責任監査法人トーマツ ヘルスケア 吉野、平岡
メールアドレス: jjimukyoku@tohmatu.co.jp

1. 基本情報

回答者：全員

改ページ

- Q1-1 SA 貴施設の施設種別をお選びください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 大学
 - O2 短期大学
 - O3 専門学校
 - O4 その他（具体的に ）

回答者：Q1-1=○1

改ページ

- Q1-2 SA 貴施設の大学院における、保育士養成課程の有無を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 大学院にも保育士養成課程がある
 - O2 大学院には保育士養成課程はない

※ 大学院がない場合は、選択肢「大学院には保育士養成課程はない」を選択してください。

回答者：全員

改ページ

- Q1-3 SA 貴施設の修業年限を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 4年
 - O2 3年
 - O3 2年
 - O4 その他（具体的に ）

- Q1-4 SA 貴施設の所在地（都道府県）をお答えください。
(プルダウンより選択)

- Q1-5 SA 貴施設の経営主体をお選びください。（当てはまるものを1つ選択）
- O1 公立
 - O2 私立
 - O3 その他（具体的に ）

Q1-6 FA 2025年4月時点の学生数をお答えください。
※ 都道府県に提出している「指定保育士養成施設業務報告」（以後「業務報告」という。）の内容を転記してください。

	定員 ^{※1}	入所（学） 者数 ^{※2}	入所（学） 時学生数 ^{※3}	2025年在所 （学）者数 ^{※4}
第1学年				
第2学年				
第3学年				
第4学年				

※1 業務報告「第3表（3）①の計」及び「第3表（4）①の計」の内容を転記してください。
※2 業務報告「第3表（3）③の計」の内容を転記してください。
※3 業務報告「第3表（4）②の計」の内容を転記してください。
※4 業務報告「第3表（4）③の計」の内容を転記してください。

Q1-7 SA 貴施設の開講形態を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
○1 昼間部
○2 夜間部
○3 昼夜開講制
○4 通信教育制

回答者：Q1-7=○4

改ページ

Q1-8 MA・SA 通信制で通う学生における保育士の専門性やカリキュラムの定着度をどのように把握、確認していますか。

	Q1-8-1	Q1-8-2
	当てはまる ものすべて を選択	もっとも効 果的だと考 える方法を 1つ選択
1	定期的な筆記試験やレポートによる評価	☐ ☐
2	実習評価（現場実習での指導者からの評価や実習日誌の確認）	☐ ☐
3	面接等による口頭での確認	☐ ☐
4	学生による自己評価・振り返りシートの活用	☐ ☐
5	卒業時の総合評価（卒業研究、発表、ポートフォリオ等）	☐ ☐
6	外部評価（第三者によるアセスメントや外部講師の評価など）	☐ ☐
7	その他（具体的に： ）	☐ ☐
8	特になし	☐ ☐

2. カリキュラム構成

回答者：全員

改ページ

Q2-1 MA・FA 貴施設における教授科目について、「業務報告」第1表「（1）教授科目別時間数」に記載の内容を基に教えてください。
（回答フォームは「1-1.カリキュラム」シートを参照）

Q2-2 MAMT 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

	1	2	3	4	5	6	7
	一部教科目 の新設を 行った	一部教科目 の廃止、統 合を行った	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を増 やした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 の単位数・ 時間数を減 らした	既存の教科 目のうち、 一部教科目 のシラバス の内容を大 幅に改定し た	左記1～5 以外の観点 でカリキュ ラム改定を 行った	カリキュ ラム改定は 行っていな い
1	基礎科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2	【必修科目】保育の本質・目的に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3	【必修科目】保育の対象の理解に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4	【必修科目】保育の内容・方法に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5	【必修科目】保育実習	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6	【必修科目】総合演習	☐	☐	☐	☐	☐	☐
7	【選択必修科目】保育の本質・目的に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
8	【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
9	【選択必修科目】保育の内容・方法に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
10	【選択必修科目】保育実習	☐	☐	☐	☐	☐	☐

回答者：Q2-2=□7以外（カリキュラム改定あり）

改ページ

Q2-3 FA カリキュラム改定の主な内容・理由をご記入ください。 **←システム上は、Q2-2でカリキュラム改定ありと回答のあった回答欄のみ表示する**

		改定の主な内容	改定の主な理由
1	基礎科目		
2	【必修科目】保育の本質・目的に関する科目		
3	【必修科目】保育の対象の理解に関する科目		
4	【必修科目】保育の内容・方法に関する科目		
5	【必修科目】保育実習		
6	【必修科目】総合演習		
7	【選択必修科目】保育の本質・目的に関する科目		
8	【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目		
9	【選択必修科目】保育の内容・方法に関する科目		
10	【選択必修科目】保育実習		

回答者：全員

改ページ

Q2-4 MA 貴施設における保育士養成課程の方針や特徴として当てはまるものを教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

- ☐1 保育の理論的基盤を重視
☐2 子ども理解・環境構成などの実践面を重視
☐3 造形・音楽・言語など実技技能を重視
☐4 実践と理論の往還型の教育
☐5 保育現場でのボランティアやインターンシップの活用
☐6 その他（具体的に ）

Q2-5 MA 保育士養成に関して、指定保育士養成施設（以下、「養成校」という。）間での養成課程上の連携を行っていますか。（当てはまるものをすべて選択）

- ☐1 他の養成校との単位互換制度の実施
☐2 他の養成校との連携による科目の開設
☐3 他の養成校との共同での養成課程の運営
☐4 その他（具体的に ）
☐5 他の養成校との養成課程上の連携は行っていない

Q2-6 MAMT 貴施設において、保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許はありますか。（当てはまるものをすべて選択）

		Q2-6-1 取得が 必須 の資格や免許	Q2-6-2 取得が 任意 の資格や免許
1	介護福祉士	☐	☐
2	社会福祉士	☐	☐
3	精神保健福祉士	☐	☐
4	幼稚園教諭免許状	☐	☐
5	小学校教諭免許状	☐	☐
6	特別支援学校教諭免許状	☐	☐
7	その他（具体的に ）	☐	☐
8	特になし	☐	☐

Q2-7 FA 国が定める指定保育士養成施設の教科目の教授内容について、国への要望等があればその理由とともに教えてください。（任意）
（例：必修科目に○○を追加してほしい、○○と○○は内容を統合しても良いのではないか、など）

3. 実習プログラム

回答者：全員

改ページ

Q3-1 MA・FA 実習の実施状況について、「業務報告」第1表「（2）施設の種類」に記載の内容を基に教えてください。
（回答フォームは「1-2.実習先」シートを参照）

Q3-2 MA 実習先の確保方法について教えてください。（当てはまるものをすべてを選択）

- ☐1 学生の希望を聞いたうえで、養成校が実習先の割り当てを実施
☐2 学生の希望は聞かずに、養成校が実習先の割り当てを実施
☐3 学生自身による選定・確保
☐4 その他（具体的に ）

- Q3-3 MA 実習先との連携体制として実施しているものを教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
- ☐1 定期会議の開催
 ☐2 個別連絡の実施
 ☐3 その他（具体的に ）
 ☐4 実習先との連携はしていない

- Q3-4 SA 貴施設における、保育実習の指導体制について教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
- ☐1 専任の実習指導教員を配置している
 ☐2 他の業務を兼任する教員が実習指導を担当している
 ☐3 専任の実習指導教員と他の業務を兼任する教員の両方が実習指導を担当している
 ☐4 その他（具体的に ）

- Q3-5 MA・SA 保育実習を運営する上での、実習先との連携に関する課題を教えてください。

		Q3-5-1	Q3-5-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	実習先の確保が困難である（実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど）	☐	☐
2	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	☐	☐
3	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	☐	☐
4	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	☐	☐
5	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	☐	☐
6	実習指導にかかる負担が大きい	☐	☐
7	その他（具体的に ）	☐	☐
8	特になし	☐	☐

回答者：Q3-5-2≠〇8

改ページ

- Q3-6 FA 上記Q3-5-2で回答した内容について、保育実習運営上の課題だと特に感じる点を具体的に教えてください。（任意）

回答者：全員

改ページ

- Q3-7 FA 国が定める保育実習基準等について、国への要望等があればその理由とともに教えてください。（任意）

4. 授業形式

回答者：全員

改ページ

- Q4-1 MA 保育士養成課程におけるICTの活用状況を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
- ☐1 教材の配信（クラウド等を利用した資料・教材の配布）
 ☐2 オンラインによる課題提出・添削
 ☐3 動画や録画授業の提供（オンデマンド型）
 ☐4 リアルタイムのオンライン授業（双方向型：質疑応答やディスカッションなどを含む）
 ☐5 実習日誌の作成（PC等を利用した電子上の日誌作成）
 ☐6 実習日誌の共有（養成施設の教員間、養成施設と実習先など）
 ☐7 その他（具体的に ）
 ☐8 保育士養成課程においてICTは活用できていない

回答者：Q4-1=□3、4

改ページ

- Q4-2 SAMT 貴施設における保育士養成課程科目毎で、最も多いオンライン授業の頻度についてお答えください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3	4	5	6
	毎回実施している（毎授業、またはほぼ毎授業）	2回に1回程度実施している（全体の約半分程度）	時々実施している（3～5回に1回程度）	まれに実施している（5回に1回）より少ない頻度）	その他（具体的に ）	オンライン授業は実施していない
1 基礎科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
2 保育の本質・目的に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
3 保育の対象の理解に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
4 保育の内容・方法に関する科目	☐	☐	☐	☐	☐	☐
5 保育実習（実習を除く）	☐	☐	☐	☐	☐	☐
6 総合演習	☐	☐	☐	☐	☐	☐

※ 対面形式とオンライン形式のハイブリッドでオンライン授業を実施している場合も含めご回答ください。

5. 指導体制

回答者：全員

改ページ

- Q5-1 FA 2025年4月時点の、保育士養成に従事する貴施設の職員の状況について教えてください。

専任職員		名
うち、専任教員		名
うち、専任事務職員		名
講師（兼任職員を含む）		名

※「業務報告」第2表 新学年度における職員の状況に記載の内容を基にお答えください。

- Q5-2 MA 貴施設における教員の専門性向上のための取組について教えてください。（当てはまるものすべてを選択）
- ☐1 貴施設内で組織的に実施される定期的な教員研修
- ☐2 教員有志による自主的な研究会・勉強会の開催（テーマ別の勉強会等）
- ☐3 他機関との連携による交流・共同研究（他校や保育施設との合同研究会、外部講師を招いたセミナー等）
- ☐4 外部研修や学会等への参加促進・支援（例：参加推奨、費用補助、業務調整等）
- ☐5 その他（具体的に： ）
- ☐6 特に実施していない

- Q5-3 MA・SA 貴施設による指導方法について、特徴的だと考える点や特に工夫している点について教えてください。

		Q5-3-1	Q5-3-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	☐	☐
2	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	☐	☐
3	ICT等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	☐	☐
4	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	☐	☐
5	その他の特色ある指導方法や工夫（具体的に ）	☐	☐
6	特に工夫できていることはない	☐	☐

回答者：Q5-3-2#〇6

改ページ

- Q5-4 FA 上記Q5-3-2で回答した内容について、指導方法について特徴的だと考える点や特に工夫している点を具体的に教えてください。（任意）

回答者：全員

改ページ

- Q5-5 MA 指導体制に関する課題を教えてください。

		Q5-5-1	Q5-5-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	専任教員・指導者の人数が不足している	☐	☐
2	教員の専門性や経験に偏りがある	☐	☐
3	教員間の連携・情報共有が十分でない	☐	☐
4	実習指導者と講義担当教員との連携が不十分	☐	☐
5	教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない	☐	☐
6	新任教員や非常勤講師の指導力向上支援が不足している	☐	☐
7	指導体制のマニュアル整備や運用が不十分	☐	☐
8	学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい	☐	☐
9	現場実習先との連携や指導体制が確立されていない	☐	☐
10	ICT・オンライン指導への対応が遅れている	☐	☐
11	保育現場の最新動向や実践知が指導に十分反映されていない	☐	☐
12	その他（具体的に ）	☐	☐
13	特になし	☐	☐

回答者：Q5-5-2#〇13

改ページ

- Q5-6 FA 上記Q5-5-2で回答した内容について、指導体制に関する課題だと感じる点を具体的に教えてください。（任意）

6. 学生の就職あっせんについて

回答者：全員

改ページ

- Q6-1 SA 貴施設は、無料職業紹介事業の届出（職業安定法第三十三条の二）を行っていますか。
- ☐1 はい
- ☐2 いいえ
- Q6-2 SA 学生の就職に関する相談対応ができる体制になっていますか。
- ☐1 はい
- ☐2 いいえ
- Q6-3 SA 卒業後、保育士として保育所や認定こども園等で働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等を行っていますか。（例：進路相談窓口による求人紹介、保育士・保育所支援センター・公共職業安定所（ハローワーク）等の案内など）
- ☐1 はい
- ☐2 いいえ

回答者：Q6-3#〇1（就職あっせん・紹介等の実施あり）

改ページ

- Q6-4 MA 学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容について、以下から当てはまるものをお選びください。（当てはまるものすべてを選択）
- ☐1 学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人を直接紹介（就職あっせん）している※
- ☐2 実習指導に関わる教員等が学生に求人を直接紹介（就職あっせん）している※
- ☐3 学生に保育士・保育所支援センターを案内している
- ☐4 公共職業安定所（ハローワーク）を案内している
- ☐5 民間事業者の運営する求人ポータルサイトへの登録を案内している
- ☐6 有料職業紹介事業者による人材紹介（エージェント）サービスの利用を案内している
- ☐7 行政・公的機関等による就職セミナーや説明会等を紹介している
- ☐8 企業・園等が主催する個別説明会・採用イベントを紹介している
- ☐9 その他（具体的に ）

※学生が閲覧可能な場所・ポータルサイト等に求人票を掲載することを含みます。

回答者：Q6-4=□1（学内の進路相談窓口での求人紹介あり）

改ページ

- Q6-5 SA 上記Q6-4で「学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人を直接紹介（就職あっせん）している」と回答した場合、卒業生も対象としていますか。（当てはまるものを1つ選択）
- 1 卒業後の学生は対象としていない
 - 2 卒業後も対象としている（1年以内）
 - 3 卒業後も対象としている（3年以内）
 - 4 卒業後も対象としている（3年を超える期間： 年）
 - 5 卒業後も対象としている（期間を定めていない）
 - 6 その他（具体的に ）

回答者：全員

改ページ

- Q6-6 SA 保育士資格取得者の就職状況について、「業務報告」第3表「（2）保育士資格取得者の就職状況」に記載の内容を基に教えてください。（回答フォームは「1-3.就職状況」シートを参照）

- Q6-7 FA 「保育所及び幼保連携認定こども園」に就職した学生全体を10割とした場合、以下の①～③のおおよその割合をお答えください。（①～④を足して10割になるようにお答えください）
- ※ ①～③のおおよその内訳も不明の場合は④に「10割」と入力してください。

①	学生個人の関わりのある園（母園（出身園）／実習先の園／アルバイト・ボランティア先の園）	割
②	養成施設と関わりのある園（養成施設の附属園／卒業生のいる園／教員等の紹介園）	割
③	新規開拓園（上記①②いずれでもない）	割
④	わからない（上記①～③の内訳は把握していない）	割
計		10割

※0.5単位で最も近い割合を入力ください。

- Q6-8 FA 学生の就職活動に対するサポートに関して課題と感じていることをお答えください。（任意）

7. ご連絡先について

回答者：全員

改ページ

- Q7-1 SA 本調査研究では、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたインタビューを予定しています（オンラインにより1時間程度、2026年X月頃実施予定）。
- このインタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。（当てはまるものを1つ選択）
- 1 協力してもよい
 - 2 どちらともいえない
 - 3 協力できない

- Q7-2 FA 貴指定保育士養成施設の情報について、ご回答ください。
- ※数値は半角でご入力ください。
- ※電話番号は、半角数字にてハイフンを除いて入力してください。

指定保育士養成施設名	
所在都道府県名	（プルダウンより選択）
市区町村名	
ご担当者名	
連絡先（TEL）	
連絡先（Email）	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。
（アンケートへの回答はPDFではなくアンケートサイトよりお願いいたします。）

令和6年度指定保育士養成施設業務報告：第1表 前学年度卒業者の教授科目別時間数及び実習の実施状況

(1) 教授科目別時間数

(教養科目・告示による教科目)

学問領域				履修単位数及び時間数									
系列	教科目		最低取得 単位数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		合計	
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎科目	外国語・体育以外の基礎科目		6										
		その他※（合算した科目数： ）											
	外国語（演習）												
	体育（講義）		1										
	体育（実技）		1										

※「教科目」欄には、履修単位数等を踏まえ、代表的な教科目名をご入力ください。回答欄に全ての教科目を入力できない場合は、「その他」としてまとめてご入力いただき、「履修単位数及び時間数」欄には、その他の教科目について合算した単位数および時間数をご入力ください。

(必修科目・告示別表第1による教科目)

学問領域			履修単位数及び時間数										
系列	教科目		最低取得 単位数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		合計	
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
保育の本質・目的 に関する科目	保育原理（講義）		2										
	教育原理（講義）		2										
	子ども家庭福祉（講義）		2										
	社会福祉（講義）		2										
	子ども家庭支援論（講義）		2										
	社会的養護Ⅰ（講義）		2										
保育の対象の理解 に関する科目	保育者論（講義）		2										
	保育の心理学（講義）		2										
	子ども家庭支援の心理学（講義）		2										
	子どもの理解と援助（演習）		1										
	子どもの保健（講義）		2										
保育の内容・方法 に関する科目	子どもの食と栄養（演習）		2										
	保育の計画と評価（講義）		2										
	保育内容総論（演習）		1										
	保育内容演習	（演習）	5										
		（演習）											
		（演習）											
		（演習）											
		（演習）											
	保育内容の理解と 方法	（演習）	4										
		（演習）											
		（演習）											
	乳児保育Ⅰ（講義）		2										
	乳児保育Ⅱ（演習）		1										
	子どもの健康と安全（演習）		1										
	障害児保育（演習）		2										
	社会的養護Ⅱ（演習）		1										
子育て支援（演習）		1											
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）		4										
	保育実習指導Ⅰ（演習）		2										
総合演習	保育実践演習（演習）		2										

(選択必修科目・告示別表2による教科目)

学問領域			履修単位数及び時間数									
系列	教科目	最低取得 単位数	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		合計	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
保育の本質・目的 に関する科目		6										
	その他※（合算した科目数： ）											
保育の対象の理解 に関する科目												
	その他※（合算した科目数： ）											
保育の内容・方法 に関する科目												
	その他※（合算した科目数： ）											
保育実習	保育実習Ⅱ（実習）	2										
	保育実習Ⅲ（実習）											
	保育実習指導Ⅱ（演習）	1										
	保育実習指導Ⅲ（演習）											

(注) 「履修単位及び時間数」の欄は前学年度卒業生がそれぞれの学年において履修した単位と時間数を記入すること。

※「教科目」欄には、履修単位数等を踏まえ、代表的な教科目名をご入力ください。回答欄に全ての教科目を入力できない場合は、「その他」としてまとめてご入力いただき、「履修単位数及び時間数」欄には、その他の教科目について合算した単位数および時間数をご入力ください。

令和6年度指定保育士養成施設業務報告：第1表 前学年度卒業者の教授科目別時間数及び実習の実施状況

(2) 実習の実施状況

教科目	実習の場所		実習期間	単位数	時間数
	施設の種類（当てはまるものすべてを選択）	施設名			
保育実習Ⅰ	☐ 1 保育所				
	☐ 2 幼保連携型認定こども園				
	☐ 3 小規模保育事業				
	☐ 4 事業所内保育事業				
	☐ 5 乳児院				
	☐ 6 母子生活支援施設				
	☐ 7 障害児入所施設				
	☐ 8 児童発達支援センター				
	☐ 9 障害児支援施設				
	☐ 10 指定障害福祉サービス事業所				
	☐ 11 児童養護施設				
	☐ 12 情緒障害児短期治療施設				
	☐ 13 児童自立支援施設				
	☐ 14 児童相談所一時保護施設				
	☐ 15 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園				
保育実習Ⅱ	☐ 1 保育所				
	☐ 2 幼保連携型認定こども園				
	☐ 3 小規模保育事業				
	☐ 4 事業所内保育事業				
保育実習Ⅲ	☐ 1 児童厚生施設				
	☐ 2 児童発達支援センター				
	☐ 3 その他（ ）				

令和6年度指定保育士養成施設業務報告：第3表 前学年度卒業者数及び新学年度における学生の状況
 (2) 保育士資格取得者の就職状況

(単位：人)

区分	男子	女子	計
保育所及び幼保連携型認定こども園			
地域型保育事業			
保育所及び幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設			
児童福祉事業			
障害者支援施設			
老人福祉施設			
幼稚園			
その他			
計			

(注) 本表は「前学年度卒業者」のうち保育士資格取得者を対象とし、
 次の就職先の区分（ア～キ）の合計と一致するよう、合計欄と合わせ記載すること。

ア 保育所及び幼保連携型認定こども園	児童福祉法（昭和22年法律第164号。以下「法」という。） 第39条に規定する保育所及び就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条 第7項に規定する幼保連携型認定こども園
イ 地域型保育事業	子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）第7条第5項に規定する 地域型保育事業
ウ 保育所及び幼保連携型認定こども園 以外の児童福祉施設	ア以外の児童福祉施設および児童福祉法第12条の4に規定する 児童の一時保護施設
エ 児童福祉事業	アからウ以外の施設における児童福祉事業及び児童関連事業（事業 所内保育施設及び認可外保育施設を含む）
オ 障害者支援施設	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律 （平成17年法律第123号）に基づく施設又は事業所
カ 老人福祉施設	老人福祉法（昭和38年法律133号）に基づく施設
キ 幼稚園	学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づく幼稚園

■アンケート（指定保育士養成施設等に通う学生）見本

指定保育士養成施設等に通う学生の意識に関するアンケート

ご協力のお願い（所要時間：20分程度）

こども家庭庁委託事業

「大学・短期大学等における保育士養成に関する調査研究業務一式事務局」

（有限責任監査法人トーマツ）

☒このアンケートは、今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の指定保育士養成施設等（以下、「養成校等」という。）に通う学生を対象に、養成校等での学びや保育士として働くことに対する意識や課題等を把握するために実施するもの

です。

☒このアンケートに回答するかどうかはみなさんの自由

です。

☒このアンケートは無記名で行い、回答内容はすべて統計的に処理するため、あなたの回答が特定されたり、外部に知られることはありません

（ただし、無記名のため、回答した後は、回答内容を修正したり、取り消すことはできません）。

また、ご回答いただいた内容は、本調査研究や政策の検討、関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用しませんので、安心して回答してください。

・集計結果を含めた報告書は、個人の回答が特定できないように編集した上で、こども家庭庁ウェブサイト等で公表させていただきます。

☒みなさんの回答の一つ一つが大事な意見であり、よりよいカリキュラムを検討していくためにも、できるだけ多くの方のご意見をお聞きしたいと考えています。

ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

（※）報告書は令和7年度末を目途に、こども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日

令和7年12月26日（金）まで

回答はこちらから

<https://rsch.jp/3dc8ff72cdf1ceb3/login.php>

（アンケートへの回答は上記アンケートサイトよりお願いいたします。）

【ご回答にあたってのお願い】

☒このアンケートへの協力に同意してくださる場合のみ、ご回答ください。

☒アンケートは携帯電話・スマートフォンまたはパソコン等をお使いいただき、インターネット上でご回答ください。

☒回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。

・このアンケートは、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されませんので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。なお、回答は1人1回限りです。

・アンケート入力時、入力内容確認のために画面を戻ろうとすると、それまでの回答がクリアされます。

また、アンケートの最後の「送信」ボタンをクリックすると、入力内容の確認画面は表示されずにご提出となりますので、ご注意ください。

【アンケートに関するお問合せ先】

有限責任監査法人トーマツ　ヘルスケア　吉野、平岡

メールアドレス：jimukyoku@tohmatu.co.jp

1. 基本情報

回答者：全員

改ページ

Q1-1

SA

在籍している学校の種別をお選びください。（当てはまるものを1つ選択）

○1

大学

○2

短期大学

○3

専門学校

○4

その他（具体的に

Q1-2

FA

学校名と学部・学科・コースを教えてください。（任意）

学校名	
学部	
学科	
コース	

Q1-3

SA

在籍している学校の所在地（都道府県）を教えてください。

（プルダウンより選択）

Q1-4

FA

年齢を教えてください。

歳

Q1-5

SA

性別を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

○1

男性

○2

女性

○3

その他

○4

無回答

Q1-6

SA

学年を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

○1

1年

○2

2年

○3

3年

○4

4年

○5

専攻科等

○6

その他（具体的に

Q1-7

SA

入学形態について教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

○1

高等学校卒業後に入学（浪人等を経た場合も含む）

○2

他の大学・短大・専門学校等を卒業後に入学

○3

社会人経験後に入学

○4

主婦・主夫を経て入学

○5

その他（具体的に

11 / 17

- Q1-8

SA

自身の履修形態について教えてください。（当てはまるものを1つ選択）
○1 昼間
○2 夜間
○3 通信制
○4 その他（具体的に ）
- Q1-9

MAMT

取得している、もしくは取得予定の保育関連の資格や免許を教えてください。（当てはまるものすべてを選択）

		Q1-9-1	Q1-9-2
		取得済の保育関連の資格や免許	在学中/卒業時に取得予定の保育関連の資格や免許
1	介護福祉士	☐	☐
2	社会福祉士	☐	☐
3	精神保健福祉士	☐	☐
4	幼稚園教諭免許状	☐	☐
5	小学校教諭免許状	☐	☐
6	特別支援学校教諭免許状	☐	☐
7	その他（具体的に ）	☐	☐
8	特になし	☐	☐

2. 保育士養成課程への希望・課題

回答者：全員

改ページ

- Q2-1

SA

学校（保育士養成課程）に通う中で、最も期待していることは何ですか。（当てはまるものを1つ選択）
○1 保育現場に行く機会が多いこと
○2 こどもを取り巻く社会や家族の変化などを広く学べること
○3 こどもの発達や心理を理解すること
○4 保育を実践するための技術（音楽・造形・絵本など）を身につけること
○5 こども・保護者・同僚と関わるコミュニケーション力を高めること
○6 友人・仲間と共に活動や学びを楽しむこと
○7 教員等から適切なサポートを受けられること
○8 授業やイベント、講話などを通じて保育現場の声を知る機会があること
○9 就職や進路についてのサポートを受けられること
○10 その他（具体的に ）
○11 特になし
- Q2-2

MA

今後導入・拡充してほしいプログラムやサポートは何ですか。（当てはまるものすべてを選択）
☐1 保育現場見学の機会
☐2 ジェンダーと保育について学ぶ機会
☐3 こどもの権利・人権について学ぶ機会
☐4 多文化保育について学ぶ機会
☐5 卒業論文の作成に関するサポート
☐6 メンタルヘルス支援
☐7 ICT教育
☐8 キャリアガイダンス
☐9 その他（具体的に ）
☐10 特になし

3. 保育士志望動機・資格取得意欲

回答者：全員

改ページ

- Q3-1

MA・SA

保育士を志望した理由を教えてください。

		Q3-1-1	Q3-1-2
		当てはまる ものすべて を選択	もっとも当 てはまるも のを1つ選 択
1	こどもが好きだから	☐	☐
2	職場体験を通して適性があると感じたり、興味をもったから	☐	☐
3	人や社会の役に立ちたいと思ったから	☐	☐
4	資格を持っていると就職などに有利だと思ったから	☐	☐
5	家族や友人など、身近な人の影響を受けたから	☐	☐
6	学校の先生など、周囲の人に勧められたから	☐	☐
7	将来、安定した仕事に就きたいと思ったから	☐	☐
8	自分自身が成長できると思ったから	☐	☐
9	こどもの時からの夢	☐	☐
10	その他（具体的に ）	☐	☐
11	特になし	☐	☐

- Q3-2

SA

保育士資格取得への意欲を5段階評価で教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

1	2	3	4	5
まったく意欲がない	あまり意欲がない	どちらともいえない	意欲がある	とても意欲がある
☐	☐	☐	☐	☐

- Q3-3

FA

資格取得意欲に影響したきっかけや経験があれば記述してください。（任意）

Q3-4

MA

将来希望する進路について教えてください。（当てはまるものすべてを選択）

☐1

保育士（保育所等）

☐2

幼稚園教諭

☐3

保育教諭（認定こども園等）

☐4

児童福祉施設職員（保育所等以外：児童養護施設、発達支援センター等）☐5☐6☐7

回答者：Q3-4=☐1～3以外がON

改ページ

Q3-5

FA

保育・教育現場以外の進路も検討している場合、その理由を教えてください。（任意）

4. 実習・授業満足度と進路意欲

回答者：全員

改ページ

Q4-1

SA

保育実習や授業の満足度について5段階評価で教えてください。（それぞれ当てはまるものを1つ選択）

		1	2	3	4	5
		まったく満足していない	あまり満足していない	どちらともいえない	やや満足している	とても満足している
Q4-1-1	保育実習の満足度	☐	☐	☐	☐	☐
Q4-1-2	授業（保育実習以外）の満足度	☐	☐	☐	☐	☐
Q4-1-3	行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラムの満足度	☐	☐	☐	☐	☐

Q4-2

FA

保育実習や授業で特に満足した点・良かった点について教えてください。（任意）
※ 保育実習Ⅰ、Ⅱ又はⅢで内容が異なる場合には、冒頭に【実習Ⅰ】を付す等、対応関係が分かるように記載してください。

Q4-2-1

保育実習

Q4-2-2

授業（保育実習以外）

Q4-2-3

行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム

Q4-3

FA

保育実習や授業で改善してほしい点や課題と感じている点について教えてください。（任意）
※ 保育実習Ⅰ、Ⅱ又はⅢで内容が異なる場合には、冒頭に【実習Ⅰ】を付す等、対応関係が分かるように記載してください。

Q4-3-1

保育実習

Q4-3-2

授業（保育実習以外）

Q4-3-3

行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラム

Q4-4

SA

保育実習や授業を通じて保育士への進路意欲はどう変化しましたか。（当てはまるものを1つ選択）

☐1

非常に高まった

☐2

やや高まった

☐3

変わらない

☐4

やや低下した☐5

Q4-5

FA

保育士への進路意欲の変化に影響した、保育実習や授業におけるエピソードや体験等があれば教えてください。（任意）

5. 職業への不安・課題認識

回答者：全員

改ページ

Q5-1

MA・SA

保育士として働くことに対して感じている不安や課題を教えてください。

		Q5-1-1	Q5-1-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるかなど）	☐	☐
2	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるかなど）	☐	☐
3	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	☐	☐
4	職場での人間関係（同僚や上司との関係など）	☐	☐
5	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応など）	☐	☐
6	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きいなど）	☐	☐
7	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じるなど）	☐	☐
8	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるかなど）	☐	☐
9	その他（具体的に）	☐	☐
10	保育士として働くことは希望していない	☐	☐
11	特になし	☐	☐

回答者：Q5-1-2=☐10、11以外がON

改ページ

Q5-2

FA

Q5-1-2で回答した、不安や課題に感じる点を具体的に教えてください。（任意）

		Q5-3-1	Q5-3-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	職場体験の機会が増えること（実際の保育現場を体験できる）	☐	☐
2	メンタルヘルスのサポート（心の悩みやストレスについて相談できる）	☐	☐
3	進路や就職についての相談（将来の進路や就職活動について相談できる）	☐	☐
4	必要な情報の提供（保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる）	☐	☐
5	現場で働く人の話を聞く機会（実際に働いている保育士などの体験談を聞ける）	☐	☐
6	その他（具体的に ）	☐	☐
7	わからない	☐	☐
8	特になし	☐	☐

改ページ

Q5-4 FA Q5-3-2で回答した、不安や課題の軽減のために必要だと思う支援について具体的に教えてください。（任意）

--

改ページ

回答者：全員

Q6-1	SA	本調査研究では、今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、養成校に学生の方に対し、養成校での学びや、保育士として働くことに対する学生視点での課題等に関するグループインタビュー（オンライン等により1時間程度、2026年1月下旬～2月頃実施予定）を実施したいと考えています。 インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。（当てはまるものを1つ選択） なお、ご協力いただきました際はインタビュー対象者に対して薄謝を進呈いたします。 ※ 安心した環境でインタビューにご協力いただけるよう、必要に応じて他の方（養成校の教員等）に同席していただくことも可能です。 ※ インタビューは、主に「1. 協力が可能」と回答された方の中から選定し、実際にお願いしたい方に対しては、1月中旬ごろに入力いただいたメールアドレスに対してご連絡させていただきます。
------	----	---

- 1 協力が可能
○2 どちらともいえない
○3 協力できない

Q6-2 FA ご連絡先を教えてください。◀

【ご連絡先】

名前（ペンネームや仮名等でも可）	
連絡先（メールアドレス）	
学校名	

←システム上は、Q1-2で回答済の場合は省略

本アンケートへのご協力ありがとうございました。
(アンケートへの回答はPDFではなくアンケートサイトよりお願いいたします。)

■アンケート（保育所等）見本

保育所等における指定保育士養成施設等のカリキュラムへの意識に関するアンケート

ご協力をお願い（所要時間：20分程度）

こども家庭庁委託事業
「大学・短期大学等における保育士養成に関する調査研究業務一式」事務局
(有限責任監査法人トーマツ)

・有限責任監査法人トーマツでは、こども家庭庁委託事業として「大学・短期大学等における保育士養成に関する調査研究業務一式」を行っております。

・この事業は、**今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、全国の指定保育士養成施設等の実態や指定保育士養成施設等に通う学生、ならびに保育所等の意識を明らかにすることを目的としたものです。**

☒この度、この事業の一環で、**保育の現場で求められる保育士としての知識・技能等を把握するため、保育所等を対象としたアンケート**をさせていただくこととなりました。

・調査結果につきましては、集計・分析のうえ、個別の施設が特定されない形で編集し、こども家庭庁ウェブサイト等で公表させていただきます。また、調査結果は本事業および政策の検討、ならびに本事業に関連するこども家庭庁の事業や子ども・子育て支援等推進調査研究事業の目的以外には使用せず、取扱いには十分注意いたします。

・ご多忙の折り大変恐れ入りますが、本事業の趣旨を踏まえてご協力いただきますようお願いいたします。

(※)報告書は令和7年度末を目途に、こども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日

令和7年12月26日（金）まで

回答はこちらから

<https://rsch.jp/ddc8df1b6f68f875/login.php>

(アンケートへの回答は上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【ご回答にあたってのお願い】

☒このアンケートへの協力に同意してくださる場合のみ、ご回答ください。

☒回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。

・このアンケートは、一時保存ができません。**回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されません**ので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。

☒アンケート入力時、**入力内容確認のために画面を戻ろうとすると、それまでの回答がクリアされます。**
また、アンケートの最後の「送信」ボタンをクリックすると、入力内容の確認画面は表示されずにご提出となります。
そのため、**こども家庭庁からの依頼時に送付されたExcelファイル等に下書きした上でのご入力をお勧めします。**

【アンケートに関するお問合せ先】

有限責任監査法人トーマツ　ヘルスケア　吉野、平岡

メールアドレス：jimukyoku@tohmatu.co.jp

1. 基本情報

回答者：全員

改ページ

- Q1-1

SA

貴施設の施設種別を教えてください。（当てはまるもの1つを選択）

○1

認可保育施設（認可保育所）

○2

小規模保育事業

○3

家庭的保育事業

○4

居宅訪問型保育事業

○5

事業所内保育事業

○6

認定こども園（幼保連携型）

○7

認定こども園（保育所型）

○8

認定こども園（幼稚園型）

○9

認定こども園（地方裁量型）

○10

その他（具体的に）
- Q1-2

SA

貴施設の設置主体を教えてください。（当てはまるもの1つを選択）

○1

公立

○2

私立

○3

その他（具体的に）
- Q1-3

FA

令和7年4月1日時点で、貴施設に在籍する保育士数（実人数）を教えてください。

	1	2
	常勤	非常勤
保育士		
うち、幼稚園教諭免許保持者		

- Q1-4

FA

令和7年4月1日時点で、貴施設に在籍する児童数を年齢別に教えてください。

年齢区分	利用定員数 (人) ※	在籍児童数 (人)
0歳児		
1歳児		
2歳児		
3歳児		
4歳児		
5歳児		

※「1・2歳児クラス」等、年齢毎の定員数が定められていない場合は「1歳児」と「2歳児」の利用定員数の合計が「1・2歳児クラス」の定員数と一致するよう、年齢ごとに割り振って記載をお願いいたします。

※受け入れを行っていない年齢区分には「0」を入力ください。

2. 保育現場で求められる保育士としての知識・技能

回答者：全員

改ページ

- | | | |
|------|----|--|
| Q2-1 | MA | 保育現場において、新任保育士に特に求められる知識や技能について教えてください。（当てはまるものすべてを選択） |
| | | ☐ 1 こどもの気持ちや興味関心に応じて、遊びの環境を構成し、対話的に関わる力 |
| | | ☐ 2 保育を安全かつ楽しく展開するための技能（運動遊び、読み聞かせ、ピアノ演奏など） |
| | | ☐ 3 行事や活動の企画・運営を行う力 |
| | | ☐ 4 保育内容や指導計画（指導案）を適切に立案する力 |
| | | ☐ 5 こどもの健康管理や安全確保への対応力 |
| | | ☐ 6 障害のあるこどもや多様な背景を持つこどもへの理解と対応力 |
| | | ☐ 7 保育に関する法令・制度・倫理に関する最新知識 |
| | | ☐ 8 チームで協力し、多職種と連携できる力 |
| | | ☐ 9 緊急時や災害時の適切な対応力 |
| | | ☐ 10 保護者への対応力 |
| | | ☐ 11 その他（具体的に ） |
| | | ☐ 12 特になし |

- | | | |
|------|----|---|
| Q2-2 | MA | <p>新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるものを教えてください。（当てはまるものすべてを選択）</p> <p>☐1 こどもの気持ちや興味関心に応じて、遊びの環境を構成し、対話的に関わる力</p> <p>☐2 保育を安全かつ楽しく展開するための技能（運動遊び、読み聞かせ、ピアノ演奏など）</p> <p>☐3 行事や活動の企画・運営を行う力</p> <p>☐4 保育内容や指導計画（指導案）を適切に立案する力</p> <p>☐5 こどもの健康管理や安全確保への対応力</p> <p>☐6 障害のあるこどもや多様な背景を持つこどもへの理解と対応力</p> <p>☐7 保育に関する法令・制度・倫理に関する最新知識</p> <p>☐8 チームで協力し、多職種と連携できる力</p> <p>☐9 緊急時や災害時の適切な対応力</p> <p>☐10 保護者への対応力</p> <p>☐11 その他（具体的に ）</p> <p>☐12 特になし</p> |
|------|----|---|

3. 資格取得経路による相違点

回答者：全員

改ページ

- Q3-1 FA 令和7年4月1日時点で貴施設に所属する保育士資格所有者の資格取得経路を教えてください。

	Q3-1-1	Q3-1-2
	指定保育士 養成施設卒 業者（人）	保育士試験 合格者 （人）
保育士		
うち、幼稚園教諭免許保持者		

※不明な場合は「999」を入力ください。

回答者：Q3-1-1 $\neq 0,999$ かつ Q3-1-2 $\neq 0,999$

改ページ

- | | | |
|------|----|---|
| Q3-2 | SA | 指定保育士養成施設卒業業者と保育士試験合格者について、保育実践力の違いを感じますか。（当てはまるものを1つ選択） |
| | | ☐ 〇1 大きな違いを感じる
☐ 〇2 やや違いを感じる
☐ 〇3 ほとんど違いを感じない
☐ 〇4 特に違いは感じない
☐ 〇5 わからない |

- Q3-3 MA・SA 指定保育士養成施設卒業者の優れていると感じる点を教えてください。

		Q3-3-1	Q3-3-2
		当てはまるものすべてを選択	もっとも当てはまるものを1つ選択
1	保育に関する幅広い知識	☐	☐
2	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	☐	☐
3	こどもの個性や発達に応じた関わり方	☐	☐
4	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	☐	☐
5	職員同士の協調性	☐	☐
6	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力	☐	☐
7	状況に応じた柔軟な対応力	☐	☐
8	あそびの中での育ちや学びを見つけ、説明できる力	☐	☐
9	保護者への対応力	☐	☐
10	その他（具体的に）	☐	☐
11	指定保育士養成施設卒業者の方がより優れていると思う点は特にない	☐	☐

回答者：Q3-3-2 ≠ ○11

改ページ

- Q3-4 FA Q3-3-2で回答した内容について、指定保育士養成施設卒業者の優れていると感じる点について具体的に教えてください。（任意）

--

回答者：Q3-1-1≠0かつQ3-1-2≠0

改ページ

Q3-5 MA・SA 指定保育士養成施設卒業者の課題があると感じる点を教えてください。

		Q3-5-1	Q3-5-2
		当てはまる ものすべて を選択	もっとも当 てはまるも のを1つ選 択
1	保育に関する幅広い知識	☐	☐
2	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	☐	☐
3	こどもの個性や発達に応じた関わり方	☐	☐
4	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、環境を構成する力	☐	☐
5	職員同士の協調性	☐	☐
6	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改善しようとする力	☐	☐
7	状況に応じた柔軟な対応力	☐	☐
8	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる力	☐	☐
9	保護者への対応力	☐	☐
10	その他（具体的に ）	☐	☐
11	指定保育士養成施設卒業者の方がより課題があると思う点は特にな	☐	☐

回答者：Q3-5-2≠〇11

改ページ

Q3-6 FA Q3-5-2で回答した内容について、指定保育士養成施設卒業者の課題だと感じる点について具体的に教えてください。（任意）

4. 保育士養成課程の課題・改善点

回答者：全員

改ページ

Q4-1 MA・SA 保育実習の学生を受け入れる際に、指定保育士養成施設における保育士養成課程について課題があると感じることはありますか。

		Q4-1-1	Q4-1-2
		当てはまる ものすべて を選択	もっとも当 てはまるも のを1つ選 択
1	保育実習（時間・内容）	☐	☐
2	保育士養成カリキュラムの構成	☐	☐
3	指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内容）	☐	☐
4	指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内容）	☐	☐
5	指定保育士養成施設の指導体制（学生への指導・支援不足など）	☐	☐
6	実習指導にかかる保育所等の負担が大きい	☐	☐
7	保育士養成課程に関する情報共有不足（指定保育士養成施設との連携が不十分など）	☐	☐
8	その他（具体的に ）	☐	☐
9	特にな	☐	☐
10	保育実習の受け入れをしていないため、わからない	☐	☐

回答者：Q4-1-2の〇1～8のいずれかがON

改ページ

Q4-2 FA Q4-1-2で回答した内容について、課題だと感じる理由を教えてください。（任意）

Q4-3 FA Q4-1-2で回答した内容について、どのように改善するのが効果的だと考えるかを教えてください。（任意）

5. ご連絡先

回答者：全員

改ページ

Q5-1 SA 本調査研究では、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたインタビューを予定しています（オンラインにより1時間程度、2026年1月下旬～2月頃実施予定）。このインタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。（当てはまるものを1つ選択）
〇1 協力してもよい
〇2 どちらともいえない
〇3 協力できない

Q5-2 FA 貴施設の情報について、ご回答ください。
※数値は半角でご入力ください。
※電話番号は、半角数字にてハイフンを除いて入力してください。

施設名	
所在都道府県名	(プルダウンより選択)
市区町村名	
ご担当者名	
連絡先 (TEL)	
連絡先 (Email)	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。
(アンケートへの回答はExcelではなく上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

資料編②-1集計表（養成校）

Q1_1 貴施設の施設種別をお選びください。（SA）

		回答数	%
	全体	368	100.0
1	大学	167	45.4
2	短期大学	128	34.8
3	専門学校	69	18.8
4	その他	4	1.1

Q1_2 貴施設の大学院における、保育士養成課程の有無を教えてください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		167	167	-	-	-
1	大学院にも保育士養成課程がある	3	3	-	-	-
2	大学院には保育士養成課程はない	164	164	-	-	-

	施設種別（%）				
	全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	100.0	100.0	-	-	-
	1.8	1.8	-	-	-
	98.2	98.2	-	-	-

Q1_3 貴施設の修業年限を教えてください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	全体	368	167	128	69	4
1	4年	167	167	0	0	0
2	3年	16	0	12	4	0
3	2年	184	0	116	64	4
4	その他	1	0	0	1	0

	施設種別（%）				
	全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	45.4	100.0	0.0	0.0	0.0
	4.3	0.0	9.4	5.8	0.0
	50.0	0.0	90.6	92.8	100.0
	0.3	0.0	0.0	1.4	0.0

Q1_4 貴施設の所在地（都道府県）をお答えください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	全体	368	167	128	69	4
1	北海道	0	0	0	0	0
2	青森県	3	1	1	1	0
3	岩手県	6	2	1	2	1
4	宮城県	0	0	0	0	0
5	秋田県	3	1	2	0	0
6	山形県	1	0	1	0	0
7	福島県	6	2	3	1	0
8	茨城県	6	1	3	2	0
9	栃木県	4	2	1	1	0
10	群馬県	11	5	3	3	0
11	埼玉県	21	9	9	3	0
12	千葉県	19	9	7	3	0
13	東京都	49	26	8	15	0
14	神奈川県	10	5	3	2	0
15	新潟県	9	2	1	6	0
16	富山県	1	0	1	0	0
17	石川県	6	3	2	1	0
18	福井県	2	0	1	1	0
19	山梨県	4	2	2	0	0
20	長野県	6	1	4	1	0
21	岐阜県	9	4	5	0	0
22	静岡県	9	6	1	2	0
23	愛知県	25	16	6	3	0
24	三重県	4	3	1	0	0
25	滋賀県	4	1	3	0	0
26	京都府	6	5	1	0	0
27	大阪府	32	15	12	5	0
28	兵庫県	17	8	7	2	0
29	奈良県	5	3	1	1	0
30	和歌山県	2	1	1	0	0
31	鳥取県	1	1	0	0	0
32	島根県	3	1	1	1	0
33	岡山県	10	4	6	0	0
34	広島県	12	8	2	1	1
35	山口県	6	1	5	0	0
36	徳島県	6	3	1	2	0
37	香川県	6	2	3	1	0
38	愛媛県	6	2	3	1	0
39	高知県	3	1	0	2	0
40	福岡県	16	5	8	2	1
41	佐賀県	4	1	3	0	0
42	長崎県	0	0	0	0	0
43	熊本県	5	3	0	2	0
44	大分県	3	0	2	1	0
45	宮崎県	0	0	0	0	0
46	鹿児島県	5	2	2	0	1
47	沖縄県	2	0	1	1	0

	施設種別（%）				
	全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
	1.6	1.2	0.8	2.9	25.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	0.8	0.6	1.6	0.0	0.0
	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0
	1.6	1.2	2.3	1.4	0.0
	1.6	0.6	2.3	2.9	0.0
	1.1	1.2	0.8	1.4	0.0
	3.0	3.0	2.3	4.3	0.0
	5.7	5.4	7.0	4.3	0.0
	5.2	5.4	5.5	4.3	0.0
	13.3	15.6	6.3	21.7	0.0
	2.7	3.0	2.3	2.9	0.0
	2.4	1.2	0.8	8.7	0.0
	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0
	1.6	1.8	1.6	1.4	0.0
	0.5	0.0	0.8	1.4	0.0
	1.1	1.2	1.6	0.0	0.0
	1.6	0.6	3.1	1.4	0.0
	2.4	2.4	3.9	0.0	0.0
	2.4	3.6	0.8	2.9	0.0
	6.8	9.6	4.7	4.3	0.0
	1.1	1.8	0.8	0.0	0.0
	1.1	0.6	2.3	0.0	0.0
	1.6	3.0	0.8	0.0	0.0
	8.7	9.0	9.4	7.2	0.0
	4.6	4.8	5.5	2.9	0.0
	1.4	1.8	0.8	1.4	0.0
	0.5	0.6	0.8	0.0	0.0
	0.3	0.6	0.0	0.0	0.0
	0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
	2.7	2.4	4.7	0.0	0.0
	3.3	4.8	1.6	1.4	25.0
	1.6	0.6	3.9	0.0	0.0
	1.6	1.8	0.8	2.9	0.0
	1.6	1.2	2.3	1.4	0.0
	1.6	1.2	2.3	1.4	0.0
	0.8	0.6	0.0	2.9	0.0
	4.3	3.0	6.3	2.9	25.0
	1.1	0.6	2.3	0.0	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1.4	1.8	0.0	2.9	0.0
	0.8	0.0	1.6	1.4	0.0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1.4	1.2	1.6	0.0	25.0
	0.5	0.0	0.8	1.4	0.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q1_5 貴施設の経営主体をお選びください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	公立	20	14	3	3	0
2	私立	337	145	125	65	2
3	その他	11	8	0	1	2

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
5.4	8.4	2.3	4.3	0.0
91.6	86.8	97.7	94.2	50.0
3.0	4.8	0.0	1.4	50.0

Q1_6_1_1 第1学年／（NU）

		回答数	
		定員	入所（学）者数
全体		367	366
1	0人	15	18
2	0人超～20人未満	8	52
3	20人以上～40人未満	29	92
4	40人以上～60人未満	124	89
5	60人以上～80人未満	39	46
6	80人以上～100人未満	45	28
7	100人以上～150人未満	80	28
8	150人以上～200人未満	21	11
9	200人以上	6	2

		％	
		定員	入所（学）者数
全体		100.0	100.0
1	0人	4.1	4.9
2	0人超～20人未満	2.2	14.2
3	20人以上～40人未満	7.9	25.1
4	40人以上～60人未満	33.8	24.3
5	60人以上～80人未満	10.6	12.6
6	80人以上～100人未満	12.3	7.7
7	100人以上～150人未満	21.8	7.7
8	150人以上～200人未満	5.7	3.0
9	200人以上	1.6	0.5

Q1_6_2_1 第2学年（NU）

		回答数		
		定員	入所（学）時学生数	2025年在所（学）者数
全体		367	368	368
1	0人	5	7	5
2	0人超～20人未満	8	47	53
3	20人以上～40人未満	28	100	105
4	40人以上～60人未満	117	94	92
5	60人以上～80人未満	34	47	51
6	80人以上～100人未満	49	35	25
7	100人以上～150人未満	94	25	25
8	150人以上～200人未満	24	10	8
9	200人以上	8	3	4

		％		
		定員	入所（学）時学生数	2025年在所（学）者数
全体		100.0	100.0	100.0
1	0人	1.4	1.9	1.4
2	0人超～20人未満	2.2	12.8	14.4
3	20人以上～40人未満	7.6	27.2	28.5
4	40人以上～60人未満	31.9	25.5	25.0
5	60人以上～80人未満	9.3	12.8	13.9
6	80人以上～100人未満	13.4	9.5	6.8
7	100人以上～150人未満	25.6	6.8	6.8
8	150人以上～200人未満	6.5	2.7	2.2
9	200人以上	2.2	0.8	1.1

Q1_6_3_1 第3学年（NU）

		回答数		
		定員	入所 (学) 時学生 数	2025年 在所 (学) 者数
全体		183	183	183
1	0人	3	5	3
2	0人超～20人未満	8	25	29
3	20人以上～40人未満	14	35	45
4	40人以上～60人未満	57	54	46
5	60人以上～80人未満	22	18	22
6	80人以上～100人未満	26	18	16
7	100人以上～150人未満	40	22	17
8	150人以上～200人未満	8	2	2
9	200人以上	5	4	3

※修業年限3年以上を集計している

		%		
		定員	入所 (学) 時学生 数	2025年 在所 (学) 者数
全体		100.0	100.0	100.0
1	0人	1.6	2.7	1.6
2	0人超～20人未満	4.4	13.7	15.8
3	20人以上～40人未満	7.7	19.1	24.6
4	40人以上～60人未満	31.1	29.5	25.1
5	60人以上～80人未満	12.0	9.8	12.0
6	80人以上～100人未満	14.2	9.8	8.7
7	100人以上～150人未満	21.9	12.0	9.3
8	150人以上～200人未満	4.4	1.1	1.1
9	200人以上	2.7	2.2	1.6

※修業年限3年以上を集計している

Q1_6_4_1 第4学年（NU）

		回答数		
		定員	入所 (学) 時学生 数	2025年 在所 (学) 者数
全体		167	167	167
1	0人	2	4	2
2	0人超～20人未満	7	21	24
3	20人以上～40人未満	15	37	36
4	40人以上～60人未満	46	41	43
5	60人以上～80人未満	25	21	24
6	80人以上～100人未満	24	17	18
7	100人以上～150人未満	38	20	15
8	150人以上～200人未満	7	4	3
9	200人以上	3	2	2

※修業年限4年以上を集計している

		%		
		定員	入所 (学) 時学生 数	2025年 在所 (学) 者数
全体		100.0	100.0	100.0
1	0人	1.2	2.4	1.2
2	0人超～20人未満	4.2	12.6	14.4
3	20人以上～40人未満	9.0	22.2	21.6
4	40人以上～60人未満	27.5	24.6	25.7
5	60人以上～80人未満	15.0	12.6	14.4
6	80人以上～100人未満	14.4	10.2	10.8
7	100人以上～150人未満	22.8	12.0	9.0
8	150人以上～200人未満	4.2	2.4	1.8
9	200人以上	1.8	1.2	1.2

Q1_7 貴施設の開講形態を教えてください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	昼間部	356	164	123	65	4
2	夜間部	4	1	2	1	0
3	昼夜開講制	2	0	0	2	0
4	通信教育制	6	2	3	1	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	昼間部	96.7	98.2	96.1	94.2	100.0
2	夜間部	1.1	0.6	1.6	1.4	0.0
3	昼夜開講制	0.5	0.0	0.0	2.9	0.0
4	通信教育制	1.6	1.2	2.3	1.4	0.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q1_8_1 通信制で通う学生における保育士の専門性やカリキュラムの定着度をどのように把握、確認していますか。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		6	2	3	1	0
1	定期的な筆記試験やレポートによる評価	6	2	3	1	0
2	実習評価（現場実習での指導者からの評価や実習日誌の確認）	6	2	3	1	0
3	面接等による口頭での確認	4	1	2	1	0
4	学生による自己評価・振り返りシートの活用	5	2	2	1	0
5	卒業時の総合評価（卒業研究、発表、ポートフォリオ等）	3	1	1	1	0
6	外部評価（第三者によるアセスメントや外部講師の評価など）	0	0	0	0	0
7	その他	0	0	0	0	0
8	特になし	0	0	0	0	0

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	－
100.0	100.0	100.0	100.0	－
100.0	100.0	100.0	100.0	－
66.7	50.0	66.7	100.0	－
83.3	100.0	66.7	100.0	－
50.0	50.0	33.3	100.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－

Q1_8_2 通信制で通う学生における保育士の専門性やカリキュラムの定着度をどのように把握、確認していますか。／もっとも効果的だと考える方法を1つ選択（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		6	2	3	1	0
1	定期的な筆記試験やレポートによる評価	1	0	1	0	0
2	実習評価（現場実習での指導者からの評価や実習日誌の確認）	4	1	2	1	0
3	面接等による口頭での確認	0	0	0	0	0
4	学生による自己評価・振り返りシートの活用	1	1	0	0	0
5	卒業時の総合評価（卒業研究、発表、ポートフォリオ等）	0	0	0	0	0
6	外部評価（第三者によるアセスメントや外部講師の評価など）	0	0	0	0	0
7	その他	0	0	0	0	0
8	特になし	0	0	0	0	0

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
16.7	0.0	33.3	0.0	－
66.7	50.0	66.7	100.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
16.7	50.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－
0.0	0.0	0.0	0.0	－

Q2_1A (1) 教授科目別時間数（教養科目・告示による教科目）（MA）

		回答数	％
全体		368	100.0
1	外国語・体育以外の基礎科目①	356	96.7
2	外国語・体育以外の基礎科目②	355	96.5
3	外国語・体育以外の基礎科目③	346	94.0
4	外国語・体育以外の基礎科目④	293	79.6
5	外国語・体育以外の基礎科目⑤	239	64.9
6	外国語・体育以外の基礎科目⑥	204	55.4
7	外国語・体育以外の基礎科目⑦	163	44.3
8	外国語・体育以外の基礎科目⑧	140	38.0
9	外国語・体育以外の基礎科目⑨	120	32.6
10	外国語・体育以外の基礎科目⑩	107	29.1
11	外国語・体育以外の基礎科目⑪	91	24.7
12	外国語・体育以外の基礎科目⑫	77	20.9
13	外国語・体育以外の基礎科目⑬	62	16.8
14	外国語・体育以外の基礎科目⑭	56	15.2
15	外国語・体育以外の基礎科目⑮	51	13.9
16	外国語・体育以外の基礎科目⑯	46	12.5
17	外国語・体育以外の基礎科目⑰ その他	59	16.0
18	外国語（演習）	336	91.3
19	体育（講義）	335	91.0
20	体育（実技）	335	91.0

		1施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	外国語・体育以外の基礎科目	14.4	282.0	3.9	62.8	1.7	25.6	0.4	7.3
2	外国語（演習）	2.8	77.0	0.8	20.4	0.1	4.2	0.1	1.8
3	体育（講義）	1.2	22.7	0.3	4.2	0.1	0.9	0.0	0.2
4	体育（実技）	1.1	36.3	0.3	6.8	0.2	1.9	0.0	0.0

※第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

外国語・体育以外の基礎科目の科目数

		回答数	％
全体		365	100.0
1	0科目	0	0.0
2	1～4科目	116	31.8
3	5～9科目	128	35.1
4	10～19科目	73	20.0
5	20～29科目	19	5.2
6	30～39科目	10	2.7
7	40～49科目	6	1.6
8	50科目以上	13	3.6

Q2_1B （必修科目・告示別表第1による教科目）（MA）

		1 施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	保育原理（講義）	1.8	27.2	0.2	6.4	0.0	0.7	0.0	0.0
2	教育原理（講義）	1.7	28.7	0.3	5.1	0.0	0.5	0.0	0.0
3	子ども家庭福祉（講義）	1.3	22.5	0.6	9.5	0.2	2.8	0.0	0.7
4	社会福祉（講義）	1.6	26.5	0.4	5.6	0.2	2.6	0.0	0.7
5	子ども家庭支援論（講義）	0.3	3.4	1.2	20.9	1.0	15.2	0.3	4.0
6	社会的養護Ⅰ（講義）	1.1	19.1	0.8	12.8	0.2	3.0	0.0	0.2
7	保育者論（講義）	1.3	22.9	0.6	8.8	0.3	3.8	0.0	0.2
8	保育の心理学（講義）	1.6	27.2	0.4	5.6	0.1	1.6	0.0	0.0
9	子ども家庭支援の心理学（講義）	0.5	11.0	1.1	16.5	0.7	10.7	0.1	1.8
10	子どもの理解と援助（演習）	0.4	7.9	0.7	18.5	0.5	9.7	0.0	0.7
11	子どもの保健（講義）	1.0	19.5	0.9	12.3	0.3	4.4	0.0	0.2
12	子どもの食と栄養（演習）	0.3	11.3	1.2	26.1	1.0	15.4	0.3	1.8
13	保育の計画と評価（講義）	0.6	13.2	1.1	15.5	0.6	9.4	0.0	0.7
14	保育内容総論（演習）	0.7	19.3	0.5	9.9	0.3	5.0	0.1	1.7
15	保育内容演習①（演習）	0.5	11.1	0.8	20.0	0.4	4.8	0.0	0.2
16	保育内容演習②（演習）	0.5	10.6	0.7	18.2	0.5	7.0	0.0	0.0
17	保育内容演習③（演習）	0.4	11.2	0.7	18.5	0.5	6.6	0.0	0.2
18	保育内容演習④（演習）	0.5	15.2	0.6	12.7	0.5	6.3	0.0	0.0
19	保育内容演習⑤（演習）	0.5	11.7	0.8	19.6	0.6	8.3	0.0	0.2
20	保育内容の理解と方法①（演習）	1.0	28.0	0.8	11.7	0.3	5.7	0.0	0.0
21	保育内容の理解と方法②（演習）	0.8	23.2	0.6	11.0	0.3	4.8	0.0	0.4
22	保育内容の理解と方法③（演習）	0.8	33.6	0.8	13.4	0.3	7.2	0.0	0.5
23	乳児保育Ⅰ（講義）	1.1	20.2	0.8	11.8	0.2	3.3	0.0	0.0
24	乳児保育Ⅱ（演習）	0.2	6.4	0.6	18.8	0.5	10.2	0.1	1.3
25	子どもの健康と安全（演習）	0.2	5.6	0.7	19.5	0.6	9.5	0.1	2.2
26	障害児保育（演習）	0.4	12.8	1.1	23.2	0.9	16.8	0.1	1.4
27	社会的養護Ⅱ（演習）	0.1	6.6	0.7	17.0	0.6	12.9	0.1	1.0
28	子育て支援（演習）	1.1	1.1	0.6	18.7	0.7	16.7	0.3	4.6
29	保育実習Ⅰ（実習）	1.2	61.5	2.1	78.5	2.9	76.9	0.1	3.4
30	保育実習指導Ⅰ（演習）	0.8	23.5	0.9	23.4	0.9	22.5	0.0	0.6
31	保育実践演習（演習）	0.5	8.3	0.1	2.1	1.3	26.6	0.0	2.0

※第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

Q2_1C （選択必修科目・告示別表2による教科目）（MA）

	回答数	%
全体		
1 保育の本質・目的に関する科目①	295	80.2
2 保育の本質・目的に関する科目②	170	46.2
3 保育の本質・目的に関する科目③	94	25.5
4 保育の本質・目的に関する科目④	60	16.3
5 保育の本質・目的に関する科目⑤	42	11.4
6 保育の本質・目的に関する科目⑥	30	8.2
7 保育の本質・目的に関する科目⑦	25	6.8
8 保育の本質・目的に関する科目⑧	5	1.4
9 保育の本質・目的に関する科目⑨ その他	9	2.4
10 保育の対象の理解に関する科目①	330	89.7
11 保育の対象の理解に関する科目②	242	65.8
12 保育の対象の理解に関する科目③	166	45.1
13 保育の対象の理解に関する科目④	98	26.6
14 保育の対象の理解に関する科目⑤	63	17.1
15 保育の対象の理解に関する科目⑥	21	5.7
16 保育の対象の理解に関する科目⑦	9	2.4
17 保育の対象の理解に関する科目⑧	5	1.4
18 保育の対象の理解に関する科目⑨ その他	12	3.3
19 保育の内容・方法に関する科目①	344	93.5
20 保育の内容・方法に関する科目②	339	92.1
21 保育の内容・方法に関する科目③	328	89.1
22 保育の内容・方法に関する科目④	314	85.3
23 保育の内容・方法に関する科目⑤	295	80.2
24 保育の内容・方法に関する科目⑥	259	70.4
25 保育の内容・方法に関する科目⑦	220	59.8
26 保育の内容・方法に関する科目⑧	188	51.1
27 保育の内容・方法に関する科目⑨ その他	157	42.7
28 保育実習Ⅱ（実習）	358	97.3
29 保育実習Ⅲ（実習）	286	77.7
30 保育実習指導Ⅱ（演習）	357	97.0
31 保育実習指導Ⅲ（演習）	280	76.1

※国が示している標準的な教授科目のほか、学校によっては別途教科目を設定している場合がある。
 ※学校によっては複数の系列にまたがるような教科目の設定をしている場合がある。

資料編②-1集計表（養成校）

		1 施設当たり平均							
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
		単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
1	保育の本質・目的に関する科目	1.4	22.2	1.4	27.8	2.0	25.1	0.5	7.4
2	保育の対象の理解に関する科目	1.1	18.8	2.2	39.8	2.3	34.4	0.7	11.1
3	保育の内容・方法に関する科目	3.9	105.3	5.1	130.4	4.6	79.4	1.2	22.2
4	保育実習Ⅱ（実習）	0.0	0.6	1.1	57.5	2.0	40.7	1.9	33.0
5	保育実習Ⅲ（実習）	0.0	0.6	0.9	55.5	1.5	38.1	1.5	38.3
6	保育実習指導Ⅱ（演習）	0.0	0.6	0.5	18.2	0.9	14.2	0.8	11.4
7	保育実習指導Ⅲ（演習）	0.0	0.2	0.5	17.9	0.7	13.3	0.7	12.7

※第3学年は修業年限3年以上、第4学年は修業年限4年の学校のみ集計している。

選択必修科目に関する科目の科目数

		回答数		
		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目
全体		368	368	368
1	0科目	69	35	9
2	1～4科目	255	268	49
3	5～9科目	41	59	186
4	10～19科目	2	6	114
5	20～29科目	1	0	9
6	30～39科目	0	0	1
7	40～49科目	0	0	0
8	50科目以上	0	0	0

		%		
		保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目
全体		100.0	100.0	100.0
1	0科目	18.8	9.5	2.4
2	1～4科目	69.3	72.8	13.3
3	5～9科目	11.1	16.0	50.5
4	10～19科目	0.5	1.6	31.0
5	20～29科目	0.3	0.0	2.4
6	30～39科目	0.0	0.0	0.3
7	40～49科目	0.0	0.0	0.0
8	50科目以上	0.0	0.0	0.0

Q2_2_1 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／基礎科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	67	34	27	6	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	76	39	30	7	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	8	5	2	1	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	14	5	7	2	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	8	4	2	2	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	56	31	17	8	0
7	カリキュラム改定は行っていない	240	105	82	49	4

		施設種別（%）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	一部教科目の新設を行った	18.3	20.4	21.3	8.8	0.0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	20.8	23.4	23.6	10.3	0.0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	2.2	3.0	1.6	1.5	0.0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	3.8	3.0	5.5	2.9	0.0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	2.2	2.4	1.6	2.9	0.0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	15.3	18.6	13.4	11.8	0.0
7	カリキュラム改定は行っていない	65.6	62.9	64.6	72.1	100.0

Q2_2_2 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【必修科目】保育の本質・目的に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	2	1	0	1	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	1	1	0	0	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	3	0	2	1	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	23	19	1	3	0
7	カリキュラム改定は行っていない	337	146	124	63	4

		施設種別（%）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	一部教科目の新設を行った	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	0.5	0.6	0.0	1.5	0.0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	0.3	0.6	0.0	0.0	0.0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	0.8	0.0	1.6	1.5	0.0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	6.3	11.4	0.8	4.4	0.0
7	カリキュラム改定は行っていない	92.1	87.4	97.6	92.6	100.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q2_2_3 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【必修科目】保育の対象の理解に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	4	3	1	0	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	6	5	1	0	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	4	1	1	2	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	25	14	6	4	1
7	カリキュラム改定は行っていない	330	146	119	62	3

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1.1	1.8	0.8	0.0	0.0
1.6	3.0	0.8	0.0	0.0
1.1	0.6	0.8	2.9	0.0
6.8	8.4	4.7	5.9	25.0
90.2	87.4	93.7	91.2	75.0

Q2_2_4 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【必修科目】保育の内容・方法に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	11	6	4	1	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	20	11	6	3	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	14	7	4	3	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	50	30	16	4	0
7	カリキュラム改定は行っていない	287	124	101	58	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3.0	3.6	3.1	1.5	0.0
5.5	6.6	4.7	4.4	0.0
3.8	4.2	3.1	4.4	0.0
13.7	18.0	12.6	5.9	0.0
78.4	74.3	79.5	85.3	100.0

Q2_2_5 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【必修科目】保育実習（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	3	1	1	1	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	4	2	2	0	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	1	0	0	1	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	13	7	5	1	0
7	カリキュラム改定は行っていない	347	158	120	65	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.8	0.6	0.8	1.5	0.0
1.1	1.2	1.6	0.0	0.0
0.3	0.0	0.0	1.5	0.0
3.6	4.2	3.9	1.5	0.0
94.8	94.6	94.5	95.6	100.0

Q2_2_6 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【必修科目】総合演習（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	1	1	0	0	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	1	1	0	0	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	5	2	1	2	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	7	6	1	0	0
7	カリキュラム改定は行っていない	352	157	125	66	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.3	0.6	0.0	0.0	0.0
0.3	0.6	0.0	0.0	0.0
1.4	1.2	0.8	2.9	0.0
1.9	3.6	0.8	0.0	0.0
96.2	94.0	98.4	97.1	100.0

Q2_2_7 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【選択必修科目】保育の本質・目的に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	14	12	1	1	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	32	20	8	4	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	6	3	1	2	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	6	3	2	1	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	2	0	1	1	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	11	6	1	4	0
7	カリキュラム改定は行っていない	310	135	115	56	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
3.8	7.2	0.8	1.5	0.0
8.7	12.0	6.3	5.9	0.0
1.6	1.8	0.8	2.9	0.0
1.6	1.8	1.6	1.5	0.0
0.5	0.0	0.8	1.5	0.0
3.0	3.6	0.8	5.9	0.0
84.7	80.8	90.6	82.4	100.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q2_2_8 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【選択必修科目】保育の対象の理解に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	13	7	2	3	1
2	一部教科目の廃止、統合を行った	28	14	9	5	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	4	3	1	0	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	5	0	4	1	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	3	1	1	1	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	14	10	2	2	0
7	カリキュラム改定は行っていない	314	139	113	59	3

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
3.6	4.2	1.6	4.4	25.0
7.7	8.4	7.1	7.4	0.0
1.1	1.8	0.8	0.0	0.0
1.4	0.0	3.1	1.5	0.0
0.8	0.6	0.8	1.5	0.0
3.8	6.0	1.6	2.9	0.0
85.8	83.2	89.0	86.8	75.0

Q2_2_9 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【選択必修科目】保育の内容・方法に関する科目（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	45	19	20	5	1
2	一部教科目の廃止、統合を行った	49	23	19	7	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	6	3	3	0	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	11	3	7	1	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	7	1	2	4	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	39	20	13	5	1
7	カリキュラム改定は行っていない	269	123	90	54	2

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
12.3	11.4	15.7	7.4	25.0
13.4	13.8	15.0	10.3	0.0
1.6	1.8	2.4	0.0	0.0
3.0	1.8	5.5	1.5	0.0
1.9	0.6	1.6	5.9	0.0
10.7	12.0	10.2	7.4	25.0
73.5	73.7	70.9	79.4	50.0

Q2_2_10 直近3年以内のカリキュラム改定状況を教えてください。／【選択必修科目】保育実習（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		366	167	127	68	4
1	一部教科目の新設を行った	0	0	0	0	0
2	一部教科目の廃止、統合を行った	0	0	0	0	0
3	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を増やした	2	1	1	0	0
4	既存の教科目のうち、一部教科目の単位数・時間数を減らした	3	1	1	1	0
5	既存の教科目のうち、一部教科目のシラバスの内容を大幅に改定した	1	0	0	1	0
6	左記以外の観点でカリキュラム改定を行った	6	3	2	1	0
7	カリキュラム改定は行っていない	354	162	123	65	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.5	0.6	0.8	0.0	0.0
0.8	0.6	0.8	1.5	0.0
0.3	0.0	0.0	1.5	0.0
1.6	1.8	1.6	1.5	0.0
96.7	97.0	96.9	95.6	100.0

Q2_4 貴施設における保育士養成課程の方針や特徴として当てはまるものを教えてください。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	保育の理論的基盤を重視	242	121	89	30	2
2	子ども理解、環境構成などの実践面を重視	293	131	102	57	3
3	造形・音楽・言語など実技技能を重視	269	109	102	55	3
4	実践と理論の往還型の教育	271	133	94	42	2
5	保育現場でのボランティアやインターンシップの活用	178	77	62	38	1
6	その他	27	16	7	4	0

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
65.8	72.5	69.5	43.5	50.0
79.6	78.4	79.7	82.6	75.0
73.1	65.3	79.7	79.7	75.0
73.6	79.6	73.4	60.9	50.0
48.4	46.1	48.4	55.1	25.0
7.3	9.6	5.5	5.8	0.0

Q2_5 保育士養成に関して、指定保育士養成施設（以下、「養成校」という。）間での養成課程上の連携を行っていますか。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	他の養成校との単位互換制度の実施	31	7	11	13	0
2	他の養成校との連携による科目の開設	7	1	1	5	0
3	他の養成校との共同での養成課程の運営	4	2	0	2	0
4	その他	14	8	6	0	0
5	他の養成校との養成課程上の連携は行っていない	319	149	110	56	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
8.4	4.2	8.6	18.8	0.0
1.9	0.6	0.8	7.2	0.0
1.1	1.2	0.0	2.9	0.0
3.8	4.8	4.7	0.0	0.0
86.7	89.2	85.9	81.2	100.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q2_6_1 貴施設において、保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許はありますか。／取得が必須の資格や免許（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	介護福祉士	2	0	1	1	0
2	社会福祉士	3	1	1	1	0
3	精神保健福祉士	3	1	1	1	0
4	幼稚園教諭免許状	63	21	16	26	0
5	小学校教諭免許状	9	6	1	2	0
6	特別支援学校教諭免許状	2	0	1	1	0
7	その他	6	1	2	3	0
8	特になし	296	142	109	41	4

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.5	0.0	0.8	1.4	0.0
0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
17.1	12.6	12.5	37.7	0.0
2.4	3.6	0.8	2.9	0.0
0.5	0.0	0.8	1.4	0.0
1.6	0.6	1.6	4.3	0.0
80.4	85.0	85.2	59.4	100.0

Q2_6_2 貴施設において、保育士資格取得と同時に取得可能な資格や免許はありますか。／取得が任意の資格や免許（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	介護福祉士	2	0	0	2	0
2	社会福祉士	24	20	1	3	0
3	精神保健福祉士	5	3	1	1	0
4	幼稚園教諭免許状	270	134	104	31	1
5	小学校教諭免許状	88	78	8	2	0
6	特別支援学校教諭免許状	44	40	3	1	0
7	その他	123	52	52	18	1
8	特になし	44	5	8	29	2

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0.5	0.0	0.0	2.9	0.0
6.5	12.0	0.8	4.3	0.0
1.4	1.8	0.8	1.4	0.0
73.4	80.2	81.3	44.9	25.0
23.9	46.7	6.3	2.9	0.0
12.0	24.0	2.3	1.4	0.0
33.4	31.1	40.6	26.1	25.0
12.0	3.0	6.3	42.0	50.0

Q3_1_1A 実習の実施状況について、「業務報告」第1表「（2）施設の種類の」に記載の内容を基に教えてください。／実習の場所・施設の種類の（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	保育所	364	165	126	69	4
2	幼保連携型認定こども園	283	116	104	59	4
3	小規模保育事業	35	10	11	12	2
4	事業所内保育事業	13	3	6	4	0
5	乳児院	250	111	87	49	3
6	母子生活支援施設	133	65	42	24	2
7	障害児入所施設	228	97	81	48	2
8	児童発達支援センター	230	97	79	50	4
9	障害児支援施設	218	98	78	39	3
10	指定障害福祉サービス事業所	138	50	54	34	0
11	児童養護施設	297	132	102	59	4
12	情緒障害児短期治療施設	25	11	10	3	1
13	児童自立支援施設	49	21	21	6	1
14	児童相談所一時保護施設	41	20	16	5	0
15	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園	13	5	5	3	0

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
98.9	98.8	98.4	100.0	100.0
76.9	69.5	81.3	85.5	100.0
9.5	6.0	8.6	17.4	50.0
3.5	1.8	4.7	5.8	0.0
67.9	66.5	68.0	71.0	75.0
36.1	38.9	32.8	34.8	50.0
62.0	58.1	63.3	69.6	50.0
62.5	58.1	61.7	72.5	100.0
59.2	58.7	60.9	56.5	75.0
37.5	29.9	42.2	49.3	0.0
80.7	79.0	79.7	85.5	100.0
6.8	6.6	7.8	4.3	25.0
13.3	12.6	16.4	8.7	25.0
11.1	12.0	12.5	7.2	0.0
3.5	3.0	3.9	4.3	0.0

Q3_1_1B 実習の実施状況について、「業務報告」第1表「（2）施設の種類の」に記載の内容を基に教えてください。／実習の場所・施設の種類の（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	保育所	360	162	126	68	4
2	幼保連携型認定こども園	279	112	103	60	4
3	小規模保育事業	53	18	14	19	2
4	事業所内保育事業	13	4	7	1	1
5	保育実習Ⅱは実施していない	4	3	1	0	0

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
97.8	97.0	98.4	98.6	100.0
75.8	67.1	80.5	87.0	100.0
14.4	10.8	10.9	27.5	50.0
3.5	2.4	5.5	1.4	25.0
1.1	1.8	0.8	0.0	0.0

Q3_1_1C 実習の実施状況について、「業務報告」第1表「（2）施設の種類の」に記載の内容を基に教えてください。／実習の場所・施設の種類の（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	児童厚生施設	102	45	39	17	1
2	児童発達支援センター	166	81	55	28	2
3	その他	171	94	62	14	1
4	保育実習Ⅲは実施していない	109	39	35	33	2

施設種別（％）				
全体	大学	短期大学	専門学校	その他
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
27.7	26.9	30.5	24.6	25.0
45.1	48.5	43.0	40.6	50.0
46.5	56.3	48.4	20.3	25.0
29.6	23.4	27.3	47.8	50.0

Q3_1_2_1 保育実習Ⅰ～Ⅲの単位数及び時間数／単位数（NU）

	回答数	平均値	最小値	最大値
1 保育実習Ⅰ	362	3.5	2.0	10.0
2 保育実習Ⅱ	358	2.0	1.0	4.0
3 保育実習Ⅲ	254	2.0	1.0	4.0

※学校によっては最低限の時間数のみを設定している場合もある。

資料編②-1集計表（養成校）

Q3_1_2_1 保育実習Ⅰ～Ⅲの単位数及び時間数／時間数（NU）

	回答数	平均値	最小値	最大値
1 保育実習Ⅰ	362	145.7	10.0	360.0
2 保育実習Ⅱ	358	83.9	10.0	180.0
3 保育実習Ⅲ	254	84.1	10.0	180.0

※学校によっては最低限の時間数のみを設定している場合もある。

Q3_2 実習先の確保方法について教えてください。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	学生の希望を聞いたうえで、養成校が実習先の割り当てを実施	291	132	98	57	4
2	学生の希望は聞かずに、養成校が実習先の割り当てを実施	62	32	23	7	0
3	学生自身による選定・確保	127	61	52	13	1
4	その他	10	6	3	1	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		79.1	79.0	76.6	82.6	100.0
2		16.8	19.2	18.0	10.1	0.0
3		34.5	36.5	40.6	18.8	25.0
4		2.7	3.6	2.3	1.4	0.0

※その他の回答内容を確認した際に、選択肢1、選択肢2のいずれもある旨の記述があった場合に、その他から選択肢1、2に回答を付け替える作業を行った。

Q3_3 実習先との連携体制として実施しているものを教えてください。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	定期会議の開催	125	50	57	18	0
2	個別連絡の実施	316	138	111	64	3
3	その他	60	28	23	9	0
4	実習先との連携はしていない	13	6	4	2	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		34.0	29.9	44.5	26.1	0.0
2		85.9	82.6	86.7	92.8	75.0
3		16.3	16.8	18.0	13.0	0.0
4		3.5	3.6	3.1	2.9	25.0

Q3_4 貴施設における、保育実習の指導体制について教えてください。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	専任の実習指導教員を配置している	154	70	54	29	1
2	他の業務を兼任する教員が実習指導を担当している	156	69	58	27	2
3	専任の実習指導教員と他の業務を兼任する教員の両方が実習指導を担当している	57	28	15	13	1
4	その他	1	0	1	0	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		41.8	41.9	42.2	42.0	25.0
2		42.4	41.3	45.3	39.1	50.0
3		15.5	16.8	11.7	18.8	25.0
4		0.3	0.0	0.8	0.0	0.0

Q3_5_1 保育実習を運営する上での、実習先との連携に関する課題を教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	実習先の確保が困難である（実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど）	142	59	48	32	3
2	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	94	44	32	16	2
3	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	225	94	83	47	1
4	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	152	62	55	33	2
5	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	176	71	64	38	3
6	実習指導にかかる負担が大きい	193	87	65	39	2
7	その他	14	11	2	0	1
8	特になし	36	20	11	4	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		38.6	35.3	37.5	46.4	75.0
2		25.5	26.3	25.0	23.2	50.0
3		61.1	56.3	64.8	68.1	25.0
4		41.3	37.1	43.0	47.8	50.0
5		47.8	42.5	50.0	55.1	75.0
6		52.4	52.1	50.8	56.5	50.0
7		3.8	6.6	1.6	0.0	25.0
8		9.8	12.0	8.6	5.8	25.0

Q3_5_2 保育実習を運営する上での、実習先との連携に関する課題を教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	実習先の確保が困難である（実習先の偏在や、実習希望者が集中する地域があるなど）	43	17	11	13	2
2	養成校が重視する保育観や指導方針に対応できる実習園の選定が難しい	24	15	8	1	0
3	実習における指導者の指導方針や力量に差がある	78	33	29	16	0
4	実習評価の考え方について、養成校と実習園の間で共通理解を得ることが難しい	44	14	23	7	0
5	実習日誌の取り扱いやICT化に対する考え方にずれがある	30	12	13	5	0
6	実習指導にかかる負担が大きい	111	54	33	23	1
7	その他	2	2	0	0	0
8	特になし	36	20	11	4	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		11.7	10.2	8.6	18.8	50.0
2		6.5	9.0	6.3	1.4	0.0
3		21.2	19.8	22.7	23.2	0.0
4		12.0	8.4	18.0	10.1	0.0
5		8.2	7.2	10.2	7.2	0.0
6		30.2	32.3	25.8	33.3	25.0
7		0.5	1.2	0.0	0.0	0.0
8		9.8	12.0	8.6	5.8	25.0

資料編②-1集計表（養成校）

Q4_1 保育士養成課程におけるICTの活用状況を教えてください。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		354	159	123	68	4
1	教材の配信（クラウド等を利用した資料・教材の配布）	232	113	80	36	3
2	オンラインによる課題提出・添削	253	130	89	32	2
3	動画や録画授業の提供（オンデマンド型）	133	66	51	15	1
4	リアルタイムのオンライン授業（双方向型：質疑応答やディスカッションなどを含む）	49	24	13	12	0
5	実習日誌の作成（PC等を利用した電子上の日誌作成）	118	65	35	16	2
6	実習日誌の共有（養成施設の教員間、養成施設と実習先など）	39	17	11	11	0
7	その他	24	12	11	1	0
8	保育士養成課程においてICTは活用できていない	39	10	11	17	1

施設種別（％）					
全体	大学	短期大学	専門学校	その他	
100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
65.5	71.1	65.0	52.9	75.0	
71.5	81.8	72.4	47.1	50.0	
37.6	41.5	41.5	22.1	25.0	
13.8	15.1	10.6	17.6	0.0	
33.3	40.9	28.5	23.5	50.0	
11.0	10.7	8.9	16.2	0.0	
6.8	7.5	8.9	1.5	0.0	
11.0	6.3	8.9	25.0	25.0	

Q4_2_1 貴施設における保育士養成課程科目毎で、最も多いオンライン授業の頻度についてお答えください。／基礎科目（SA）

		回答数					
		基礎科目	保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	保育実習（実習を除く）	総合演習
全体		143	143	143	143	143	143
1	毎回実施している（毎授業、またはほぼ毎授業）	12	8	7	3	2	1
2	2回に1回程度実施している（全体の約半分程度）	3	2	2	1	0	1
3	時々実施している（3～5回に1回程度）	7	11	11	11	5	5
4	まれに実施している（5回に1回より少ない頻度）	69	59	53	60	30	27
5	その他	22	16	15	15	9	10
6	オンライン授業は実施していない	30	47	55	53	97	99

		％					
		基礎科目	保育の本質・目的に関する科目	保育の対象の理解に関する科目	保育の内容・方法に関する科目	保育実習（実習を除く）	総合演習
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	毎回実施している（毎授業、またはほぼ毎授業）	8.4	5.6	4.9	2.1	1.4	0.7
2	2回に1回程度実施している（全体の約半分程度）	2.1	1.4	1.4	0.7	0.0	0.7
3	時々実施している（3～5回に1回程度）	4.9	7.7	7.7	7.7	3.5	3.5
4	まれに実施している（5回に1回より少ない頻度）	48.3	41.3	37.1	42.0	21.0	18.9
5	その他	15.4	11.2	10.5	10.5	6.3	7.0
6	オンライン授業は実施していない	21.0	32.9	38.5	37.1	67.8	69.2

Q5_1_1 2025年4月時点の、保育士養成に従事する貴施設の職員の状況について教えてください。（NU）

		回答数			
		専任職員	うち、専任教員	うち、専任事務職員	講師（兼任職員を含む）
全体		368	368	368	368
1	0人	1	1	45	13
2	1～4人	4	15	140	11
3	5～9人	79	126	87	28
4	10～19人	133	185	52	107
5	20～29人	69	27	15	76
6	30～39人	36	6	6	47
7	40～49人	17	2	4	29
8	50人以上	29	6	19	57

		％			
		専任職員	うち、専任教員	うち、専任事務職員	講師（兼任職員を含む）
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	0人	0.3	0.3	12.2	3.5
2	1～4人	1.1	4.1	38.0	3.0
3	5～9人	21.5	34.2	23.6	7.6
4	10～19人	36.1	50.3	14.1	29.1
5	20～29人	18.8	7.3	4.1	20.7
6	30～39人	9.8	1.6	1.6	12.8
7	40～49人	4.6	0.5	1.1	7.9
8	50人以上	7.9	1.6	5.2	15.5

Q5_2 貴施設における教員の専門性向上のための取組について教えてください。
（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	貴施設内で組織的に実施される定期的な教員研修	220	84	91	42	3
2	教員有志による自主的な研究会・勉強会の開催（テーマ別の勉強会等）	110	47	41	20	2
3	他機関との連携による交流・共同研究（他校や保育施設との合同研究会、外部講師を招いたセミナー等）	158	77	52	28	1
4	外部研修や学会等への参加促進・支援（例：参加推奨、費用補助、業務調整等）	277	120	104	52	1
5	その他	11	6	3	2	0
6	特に実施していない	20	12	6	1	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	貴施設内で組織的に実施される定期的な教員研修	59.8	50.3	71.1	60.9	75.0
2	教員有志による自主的な研究会・勉強会の開催（テーマ別の勉強会等）	29.9	28.1	32.0	29.0	50.0
3	他機関との連携による交流・共同研究（他校や保育施設との合同研究会、外部講師を招いたセミナー等）	42.9	46.1	40.6	40.6	25.0
4	外部研修や学会等への参加促進・支援（例：参加推奨、費用補助、業務調整等）	75.3	71.9	81.3	75.4	25.0
5	その他	3.0	3.6	2.3	2.9	0.0
6	特に実施していない	5.4	7.2	4.7	1.4	25.0

Q5_3_1 貴施設による指導方法について、特徴的だと考える点や特に工夫している点について教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	278	134	101	40	3
2	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	334	147	118	66	3
3	I C T等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	112	54	38	19	1
4	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	347	159	117	67	4
5	その他の特色ある指導方法や工夫	43	20	14	9	0
6	特に工夫できていることはない	4	1	3	0	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	75.5	80.2	78.9	58.0	75.0
2	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	90.8	88.0	92.2	95.7	75.0
3	I C T等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	30.4	32.3	29.7	27.5	25.0
4	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	94.3	95.2	91.4	97.1	100.0
5	その他の特色ある指導方法や工夫	11.7	12.0	10.9	13.0	0.0
6	特に工夫できていることはない	1.1	0.6	2.3	0.0	0.0

Q5_3_2 貴施設による指導方法について、特徴的だと考える点や特に工夫している点について教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	56	33	18	4	1
2	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	119	50	46	21	2
3	I C T等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	8	3	2	3	0
4	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	159	69	52	37	1
5	その他の特色ある指導方法や工夫	22	11	7	4	0
6	特に工夫できていることはない	4	1	3	0	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	複数教員によるチーム指導（教科横断的な授業、共同担当など）	15.2	19.8	14.1	5.8	25.0
2	学生の状況等に応じた個別指導（個別面談、学習支援、フォローアップ等）	32.3	29.9	35.9	30.4	50.0
3	I C T等のデジタルツールを活用した指導（オンライン授業、eラーニング、教育アプリ等）	2.2	1.8	1.6	4.3	0.0
4	実習・演習・グループワーク等、実践的な学びを重視した指導	43.2	41.3	40.6	53.6	25.0
5	その他の特色ある指導方法や工夫	6.0	6.6	5.5	5.8	0.0
6	特に工夫できていることはない	1.1	0.6	2.3	0.0	0.0

Q5_5_1 指導体制に関する課題を教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	専任教員・指導者の人数が不足している	148	77	44	26	1
2	教員の専門性や経験に偏りがある	106	47	41	16	2
3	教員間の連携・情報共有が十分でない	49	17	21	10	1
4	実習指導者と講義担当教員との連携が不十分	45	23	15	7	0
5	教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない	174	78	60	33	3
6	新任教員や非常勤講師の指導力向上支援が不足している	57	16	28	12	1
7	指導体制のマニュアル整備や運用が不十分	60	20	24	16	0
8	学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい	223	90	85	46	2
9	現場実習先との連携や指導体制が確立されていない	39	17	14	8	0
10	I C T・オンライン指導への対応が遅れている	128	51	41	34	2
11	保育現場の最新動向や実践知が指導に十分反映されていない	44	17	20	6	1
12	その他	6	2	3	1	0
13	特になし	38	16	16	6	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	専任教員・指導者の人数が不足している	40.2	46.1	34.4	37.7	25.0
2	教員の専門性や経験に偏りがある	28.8	28.1	32.0	23.2	50.0
3	教員間の連携・情報共有が十分でない	13.3	10.2	16.4	14.5	25.0
4	実習指導者と講義担当教員との連携が不十分	12.2	13.8	11.7	10.1	0.0
5	教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない	47.3	46.7	46.9	47.8	75.0
6	新任教員や非常勤講師の指導力向上支援が不足している	15.5	9.6	21.9	17.4	25.0
7	指導体制のマニュアル整備や運用が不十分	16.3	12.0	18.8	23.2	0.0
8	学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい	60.6	53.9	66.4	66.7	50.0
9	現場実習先との連携や指導体制が確立されていない	10.6	10.2	10.9	11.6	0.0
10	I C T・オンライン指導への対応が遅れている	34.8	30.5	32.0	49.3	50.0
11	保育現場の最新動向や実践知が指導に十分反映されていない	12.0	10.2	15.6	8.7	25.0
12	その他	1.6	1.2	2.3	1.4	0.0
13	特になし	10.3	9.6	12.5	8.7	0.0

Q5_5.2 指導体制に関する課題を教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	専任教員・指導者の人数が不足している	53	32	8	12	1
2	教員の専門性や経験に偏りがある	23	12	8	3	0
3	教員間の連携・情報共有が十分でない	6	4	2	0	0
4	実習指導者と講義担当教員との連携が不十分	5	1	4	0	0
5	教員の業務負担が過重で指導に十分な時間が割けない	65	29	27	9	0
6	新任教員や非常勤講師の指導力向上支援が不足している	4	2	1	1	0
7	指導体制のマニュアル整備や運用が不十分	10	4	3	3	0
8	学生の多様な学習スタイル・背景への対応が難しい	118	47	47	23	1
9	現場実習先との連携や指導体制が確立されていない	2	1	0	1	0
10	ICT・オンライン指導への対応が遅れている	34	13	9	10	2
11	保育現場の最新動向や実践知が指導に十分反映されていない	7	5	2	0	0
12	その他	3	1	1	1	0
13	特になし	38	16	16	6	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		14.4	19.2	6.3	17.4	25.0
2		6.3	7.2	6.3	4.3	0.0
3		1.6	2.4	1.6	0.0	0.0
4		1.4	0.6	3.1	0.0	0.0
5		17.7	17.4	21.1	13.0	0.0
6		1.1	1.2	0.8	1.4	0.0
7		2.7	2.4	2.3	4.3	0.0
8		32.1	28.1	36.7	33.3	25.0
9		0.5	0.6	0.0	1.4	0.0
10		9.2	7.8	7.0	14.5	50.0
11		1.9	3.0	1.6	0.0	0.0
12		0.8	0.6	0.8	1.4	0.0
13		10.3	9.6	12.5	8.7	0.0

Q6_1 貴施設は、無料職業紹介事業の届出（職業安定法第三十三条の二）を行っていますか。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	はい	299	140	103	53	3
2	いいえ	69	27	25	16	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		81.3	83.8	80.5	76.8	75.0
2		18.8	16.2	19.5	23.2	25.0

Q6_2 学生の就職に関する相談対応ができる体制になっていますか。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	はい	365	166	126	69	4
2	いいえ	3	1	2	0	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		99.2	99.4	98.4	100.0	100.0
2		0.8	0.6	1.6	0.0	0.0

Q6_3 卒業後、保育士として保育所や認定こども園等で働くことを希望する学生への就職あっせん・紹介等を行っていますか。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		368	167	128	69	4
1	はい	355	161	124	67	3
2	いいえ	13	6	4	2	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		96.5	96.4	96.9	97.1	75.0
2		3.5	3.6	3.1	2.9	25.0

Q6_4 学生の就職先のあっせん・紹介等の実施内容について、以下から当てはまるものをお選びください。（MA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		355	161	124	67	3
1	学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人者を直接紹介（就職あっせん）している	340	156	122	61	1
2	実習指導に関わる教員等が学生に求人者を直接紹介（就職あっせん）している	207	94	70	43	0
3	学生に保育士・保育所支援センターを案内している	128	53	47	26	2
4	公共職業安定所（ハローワーク）を案内している	179	90	65	22	2
5	民間事業者の運営する求人ポータルサイトへの登録を案内している	101	55	36	9	1
6	有料職業紹介事業者による人材紹介（エージェンツ）サービスの利用を案内している	6	2	3	1	0
7	行政・公的機関等による就職セミナーや説明会等を紹介している	289	137	102	47	3
8	企業・園等が主催する個別説明会・採用イベントを紹介している	298	136	112	47	3
9	その他	16	5	6	5	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		95.8	96.9	98.4	91.0	33.3
2		58.3	58.4	56.5	64.2	0.0
3		36.1	32.9	37.9	38.8	66.7
4		50.4	55.9	52.4	32.8	66.7
5		28.5	34.2	29.0	13.4	33.3
6		1.7	1.2	2.4	1.5	0.0
7		81.4	85.1	82.3	70.1	100.0
8		83.9	84.5	90.3	70.1	100.0
9		4.5	3.1	4.8	7.5	0.0

Q6_5 前述のQ6-4で「学内の進路相談窓口（キャリアセンター等）にて求人者を直接紹介（就職あっせん）している」と回答した場合、卒業生も対象としていますか。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		340	156	122	61	1
1	卒業後の学生は対象としない	28	13	6	9	0
2	卒業後も対象としている（1年以内）	5	2	3	0	0
3	卒業後も対象としている（3年以内）	20	15	4	0	1
4	卒業後も対象としている（3年を超える期間）	4	4	0	0	0
5	卒業後も対象としている（期間を定めていない）	271	115	107	49	0
6	その他	12	7	2	3	0

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1		8.2	8.3	4.9	14.8	0.0
2		1.5	1.3	2.5	0.0	0.0
3		5.9	9.6	3.3	0.0	100.0
4		1.2	2.6	0.0	0.0	0.0
5		79.7	73.7	87.7	80.3	0.0
6		3.5	4.5	1.6	4.9	0.0

Q6_6SQ_1_「保育士資格取得者の就職状況／（NU）」

		人数合計		
		男子	女子	計
	全体	1253	16351	17604
1	保育所及び幼保連携型認定こども園	580	9829	10409
2	地域型保育事業	6	227	233
3	保育所及び幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設	113	743	856
4	児童福祉事業	69	618	687
5	障害者支援施設	57	248	305
6	老人福祉施設	11	46	57
7	幼稚園	75	1929	2004
8	その他	342	2711	3053

		%		
		男子	女子	計
	全体	100.0	100.0	100.0
1	保育所及び幼保連携型認定こども園	46.3	60.1	59.1
2	地域型保育事業	0.5	1.4	1.3
3	保育所及び幼保連携型認定こども園以外の児童福祉施設	9.0	4.5	4.9
4	児童福祉事業	5.5	3.8	3.9
5	障害者支援施設	4.5	1.5	1.7
6	老人福祉施設	0.9	0.3	0.3
7	幼稚園	6.0	11.8	11.4
8	その他	27.3	16.6	17.3

Q6_7_1 「保育所及び幼保連携型認定こども園」に就職した学生全体を10割とした場合、以下の①～③のおおよその割合をお答えください。／①学生個人の関わりのある園（母園（出身園）／実習先の園／アルバイト・ボランティア先の園）（NU）

		回答数			
		学生個人の関わりのある園	養成施設と関わりのある園	新規開拓園	わからない
	全体	368	368	368	368
1	0割	169	176	201	176
2	1割台	21	27	70	17
3	2割台	41	28	25	9
4	3割台	35	37	20	4
5	4割台	40	26	12	3
6	5割台	21	28	9	1
7	6割台	11	20	13	4
8	7割台	17	9	5	2
9	8割台	8	9	8	0
10	9割台	0	6	1	1
11	10割	5	2	4	151

		%			
		学生個人の関わりのある園	養成施設と関わりのある園	新規開拓園	わからない
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0
1	0割	45.9	47.8	54.6	47.8
2	1割台	5.7	7.3	19.0	4.6
3	2割台	11.1	7.6	6.8	2.4
4	3割台	9.5	10.1	5.4	1.1
5	4割台	10.9	7.1	3.3	0.8
6	5割台	5.7	7.6	2.4	0.3
7	6割台	3.0	5.4	3.5	1.1
8	7割台	4.6	2.4	1.4	0.5
9	8割台	2.2	2.4	2.2	0.0
10	9割台	0.0	1.6	0.3	0.3
11	10割	1.4	0.5	1.1	41.0

Q7_1 本調査研究では、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたインタビューを予定しています（オンラインにより1時間程度、2026年1月下旬～2月頃実施予定）。このインタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。（SA）

		施設種別（件）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	全体	368	167	128	69	4
1	協力してもよい	45	22	17	5	1
2	どちらともいえない	140	63	48	27	2
3	協力できない	183	82	63	37	1

		施設種別（％）				
		全体	大学	短期大学	専門学校	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	協力してもよい	12.2	13.2	13.3	7.2	25.0
2	どちらともいえない	38.0	37.7	37.5	39.1	50.0
3	協力できない	49.7	49.1	49.2	53.6	25.0

Q1_1 在籍している学校の種別をお選びください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	大学	2,115	465	555	588	507	0	0
2	短期大学	1,664	743	874	39	0	6	2
3	専門学校	924	418	482	22	0	2	0
4	その他	44	17	11	0	0	16	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	大学	44.6	28.3	28.9	90.6	100.0	0.0	0.0
2	短期大学	35.1	45.2	45.5	6.0	0.0	25.0	100.0
3	専門学校	19.5	25.4	25.1	3.4	0.0	8.3	0.0
4	その他	0.9	1.0	0.6	0.0	0.0	66.7	0.0

Q1_3 在籍している学校の所在地（都道府県）を教えてください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	北海道	1	0	1	0	0	0	0
2	青森県	27	14	5	1	7	0	0
3	岩手県	55	17	17	5	6	10	0
4	宮城県	183	18	78	68	19	0	0
5	秋田県	46	7	37	0	2	0	0
6	山形県	46	0	44	1	0	0	1
7	福島県	89	37	29	10	13	0	0
8	茨城県	65	35	27	2	1	0	0
9	栃木県	100	13	72	8	7	0	0
10	群馬県	114	43	43	14	14	0	0
11	埼玉県	292	79	111	62	40	0	0
12	千葉県	247	88	111	16	31	0	1
13	東京都	482	164	185	69	57	7	0
14	神奈川県	100	31	44	12	13	0	0
15	新潟県	87	43	42	1	1	0	0
16	富山県	3	0	3	0	0	0	0
17	石川県	84	21	55	4	4	0	0
18	福井県	8	4	4	0	0	0	0
19	山梨県	66	24	24	9	9	0	0
20	長野県	134	47	85	1	1	0	0
21	岐阜県	157	85	27	23	22	0	0
22	静岡県	141	52	45	32	12	0	0
23	愛知県	370	101	118	89	62	0	0
24	三重県	39	15	10	5	9	0	0
25	滋賀県	38	16	17	2	3	0	0
26	京都府	71	10	23	22	16	0	0
27	大阪府	316	95	128	50	43	0	0
28	兵庫県	128	43	46	25	14	0	0
29	奈良県	76	25	19	14	18	0	0
30	和歌山県	5	3	1	0	1	0	0
31	鳥取県	10	6	2	0	2	0	0
32	島根県	14	5	7	0	2	0	0
33	岡山県	78	29	32	11	6	0	0
34	広島県	102	34	28	24	16	0	0
35	山口県	67	27	35	1	4	0	0
36	徳島県	131	64	43	10	14	0	0
37	香川県	64	25	14	18	7	0	0
38	愛媛県	51	18	22	7	4	0	0
39	高知県	75	20	48	7	0	0	0
40	福岡県	206	108	80	5	13	0	0
41	佐賀県	91	57	29	4	1	0	0
42	長崎県	0	0	0	0	0	0	0
43	熊本県	44	15	13	9	7	0	0
44	大分県	60	23	37	0	0	0	0
45	宮崎県	0	0	0	0	0	0	0
46	鹿児島県	92	35	36	8	6	7	0
47	沖縄県	92	47	45	0	0	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	北海道	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
2	青森県	0.6	0.9	0.3	0.2	1.4	0.0	0.0
3	岩手県	1.2	1.0	0.9	0.8	1.2	41.7	0.0
4	宮城県	3.9	1.1	4.1	10.5	3.7	0.0	0.0
5	秋田県	1.0	0.4	1.9	0.0	0.4	0.0	0.0
6	山形県	1.0	0.0	2.3	0.2	0.0	0.0	50.0
7	福島県	1.9	2.3	1.5	1.5	2.6	0.0	0.0
8	茨城県	1.4	2.1	1.4	0.3	0.2	0.0	0.0
9	栃木県	2.1	0.8	3.7	1.2	1.4	0.0	0.0
10	群馬県	2.4	2.6	2.2	2.2	2.8	0.0	0.0
11	埼玉県	6.2	4.8	5.8	9.6	7.9	0.0	0.0
12	千葉県	5.2	5.4	5.8	2.5	6.1	0.0	50.0
13	東京都	10.2	10.0	9.6	10.6	11.2	29.2	0.0
14	神奈川県	2.1	1.9	2.3	1.8	2.6	0.0	0.0
15	新潟県	1.8	2.6	2.2	0.2	0.2	0.0	0.0
16	富山県	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
17	石川県	1.8	1.3	2.9	0.6	0.8	0.0	0.0
18	福井県	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
19	山梨県	1.4	1.5	1.2	1.4	1.8	0.0	0.0
20	長野県	2.8	2.9	4.4	0.2	0.2	0.0	0.0
21	岐阜県	3.3	5.2	1.4	3.5	4.3	0.0	0.0
22	静岡県	3.0	3.2	2.3	4.9	2.4	0.0	0.0
23	愛知県	7.8	6.1	6.1	13.7	12.2	0.0	0.0
24	三重県	0.8	0.9	0.5	0.8	1.8	0.0	0.0
25	滋賀県	0.8	1.0	0.9	0.3	0.6	0.0	0.0
26	京都府	1.5	0.6	1.2	3.4	3.2	0.0	0.0
27	大阪府	6.7	5.8	6.7	7.7	8.5	0.0	0.0
28	兵庫県	2.7	2.6	2.4	3.9	2.8	0.0	0.0
29	奈良県	1.6	1.5	1.0	2.2	3.6	0.0	0.0
30	和歌山県	0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0
31	鳥取県	0.2	0.4	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0
32	島根県	0.3	0.3	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0
33	岡山県	1.6	1.8	1.7	1.7	1.2	0.0	0.0
34	広島県	2.1	2.1	1.5	3.7	3.2	0.0	0.0
35	山口県	1.4	1.6	1.8	0.2	0.8	0.0	0.0
36	徳島県	2.8	3.9	2.2	1.5	2.8	0.0	0.0
37	香川県	1.3	1.5	0.7	2.8	1.4	0.0	0.0
38	愛媛県	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.0	0.0
39	高知県	1.6	1.2	2.5	1.1	0.0	0.0	0.0
40	福岡県	4.3	6.6	4.2	0.8	2.6	0.0	0.0
41	佐賀県	1.9	3.5	1.5	0.6	0.2	0.0	0.0
42	長崎県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
43	熊本県	0.9	0.9	0.7	1.4	1.4	0.0	0.0
44	大分県	1.3	1.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0
45	宮崎県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
46	鹿児島県	1.9	2.1	1.9	1.2	1.2	29.2	0.0
47	沖縄県	1.9	2.9	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0

Q1_4.1 年齢を教えてください。／歳（NU）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	10代	1,983	1,474	500	0	0	9	0
2	20代	2,592	84	1,344	644	505	14	1
3	30代	57	33	24	0	0	0	0
4	40代	70	30	36	3	0	0	1
5	50代	40	21	15	1	2	1	0
6	60代以降	5	1	3	1	0	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	10代	41.8	89.7	26.0	0.0	0.0	37.5	0.0
2	20代	54.6	5.1	69.9	99.2	99.6	58.3	50.0
3	30代	1.2	2.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
4	40代	1.5	1.8	1.9	0.5	0.0	0.0	50.0
5	50代	0.8	1.3	0.8	0.2	0.4	4.2	0.0
6	60代以降	0.1	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0

Q1_5 性別を教えてください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	男性	436	171	171	59	32	3	0
2	女性	4,209	1,428	1,712	580	466	21	2
3	その他	15	8	2	2	3	0	0
4	無回答	87	36	37	8	6	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	男性	9.2	10.4	8.9	9.1	6.3	12.5	0.0
2	女性	88.7	86.9	89.1	89.4	91.9	87.5	100.0
3	その他	0.3	0.5	0.1	0.3	0.6	0.0	0.0
4	無回答	1.8	2.2	1.9	1.2	1.2	0.0	0.0

Q1_6 学年を教えてください。（SA）

		回答数	%
全体		4,747	100.0
1	1年	1,643	34.6
2	2年	1,922	40.5
3	3年	649	13.7
4	4年	507	10.7
5	専攻科等	24	0.5
6	その他	2	0.0

Q1_7 入学形態について教えてください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	高等学校卒業後に入学（浪人等を経た場合も含む）	4,386	1,480	1,749	634	501	21	1
2	他の大学・短大・専門学校等を卒業後に入学	51	14	25	8	2	2	0
3	社会人経験後に入学	229	110	111	4	2	1	1
4	主婦・主夫を経て入学	37	17	17	2	1	0	0
5	その他	44	22	20	1	1	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		92.4	90.1	91.0	97.7	98.8	87.5	50.0
		1.1	0.9	1.3	1.2	0.4	8.3	0.0
		4.8	6.7	5.8	0.6	0.4	4.2	50.0
		0.8	1.0	0.9	0.3	0.2	0.0	0.0
		0.9	1.3	1.0	0.2	0.2	0.0	0.0

Q1_8 自身の履修形態について教えてください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	昼間	4,660	1,612	1,878	641	504	24	1
2	夜間	22	12	8	1	1	0	0
3	通信制	42	11	22	7	1	0	1
4	その他	23	8	14	0	1	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		98.2	98.1	97.7	98.8	99.4	100.0	50.0
		0.5	0.7	0.4	0.2	0.2	0.0	0.0
		0.9	0.7	1.1	1.1	0.2	0.0	50.0
		0.5	0.5	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0

Q1_9_1 取得している、もしくは取得予定の保育関連の資格や免許を教えてください。／取得済の保育関連の資格や免許（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	介護福祉士	44	22	19	1	0	2	0
2	社会福祉士	5	1	3	1	0	0	0
3	精神保健福祉士	3	2	1	0	0	0	0
4	幼稚園教諭免許状	33	13	11	2	1	6	0
5	小学校教諭免許状	5	4	0	0	1	0	0
6	特別支援学校教諭免許状	3	3	0	0	0	0	0
7	その他	172	46	88	16	21	1	0
8	特になし	4,500	1,561	1,808	629	485	15	2

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		0.9	1.3	1.0	0.2	0.0	8.3	0.0
		0.1	0.1	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0
		0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
		0.7	0.8	0.6	0.3	0.2	25.0	0.0
		0.1	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0
		0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		3.6	2.8	4.6	2.5	4.1	4.2	0.0
		94.8	95.0	94.1	96.9	95.7	62.5	100.0

Q1_9_2 取得している、もしくは取得予定の保育関連の資格や免許を教えてください。／在学中／卒業時に取得予定の保育関連の資格や免許（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,738	1,642	1,916	648	507	23	2
1	介護福祉士	16	10	4	1	1	0	0
2	社会福祉士	175	47	70	25	33	0	0
3	精神保健福祉士	10	6	2	0	2	0	0
4	幼稚園教諭免許状	4,059	1,381	1,624	578	457	17	2
5	小学校教諭免許状	591	212	167	89	123	0	0
6	特別支援学校教諭免許状	141	58	38	25	20	0	0
7	その他	1,750	513	735	275	213	13	1
8	特になし	338	136	160	28	14	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		0.3	0.6	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0
		3.7	2.9	3.7	3.9	6.5	0.0	0.0
		0.2	0.4	0.1	0.0	0.4	0.0	0.0
		85.7	84.1	84.8	89.2	90.1	73.9	100.0
		12.5	12.9	8.7	13.7	24.3	0.0	0.0
		3.0	3.5	2.0	3.9	3.9	0.0	0.0
		36.9	31.2	38.4	42.4	42.0	56.5	50.0
		7.1	8.3	8.4	4.3	2.8	0.0	0.0

※無効回答は除く

Q2_1 学校（保育士養成課程）に通う中で、最も期待していることは何ですか。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	保育現場に行く機会が多いこと	899	347	333	110	106	3	0
2	子どもを取り巻く社会や家族の変化などを広く学べること	295	85	120	57	30	3	0
3	子どもの発達や心理を理解すること	1,147	377	454	163	144	7	2
4	保育を実践するための技術（音楽・造形・絵本など）を身につけること	1,093	369	472	144	104	4	0
5	子ども・保護者・同僚と関わるコミュニケーション力を高めること	309	115	132	41	21	0	0
6	友人・仲間と共に活動や学びを楽しむこと	509	175	211	62	55	6	0
7	教員等から適切なサポートを受けられること	160	57	59	29	15	0	0
8	授業やイベント、講話などを通じて保育現場の声を聞く機会があること	87	30	36	12	9	0	0
9	就職や進路についてのサポートが受けられること	131	49	50	18	13	1	0
10	その他	27	6	12	6	3	0	0
11	特になし	90	33	43	7	7	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		18.9	21.1	17.3	16.9	20.9	12.5	0.0
		6.2	5.2	6.2	8.8	5.9	12.5	0.0
		24.2	22.9	23.6	25.1	28.4	29.2	100.0
		23.0	22.5	24.6	22.2	20.5	16.7	0.0
		6.5	7.0	6.9	6.3	4.1	0.0	0.0
		10.7	10.7	11.0	9.6	10.8	25.0	0.0
		3.4	3.5	3.1	4.5	3.0	0.0	0.0
		1.8	1.8	1.9	1.8	1.8	0.0	0.0
		2.8	3.0	2.6	2.8	2.6	4.2	0.0
		0.6	0.4	0.6	0.9	0.6	0.0	0.0
		1.9	2.0	2.2	1.1	1.4	0.0	0.0

Q2_2 今後導入・拡充してほしいプログラムやサポートは何ですか。（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	保育現場見学の機会	2,470	877	944	367	267	13	2
2	ジェンダーと保育について学ぶ機会	1,090	390	411	153	130	5	1
3	子どもの権利・人権について学ぶ機会	896	298	365	118	107	7	1
4	多文化保育について学ぶ機会	1,301	403	526	196	169	6	1
5	卒業論文の作成に関するサポート	726	245	254	126	98	3	0
6	メンタルヘルス支援	921	322	365	125	100	9	0
7	ICT教育	896	219	423	121	128	5	0
8	キャリアガイダンス	407	122	151	88	45	1	0
9	その他	70	18	30	7	14	1	0
10	特になし	400	160	178	34	28	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		52.0	53.4	49.1	56.5	52.7	54.2	100.0
		23.0	23.7	21.4	23.6	25.6	20.8	50.0
		18.9	18.1	19.0	18.2	21.1	29.2	50.0
		27.4	24.5	27.4	30.2	33.3	25.0	50.0
		15.3	14.9	13.2	19.4	19.3	12.5	0.0
		19.4	19.6	19.0	19.3	19.7	37.5	0.0
		18.9	13.3	22.0	18.6	25.2	20.8	0.0
		8.6	7.4	7.9	13.6	8.9	4.2	0.0
		1.5	1.1	1.6	1.1	2.8	4.2	0.0
		8.4	9.7	9.3	5.2	5.5	0.0	0.0

Q3_1_1 保育士を志望した理由を教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	子どもが好きだから	4,299	1,486	1,723	603	463	22	2
2	職場体験を通して適性があると感じたり、興味をもったから	1,698	472	735	253	224	13	1
3	人や社会の役に立ちたいと思ったから	1,877	677	734	253	202	10	1
4	資格を持っていると就職などに有利だと思ったから	2,010	687	808	297	202	14	2
5	家族や友人など、身近な人の影響を受けたから	1,739	593	723	239	170	13	1
6	学校の先生など、周囲の人に勧められたから	934	344	391	108	81	9	1
7	将来、安定した仕事に就きたいと思ったから	1,072	394	437	137	94	8	2
8	自分自身が成長できると思ったから	1,462	554	592	160	143	12	1
9	子どもの時からの夢	2,446	804	982	364	281	14	1
10	その他	127	35	56	20	14	1	1
11	特になし	108	45	43	8	12	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	子どもが好きだから	90.6	90.4	89.6	92.9	91.3	91.7	100.0
2	職場体験を通して適性があると感じたり、興味をもったから	35.8	28.7	38.2	39.0	44.2	54.2	50.0
3	人や社会の役に立ちたいと思ったから	39.5	41.2	38.2	39.0	39.8	41.7	50.0
4	資格を持っていると就職などに有利だと思ったから	42.3	41.8	42.0	45.8	39.8	58.3	100.0
5	家族や友人など、身近な人の影響を受けたから	36.6	36.1	37.6	36.8	33.5	54.2	50.0
6	学校の先生など、周囲の人に勧められたから	19.7	20.9	20.3	16.6	16.0	37.5	50.0
7	将来、安定した仕事に就きたいと思ったから	22.6	24.0	22.7	21.1	18.5	33.3	100.0
8	自分自身が成長できると思ったから	30.8	33.7	30.8	24.7	28.2	50.0	50.0
9	子どもの時からの夢	51.5	48.9	51.1	56.1	55.4	58.3	50.0
10	その他	2.7	2.1	2.9	3.1	2.8	4.2	50.0
11	特になし	2.3	2.7	2.2	1.2	2.4	0.0	0.0

Q3_1_2 保育士を志望した理由を教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	子どもが好きだから	2,286	823	901	323	230	8	1
2	職場体験を通して適性があると感じたり、興味をもったから	243	62	113	32	34	2	0
3	人や社会の役に立ちたいと思ったから	326	115	136	46	28	1	0
4	資格を持っていると就職などに有利だと思ったから	334	110	141	50	32	1	0
5	家族や友人など、身近な人の影響を受けたから	333	107	140	45	37	4	0
6	学校の先生など、周囲の人に勧められたから	62	20	29	7	6	0	0
7	将来、安定した仕事に就きたいと思ったから	92	42	38	6	5	1	0
8	自分自身が成長できると思ったから	121	40	50	14	16	1	0
9	子どもの時からの夢	769	256	296	109	101	6	1
10	その他	73	23	35	9	6	0	0
11	特になし	108	45	43	8	12	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	子どもが好きだから	48.2	50.1	46.9	49.8	45.4	33.3	50.0
2	職場体験を通して適性があると感じたり、興味をもったから	5.1	3.8	5.9	4.9	6.7	8.3	0.0
3	人や社会の役に立ちたいと思ったから	6.9	7.0	7.1	7.1	5.5	4.2	0.0
4	資格を持っていると就職などに有利だと思ったから	7.0	6.7	7.3	7.7	6.3	4.2	0.0
5	家族や友人など、身近な人の影響を受けたから	7.0	6.5	7.3	6.9	7.3	16.7	0.0
6	学校の先生など、周囲の人に勧められたから	1.3	1.2	1.5	1.1	1.2	0.0	0.0
7	将来、安定した仕事に就きたいと思ったから	1.9	2.6	2.0	0.9	1.0	4.2	0.0
8	自分自身が成長できると思ったから	2.5	2.4	2.6	2.2	3.2	4.2	0.0
9	子どもの時からの夢	16.2	15.6	15.4	16.8	19.9	25.0	50.0
10	その他	1.5	1.4	1.8	1.4	1.2	0.0	0.0
11	特になし	2.3	2.7	2.2	1.2	2.4	0.0	0.0

Q3_2 保育士資格取得への意欲を5段階評価で教えてください。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	まったく意欲がない	42	21	12	5	4	0	0
2	あまり意欲がない	83	31	30	14	7	1	0
3	どちらともいえない	291	95	141	36	19	0	0
4	意欲がある	1,780	604	744	242	178	11	1
5	とても意欲がある	2,551	892	995	352	299	12	1

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	まったく意欲がない	0.9	1.3	0.6	0.8	0.8	0.0	0.0
2	あまり意欲がない	1.7	1.9	1.6	2.2	1.4	4.2	0.0
3	どちらともいえない	6.1	5.8	7.3	5.5	3.7	0.0	0.0
4	意欲がある	37.5	36.8	38.7	37.3	35.1	45.8	50.0
5	とても意欲がある	53.7	54.3	51.8	54.2	59.0	50.0	50.0

Q3_4 将来希望する進路について教えてください。（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	保育士（保育所等）	3,344	1,231	1,330	450	314	18	1
2	幼稚園教諭	2,230	878	820	323	198	11	0
3	保育教諭（認定こども園等）	2,119	798	831	288	187	13	2
4	児童福祉施設職員（保育所等以外：児童養護施設、発達支援センター等）	1,035	401	401	152	72	9	0
5	保育・教育分野以外の職種	524	143	211	96	72	2	0
6	進学	96	31	50	9	5	1	0
7	未定	343	150	129	51	13	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育士（保育所等）	70.4	74.9	69.2	69.3	61.9	75.0	50.0
2	幼稚園教諭	47.0	53.4	42.7	49.8	39.1	45.8	0.0
3	保育教諭（認定こども園等）	44.6	48.6	43.2	44.4	36.9	54.2	100.0
4	児童福祉施設職員（保育所等以外：児童養護施設、発達支援センター等）	21.8	24.4	20.9	23.4	14.2	37.5	0.0
5	保育・教育分野以外の職種	11.0	8.7	11.0	14.8	14.2	8.3	0.0
6	進学	2.0	1.9	2.6	1.4	1.0	4.2	0.0
7	未定	7.2	9.1	6.7	7.9	2.6	0.0	0.0

Q4_1_1 保育実習や授業の満足度について5段階評価で教えてください。／保育実習の満足度（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	まったく満足していない	85	32	37	7	9	0	0
2	あまり満足していない	114	26	47	21	19	1	0
3	どちらともいえない	938	481	344	64	47	2	0
4	やや満足している	1,770	520	738	274	226	11	1
5	とても満足している	1,840	584	756	283	206	10	1

※実習を経験していない学生の回答も含む。

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	まったく満足していない	1.8	1.9	1.9	1.1	1.8	0.0	0.0
2	あまり満足していない	2.4	1.6	2.4	3.2	3.7	4.2	0.0
3	どちらともいえない	19.8	29.3	17.9	9.9	9.3	8.3	0.0
4	やや満足している	37.3	31.6	38.4	42.2	44.6	45.8	50.0
5	とても満足している	38.8	35.5	39.3	43.6	40.6	41.7	50.0

Q4_1_2 保育実習や授業の満足度について5段階評価で教えてください。／授業（保育実習以外）の満足度（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	まったく満足していない	57	26	21	5	5	0	0
2	あまり満足していない	157	50	61	27	19	0	0
3	どちらともいえない	701	264	303	76	56	2	0
4	やや満足している	2,411	780	965	370	279	16	1
5	とても満足している	1,421	523	572	171	148	6	1

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	まったく満足していない	1.2	1.6	1.1	0.8	1.0	0.0	0.0
2	あまり満足していない	3.3	3.0	3.2	4.2	3.7	0.0	0.0
3	どちらともいえない	14.8	16.1	15.8	11.7	11.0	8.3	0.0
4	やや満足している	50.8	47.5	50.2	57.0	55.0	66.7	50.0
5	とても満足している	29.9	31.8	29.8	26.3	29.2	25.0	50.0

Q4_1_3 保育実習や授業の満足度について5段階評価で教えてください。／行事などの、保育士資格取得のためのカリキュラム以外のプログラムの満足度（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	まったく満足していない	68	26	28	7	7	0	0
2	あまり満足していない	201	55	89	32	24	1	0
3	どちらともいえない	1,105	374	422	176	129	4	0
4	やや満足している	2,014	662	819	293	227	11	2
5	とても満足している	1,359	526	564	141	120	8	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	まったく満足していない	1.4	1.6	1.5	1.1	1.4	0.0	0.0
2	あまり満足していない	4.2	3.3	4.6	4.9	4.7	4.2	0.0
3	どちらともいえない	23.3	22.8	22.0	27.1	25.4	16.7	0.0
4	やや満足している	42.4	40.3	42.6	45.1	44.8	45.8	100.0
5	とても満足している	28.6	32.0	29.3	21.7	23.7	33.3	0.0

Q4_4 保育実習や授業を通じて保育士への進路意欲はどう変化しましたか。（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	非常に高まった	1,765	607	726	232	189	10	1
2	やや高まった	1,746	639	692	220	186	8	1
3	変わらない	741	298	293	84	62	4	0
4	やや低下した	415	87	174	97	55	2	0
5	非常に低下した	80	12	37	16	15	0	0

※実習を経験していない学生の回答も含む。

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	非常に高まった	37.2	36.9	37.8	35.7	37.3	41.7	50.0
2	やや高まった	36.8	38.9	36.0	33.9	36.7	33.3	50.0
3	変わらない	15.6	18.1	15.2	12.9	12.2	16.7	0.0
4	やや低下した	8.7	5.3	9.1	14.9	10.8	8.3	0.0
5	非常に低下した	1.7	0.7	1.9	2.5	3.0	0.0	0.0

Q5_1_1 保育士として働くことに対して感じている不安や課題を教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるか など）	3,828	1,319	1,555	529	401	22	2
2	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるか など）	2,993	1,017	1,194	489	279	13	1
3	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	2,877	968	1,142	456	300	11	0
4	職場での人間関係（同僚や上司との関係 など）	3,486	1,126	1,437	512	389	20	2
5	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応 など）	3,516	1,179	1,420	502	398	16	1
6	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きい など）	3,199	1,050	1,318	457	357	15	2
7	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じる など）	1,419	437	603	221	149	8	1
8	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるか など）	1,744	553	755	250	174	11	1
9	その他	39	12	15	8	4	0	0
10	保育士として働くことは希望していない	146	28	50	28	40	0	0
11	特になし	115	63	39	5	8	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるか など）	80.6	80.3	80.9	81.5	79.1	91.7	100.0
2	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるか など）	63.1	61.9	62.1	75.3	55.0	54.2	50.0
3	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	60.6	58.9	59.4	70.3	59.2	45.8	0.0
4	職場での人間関係（同僚や上司との関係 など）	73.4	68.5	74.8	78.9	76.7	83.3	100.0
5	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応 など）	74.1	71.8	73.9	77.3	78.5	66.7	50.0
6	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きい など）	67.4	63.9	68.6	70.4	70.4	62.5	100.0
7	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じる など）	29.9	26.6	31.4	34.1	29.4	33.3	50.0
8	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるか など）	36.7	33.7	39.3	38.5	34.3	45.8	50.0
9	その他	0.8	0.7	0.8	1.2	0.8	0.0	0.0
10	保育士として働くことは希望していない	3.1	1.7	2.6	4.3	7.9	0.0	0.0
11	特になし	2.4	3.8	2.0	0.8	1.6	0.0	0.0

Q5_1_2 保育士として働くことに対して感じている不安や課題を教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,747	1,643	1,922	649	507	24	2
1	保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるか など）	1,302	531	500	142	119	10	0
2	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるか など）	902	303	363	174	60	2	0
3	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	294	113	90	62	27	2	0
4	職場での人間関係（同僚や上司との関係 など）	852	233	388	121	105	5	0
5	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応 など）	512	144	241	48	77	2	0
6	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きい など）	497	181	201	56	56	2	1
7	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じる など）	31	10	10	1	8	1	1
8	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるか など）	78	34	30	9	5	0	0
9	その他	18	3	10	3	2	0	0
10	保育士として働くことは希望していない	146	28	50	28	40	0	0
11	特になし	115	63	39	5	8	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育の計画立案や実践（指導計画の作成やこどもの状況に応じて柔軟に対応ができるか など）	27.4	32.3	26.0	21.9	23.5	41.7	0.0
2	給与や待遇（自分が生活していくために十分な収入が得られるか など）	19.0	18.4	18.9	26.8	11.8	8.3	0.0
3	労働環境（勤務時間が長い、休みが取りにくいなど）	6.2	6.9	4.7	9.6	5.3	8.3	0.0
4	職場での人間関係（同僚や上司との関係 など）	17.9	14.2	20.2	18.6	20.7	20.8	0.0
5	保護者への対応（保護者とのコミュニケーションや要望への対応 など）	10.8	8.8	12.5	7.4	15.2	8.3	0.0
6	仕事の責任の重さ（こどもの命を預かる責任が大きい など）	10.5	11.0	10.5	8.6	11.0	8.3	50.0
7	社会的評価（保育士の社会的評価が低いと感じる など）	0.7	0.6	0.5	0.2	1.6	4.2	50.0
8	将来のキャリア（長く続けられるか、キャリアアップできるか など）	1.6	2.1	1.6	1.4	1.0	0.0	0.0
9	その他	0.4	0.2	0.5	0.5	0.4	0.0	0.0
10	保育士として働くことは希望していない	3.1	1.7	2.6	4.3	7.9	0.0	0.0
11	特になし	2.4	3.8	2.0	0.8	1.6	0.0	0.0

Q5_3_1 Q5_1_2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、不安や課題を軽減するために必要だと思う支援について教えてください。／当てはまるものすべてを選択（MA）

		学年（人）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	4,486	1,552	1,833	616	459	24	2
1	職場体験の機会が増えること（実際の保育現場を体験できる）	2,209	834	887	265	210	12	1
2	メンタルヘルスのサポート（心の悩みやストレスについて相談できる）	2,133	707	924	276	213	13	0
3	進路や就職についての相談（将来の進路や就職活動について相談できる）	1,832	648	767	255	151	10	1
4	必要な情報の提供（保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる）	2,559	891	1,014	397	242	14	1
5	現場で働く人の話を聞く機会（実際に働いている保育士などの体験談を聞ける）	3,099	1,050	1,258	435	336	19	1
6	その他	100	23	37	18	22	0	0
7	わからない	151	52	61	22	16	0	0
8	特になし	98	22	51	19	6	0	0

		学年（%）						
		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
	全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	職場体験の機会が増えること（実際の保育現場を体験できる）	49.2	53.7	48.4	43.0	45.8	50.0	50.0
2	メンタルヘルスのサポート（心の悩みやストレスについて相談できる）	47.5	45.6	50.4	44.8	46.4	54.2	0.0
3	進路や就職についての相談（将来の進路や就職活動について相談できる）	40.8	41.8	41.8	41.4	32.9	41.7	50.0
4	必要な情報の提供（保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる）	57.0	57.4	55.3	64.4	52.7	58.3	50.0
5	現場で働く人の話を聞く機会（実際に働いている保育士などの体験談を聞ける）	69.1	67.7	68.6	70.6	73.2	79.2	50.0
6	その他	2.2	1.5	2.0	2.9	4.8	0.0	0.0
7	わからない	3.4	3.4	3.3	3.6	3.5	0.0	0.0
8	特になし	2.2	1.4	2.8	3.1	1.3	0.0	0.0

Q5_3_2 Q5_1_2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、不安や課題を軽減するために必要だと思う支援について教えてください。／もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

		学年（人）							学年（%）						
全体		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
1	職場体験の機会が増えること（実際の保育現場を体験できる）	816	327	312	88	85	3	1	18.2	21.1	17.0	14.3	18.5	12.5	50.0
2	メンタルヘルスのサポート（心の悩みやストレスについて相談できる）	795	268	358	91	76	2	0	17.7	17.3	19.5	14.8	16.6	8.3	0.0
3	進路や就職についての相談（将来の進路や就職活動について相談できる）	357	144	137	45	26	4	1	8.0	9.3	7.5	7.3	5.7	16.7	50.0
4	必要な情報の提供（保育の仕事や給与・働き方についての情報が得られる）	885	318	322	163	77	5	0	19.7	20.5	17.6	26.5	16.8	20.8	0.0
5	現場で働く人の話を聞く機会（実際に働いている保育士などの体験談を聞ける）	1,298	402	558	173	155	10	0	28.9	25.9	30.4	28.1	33.8	41.7	0.0
6	その他	86	19	34	15	18	0	0	1.9	1.2	1.9	2.4	3.9	0.0	0.0
7	わからない	151	52	61	22	16	0	0	3.4	3.4	3.3	3.6	3.5	0.0	0.0
8	特になし	98	22	51	19	6	0	0	2.2	1.4	2.8	3.1	1.3	0.0	0.0

Q6_1 本調査研究では、今後の保育士養成課程のカリキュラムの検討に資するよう、養成校に学生の方に対し、養成校での学びや、保育士として働くことに対する学生視点での課題等に関するグループインタビュー（オンライン等により1時間程度、2026年1月下旬～2月頃実施予定）を実施したいと考えています。インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。なお、ご協力いただきました際はインタビュー対象者に対して薄謝を進呈いたします。（SA）

		学年（人）							学年（%）						
全体		全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	専攻科等	その他
1	協力が可能	430	160	172	56	41	1	0	9.1	9.7	8.9	8.6	8.1	4.2	0.0
2	どちらともいえない	1,154	412	475	151	105	10	1	24.3	25.1	24.7	23.3	20.7	41.7	50.0
3	協力ができない	3,163	1,071	1,275	442	361	13	1	66.6	65.2	66.3	68.1	71.2	54.2	50.0

Q1_1 貴施設の施設種別を教えてください。（SA）

	回答数	%
全体	9,311	100.0
1 認可保育施設（認可保育所）	4,556	48.9
2 小規模保育事業	1,215	13.0
3 家庭的保育事業	108	1.2
4 居宅訪問型保育事業	3	0.0
5 事業所内保育事業	190	2.0
6 認定こども園（幼保連携型）	2,257	24.2
7 認定こども園（保育所型）	499	5.4
8 認定こども園（幼稚園型）	369	4.0
9 認定こども園（地方裁量型）	16	0.2
10 その他	98	1.1

Q1_2 貴施設の設置主体を教えてください。（SA）

	施設種別（件）					施設種別（%）				
	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体	9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 公立	2,617	1,885	41	662	29	28.1	41.4	2.7	21.1	29.6
2 私立	6,189	2,555	1,165	2,438	31	66.5	56.1	76.8	77.6	31.6
3 その他	505	116	310	41	38	5.4	2.5	20.4	1.3	38.8

Q1_3_1_1 保育士／常勤（NU）

		回答数		%	
		常勤 保育士	うち、 幼稚園 教諭免許 保持者	常勤 保育士	うち、 幼稚園 教諭免許 保持者
全体		9,311	9,311	100.0	100.0
1	0人	26	462	0.3	5.0
2	1～4人	1,008	1,435	10.8	15.4
3	5～9人	2,344	2,208	25.2	23.7
4	10～19人	4,210	3,872	45.2	41.6
5	20～29人	1,436	1,120	15.4	12.0
6	30～39人	224	166	2.4	1.8
7	40～49人	53	42	0.6	0.5
8	50人以上	10	6	0.1	0.1

Q1_3_1_2 保育士／非常勤（NU）

		回答数		回答数	
		非常勤 保育士	うち、 幼稚園 教諭免許 保持者	非常勤 保育士	うち、 幼稚園 教諭免許 保持者
全体		9,310	9,310	100.0	100.0
1	0人	777	1,759	8.3	18.9
2	1～4人	3,794	4,061	40.8	43.6
3	5～9人	2,815	2,282	30.2	24.5
4	10～19人	1,611	1,070	17.3	11.5
5	20～29人	263	124	2.8	1.3
6	30～39人	43	13	0.5	0.1
7	40～49人	3	0	0.0	0.0
8	50人以上	4	1	0.0	0.0

Q1_4_1_1 0歳児（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,307	9,310	100.0	100.0
1	0人	1,148	2,169	12.3	23.3
2	1～4人	2,477	4,068	26.6	43.7
3	5～9人	3,741	2,520	40.2	27.1
4	10～19人	1,724	525	18.5	5.6
5	20～29人	186	25	2.0	0.3
6	30～39人	25	2	0.3	0.0
7	40～49人	4	1	0.0	0.0
8	50人以上	2	0	0.0	0.0

Q1_4_2_1 1歳児／利用定員数等（人）（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,308	9,311	100.0	100.0
1	0人	434	530	4.7	5.7
2	1～4人	743	1,158	8.0	12.4
3	5～9人	2,685	2,687	28.8	28.9
4	10～19人	4,086	3,815	43.9	41.0
5	20～29人	1,062	937	11.4	10.1
6	30～39人	229	146	2.5	1.6
7	40～49人	57	32	0.6	0.3
8	50人以上	12	6	0.1	0.1

Q1_4.3.1 2歳児／利用定員数等（人）（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,307	9,311	100.0	100.0
1	0人	317	386	3.4	4.1
2	1～4人	523	942	5.6	10.1
3	5～9人	2,199	2,222	23.6	23.9
4	10～19人	4,125	3,889	44.3	41.8
5	20～29人	1,567	1,488	16.8	16.0
6	30～39人	425	292	4.6	3.1
7	40～49人	113	73	1.2	0.8
8	50人以上	38	19	0.4	0.2

Q1_4.4.1 3歳児／利用定員数（人）（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,307	9,311	100.0	100.0
1	0人	1,700	1,746	18.3	18.8
2	1～4人	159	410	1.7	4.4
3	5～9人	592	910	6.4	9.8
4	10～19人	2,905	2,987	31.2	32.1
5	20～29人	2,202	1,990	23.7	21.4
6	30～39人	865	691	9.3	7.4
7	40～49人	399	299	4.3	3.2
8	50人以上	485	278	5.2	3.0

Q1_4.5.1 4歳児／利用定員数（人）（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,307	9,311	100.0	100.0
1	0人	1,732	1,770	18.6	19.0
2	1～4人	141	392	1.5	4.2
3	5～9人	563	905	6.0	9.7
4	10～19人	2,633	2,896	28.3	31.1
5	20～29人	2,328	2,059	25.0	22.1
6	30～39人	934	680	10.0	7.3
7	40～49人	386	308	4.1	3.3
8	50人以上	590	301	6.3	3.2

Q1_4.6.1 5歳児／利用定員数（人）（NU）

		回答数		%	
		利用 定員数	在籍 児童数	利用 定員数	在籍 児童数
全体		9,307	9,310	100.0	100.0
1	0人	1,765	1,821	19.0	19.6
2	1～4人	141	365	1.5	3.9
3	5～9人	559	857	6.0	9.2
4	10～19人	2,501	2,795	26.9	30.0
5	20～29人	2,321	2,060	24.9	22.1
6	30～39人	986	701	10.6	7.5
7	40～49人	388	344	4.2	3.7
8	50人以上	646	367	6.9	3.9

Q2_1 保育現場において、新任保育士に特に求められる知識や技能について教えてください。（MA）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	こどもの気持ちや興味関心に応じて、遊びの環境を構成し、対話的に関わる力	8,436	4,129	1,353	2,864	90	90.6	90.6	89.2	91.2	91.8
2	保育を安全かつ楽しく展開するための技能（運動遊び、読み聞かせ、ピアノ演奏など）	6,018	2,892	886	2,173	67	64.6	63.5	58.4	69.2	68.4
3	行事や活動の企画・運営を行う力	1,892	879	352	647	14	20.3	19.3	23.2	20.6	14.3
4	保育内容や指導計画（指導案）を適切に立案する力	3,576	1,731	534	1,270	41	38.4	38.0	35.2	40.4	41.8
5	こどもの健康管理や安全確保への対応力	7,076	3,477	1,165	2,364	70	76.0	76.3	76.8	75.3	71.4
6	障害のあるこどもや多様な背景を持つこどもへの理解と対応力	3,888	1,912	571	1,366	39	41.8	42.0	37.7	43.5	39.8
7	保育に関する法令・制度・倫理に関する最新知識	2,477	1,242	480	723	32	26.6	27.3	31.7	23.0	32.7
8	チームで協力し、多職種と連携できる力	7,099	3,482	1,160	2,377	80	76.2	76.4	76.5	75.7	81.6
9	緊急時や災害時の適切な対応力	3,793	1,805	687	1,258	43	40.7	39.6	45.3	40.1	43.9
10	保護者への対応力	4,788	2,349	746	1,642	51	51.4	51.6	49.2	52.3	52.0
11	その他	740	411	98	225	6	7.9	9.0	6.5	7.2	6.1
12	特になし	40	20	12	8	0	0.4	0.4	0.8	0.3	0.0

Q2_2 新任保育士の知識や技能について、保育現場で不足を感じるものを教えてください。（MA）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	こどもの気持ちや興味関心に応じて、遊びの環境を構成し、対話的に関わる力	4,145	2,108	595	1,398	44	44.5	46.3	39.2	44.5	44.9
2	保育を安全かつ楽しく展開するための技能（運動遊び、読み聞かせ、ピアノ演奏など）	3,283	1,577	465	1,212	29	35.3	34.6	30.7	38.6	29.6
3	行事や活動の企画・運営を行う力	3,532	1,784	533	1,181	34	37.9	39.2	35.2	37.6	34.7
4	保育内容や指導計画（指導案）を適切に立案する力	3,737	1,779	549	1,378	31	40.1	39.0	36.2	43.9	31.6
5	こどもの健康管理や安全確保への対応力	3,449	1,819	529	1,073	28	37.0	39.9	34.9	34.2	28.6
6	障害のあるこどもや多様な背景を持つこどもへの理解と対応力	4,012	2,068	549	1,354	41	43.1	45.4	36.2	43.1	41.8
7	保育に関する法令・制度・倫理に関する最新知識	2,580	1,314	376	866	24	27.7	28.8	24.8	27.6	24.5
8	チームで協力し、多職種と連携できる力	3,895	1,980	582	1,291	42	41.8	43.5	38.4	41.1	42.9
9	緊急時や災害時の適切な対応力	3,599	1,857	570	1,137	35	38.7	40.8	37.6	36.2	35.7
10	保護者への対応力	5,404	2,692	819	1,846	47	58.0	59.1	54.0	58.8	48.0
11	その他	730	377	121	220	12	7.8	8.3	8.0	7.0	12.2
12	特になし	561	220	162	168	11	6.0	4.8	10.7	5.3	11.2

Q3_1_1_1 保育士／指定保育士養成施設卒業者（人）（NU）

		回答数		%	
		指定保育 士養成施 設卒業者	うち、幼 稚園教諭 免許保持 者	指定保育 士養成施 設卒業者	うち、幼 稚園教諭 免許保持 者
全体		8,075	7,920	100.0	100.0
1	0人	199	423	2.5	5.3
2	1～4人	456	800	5.6	10.1
3	5～9人	1,640	1,561	20.3	19.7
4	10～19人	3,095	2,939	38.3	37.1
5	20～29人	1,947	1,614	24.1	20.4
6	30～39人	541	438	6.7	5.5
7	40～49人	144	106	1.8	1.3
8	50人以上	53	39	0.7	0.5

Q3_1_1_2 保育士／保育士試験合格者（人）（NU）

		回答数		%	
		保育士試 験合格者	うち、幼 稚園教諭 免許保持 者	保育士試 験合格者	うち、幼 稚園教諭 免許保持 者
全体		8,096	7,857	100.0	100.0
1	0人	2,897	5,277	35.8	67.2
2	1～4人	4,246	2,027	52.4	25.8
3	5～9人	517	230	6.4	2.9
4	10～19人	272	192	3.4	2.4
5	20～29人	120	96	1.5	1.2
6	30～39人	34	27	0.4	0.3
7	40～49人	6	5	0.1	0.1
8	50人以上	4	3	0.0	0.0

Q3_2 指定保育士養成施設卒業者と保育士試験合格者について、保育実践力の違いを感じますか。（SA）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		4,970	2,444	779	1,700	47	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	大きな違いを感じる	433	227	94	111	1	8.7	9.3	12.1	6.5	2.1
2	やや違いを感じる	1,501	782	254	451	14	30.2	32.0	32.6	26.5	29.8
3	ほとんど違いを感じない	1,315	640	207	457	11	26.5	26.2	26.6	26.9	23.4
4	特に違いは感じない	1,403	662	173	551	17	28.2	27.1	22.2	32.4	36.2
5	わからない	318	133	51	130	4	6.4	5.4	6.5	7.6	8.5

Q3_3_1 指定保育士養成施設卒業者の優れていると感じる点を教えてください。／
当てはまるものすべてを選択（MA）

施設種別（件）						施設種別（％）					
	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	
全体	4,970	2,444	779	1,700	47	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1 保育に関する幅広い知識	2,086	1,039	333	692	22	42.0	42.5	42.7	40.7	46.8	
2 こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	1,577	795	254	514	14	31.7	32.5	32.6	30.2	29.8	
3 こどもの個性や発達に応じた関わり方	1,648	858	278	494	18	33.2	35.1	35.7	29.1	38.3	
4 こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、 環境を構成する力	1,985	999	329	638	19	39.9	40.9	42.2	37.5	40.4	
5 職員同士の協調性	722	351	128	236	7	14.5	14.4	16.4	13.9	14.9	
6 自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改 善しようとする力	806	412	146	239	9	16.2	16.9	18.7	14.1	19.1	
7 状況に応じた柔軟な対応力	933	484	189	253	7	18.8	19.8	24.3	14.9	14.9	
8 あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる 力	1,552	766	272	498	16	31.2	31.3	34.9	29.3	34.0	
9 保護者への対応力	609	301	121	181	6	12.3	12.3	15.5	10.6	12.8	
10 その他	264	148	37	75	4	5.3	6.1	4.7	4.4	8.5	
11 指定保育士養成施設卒業者の方がより優れてい ると思う点は特にない	1,815	860	280	659	16	36.5	35.2	35.9	38.8	34.0	

Q3_3_2 指定保育士養成施設卒業者の優れていると感じる点を教えてください。／
もっとも当てはまるものを1つ選択（SA）

施設種別（件）						施設種別（％）					
	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	
全体	4,970	2,444	779	1,700	47	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1 保育に関する幅広い知識	1,045	529	161	343	12	21.0	21.6	20.7	20.2	25.5	
2 こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	403	203	61	136	3	8.1	8.3	7.8	8.0	6.4	
3 こどもの個性や発達に応じた関わり方	311	160	45	103	3	6.3	6.5	5.8	6.1	6.4	
4 こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、 環境を構成する力	542	254	94	190	4	10.9	10.4	12.1	11.2	8.5	
5 職員同士の協調性	125	55	16	54	0	2.5	2.3	2.1	3.2	0.0	
6 自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改 善しようとする力	113	62	22	28	1	2.3	2.5	2.8	1.6	2.1	
7 状況に応じた柔軟な対応力	172	87	45	37	3	3.5	3.6	5.8	2.2	6.4	
8 あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる 力	203	97	22	83	1	4.1	4.0	2.8	4.9	2.1	
9 保護者への対応力	21	11	5	5	0	0.4	0.5	0.6	0.3	0.0	
10 その他	220	126	28	62	4	4.4	5.2	3.6	3.6	8.5	
11 指定保育士養成施設卒業者の方がより優れてい ると思う点は特にない	1,815	860	280	659	16	36.5	35.2	35.9	38.8	34.0	

Q3_5_1 指定保育士養成施設卒業者の課題があると感じる点を教えてください。／
当てはまるものすべてを選択（MA）

施設種別（件）						施設種別（％）					
	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	
全体	4,970	2,444	779	1,700	47	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
1 保育に関する幅広い知識	538	253	97	185	3	10.8	10.4	12.5	10.9	6.4	
2 こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	718	360	125	230	3	14.4	14.7	16.0	13.5	6.4	
3 こどもの個性や発達に応じた関わり方	776	404	117	251	4	15.6	16.5	15.0	14.8	8.5	
4 こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、 環境を構成する力	798	412	106	275	5	16.1	16.9	13.6	16.2	10.6	
5 職員同士の協調性	1,098	552	184	354	8	22.1	22.6	23.6	20.8	17.0	
6 自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改 善しようとする力	1,290	657	182	445	6	26.0	26.9	23.4	26.2	12.8	
7 状況に応じた柔軟な対応力	1,428	716	221	484	7	28.7	29.3	28.4	28.5	14.9	
8 あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる 力	904	456	142	298	8	18.2	18.7	18.2	17.5	17.0	
9 保護者への対応力	1,465	743	215	501	6	29.5	30.4	27.6	29.5	12.8	
10 その他	283	141	45	95	2	5.7	5.8	5.8	5.6	4.3	
11 指定保育士養成施設卒業者の方がより課題があ ると思う点は特にない	2,159	1,042	339	753	25	43.4	42.6	43.5	44.3	53.2	

Q3_5_2 指定保育士養成施設卒業者の課題があると感じる点を教えてください。／
もっとも当てはまるものを1つ選択（S A）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		4,970	2,444	779	1,700	47	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育に関する幅広い知識	141	62	32	46	1	2.8	2.5	4.1	2.7	2.1
2	こどもの気持ちや主体性を尊重した関わり方	180	90	36	54	0	3.6	3.7	4.6	3.2	0.0
3	こどもの個性や発達に応じた関わり方	144	76	25	42	1	2.9	3.1	3.2	2.5	2.1
4	こどもたちの豊かな遊びを充実させるために、 環境を構成する力	140	63	19	56	2	2.8	2.6	2.4	3.3	4.3
5	職員同士の協調性	296	145	50	97	4	6.0	5.9	6.4	5.7	8.5
6	自身の課題や疑問を言語化し、同僚と連携し改 善しようとする力	543	275	68	195	5	10.9	11.3	8.7	11.5	10.6
7	状況に応じた柔軟な対応力	499	258	76	161	4	10.0	10.6	9.8	9.5	8.5
8	あそびの中の育ちや学びを見つけ、説明できる 力	156	82	20	54	0	3.1	3.4	2.6	3.2	0.0
9	保護者への対応力	460	223	77	157	3	9.3	9.1	9.9	9.2	6.4
10	その他	252	128	37	85	2	5.1	5.2	4.7	5.0	4.3
11	指定保育士養成施設卒業者の方がより課題があ ると思う点は特にない	2,159	1,042	339	753	25	43.4	42.6	43.5	44.3	53.2

Q4_1_1 保育実習の学生を受け入れる際に、指定保育士養成施設における保育
士養成課程について課題があると感じることはありますか。／当てはまる
ものすべてを選択（MA）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育実習（時間・内容）	1,484	779	144	551	10	15.9	17.1	9.5	17.5	10.2
2	保育士養成カリキュラムの構成	822	403	97	316	6	8.8	8.8	6.4	10.1	6.1
3	指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内 容）	898	458	75	360	5	9.6	10.1	4.9	11.5	5.1
4	指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内 容）	2,363	1,248	190	911	14	25.4	27.4	12.5	29.0	14.3
5	指定保育士養成施設の指導体制（学生への指 導・支援不足など）	2,370	1,270	186	899	15	25.5	27.9	12.3	28.6	15.3
6	実習指導にかかる保育所等の負担が大きい	2,016	1,017	167	816	16	21.7	22.3	11.0	26.0	16.3
7	保育士養成課程に関する情報共有不足（指定保 育士養成施設との連携が不十分など）	1,653	898	150	590	15	17.8	19.7	9.9	18.8	15.3
8	その他	626	348	46	230	2	6.7	7.6	3.0	7.3	2.0
9	特にない	2,651	1,432	215	988	16	28.5	31.4	14.2	31.5	16.3
10	保育実習の受け入れをしていないため、わから ない	1,376	320	887	117	52	14.8	7.0	58.5	3.7	53.1

Q4_1_2 保育実習の学生を受け入れる際に、指定保育士養成施設における保育
士養成課程について課題があると感じることはありますか。／もっとも当
てはまるものを1つ選択（S A）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	保育実習（時間・内容）	542	290	54	194	4	5.8	6.4	3.6	6.2	4.1
2	保育士養成カリキュラムの構成	155	77	13	65	0	1.7	1.7	0.9	2.1	0.0
3	指定保育士養成施設の授業内容（理論的な内 容）	157	84	8	63	2	1.7	1.8	0.5	2.0	2.0
4	指定保育士養成施設の授業内容（実践的な内 容）	1,066	590	85	387	4	11.4	12.9	5.6	12.3	4.1
5	指定保育士養成施設の指導体制（学生への指 導・支援不足など）	1,180	628	89	457	6	12.7	13.8	5.9	14.5	6.1
6	実習指導にかかる保育所等の負担が大きい	1,059	511	93	446	9	11.4	11.2	6.1	14.2	9.2
7	保育士養成課程に関する情報共有不足（指定保 育士養成施設との連携が不十分など）	629	355	35	236	3	6.8	7.8	2.3	7.5	3.1
8	その他	496	269	37	188	2	5.3	5.9	2.4	6.0	2.0
9	特にない	2,651	1,432	215	988	16	28.5	31.4	14.2	31.5	16.3
10	保育実習の受け入れをしていないため、わから ない	1,376	320	887	117	52	14.8	7.0	58.5	3.7	53.1

Q5_1 本調査研究では、今後、本アンケートで回答いただいた内容を踏まえたイ
ンタビューを予定しています（オンラインにより1時間程度、2026年
1月下旬～2月頃実施予定）。このインタビューにご協力いただくことは
可能でしょうか。（S A）

		施設種別（件）					施設種別（%）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
全体		9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	協力してもよい	579	243	125	204	7	6.2	5.3	8.2	6.5	7.1
2	どちらともいえない	2,356	1,128	420	776	32	25.3	24.8	27.7	24.7	32.7
3	協力できない	6,376	3,185	971	2,161	59	68.5	69.9	64.1	68.8	60.2

Q5_2.2 所在都道府県名（SA）

		施設種別（件）					施設種別（％）				
		全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他	全体	認可 保育所	地域型保 育事業所	認定 こども園	その他
	全体	9,311	4,556	1,516	3,141	98	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	北海道	175	47	33	95	0	1.9	1.0	2.2	3.0	0.0
2	青森県	155	40	4	111	0	1.7	0.9	0.3	3.5	0.0
3	岩手県	207	104	23	79	1	2.2	2.3	1.5	2.5	1.0
4	宮城県	160	76	29	51	4	1.7	1.7	1.9	1.6	4.1
5	秋田県	158	78	9	66	5	1.7	1.7	0.6	2.1	5.1
6	山形県	92	54	5	33	0	1.0	1.2	0.3	1.1	0.0
7	福島県	149	72	29	46	2	1.6	1.6	1.9	1.5	2.0
8	茨城県	128	54	21	50	3	1.4	1.2	1.4	1.6	3.1
9	栃木県	206	112	28	65	1	2.2	2.5	1.8	2.1	1.0
10	群馬県	161	84	2	74	1	1.7	1.8	0.1	2.4	1.0
11	埼玉県	582	344	168	59	11	6.3	7.6	11.1	1.9	11.2
12	千葉県	471	281	88	98	4	5.1	6.2	5.8	3.1	4.1
13	東京都	631	456	132	32	11	6.8	10.0	8.7	1.0	11.2
14	神奈川県	390	260	88	38	4	4.2	5.7	5.8	1.2	4.1
15	新潟県	166	98	7	60	1	1.8	2.2	0.5	1.9	1.0
16	富山県	119	48	6	65	0	1.3	1.1	0.4	2.1	0.0
17	石川県	115	22	6	87	0	1.2	0.5	0.4	2.8	0.0
18	福井県	133	60	1	72	0	1.4	1.3	0.1	2.3	0.0
19	山梨県	87	45	11	30	1	0.9	1.0	0.7	1.0	1.0
20	長野県	166	106	18	37	5	1.8	2.3	1.2	1.2	5.1
21	岐阜県	176	73	25	76	2	1.9	1.6	1.6	2.4	2.0
22	静岡県	210	55	63	85	7	2.3	1.2	4.2	2.7	7.1
23	愛知県	657	439	87	130	1	7.1	9.6	5.7	4.1	1.0
24	三重県	84	36	13	33	2	0.9	0.8	0.9	1.1	2.0
25	滋賀県	103	22	32	47	2	1.1	0.5	2.1	1.5	2.0
26	京都府	126	48	27	51	0	1.4	1.1	1.8	1.6	0.0
27	大阪府	515	145	127	242	1	5.5	3.2	8.4	7.7	1.0
28	兵庫県	497	140	105	251	1	5.3	3.1	6.9	8.0	1.0
29	奈良県	109	36	15	55	3	1.2	0.8	1.0	1.8	3.1
30	和歌山県	64	35	2	27	0	0.7	0.8	0.1	0.9	0.0
31	鳥取県	76	43	5	28	0	0.8	0.9	0.3	0.9	0.0
32	島根県	105	59	10	33	3	1.1	1.3	0.7	1.1	3.1
33	岡山県	179	71	26	81	1	1.9	1.6	1.7	2.6	1.0
34	広島県	290	163	31	95	1	3.1	3.6	2.0	3.0	1.0
35	山口県	139	81	12	46	0	1.5	1.8	0.8	1.5	0.0
36	徳島県	100	50	2	48	0	1.1	1.1	0.1	1.5	0.0
37	香川県	64	15	10	37	2	0.7	0.3	0.7	1.2	2.0
38	愛媛県	108	56	15	35	2	1.2	1.2	1.0	1.1	2.0
39	高知県	100	71	11	18	0	1.1	1.6	0.7	0.6	0.0
40	福岡県	216	123	37	53	3	2.3	2.7	2.4	1.7	3.1
41	佐賀県	103	28	16	59	0	1.1	0.6	1.1	1.9	0.0
42	長崎県	60	27	3	30	0	0.6	0.6	0.2	1.0	0.0
43	熊本県	66	12	20	34	0	0.7	0.3	1.3	1.1	0.0
44	大分県	176	64	11	101	0	1.9	1.4	0.7	3.2	0.0
45	宮崎県	63	29	4	30	0	0.7	0.6	0.3	1.0	0.0
46	鹿児島県	217	86	26	93	12	2.3	1.9	1.7	3.0	12.2
47	沖縄県	257	108	73	75	1	2.8	2.4	4.8	2.4	1.0